

# 国立大学入試改善調査研究報告書

昭和 50 年 3 月

国 立 大 学 協 会  
入 試 改 善 調 査 委 員 会

## 目 次

○ 会 長 談 話	( 3)
I 序 論	( 4)
II 実施方法等に関する調査研究	(17)
1) 共通第一次試験の実施機関について	(19)
2) 共通第一次試験における試験教科・科目および代替科目その他について	(21)
3) 共通第一次試験の再試験・追試験について	(23)
4) 共通第一次試験の受験生とその出願その他について	(25)
5) 共通第一次試験の試験時期、試験日数および時間について	(26)
6) 共通第一次試験の出題および採点その他について	(27)
7) 共通第一次試験結果の各大学における利用について	(30)
8) 志望大学への第二次試験の入学願書提出、その他について	(31)
9) 事故処理問題について	(31)
10) 小規模実施方法について	(33)
11) 身体障害者の受験について	(34)
付) 昭和48年度入試改善調査研究報告・中間報告に関するアンケートについて	(37)
III 共通第一次試験の実地研究	(40)
IV 各科目別研究専門委員会における調査研究の概要	(77)
V コンピューターに関する調査研究の概要	(113)
VI 結 語	(117)
〔参考資料〕	
○ 共通第一次試験問題	(119)

## 会長談話

国立大学協会はその設置以来、大学における入学者選抜試験制度の改善について検討を行ってきた。第2常置委員会につづく入試調査特別委員会の調査研究の結果をふまえて、入試改善調査委員会を設定し、昭和48・49両年度にわたり、文部省より事業経費の交付をうけ、国立大学共通第一次試験の実施の可能性について鋭意検討をつづけてきた。

ここにその調査研究の報告書をまとめた次第であるが、この調査研究が大学入試制度の改善に資することのあるのを期待する。各国立大学をはじめ、高等学校その他関係各方面の十分な検討と批判とを希望する次第である。

なお、この調査研究を行ってきた第2常置委員会、入試調査特別委員会ならびに入試改善調査委員会の各委員及び各専門委員会委員のご尽力に敬意を表すると共に、この調査研究に当って寄せられた各方面からのご協力に対して深く感謝の意を表する次第である。

## I 序 論

国立大学協会は国立大学における入学者選抜方法を改善することを目的として、共通第一次試験について、その性格ならびに実施の可能性の検討をすすめてきた。

この報告書はその調査研究の結果について報告したものである。

国立大学協会においては、協会設置以来、第2常置委員会において入学者選抜方法の改善について検討を行ってきた。その際、各大学が学部・学科の性格に応じて第二次試験を行うことを前提とするならば、受験生全体に全国共通の第一次試験を課することは入学者選抜方法の改善に資するのではないかという論議がなされた。

この論議をふまえ、更に検討を進めるために昭和46年2月入試調査特別委員会が設けられた。この委員会は同年3月以降、委員会や小委員会を重ね、その間の討議の結果を整理して、昭和47年9月に「全国共通第一次試験に関するまとめ」を報告した。

この「まとめ」においては共通第一次試験の概念的な問題に重点がおかれていたので、具体的問題の調査研究については残されたままとなった。しかも、この作業は特別委員会の性格には必ずしもなじむものではないので、昭和48年度に入試改善調査委員会を設け、文部省から事業経費の交付をうけて、上記の調査研究を推進することとした。

本委員会は具体的な調査研究を行うための実施事業計画を検討したが、その結果、各種の専門委員会を設けて、共通第一次試験の性格ならびに実施についての総括的調査研究を行うこととした。

昭和48年度に行った調査研究の結果についてはすでに「国立大学入試改善調査研究報告——中間報告・昭和48年度——」として報告したが、なお検討すべきかなり多くの事項が残されていた。またこの中間報告に対して各大学の意見を求めたが、その中で提起された問題点のなかにも検討すべきいくつかの問題があった。従って、本委員会は昭和49年度にも文部省より事業経費の交付をうけ引続き調査研究を行った。

この報告書は上記のように、昭和48・49両年度にわたる調査研究の結果について述べたものである。

大学入学試験制度の根本的な改革は本質的には、わが国の教育制度そのものの改革と相俟って考慮

されなければならないものであろう。

しかし、教育制度や大学そのものの改革は長い年月をかけて、慎重に検討していかなければならないと思われる。それにも拘らず、大学入学試験の改善は今日現実の緊急な問題として社会からの強い要望がある。

わが国の大学入学志望者は年とともにその数を増し、それに対応して大学の規模や数も増大してきた。しかもなお志願者の数は大学の収容能力をはるかに上廻っているのが現状である。従って大学入学者は何等かの選抜試験によって判定しなければならない実情にある。

このような現状のもとで、最近受験のための競争が激化し、いたずらに入学試験対策に追われ、高等学校がしだいに受験予備校化するおそれがあるという問題がおこってきた。

このため本来の高等学校教育が強い歪みを受けつつあるのではないかという憂慮すべき事態を招来するに至った。

そもそも高校教育は広い教養と、将来生徒が志向する分野で発展していくための素地をつくるものであるとするならば、大学入学試験は高校における学習の達成度を客観的に評価し、さらに大学における各専門教育への適性を的確に判断するためのものであるべきであろう。

しかし、従来の大学入学試験についてはかなりの批判もあり、かつ反省もなされてきている。すなわち、

(1) 1回の選抜試験によって入学の適否を判定することについて、いわゆる「一発勝負」とう批判のあること。また、

(2) 現在の入試における教科・科目の設定やその評価のあり方は受験生の適性の的確な判定には必ずしも適切なものではあるまいという意見のあること。またこれに関連して、

(3) 総合力や思考力等を判定する上で必ずしも妥当なものではないという批判のあること。更にまた、

(4) 試験出題が高校程度をこえたり、高校教育から遊離してはいないかという疑問や、いわゆる難問奇問に対する大きな批判のあることなどが挙げられる。

そして、これらのことも一因となって、いわゆる「受験地獄」を激化させていると思われることは否むことができないであろう。

一方、最近、高等学校ではその教育の本旨を生かすことを目的として、大幅にカリキュラムを改変し、生徒の多様化に対応した選択制をとり入れた。そして昭和51年度からは新カリキュラムで履修し

た生徒を卒業させることとなった。

大学の入学試験制度も、この新しい機運に対応し、あわせて従来の弊害を改善する必要があるように思われる。

入試改善調査委員会は、選抜試験を行うことは避けることができないという現状判断を前提として、共通第一次試験について鋭意検討を重ねてきた。その結果、

国立大学の共通第一次試験と各大学が学部もしくは学科の特質に応じて行う第二次試験とを組合せる入学試験方式は、

- (1) 多少とも高等学校における教育の正常化に寄与し、
- (2) 入試問題の適切化ならびに「一発勝負」による判定の是正に資することができ、受験生に対して適正な客観的判定をすることになるのではないかと判断するに至った。

共通第一次試験は高校における一般的学習の達成の程度を評価することに力点を置いた国立大学入学のための学力試験である。それに各大学で行う第二次試験を各大学の学部乃至は学科に対する適性評価ならびに総合力や思考力の判定に資する試験として行うことによって、適切な入学者選抜を行おうとするものである。

すなわち、

1. 共通第一次試験の問題は国立大学の教官によって作成されるが、それは多数教官によって衆知をあつめて出題することになる。従って、
  - (1) 高校教育をそこなうような問題を避けることができ、その結果として、
  - (2) 従来批判されたような不適當な問題やいわゆる難問奇問はなくなり、或いは
  - (3) 受験技術的な問題もなくなるであろう。つまり、大学入試が高等学校を予備校化するくらいがあるというそしりをまぬかれ得ることになると思われる。また、
2. この共通第一次試験は高校教育における学習の達成程度を評価することに目標をおいているので、その出題範囲は一般的には高校教育における必修教科・科目に対応することになる。従って、問題の適正化と共に、高校における平素の学習による実力を問うこととなり、極度に歪められた受験準備に左右されることは少なくなろうと思われる。更に、
3. 各大学の学部もしくは学科における適性資質の判定を目標とする第二次試験の出題範囲は高校教育における選択教科・科目に対応することになると考えられる。

これらのことから、

(1) 従来の「一発勝負」に対する危惧は少なくなり、また、

(2) 基礎的な学力試験と受験生が志向する専門分野にふさわしい試験との2本建になっているため、従来の入学試験に比して、

大学教育に対する適正評価をよりの確にする可能性が高いであろうと考えられる。

以上のように、共通第一次試験と第二次試験とを組合わせた入試方式は、

高等学校教育の正常化に多少なりとも寄与することになるであろうと思われる。

なお、共通第一次試験と共に第二次試験を課することは、受験生に対して二重の負担となり、この意味から「受験地獄」の解消に資するところがないであろうという批判があり得る。しかし、

(1) 「一発勝負」を避けること、また

(2) 正常な高校教育という基礎にたつて、よりの確な選抜試験を行う、

という趣旨からすると、止むを得ない負担と考えられる。また、

物理的にはまさに二重の負担をかけることにはなるが、この負担は従来の入学試験によってもたらされた「受験地獄」とは本質的に異なるものであろうと思われる。

一方、この入試方式はそれぞれの大学にとって、つぎのような影響があると考えられる。

(1) 共通第一次試験は統一的集中処理で行われることは上述した。これに対応して各大学が独自に行う第二次試験ではその出題教科・科目を従来とくらべて少なくすることが考えられるので、出題や採点関係等についてはむしろその負担が軽減される方向を辿ることが予想される。しかし、

(2) 共通第一次試験と第二次試験との2度の試験業務を行うことになるので、その点では明らかに負担が加重されるようになる。更に、

(3) 二つの試験期日を設定するために、大学の研究教育に少なからぬ影響を与えることが考えられる。

大学側にとって不都合なこれらの問題は避けることはできないが、大学入学試験を改善しようという基礎にたつて、全国立大学が協同して適正な共通的入学試験を行うのであるという立場からこれをとらえる必要がおこるであろうと思われる。

共通第一次試験は全国立大学の受験志願者全員を対象とすることになるが、その数は現状においても30万をくだらないであろうと想定される。

従ってこれら多量の試験業務を処理するためには当然にコンピューターによる処理を考えなければならぬ。

本委員会はこのことのために多くの検討を重ねることとなった。

1. 多量の試験業務を処理するため、入試実施機関の組織と機能ならびに実施方策等の入試実施機構は従来とは著るしく態様が異なってくることが予想される。

このため、本委員会に「実施方法等調査専門委員会」を設けて検討を重ねてきたが、ようやく一応の成案を得た。その内容は以下この報告書に記述されることになる。

2. 一方、30万を想定する受験者の答案処理は、従来のままの設問方式ならびに採点処理方式では到底これに対応することはできない。いきおい、設問方式や解答方式はコンピューター処理に耐えるものでなければならない。しかも、

共通第一次試験は高校教育における学習の達成程度を評価するという趣旨にたっているので、これにふさわしい問題でなければならない。

このような重要課題を調査研究するために、本委員会に「科目別研究専門委員会」が設置された。これは国立大学の専門教官によって構成されることとしたが、上記のような目的にそう問題作成について鋭意研究が積み重ねられてきた。

3. 共通第一次試験の試験業務をコンピューター処理によるためには、コンピューターを駆使するための専門的知識と技術とが必要になる。更に、

設問方式や解答方式を検討する上で、上記科目別研究専門委員会からの要請に対してコンピューター処理を如何にすべきかの研究も必要である。

これらの問題を検討するため、本委員会に「コンピューター専門委員会」が設置され、当該諸問題についての調査研究が行われた。

さて、各種専門委員会によって調査研究を重ねていくうちに、種々の問題について実地にあって検討する必要がおこってきた。このため、

(1) 科目別研究専門委員会では、昭和48年度には、高校教諭から選ばれたモニターの参加を得て、作成した問題の吟味を行った。

(2) 多量処理のためにマークシートを採用することとしたが、コンピューター専門委員会ではこれについて小規模な実地テストを行った。更に、

(3) 昭和49年度においては、実施方法等調査専門委員会が実施主体となって、実際に即した実地研究を行った。



このため、全国を7ブロックにわけ、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、広島大学及び九州大学を世話大学として依頼し、これら7地区にそれぞれ実地研究地区実施委員会を組織し、それらが地区ごとの実施主体となって実地研究を行った。この共通第一次試験についての総合的な実地研究は合計約3,000名の高校生徒諸君の参加を得て行われた。

各種専門委員会において調査研究してきたことがらは、上に述べた実地研究によって具体性のあるものとしてかなりの成果を挙げることができたが、なおいくつかの問題点のあることも認められた。これらについても以下報告書に記述される。

高校教育における学習の達成程度を評価するという一般的な要請に対し、適切な出題をすることは一応のところ可能である。しかし、多量処理をするためには客観テストによらざるを得ないので、そこに一つの問題が提起された。この研究においてはマークシート方式を採用したが、つぎのようないくつかの問題を摘記することができよう。

(1) 客観的テストとはいっても、従来のいわゆる〇×式の域を脱することはできる。すなわち、出題に対する的確な読解力、内容に対する理解力、あるいは思考過程をよりの確に判定する点ではかなり前進することができた。また、

(2) 具体的事項についていえば、例えば数学、物理その他における計算問題や自然科学系における図式等について、その出題の可能性をかなり高めることができた。しかし、これらについても限度のあることは否めない。また、

(3) 国語や外国語はもとより、他の教科・科目についても、記述的解答や一般的にいて総合力、思考力を評価することは十分にはできないことを認めざるを得ない。

以上のような問題については今後もなおその解決のために研究を重ねる必要を感ずるが、他方、共通第一次試験と各大学独自の第二次試験とを組合わせて相互に補完するという配慮が必要になるであろうと思われる。

以上、共通第一次試験を検討するに至った経緯、共通第一次試験の大学入試における位置づけとその性格、ならびに共通第一次試験を実施するとした場合の諸事項について、入試改善調査委員会が行った調査研究の概要を述べた。

詳細は以下報告書に記述することにゆずるが、実地研究を行うに当り世話大学としてその実施に援助された各大学とその関係者、ならびに貴重な意見をよせられた大学内外の諸氏、実地研究に積極的に参加協力された高等学校の生徒諸君に衷心からの感謝の意を表する次第である。

## 入試改善調査委員会の組織

入試改善調査委員会は具体的研究を行うため下記の専門委員会を設けて共通第一次試験についての調査研究を行った。

### (1) 実施方法等調査専門委員会

委員15名をもって構成し、共通第一次試験を実施する場合の実施方法等具体的諸問題について調査研究を行う。

### (2) 科目別研究専門委員会

標準問題の作成に関する調査研究をするため、国語（現代国語・古典）、社会（倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理）、数学（数学一般・数学Ⅰ）、理科（物理、化学、生物、地学）、外国語（英語）の5教科12科目について各科目ごとに科目別研究専門委員会を設けた。各専門委員会はおよそ10名の委員を以て構成し、標準問題の作成、電子計算機により処理可能な問題形式等について調査研究を行った。

全科目に共通の基本方針の検討と科目間の調整等のため、各科目別研究専門委員会の委員長による連絡会議をもち、あるいは他の専門委員会また入試改善調査委員会との合同会議をもつなど全体的調整に遺漏のないことを期した。

### (3) コンピューター専門委員会

コンピューター処理に関する専門的な調査研究を行うため委員17名（内12名は各科目別研究専門委員会の委員1名ずつ）をもって構成された。調査研究の進行中、科目別研究専門委員会ならびに実施方法等調査専門委員会等との連携に意を用いた。

### (4) 入試改善調査委員会

入試改善調査委員会は調査研究の総括的機関として上記各専門委員会の業務の連絡調整を図りつつ全般的な作業の推進に努めた。

なお、実地研究を行うためには各地区に実施委員会を組織してその実施に当たったが、実施に至る過程において本委員会ならびに各専門委員会との連絡会議を十分に行い、実施について遺漏のないことを期した。

## 入試改善調査委員会および各種専門委員会の委員名簿

### 入試改善調査委員会

委員長	岡本道雄	京都大
委員	実方正雄	小樽商科大
〃	松永藤雄	弘前大
〃	加藤陸奥雄	東北大
〃	相磯和嘉	千葉大
〃	谷田関次	お茶の水大
〃	林健太郎	東京大
〃	湊秀雄	〃
〃	小山正一	東京商船大
〃	川村亮	東京農工大
〃	桜場周吉	静岡大
〃	丸井文男	名古屋大
〃	佐野幸吉	名古屋工大
〃	三上美樹	三重大
〃	増尾富士雄	京都工繊大
〃	釜洞醇太郎	大阪大
〃	細川藤次	神戸大
〃	菅好雄	岡山大
〃	飯島宗一	広島大
〃	円藤真一	香川大
〃	長瀬正二三	佐賀大
〃	岳中典男	熊本大
〃	蟹江松雄	鹿児島大

(注) 熊本大学黒田前学長は昭和49年11月19日まで、鹿児島大学中村前学長は昭和50年1月11日までそれぞれ委員として在任。

### 実施方法等調査専門委員会

委員長	加藤陸奥雄	東北大
委員	田中昭徳	小樽商大
〃	松永藤雄	弘前大
〃	湊秀雄	東京大
〃	小野周	〃
〃	清水留三郎	〃
〃	川村亮	東京農工大
〃	丸井文男	名古屋大
〃	三上美樹	三重大
〃	秋田宗平	京都工繊大
〃	細川藤次	神戸大
〃	菅好雄	岡山大
〃	上垣内孝彦	広島大
〃	長瀬正二三	佐賀大
〃	具島兼三郎	長崎大

(注) 長崎大学中塚前学長は昭和49年7月まで委員として在任。

### コンピューター専門委員会

委員長	小野周	東京大
委員	岡田広	北海道大
〃	淵沢定敏	東北大
〃	湊秀雄	東京大
〃	清水留三郎	〃
〃	篠原昭二	〃
〃	勝部真長	お茶の水大
〃	腰原久雄	横浜国大
〃	土方克法	電通大

委員	一松	信	京都大
〃	上横手	雅敬	〃
〃	水山高	幸	京都教育大
〃	安井	裕	大阪大
〃	広実	源太郎	大阪外大
〃	山本純	恭	広島大
〃	竹田	宏	九州大
〃	真島	光雄	佐賀大

科目別研究専門委員会委員長

国語

現代国語・古典	松村	明	東京大
社			
会			

倫理・社会	勝部真長	お茶の水大
政治・経済	碧海純一	東京大
日本史	木村博一	奈良教育大
世界史	山田信夫	大阪大
地理	浮田典良	京都大
数学		

数学一般・数学I	柘植利之	名古屋大
理科		

物理	松村温	九州大
化学	中村周	〃
生物	永野為武	東北大
地学	橋本誠二	北海道大

外国語

英語	榊井迪夫	広島大
----	------	-----

科目別研究専門委員会（国語）

委員長	松村	明	東京大
委員	野口元	大	茨城大
〃	勝山	功	群馬大
〃	小松	寿雄	埼玉大
〃	島田良	二	千葉大
〃	秋山	虔	東京大
〃	篠原	昭二	〃
〃	丸山	松幸	〃
〃	山井	湧	〃
〃	内田道	雄	東京学芸大
〃	近藤	光男	お茶の水大
〃	梅谷	文夫	一橋大

科目別研究専門委員会（倫理・社会）

委員長	勝部真長	お茶の水大
委員	石川侂男	東京学芸大
〃	尾田幸雄	お茶の水大
〃	広瀬京一郎	〃
〃	大島康正	東京教育大
〃	渡部正一	〃
研究員	小笠原悦郎	日大二高校
〃	小川一郎	青山高校
〃	持田行雄	お茶の水附 属高校
〃	斉藤弘	文部省

科目別研究専門委員会（政治・経済）

委員長	碧海純一	東京大
-----	------	-----

副委員長 林 周二 東京大  
 委員 岡本康雄 〃  
 〃 安田三郎 東京教育大  
 〃 井出嘉憲 東京大  
 〃 長尾龍一 〃  
 〃 腰原久雄 横浜国立大  
 〃 成田頼明 〃  
 〃 天川晃 〃  
 〃 尾吹善人 千葉大

委員 谷 光隆 奈良女子大  
 (西洋史)  
 副委員長 広実源太郎 大阪外語大  
 委員 藤縄謙三 京都大  
 〃 岡部健彦 大阪大  
 〃 植村雅彦 〃  
 〃 木谷勤 大阪教育大  
 〃 森田鉄郎 神戸大  
 〃 井上智勇 奈良教育大

科目別研究専門委員会 (日本史)

委員長 木村博一 奈良教育大  
 委員 佐藤宗諄 滋賀大  
 〃 上田正昭 京都大  
 〃 上横手雅敬 〃  
 〃 野田只夫 京都教育大  
 〃 梅溪昇 大阪大  
 〃 長山泰孝 〃  
 〃 熱田公 神戸大  
 〃 中塚明 奈良女子大

科目別研究専門委員会 (地理)

委員長 浮田典良 京都大  
 委員 伊藤達雄 三重大  
 〃 小林健太郎 滋賀大  
 〃 水津一郎 京都大  
 〃 應地利明 〃  
 〃 水山高幸 京都教育大  
 〃 海野一隆 大阪大  
 〃 前田昇 大阪教育大  
 〃 斉藤光格 神戸大  
 〃 菊地一郎 奈良教育大  
 〃 山澄元 奈良女子大  
 〃 小池洋一 和歌山大

科目別研究専門委員会 (世界史)

(東洋史)

委員長 山田信夫 大阪大  
 委員 萩原淳平 京都大  
 〃 堀川哲男 〃  
 〃 布目潮瀨 大阪大  
 〃 寺広映雄 大阪教育大  
 〃 岩見宏 神戸大

科目別研究専門委員会 (数学)

委員長 柘植利之 名古屋大  
 委員 藤田宏 東京大  
 〃 田中專一郎 富山大  
 〃 酒井栄一 金沢大

委員	北村真一	福井大
"	石原正也	岐阜大
"	生田利治	静岡大
"	森本明彦	名古屋大
"	柴田録治	愛知教育大
"	伊藤順一	名古屋工大
"	土川真夫	三重大
"	一松信	京成大

科目別研究専門委員会（物理）

委員長	松村温	九州大
委員	園田久	"
"	竹田宏	"
"	玉城進	九州工業大
"	西田善彦	佐賀大
"	久保為久磨	長崎大
"	上西啓祐	熊本大
"	小田敏之	大分大
"	原田雅登	宮崎大
"	永田昭三	鹿児島大

科目別研究専門委員会（化学）

委員長	中村周	九州大
委員	北原重登	福岡教育大
"	神田慶也	九州大
"	寺田晁	九州工業大
"	真島光雄	佐賀大
"	竹清章三郎	長崎大
"	有地鎮雄	熊本大

委員	志賀史光	大分大
"	橋爪昭人	宮崎大
"	長谷綱男	鹿児島大

科目別研究専門委員会（生物）

委員長	永野為武	東北大
委員	田中清	弘前大
"	柴岡孝雄	東北大
"	飯泉茂	"
"	淵沢定敏	"
"	若林博	"
"	久佐守	山形大
"	伊藤薫	東京大
"	柳田為正	お茶の水大
"	高岡実	名古屋大

科目別研究専門委員会（地学）

委員長	橋本誠二	北海道大
委員	田治米鏡二	"
"	魚住悟	"
"	岡田広	"
"	菊地勝弘	"
"	秋葉芳雄	"
"	岡崎由夫	北海教育大
"	秋葉力	"
"	小尾信弥	東京大
"	大脇直明	東京学芸大

科目別研究専門委員会（英語）

委員長	榊井迪夫	広島大
委員	宮脇長寿	鳥取大
"	大上寛親	島根大
"	菅好雄	岡山大
"	垣田直己	広島大
"	谷口幸男	"
"	山本純恭	"
"	水田巖	山口大
"	清村隆寿	徳島大
"	益田出	香川大
"	森田勝美	愛媛大
"	玉木清孝	高知大

地区試験実施委員会委員長

北海道地区	林正一	北海道大
東北地区	永野為武	東北大 名誉教授
関東・甲信越地区	染谷常雄	東京大
中部地区	高岡実	名古屋大
近畿地区	永田雅宜	京都大
中国・四国地区	榊井迪夫	広島大
九州地区	塚原博	九州大

（注）九州大学長谷川一夫教授は昭和49年9月30日まで地区試験実施委員会委員長として在任。

地区試験実施委員会

① 北海道地区（北海道大）

委員長	林正一	北海道大
委員	吉田仁志	"
"	香城日出麿	"
"	金田諦元	"
"	大朝雄二	"
事務担当 責任者	出光尚敏	"

② 東北地区（東北大）

委員長	永野為武	東北大 名誉教授
委員	飯泉茂	東北大
"	淵沢定敏	"
"	若林博	"
"	斉藤紀	宮城教育大
事務担当 責任者	江田晴夫	東北大

③ 関東甲信越地区（東京大）

委員長	染谷常雄	東京大
委員	浅井晃	千葉大
"	寺沢一	東京大
"	林周二	"
"	尾田幸雄	お茶の水大
事務担当 責任者	堀津省二	東京大

④ 中部地区(名古屋大)

委員長	高岡 実	名古屋大
委員	石井 義郎	"
"	塩沢 君夫	"
"	湯川 二郎	岐阜大
"	岩井 勇児	愛知教育大
事務担当 責任者	牧島 久雄	名古屋大

⑥ 中国四国地区(広島大)

委員長	榊井 迪夫	広島大
委員	小林 利宣	"
"	上垣内 孝彦	"
"	大津賀 信	"
"	沖原 豊	"
事務担当 責任者	豊松 隆之	"

⑤ 近畿地区(京都大)

委員長	永田 雅宜	京都大
委員	長谷川 博一	"
"	溝川 喜一	"
"	水野 克彦	大阪大
"	小林 安高	滋賀大
事務担当 責任者	金子 健一	京都大

⑦ 九州地区(九州大)

委員長	塚原 博	九州大
委員	筑紫 春生	"
"	臼井 勝美	"
"	石橋 保	福岡教育大
"	新田 伸三	九州芸工大
事務担当 責任者	吉田 宏男	九州大



## Ⅱ 実施方法等に関する調査研究

序論に述べたように、入試改善調査委員会は国立大学共通第一次試験を実施するとした場合の具体的な問題について調査研究を行う目的をもって3つの専門委員会を設けて検討をつづけてきた。

本委員会は年度当初においてその年度における調査研究についての実施計画を検討し、各専門委員会はその計画にもとづいて、それぞれ担当すべき諸問題の調査研究に当たった。

本委員会と実施方法等調査専門委員会ならびにコンピューター専門委員会はそれぞれ小委員会を設け、調査研究の実質的な推進をはかった。また科目別研究専門委員会は各教科・科目ごとに専門委員会を設けて研究を行ったが、科目間の連絡調整の目的もあり各専門委員会の委員長連絡会議がもたれた。

以上のようなしくみで調査研究が行われてきたが、本委員会ならびに各専門委員会の相互には緊密な連絡を保つ必要があるので、度々合同委員会をもつこととなった。

また本委員会において調査研究したことにもとづいて、それを实地にあたってテストし、今後の研究に資するため实地研究を行う必要があった。

この实地研究は実施方法等調査専門委員会がその実施全体となり、全国7ヶ所において高等学校生徒約3,000名の参加を得て、昭和49年11月23・24両日にわたって行われた。この実施にあたっては北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、広島大学及び九州大学が世話大学となり、それぞれ地区実施委員会が設けられた。この实地研究の計画とその実施に当っては本委員会と各専門委員会ならびに世話大学、地区実施委員会の間で、綿密な協議が行われた。

この項においては実施方法等調査専門委員会が中心となり、各専門委員会と連携を保ちながら、共通第一次試験の実施機構ならびに実施方法等の具体的諸問題について調査研究してきた結果について述べることとする。

コンピューター専門委員会および科目別研究専門委員会における調査研究ならびに实地研究については項を別にして述べることとする。

なお、本委員会および実施方法等調査専門委員会の調査研究の経過は次に表示する通りである。

年 月 日	入試改善調査委		実施方法等専門委		調 査 研 究 内 容
	委員会	小委員会	委員会	小委員会	
昭和48年					
6・4	○				調査研究実施計画，及び予算審議
16			○		「能研テスト」の検討
7・7			○		同上
28			○		実施機構の検討
8・7	○				標準問題モニター調査の協議
9・3				○	実施機構・実施上諸問題の検討
10・18				○	同上
11・7				○	実施上の諸事項の検討
28				○	同上
12・6	○				各専門委よりの報告の検討
20			○		実施機関と実施上の諸事項の検討
昭和49年					
1・25	○				報告書作成につき各専門委の報告
2・15			○		中間報告原案作成
3・7		○			中間報告書作成の協議
15	○				同上
4・22	○				実施計画・実地研究の協議
5・1			○		実地研究の協議
2		○			中間報告アンケート・説明会について協議
11				○	同上
13		○			中間報告アンケート・説明書作成
17		○			同上
23	○		○		アンケート実施案・実地研究要綱の協議
6・10		○		○	実地研究世話大学と打合せ，実地研究要綱の協議
20				○	実地研究実施要綱を作成

年 月 日	入試改善調査委		実施方法等専門委		調 査 研 究 内 容
	委員会	小委員会	委員会	小委員会	
7・24		○	○		実地研究地区実施委員長と協議
8・7				○	実地研究の協議
20				○	実地研究の協議
9・11				○	実施機構・諸事項の検討
13	○				昭和50年度事業計画協議
10・9			○	○	実地研究解説書協議
11・6		○		○	実地研究地区実施委員長と協議
23				○	実地研究実施本部開設
24				○	同上
12・9				○	実施上の諸事項の総括協議
1・16				○	報告書原案作成について協議
17				○	同上
18				○	同上
27	○				報告書案協議承認
3・7			○		報告書の原稿整理

### 1) 共通第一次試験の実施機関について

共通第一次試験は国立大学入学試験の一部として行うものであるので、実施機関としては、独立の国立大学共同利用施設（国立大学共通第一次入試センター〔仮称〕……以下入試センターという）を設ける必要がある。この場合、国立大学の意志が十分に反映される必要があるので、その一形態としては、国立大学に附置することも考えられる。なお、上に述べたようなこの試験の性格から考えて、法人格の民間機関をもって実施機関とすることは不相当と考える。

共通第一次試験は全国立大学受験志願者全員を対象とし、少なくとも30万人を下らないと考えられることからすると、これら多量の試験業務を行うためにはコンピューターの導入が当然考えられるので、入試センターは相当多数の常勤職員を擁し、コンピューター等大型設備をもつ大規模のものとなり、業務内容も多岐にわたるものとなるであろう。

なお、この中央機関に対応して、各大学に実施機関を置く必要がある。このためには、現在の入試事務機構の拡張改編が考えられなければならない。

入試センターの組織に関しては、一応その形態を考慮した結果、例えば資料1に示すようなものが得られた。更に、この資料中には各部門の担当する業務と、これを運営するにあたっての事務職員数に関しては、一応現状では、表示のように3研究部門を設置し、それぞれ1部門は大学における1講座相当（教授1，助教授2，助手4，技官数名）の規模を考えている。それぞれの研究内容は、評価部門では主として年々出題される問題の内容の評価並びに出題形態等広く評価形式を、追跡部門ではこの選抜方法の大学入試としての役割などの問題点を長期にわたり検討する。第三のコンピューター処理部門では共通第一次試験の実施の採点処理などのコンピューター使用の技術的な研究を行うこととする。

なお、この研究部は、各教科・科目に関しては、各種専門委員会より依頼されたこと等を中心にして研究を行うものとする。

評議員会は、国立大学学長の中から選出された委員と、入試センター所長により構成され、入試センターの最高決議機関とする。

入試センター所長は、専任とし、評議員会が国立大学教授またはその経験者より選ぶものとする。

運営委員会は、評議員会並びに入試センター所長の下部組織であり、所長が議長となる。構成委員は評議員会の議を経て、国立大学教官から選出された教官と、研究部長、教科専門委員会委員長、コンピューター専門委員会委員長および実施方法等調査専門委員会委員長とする。

各種専門委員会は運営委員会の下部に位置し、教科専門委員会を常置する。教科専門委員会は、科目別に、出題委員、選定委員よりなり、任期は2年とし毎年半数交代とする。コンピューター専門委員会、実施方法等調査専門委員会は常置とせず、必要に応じて設置する（発足当時は設置することが望ましい）。なお、各種専門委員会は、評議員会の議を経て、国立大学から選出された教官によって構成される。

所員会は、入試センター所長が議長となり、運営委員会の下部に位置して、研究部所属の教授、助教授および管理部の部長、課長等によって構成される。

共通第一次試験の各地区における実施は、各国立大学の学長の責任により、当該大学の入試実施機関が行う。なお、この場合、これに参画する大学教職員等に対する待遇等、十分な予算措置を講ずることが必要である。

ついで、この組織の業務の中で長期間にわたりかつ作業が日時の経過をおって流れる必要のある業

務課の担当事項と、その作業順序を資料2のフローチャートにより示しておく。

## 2) 共通第一次試験における試験教科・科目及び代替科目について

### (1) 教科について

共通第一次試験における試験教科は、国語、社会、数学、理科、外国語の5教科とする。

### (2) 試験科目について

国語は、現代国語、古典、社会は倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理のうち2科目を選択、数学は、数学一般、数学Ⅰのうちから1科目選択、理科は基礎理科、物理、化学、生物、地学のうちから2科目を選択、外国語は英語、独語、仏語のうち1科目を選択し、計7科目とすることを適当と考える。

### (3) 出題の範囲等について

a. 共通第一次試験は、高等学校における学習の達成度を評価することを目的としているとすれば、高等学校の普通科、職業科を問わず、履修した必須科目に応じた試験を行うことがのぞましいと考えられる。

そこで、具体的な出題の科目とその範囲については、国立大学の受験を希望するすべての受験生に平等の機会を与えることが必要である。

この趣旨にそえば、出題の範囲は、次のようになる。

国語……………現代国語、古典Ⅰ甲

社会……………倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理A、地理B

数学……………数学一般、数学Ⅰ

理科……………基礎理科、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰ

外国語………英語、独語、仏語

なお、外国語は、高等学校においては、選択科目となっているが、大学入試の要件として出題することとする。

外国語については、受験願書提出の際に、科目を指定して申し出るようにする必要がある。

なお、数学一般、基礎理科の科目による受験者は、高等学校においてそれぞれの科目を必須として履修した者に限定することとし、外国語の場合と同様に、予めその旨を出願の際に申し出ることとする。

従って、これらの3教科のうちの科目指定及び限定受験者（独語、仏語、数学一般または基礎理科

の受験者)については、実際の受験者の数は、かなり少数であると予想されるので、試験場についても、各地区ブロックにおいて、1～2ヶ所の試験場を指定し、試験を実施することが実際の試験業務運用上、適当と考える。

b. 数学一般、基礎理科については、若干の問題がのこされている。

数学一般を履修している高等学校の生徒は、極めて少数(全国において、昭和48年度3.2%、昭和49年度1.5%、昭和50年度0.9%)であり、かつ年々減少の傾向にある。即ち、数学の必須科目としては、数学Ⅰを採用している高等学校が圧倒的多数ということが出来る。

また、ちなみに、昭和51年度、新課程による国立大学の入学試験の教科、科目についての調査によれば、数学一般を入学試験科目に課している大学は、一校もみあたらない。

これらのことを配慮すると、数学一般の出題については、今後高等学校側の意向をも徴し、今後、なお、検討の余地がのこされていると考えられる。

なお、また数学の科目別専門委員会における実地研究等を通しての研究の結果では、数学Ⅰの出題の場合においても、数学ⅡA、Bの共通部分まで程度の範囲に拡大することが可能であれば、出題に柔軟性を増し、より適切な出題が可能であると指摘している。この点についても、今後に残された問題点といえよう。

次に、基礎理科については、数学一般の場合と極めて類似しており、高等学校における基礎理科の履修状況は極めて少なく、(昭和48年度3.4%、昭和49年度2.1%、昭和50年度1.5%)かつ年々減少の傾向にある。また、昭和51年度国立大学の入学試験教科、科目においても、国立大学のうち、基礎理科を入学試験科目に入れている大学は、わずか1大学のなかの1学部にすぎない。

従って、基礎理科についても、数学一般の場合と全く同様に、出題については、今後、なお検討の余地があろう。しかし、理科系の5つの科目別専門委員会の見解としては、基礎理科の出題について、特に異議は出されていない。

#### (4) 代替科目について

前記のように、共通第一次試験における教科、科目が高等学校における普通科、職業科共通の必須科目の範囲内で(英語を除く)実施されるならば、特に代替科目による試験を行う必要はないと考える。

ちなみに、文部省の昭和49年9月の調査によれば、昭和49年度、国立大学において数学の代替科目として、「簿記会計」の試験を実施している大学は、9大学(うち、2大学では、2部の試験の場合のみ)であり、そのうち、大部分は、旧課程数学Ⅱ(B)の代替である。

従って、もし、かりに数学の場合、共通第一次試験において、数学ⅡAまたは、ⅡBの共通の範囲まで出題範囲に加えるとするならば、「簿記、会計」を代替科目として出題することも考慮する必要があろうと考えられる。

なお、職業科のうち、商業科を除く、職業課程（農業、工業、家庭、水産、看護科など）における社会、数学、理科の代替科目とされているものは、2科目以上10科目ほどにも多岐に亘っており、且つすべての職業高等学校、あるいは、職業課程において共通に履修しておらず、これらのなかから選択履修している状態にあるため、大学側において、出題科目の選択にとまどうのみならず、実施上、多くの困難点が予想される。従って、大学または、学部によっては、その実状に応じて、第2次試験において代替科目を課すことも考えられる。

なお、外国人留学生の取扱いについては、十分、検討されていないが、共通第一次試験を受験させ、他の受験生と同様にあつかうことには、種々な困難があり、別途に、何らかの方法が考慮されることが適当と考えられる。

#### (5) その他について

大学による科目指定は行わない。

また文科系、理科系の区別は設けない。

共通第一次試験が高等学校における学習の達成度を把握することの趣旨からすれば、各大学で実施する第2次試験の科目指定に即して指定を行うことは、本来の趣旨から逸脱することにもなり、かつ、高等学校における新教育課程において、生徒の取得単位に大幅な選択制が採られている現状からみて、一部の受験生を拒むおそれがある。

文科系、理科系の区別についても、むしろ、各大学の第二次試験の科目指定に際して、それぞれの学部、学科の特色を生かして、配慮されることが望ましいと考えられる。

### 3) 共通第一次試験の再試験・追試験について

一つまたはいくつかの試験場で、試験実施が不可能になった場合においては、当該試験場で行うべき試験の期日を改め、別の問題で実施することが必要である。このために用意している問題が予備問題である。またこのように期日を改めて行う試験を再試験という。再試験の実施方法は、その規模によって異なるが、少なくとも一試験場の全員程度の規模になると、正規に行われる試験とほぼ同様の方法で行うことが必要で、このため問題冊子、解答用紙も正規の試験と同様に用意しなければならない。またこの再試験が全国の受験者全員にわたって行われることも想定される。このような再試験

を、本来行われるべき試験の1～2週間後に行うためには、事故の有無を問わず、全員に対する予備の問題・解答用紙をあらかじめ印刷・作成しておかなければならない。

このような再試験が行われるのは、実施する側の責任によって生じた事故、天災または、広範囲の交通停止等により試験が実施できなかった場合に限られる。

個々の受験者が病気または、その他の事故により、全教科または一部教科の試験に欠席した場合の処置が問題になる。共通第一次試験を受験しないと、Ⅰ期校、Ⅱ期校ともに、受験できなくなるか、または受験したとしても著しく不利になることも考えられるので、これらの受験者に対して、日を改めて試験をする必要があると考えられている。これを追試験といい、実施できなかった試験をやり直す再試験と区別する。この追試験の実施はあらかじめ用意した追試験用の問題によって実施するが、本人の届出によって受験させ実施するものとする。人数はそれほど多くないものと考えられるので、試験は一ブロックに1、2個所にまとめることも可能である。追試験は原則として医師の診断書、事故の証明書等を呈示したものに限りべきであるが、これを許可するに当っては慎重にしなければならない。しかしながら、追試験までの期間を一週間程度とすると、入試センターで可否の審査をすることは時間的な余裕がないため不可能であるから、各地の実施機関の判断に委任せざるを得ないことになる。このための手続きとしては、試験を欠席した受験者または代理人が、試験期日から一定の期間（2～3日程度）に、直接関係する実施機関に出頭して手続きをすることにするのが望ましい。これら追試験については、時間的制約もあるので、若干の追試験用問題冊子と解答用紙を各ブロックにあらかじめ密封して配布しておいてそれを用いるのが適当であろう。この場合には、人数が少ない上に処理技術の上からも問題があるので、答案用紙にはマークシートを用いず、答案用紙の内容をパンチカードによって入力して採点する方式をとるべきであろう。追試験を必要とするものを入試センターでまとめて、本来の試験と同じマークシート法を用いるとすると、追試験までの期間は2週間以上必要となるであろう。

したがって、問題および解答用紙としては、通常のもののほか、再試験用の予備問題に関するものと、追試験用のものと2種類を用意することが必要である。万一いずれかの試験場で再試験を行うことになったときには、追試験受験者も同じ日に同じ問題で受験させる。このようにすれば、追試験用に用意した問題を、再試験を受験できなかったものの追試験に用いることができる。

試験実施者の責任によって受験できなかった場合を除き、追試験を受験したものの点数は、正常に試験を受けたものに比して多少不利になるよう、一定の係数を乗ずることを考慮すべきであろう。

正常の試験と再試験・追試験の難易度についての慎重な考慮が必要であるが、追試験をパンチカー



下等により採点を行う場合にも、正常な受験者との間に公平を失しないよう、解答用紙の形式等について十分な考慮が必要である。

#### 4) 共通第一次試験の受験生とその出願について

- (1) 受験生は学校教育法第56条に定める資格を有する者（見込を含む）で、国立大学への入学を志望する者全員とする。
- (2) 受験出願書類請求ならびに受験出願書類提出は、入試センターに対し、原則として出身学校を経由して行われる。

入試センターは出願書類および第一次試験受験料を受領し、受験番号、試験場を決定の上、試験場を指定した受験票と、受験番号のついた第二次試験受験のためのカードを出身学校を経由して各受験生に送付する。

現在のⅠ期校、Ⅱ期校が存続する場合、第二次試験受験のためのカードは、Ⅰ期校、Ⅱ期校用に各2枚ずつあるものとする。これにより、受験生は、各国立大学の募集要項にのっとり、Ⅰ期校、Ⅱ期校それぞれに2通まで出願書類を提出することができる。

Ⅰ期校、Ⅱ期校が一本化され、全国立大学が同一期日に第二次試験を行うようになった場合、第二次試験のためのカードは2枚となり、その出願は上記に準ずる。

- (3) 試験場は居住地によって定めるのを原則とする。都道府県別、出身学校所在地等によっては近接他地区への割当てがある程度行われることも必要となろう。

なお、試験場は、現在各国立大学が入学試験を行っている程度の場所で行うことを原則とする。

しかし、地区によっては受験生が多数となり、新しく試験場を設定する必要が生じたり、大学教職員だけでは処理することが出来なくなったりすることが生じる可能性がある。このような事については 実態調査をふまえ、各方面の協力を得て具体的措置を講ずる必要があり、今後に残された問題点となるであろう。また、個々の受験生の試験場の決定についても、実態調査をまっところが大い。

- (4) 受験生の出願書類に対する記入事項は、昭和49年度に行われた実地試験において使用された書類（Ⅲ-附参照）が1つの例であるが、これに2)、(3)による外国語選択の指定、数学一般、基礎理科の選択の指定を書き込む項目が加えられることになる。

写真の添付方法、枚数については、コンピューター処理と関連して今後更に検討することが必要である。

- (5) 共通第一次試験に対する二重出願は許されない。
- (6) 受験生が入試センターから送られた受験票または第二次試験受験のためのカードを紛失した場合、その旨を入試センターに申請する。入試センターは旧番号を欠番とし、新たに番号をつけて必要書類を改めて送付することとするが、これらの具体的措置は今後更に検討する必要がある。

#### 5) 共通第一次試験の試験時期、試験日数及び時間について

共通第一次試験の実施時期及び日数については、全国一斉に多数の受験生を対象とすることに関連し、試験場の確保、大学及び高等学校の日常の教育計画、授業などに与える影響を考慮し、出来るかぎり、障害を軽減することが緊要であろう。

##### (1) 試験時期について

現在のⅠ期校、Ⅱ期校制度が存続する場合を前提とすると、Ⅰ期校の第二次試験の期日は、現行通り3月3日頃であること、Ⅰ期校において、共通第一次試験の結果を、第二次試験の受験者のための予備選抜に利用する場合のあること、推薦入学の資料に利用する場合、及び入試センターにおける採点、集計、連絡事務等、コンピューター処理に関すること、天災などの事故により再試験を実施する場合のあること、更に、高等学校の教育課程を出来るかぎりゆがめないような時期の配慮など、多様な条件を考慮すると、共通第一次試験の実施時期は、おそくとも、Ⅰ期校の第二次試験の約1ヶ月半まえまでに実施することが適当であると考えられる。

しかしながら、予想されるこの1月中旬頃の時期は、大学側の行事等との関連では、必ずしも適当でないという意見もあり、前年の11月～12月頃に早めることがのぞましいという考えもある。しかしこのことは、第二次試験受験大学への出願の時期、高等学校における教育課程の進捗度（例えば、社会、国語）などとの関連も考慮する必要があるが、今後、高等学校側の意向をも参考にして、なお、慎重に検討する余地が残されていると考える。

##### (2) 試験日数、試験時間について

試験の日数は、実施科目数と、試験時間に関連し、各教科、科目の出題量に関連する。

共通第一次試験において5教科、7科目の試験を実施するとすれば、昭和49年11月に実施した実地研究試験の結果からみても、1教科90分～120分として、2日間が適当と考えられる。

しかし、実施側としては、例えば土曜日、日曜日に実施するとしても、試験場は、受験生多数のため、国立大学以外の施設及び広範囲に亘ることがありうるので、前日に会場の準備などのことも考慮する必要がある。

また、試験場における答案の回収、整理など、試験監督の業務遂行上の円滑さの面から、休憩時間にも、かなりの余裕をもった時間の配分が必要であろう。

#### 6) 共通第一次試験の出題および採点その他について

国立大学共通第一次試験を実施するにあたってはすでに述べられているように30万人を下らない受験生を対象とし、しかもその採点集計などの処理は短時間に行わなければならない。このこともすでに述べた通りであるが、これを処理するにはすべてコンピューターを使用することが求められる。そのことはまた問題の解答形式、採点などに対し制限が与えられ、結果としてマークシート方式を採用する必要を生じた。このことは更に出題方法にも決定的な影響を及ぼすこととなり昨年度より研究を行ってきた新しい形式の問題を作成することとなった。その結果作成された問題は昭和48年度中間報告の添付資料として一部に配布されたがこれにはまだいくつかの問題点が残されているので一般的な公開は行われず関係者間においての検討資料とした。本年度はこの昭和48年度の研究を基礎として更に研究検討を行って昭和49年11月末に行われた共通第一次試験の現地研究に使用される問題の作成を行った。問題作成は前年度と同じく各科目毎に科目別研究専門委員会を設けて行ったが、その委員会は次の12科目である。その委員会の設置もほぼ前年度と同じく次に示す（ ）内の大学に委員会を置き、その委員長はその大学の専門分野の教官より選び、更にその事務も当該大学の事務関係者により担当された。なお本年度は都合により政治・経済に関する科目別研究専門委員会は横浜国立大学より東京大学に変更になった。各科目別研究専門委員会はそれぞれ委員長を含め約10名の委員を以て構成されるが、各委員会の委員はおおむね委員会の設置された大学の存在する地域の幾つかの大学の教官を以て当てた。但し一部の委員会では少数の委員は他地区の大学教官を以てあてたものも見られた。更に各委員会の委員の中には昨年の委員と一部交代の行われたものも見られた。

#### 12科目の科目名および委員会を置く大学名

国語：現代国語・古典（東京大学）

社会：倫理・社会（お茶の水女子大学）

政治・経済（東京大学）

日本史（奈良教育大学）

世界史（大阪大学）

地理（京都大学）

数学：数学一般・数学Ⅰ（名古屋大学）

理科：物理（九州大学）

化学（九州大学）

生物（東北大学）

地学（北海道大学）

外国語：英語（広島大学）

これまでの2ヶ年間の出題を行った結果などより出題を担当する科目別研究専門委員会の組織構成に関しては次のようなことを考える必要がある。

- 1) 各科目毎に対応する一つの出題委員会を設置する。
- 2) 各委員会は一応約10名で構成するが科目によっては更に増員する必要がある。例えば国語では現代国語と古典とその内容に相違があり、その委員会内を緊密な関連を保つ二群の委員会とする必要がある場合や、地学など一つの科目内に多くの部門を有する場合などは委員数を更に増す必要がある。
- 3) 各委員会の委員はその科目の内容面、また地域的にも一部に片寄ることはさけるべきであるが、また出題にあたってはその本質上充分綿密な連絡の下に作業を進めなければならない。そのため委員の所属する大学が著しく遠隔の地に分散することもさげなければならないであろう。
- 4) 各委員会の委員は毎年「入試センター」より各大学の教官に依頼されることとなるが、マークシート形式の出題の技術的な面などより考え毎年全員の交代は困難であり、かつ又出題の作業は相当の重荷となるものであることと、出題が特定の教官に固定する不当性などより見て、一教官の2ヶ年程度の連続出題担当と委員の半数交代が望ましいものであろう。なお出題にあたっての委員に対する負担増に関してはその期間中の所属大学での担当についての配慮の行われることが望ましいものとする。

各科目の出題形式については、受験生の総数、共通第一次試験の性格などによりすでに述べられているようにその採点にコンピューター処理を採用せざるを得ない事情がほぼ決定されている。次いでコンピューターの現状より見て、受験生の筆記した文字を読み取らせることの困難さよりマークシート形式の答案を用いざるを得ないことも明瞭である。このような考察の結果昨年度より採点のコンピューター化に合致した出題法が研究されてきたものである。本年はこれを基礎として更に研究を行って実地研究に使用する問題の作成を行った。昨年と本年の問題作成と更に本年の約3,000名の受験生を対象として行った試験の結果などと総合して次のような結果が得られている。

その採点法よりして出題に自から制限が生じ、結果として客観テストに主体を置くこととなる。こ

の結果は各大学が独自に行う第二次試験における記述式方式への重点が生じることとなる。ただし現在までの2回の研究においてはマークシート形式の適当な使い方と選択肢の作り方により単純な○×形式の場合より更に進歩した出題を行い得ることも明らかになった。一方またマークシート形式の採用は受験生にマークシート記入上の負担をかけることとなり新たな問題をひき起すことともなった。このような点よりこの形式の出題採点にあたっての試験の限度などを整理して次に示す。

マークシートを用いた解答形式と合わせて行うコンピューター採点処理においては、受験生に文章を用いて解答させる場合と異なり自から次に示されるような制限が生ずる。この制限に関しては設問形式の研究により相当の線までの解決も可能となり今後の指針となったが、また現状では困難である点も明らかとなった。その一部を述べると次のようになる。すなわち、a. 主として国語および外国語（英語）などでは読解力を試す設問が必要とされるがこれは充分とは言えないにしても設問の作り方とそれに合わせた選択肢の作り方によってほぼそれをテストすることも可能である。これと同じく、程度に差はあっても感受性、想像力を試すことも可能であるとの結論が出されている。また本行われた英語の出題にあたっての聴解力のテストもこのような点を試し得る方法として役立つものであろう。b. また国語においてはその基礎学力を試す重要な問題とされている漢字の正確な書写能力のテスト、英語（外国語）における答案用紙よりの和文・英文の読み取り等に関してはこれを可能とすることに強い要望があったにかかわらず現在のコンピューター方式では不可能とは言えないにしても極めて困難であることも止むを得ない点である。このことはあわせて各科目において表現力を的確に評価することが困難であることをも示している。c. この形式の答案用紙においては選択肢を与えての解答が多くなるが、その場合、充分の独創力のテストをすることの困難性や社会の一部科目で問題となる「最適」と「次善」の適切な採点の配慮など選択技法に関して今後多くの問題点の研究の必要性が取りあげられねばならない。d. 次いで図形を用いての解答の問題に関して、数学、理科、社会の一部などにおいても必要とされる線形グラフの読み取りであるが、これには困難な点もあるが、出題、解答形式を工夫することにより相当な範囲のテストは可能であることが明らかにされた。なおこの場合使用する紙面のスペースに関してはその広さと知り得る情報量の関係において問題が残るであろう。更に地理などで必要とされる白地図上への位置の記入については二、三の工夫が行われているが未だ多くの問題点が残されている。e. また数学などで必要とされている証明問題、計算過程をみる問題など出題、パラメーターの分類をして解答する必要のある出題などに関しての解答不能の問題などが残される。f. その他の問題点として、化学における化学式の読み取り、理科共通の図形の読み取り、その他いくつかの困難な問題点も指摘されている。

以上いくつかの方法では困難あるいは不可能な問題点があげられているが、各科目において前年度より明らかにされているように新しい形式の設問法と解答方法の研究によって、高校における全般にわたっての基礎的な学力の一通りの理解を試し得る点においてはほぼ充分であるとの結論が得られた。ただしここで述べられたこの出題に対する制限は必要に応じての各大学における独自の第二次試験の実行と、出題形式・内容を含めてその方法に明確な指示を与えるものと考えねばならない。更にこれ等の点を綿密に考察することによってこの共通第一次試験を各大学においてどのように選抜にあたって利用するかまた自から明らかにされるであろう。

最後にこの共通第一次試験の出題に関する問題点をあげると次のような注意が必要である。第一に問題の内容においては、高校教育の内容に即したものであってその教育を乱さないよう充分考慮すべきである。この方法が全国の国立大学において利用される場合は一次試験においては全科目にわたり一組の問題を作成することで充分であるので時に心配されているいたずらに奇をねらう出題も無くなることとなるものと考えられる。次いで出題の範囲であるが、これが広すぎることは受験生の負担を大きくすることでさけねばならないが、またあまりにも狭すぎる場合も出題の傾向に片寄りが生じ、引いては出題に自由性が少なくなることもなり、適当な範囲を定める必要がある。なお本年までは高校の指導要領の旧時のものの範囲で出題を行ったが今後は新指導要領によるものと変更しなければならない。更に解答形式のマークシートに関してはそのデザイン、印刷の色彩、記入の注意書きなどに充分の配慮をほらい、受験生に対しその記入にあたっての余分の労力を使わせないよう考慮しなければならない。また重要な点であるが解答形式を決定するにあたってはケヤレスミステイクと本質的な誤答との区別などを明確にすることも配慮しなければならない。

## 7) 共通第一次試験の試験結果の各大学における利用について

(1) 共通第一次試験の試験結果は各大学が独自に行う第二次試験の結果と総合して判定に利用されるのが本旨である。

この際共通第一次試験の結果の考慮の仕方は各大学それぞれの行き方があるので、それに資するために各大学には共通第一次試験の結果について、個人別の科目の得点、合計点それらの全受験生についての平均点、それぞれの標準偏差および点数分布曲線についても通知し、更に他のデータ等についても大学側の要請に応じ、可能な限り提供する用意がある。

(2) 第二次試験は共通第一次試験と異なり、受験生のある特定の学部、学科の修学に適した特性について調べるものであるから、各大学は第二次試験に際しては、その目的にふさわしい科目、設問乃

至は共通第一次試験の方式上調べ得なかった面を明らかにするような試験を実施することが望しい。共通第一次試験の性格と重複するような試験の在り方では、徒に受験生に二重負担を課すこととなる。

- (3) 総合判定においても、第二次試験において綿密な調べをするためには、共通第一次試験の成績によってある程度数を絞る必要のおこってくる場合があり得るであろう。この「予備選抜」を採用する場合に、過去の能研テストの追跡調査によれば、第一次試験の成績で上から定員の2倍の範囲に第二次試験の合格者の98.6%が入っている事実、また現在2回に分けて入試を行っている大学において、長年の追跡調査の結果第一次で定員の2.5倍に絞るようになってきている事実は考慮に値するであろう。このような場合においても、共通第一次試験の結果が最終決定に考慮されるべきことは勿論である。

「予備選抜」の事務処理は各大学の責任において行うべきであり、当該大学は事前にその旨公表しておかなければならない。また「予備選抜」の結果は第二次試験の前に発表しなければならない。その時期、方法等については第二次試験の日程等を考慮の上各大学において検討するべきである。

- (4) 推薦入学に共通第一次試験の結果を利用する向もあろう。その場合第二次試験以前に選考が行われるための時間的余裕について考慮の上、時期設定がなされている必要がある。

#### 8) 志望大学への第二次試験の入学願書提出、その他について

- (1) 第二次試験の入学願書請求ならびにその提出は各志望大学に対して、原則として出身高等学校を経由して行うものとする。受験生は願書提出の際に入試センターから送られている第二次試験受験のためのカード〔4〕、(2)参照〕を必ず添付し、第二次試験受験料を納入しなければならない。
- (2) 各大学は第二次試験のための受験票その他必要書類を現行の入学試験の際と同様に受験生に送付する。
- (3) 願書提出の期間はⅠ期校、Ⅱ期校ともに共通第一次試験に先立つ10日間とする(5)参照)。

#### 9) 事故処理問題について

共通第一次試験の実施にあたって、種々の事故が予想されるが、現在では予測することができないような事故も考えられるので、総べての場合を想定して事故対策を行うことは不可能である。しかし、一応考えられる事故についての対策について検討し、そのための処置を講じておくことが必要で

ある。

まず第一に、試験実施以前におこる事故であるが、その中で最も重大なものは、問題冊子あるいは解答用紙の輸送中生ずる事故である。このため、一部問題冊子あるいは解答用紙が破損したり、焼失したりすることがおこった場合に対してはあらかじめ、余分のことを印刷しておき、代替分を急送することが考えられるが、解答用紙については、受験番号等の印刷をする必要がある。

上のような処置を行って、所定の期日に試験を行うことができないときには、関係試験場のものについては、1～2週間後に、別の問題（予備問題）を用いて試験を行う（これを再試験とよぶ）。このような再試験の対象となる受験者の数があまり多くない場合には、予備問題とそれに相当する解答用紙をまとめて送ることもそれほど困難ではないが、全受験生に対して再試験を実施しなければならない場合がある。このような多量な問題冊子・答案用紙をそろえるのには、かなりの日数がかかるので、事故が発生してから、印刷にかかるのでは、再試験の実施までにかかなりの日数を必要とするので、万全を期するためには試験実施の時期は大幅に早めることが必要である。したがって、この計画で考えられている時期に実施するということであると、予備問題およびこれに相当する答案用紙を全受験者数に相当数だけあらかじめ印刷しておくことが必要である。

実施前におこる事故として想定されるものの中で最大のものは、問題の内容が外部にもれた場合または、もれたという疑いが生じた場合である。問題の内容に関する秘密の厳守については、特に注意しなければならないのはいうまでもないが、輸送中に一部紛失した場合、また輸送中に生じた交通事故の際に路上に散乱し、それによって問題の内容がもれることも想定される。このような場合には、全受験者に対し相当する科目の試験を用意した予備問題によって行わなければならない。また、そのためにこの試験の実施の時期をおくらせて再試験として行う可能性もある。

試験実施中におこる事故については、種々の事故があるが、試験場が全国にわたり、天災、または広範囲にわたる交通の停止のため、いくつかの試験場で試験実施が不可能になることもあり、一部受験者が、1科目または数科目の試験を受けられない結果を生ずることも十分想定される。これらの解決は、前記の場合と同じ再試験の実施によって解決する。試験実施中に、不測の事故により、試験の続行が不可能になった場合も再試験を行う。

解答ずみの答案用紙をセンターに返送の途中に生じた事故で答案用紙が紛失破損する事故がおこることが想定される。この場合にも再試験をすることが一応考えられるが、同一人が2回の試験を受けなければならないことと、事故と試験の期日とのタイミングによっては、通常の方法で再試験を行うことが非常に困難になるものと考えられる。



なお、交通事故などのため、特定の試験場において、所定の時刻に試験の開始が不可能な場合には、実行可能な限り時間をずらすなどの方法で実施することが望ましく、またこのため多数の遅刻者が出た場合には別室を用意するなどの方法を考えることが必要である。この場合には解答用紙の配布については注意が必要である。

一般の遅刻者については、試験開始後一定の時刻までは入場を許す。

次に、問題に誤りがあった場合の処置があるが、試験期日より十分前であれば、印刷した正誤表を添付または別送する。当日発見した場合のように、このような措置をとる時間的余裕がない場合には、テレファックスなどにより各大学実施機関に連絡する方法が考えられる。このためには、各大学にあらかじめ、テレファックスの端末をおき、センターとの専用回線を用意しておかなければならない。(公衆回線を用いるテレファックス端末もあるが、同時に各大学に連絡する方法に問題がある。)

受験生からの質問の処理については、試験場では一切答えないことにすべきであるが、それが明らかに問題の誤りなどのある場合については、さらにきめ細かく検討しなければならない。

試験終了後に問題の誤りまたは、不適切な点があった場合には、該当する問題の採点をしないなど以外には、さし当りとり得る方法はないが、ケース・バイ・ケースにその対策を考えるほかはない。

解答用紙の印刷ミスなどは、修正不可能であるので、上記に記した処置が必要である。

#### 10) 小規模実施方法について

全国立大学が協力して全国一斉に共通第一次試験を行うことを目標として各部門にわたり研究を行っているが、これを行うにあたりその前段階として一部の大学が協力して小規模な実施を行うことも考えられるであろう。その場合にどのような問題が起こるか検討を行ったのでこれを示す。

これを行うにあたり一部の大学と述べた場合に少なくとも二つの例が上げられる。一つは一地区の国立大学が何校か協同の下に行う場合と専門を同じくする大学例えば単科大学(医科大学)で全国的にその所在地が分布する大学が協力して行う場合であろう。前者の場合はその実施方法に関してはこの報告書に示すような各部分の研究結果を参照して実施することが良いと考えられる。ただし全国的に実施する場合の大きい利点の一つである受験生がそれぞれの居住地の近くで受験しうることが不可能となり共通第一次試験のための受験地への旅行が必要となる。したがって大学の側において何大学かが協力して一種類の出題を行うことの利点のみが上げられることとなる。第二の場合においても受験生の居住地での受験を行いうる利点は成立せず、大学側の出題面においての前者と同様の利点を取り上げられるのみとなる。

上記いずれの場合も出題面よりみればある程度の進展は見られるが大多数の国立大学が協力して一

斉に共通試験を行う場合に比較し著しくその成果が低いものと考えざるをえない。

#### 11) 身体障害者の受験について

共通第一次試験において、身体障害者の受験者が若干名あることは、当然予想されることである。

身体障害者のなかでも、その障害の種類、部位が様々であり、その障害の程度も軽度から、重度まであり、軽度の障害者の場合には、他の一般の受験生と同様に受験可能と考えられ、特に考慮する必要はないであろう。

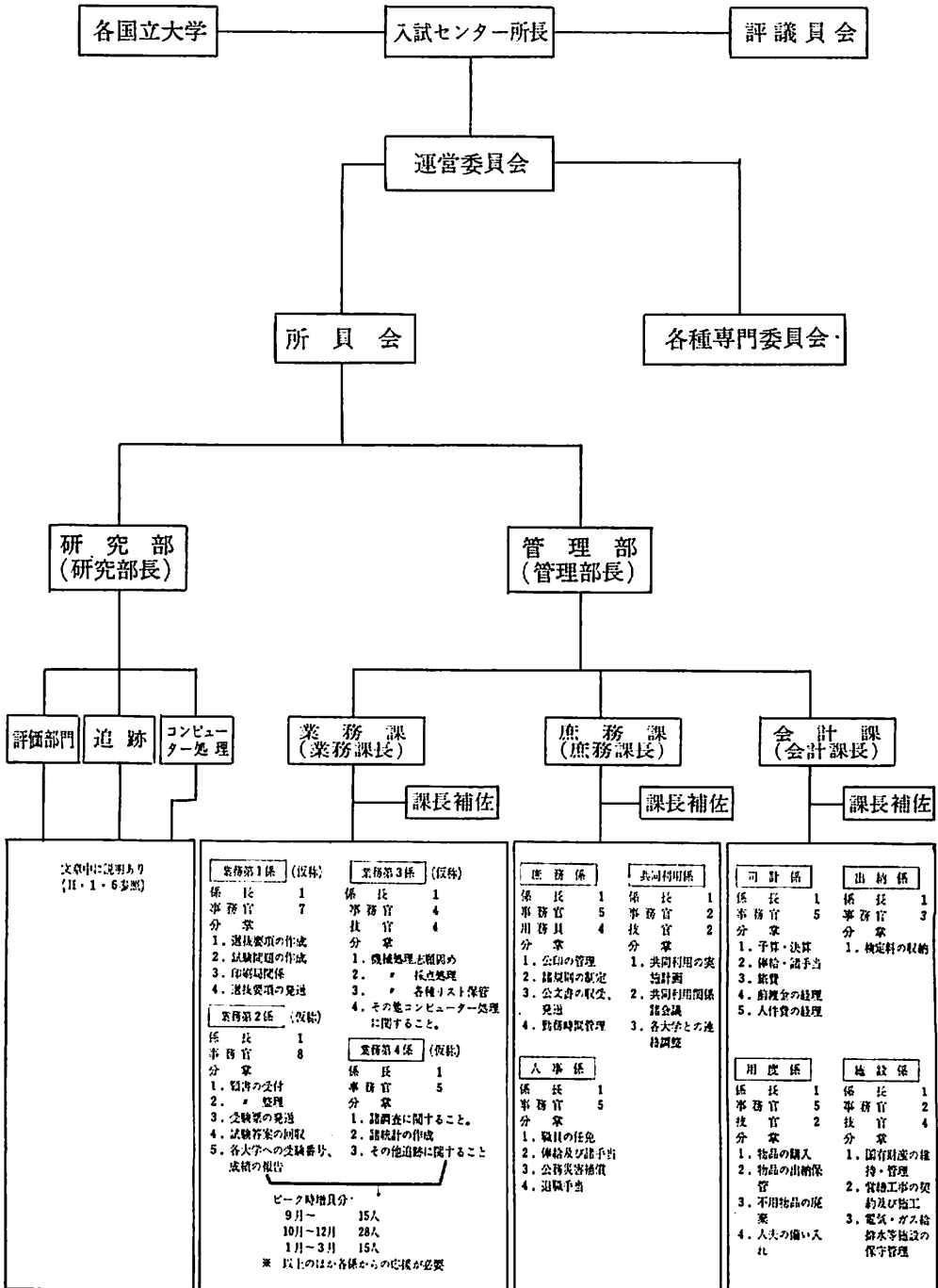
しかし、次のような障害者の場合には、共通第一次試験の受験出題に際し、予め申し出を受け、試験実施に若干の準備をする必要があろう。

肢体不自由者の場合は、特に車いす利用者について、試験場等に、特別な配慮が必要となる場合があると思われる。

盲者については、出題に際し、予め点字による出題を準備するとともに、マークシート方式による回答は不可能であるので、回答の方法を配慮する必要がある。(例えば、別室において、試験を実施し、その際、介助者2名を配し、回答を介助者がマークシートに記入する方法などが考えられる。)また、盲者、ろう者については、出題の内容によっては、解答不能の場合が考えられるので、別途考慮する必要がある。

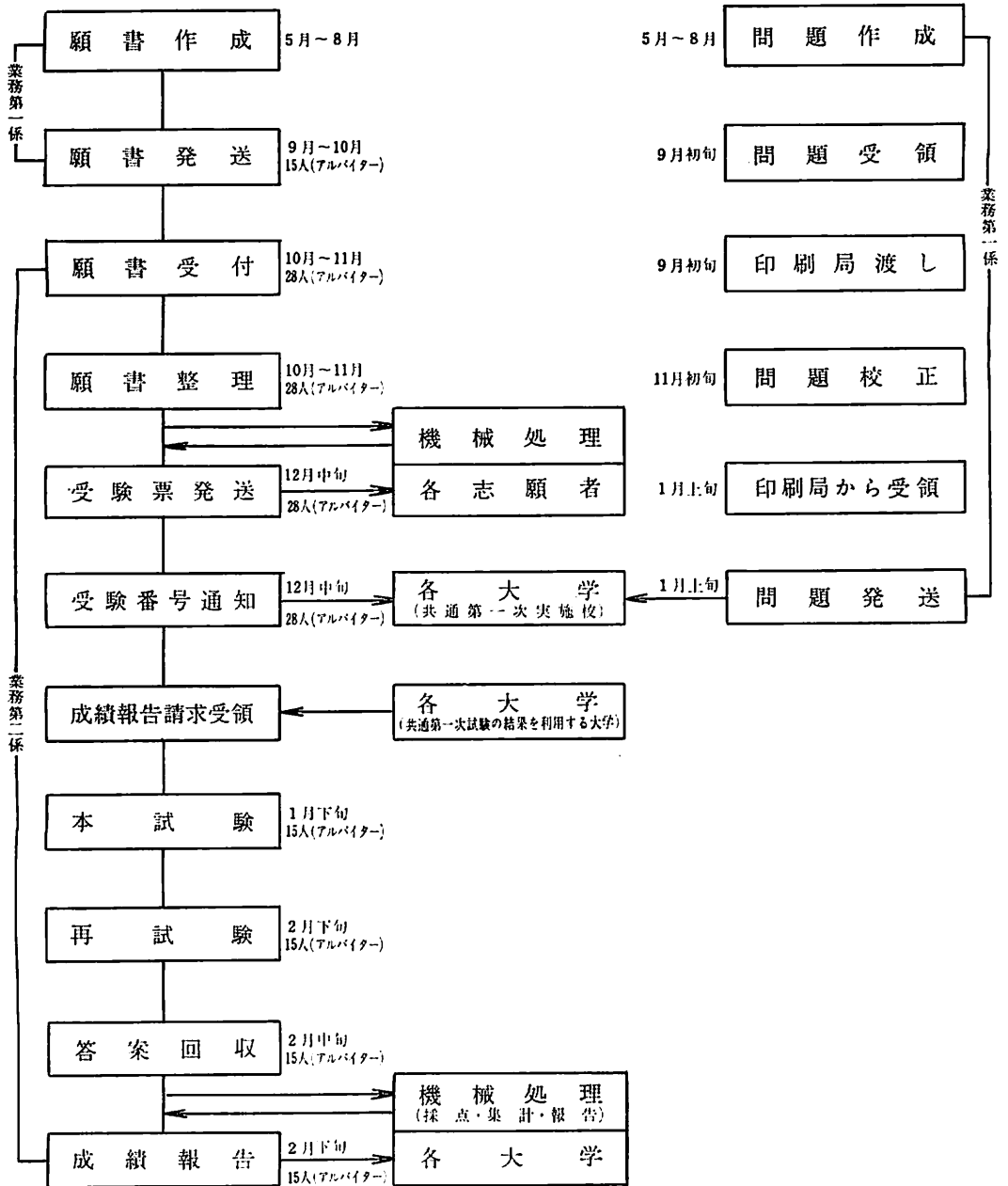
なお、いずれにしても、これらの身体障害者については、各地方ブロックごとに1ヶ所程度、試験場を指定し、受験するようにすることが適当と考えられる。

入試センターの組織と事務職員数(案)



資料 2

業務内容のフローチャート(案)



## 附) 昭和48年度入試改善調査研究報告書(中間報告)に関するアンケートについて

入試改善調査委員会は共通第一次試験について昭和48年に行った調査研究の結果を「国立大学入試改善調査研究報告書—中間報告・昭和48年度—」として報告した。この報告書は各国立大学その他関係各方面に送付した。

共通第一次試験に関する調査研究は昭和49年度も引続き行うこととしたが、中間報告の内容について各方面の批判と意見を求め、本委員会の調査研究に資する必要があった。

そのため、本委員会はこの中間報告をふまえて、共通第一次試験に関して各国立大学にアンケートを行った。

その項目はつぎの通りである。

- A. 実施方法、実施機関等について
- B. 教科、科目について
- C. 利用について
- D. その他

これらに対する回答のうち、前3項に関するものは、本報告のそれぞれの項目のもとに、できるだけとり入れて、疑義や意見にこたえるようにした。これらは実施した場合の結果や影響を予測するために想定したものであるが、実施を前提とした質問のように受けとれるため、批判や注意事項に関する意見はD項に多く集っている。

回答のうち賛成に近いものは前3項のそれぞれの項目に大体とりあげられているので、批判や、特に意見のあったもののうち主なものをここにあげると、それはほぼ次のごとくである。

### 1) 全般に関するもの

- (1) 入試制度だけを改革しても競争試験の弊害は解決できない。
- (2) 共通第一次試験は大学および受験者に物心両面で大きな負担を与える。
- (3) 共通第一次試験の段階では受験者の全体的な能力はわからないのではないか。(従って予備

選抜は好ましくない。)

- (4) 共通第一次試験は高校教育に画一化などのひずみを与えるのではないか。
- (5) 共通第一次試験は大学や高校の格差を拡大するのではないか。
- (6) 共通第一次試験は教育の国家統制をもたらすのではないか。

## 2) 理念と目的について

- (1) 共通第一次試験を行うことによって、入試改善の理念が生かされるか。
- (2) 各大学で行う二次試験と組合せて考えないと議論できない。
- (3) 予備選抜は総合判定と言う本来の考え方と矛盾する。
- (4) 共通第一次試験は高校の学習達成度を見ることによる大学入学の資格試験とすべきである。

## 3) 問題およびコンピューター使用について

- (1) 出題に対するコンピューター利用の限界に疑問を持つ。
- (2) コンピューターの技術的問題にとらわれて、共通第一次試験の根本理念が忘れられ易い。
- (3) 共通第一次試験の出題は幅ひろく、平易なものであるべきである。

## 4) その他

- (1) 共通第一次試験に関連してⅠ期校、Ⅱ期校の別を廃止すべきである。
- (2) 共通第一次試験の教科を国語、英語、数学の教科に限るべきである。
- (3) コンピューターを用いず、出題だけを一部共通にしてはどうか。
- (4) はじめから全国的な組織とせず、ブロックごとに共通試験を行うべきである。
- (5) 抽選による入学を考慮すること。
- (6) 推薦による入学を考慮すること。
- (7) 二次試験についても共通問題を作り、その中から利用できるようにすること。
- (8) 国立大学に限らず、全ての大学につき行うべきである。

以上のうち、競争試験の弊害、一次二次の組合せ、予備選抜などについては、本文のそれぞれの項にも一部のべられているが、共通第一次試験により入試の弊害を全て解決することはもとよりできない。志願者が大学の入学定員を上まわる限り、何らかの形で競争試験を行わざるを得ない。ただその

方法を改善して、普通素直に勉強している生徒が不利になったり、高校が予備校化して受験技術の習練のみに走ったりすることが無いようにするのが、共通第一次試験の大きな目的の一つである。この趣旨が十分に徹底すれば、二次試験（その大学、その学部学科の適性試験）との組合せも自ら適切なものが考えられると思われる。二次試験について統一的に規定することはできないが、その趣旨からして、できるだけ科目を少なくして記述的なものを主とし、志望学部や学科との資質適性を見ることが妥当である。

以上のように本来一次二次を合せて一つの入学試験で、共通第一次試験の結果は公表されないから、それにより進学指導が行われることはなく、大学や高校の格差拡大にはつながらないと思われる。また出題委員も各大学から自主的に選出される上、二次試験も組合せられるので、高校教育の画一化や、国家統制などの弊害も防ぐことができると思われる。

次に大学も受験者も二重負担になるとの意見はある程度事実であるが、前者では入試センターの設置など共通化による労力節約の利点もあり、後者では技術に偏した受験準備に追われることなく、正常な高校教育を享受することができるならば、必ずしも無用の負担ではないであろう。

また予備選抜の問題であるが、たてまえからは確かに好ましくない。しかし特に志願者の著しく多い大学、学部においては、強く希望している。従来からの予備選抜に関連した研究では、定員の二倍程度の範囲内は合格可能者の98%余りが納まっている。予備選抜の実施を希望する大学があったとしても、数年間の追跡調査により、無理のない、予備選抜の範囲を決定できると思われる。

出題のコンピューター化による制約は免れないものではあるが、その限界を十分考慮して実施するならば、ある程度実用に支障のない結果が得られると思われる。

またこれに関連した提案として、出題を一部共同で行い、採点にはコンピューターを用いないと言う考えがあるが、これは現在の制度でも実験し得るものである。

その他抽選による入学、国立大学のみならず、公私立大学全部に共通第一次試験を行うこと、志願者全員を第一年次に収容して、その中から進級者を選抜すること、などは、意見としては興味あるものもあるが、これらは根本的な基礎条件の変更を要し、現在の状況のもとでは実行不可能である。

なお共通第一次試験の成績により、志願者を数段階に分ち、上位から順次段階別に各大学が二次試験を行って合格者を選抜する方法や、各大学が予め入学定員を第一志望用と第二志望用に分ち、志願者にも第一、第二志望を認め、第一志望用定員を先ず充足したのち、さらに共通第一次試験の成績を主な資料として、第二志望用定員の合格者を選抜する方法も提案されているが、これらは大学や高校の格差拡大につながるなど、問題点が多い。

### Ⅲ 共通第一次試験の实地研究

国立大学協会入試改善調査委員会において本年度行った事業の重要なものは実施方法等専門委員会を中心となって行った实地試験があげられる。すなわち全国7地区において、一地区約500名、全国3,500名の受験生による实地試験がそれである。これは昨年度行われた実施方法等調査専門委員会、コンピューター専門委員会、科目別研究専門委員会において研究を行って来た結果をもとにしてこれを実地に試みる事であると共に国立大学共通第一次試験が行われるとすれば如何にすれば可能であるかの問題をとりあげるにあたっての予備段階ともなったものである。

#### 1. 準備

本年度の共通第一次試験の研究に対しては文部省において、相当数の受験者を集めての試験の实地研究を行う予算の支出を行った。これを受けて入試改善調査委員会においてその実施の具体案を作成することとした。これには実施方法等調査専門委員会、コンピューター専門委員会、各科目別研究専門委員会委員長合同の会議によりその計画が進められることとなった。その最初の会合は昭和49年5月1日である。その後实地研究に関する小委員会も組織され、同5月11日に最初の会議が行われた。

これらの会議の結果本年は全国の7地区において各地区約500名の受験者を集めて行うことが計画された。また各地区ともそれぞれ世話大学を決めてその大学が中心となり出来うれば近くの大学の協力の下に行うことなどが考えられた。次に7地区とそれぞれの地区の世話大学を示す。

北海道地区	北海道大学
東北地区	東北大学
関東甲信越地区	東京大学
中部地区	名古屋大学
近畿地区	京都大学
中国・四国地区	広島大学
九州地区	九州大学

この世話大学の決定は6月10日世話大学学長、事務局長および入学主幹の会議を開催して決定した。それに引続き各世話大学では、一部では近傍の大学と協力の下に「地区試験実施委員会」を設置



してそれぞれの地区において行う試験の企画，実施の主務を担当することとなった。委員は一地区5名であり，うち1名は地区試験実施委員長となった。なおこの委員長は実施方法等調査専門委員長が委嘱した。またこの委員会の設置と共に各地区に事務担当責任者1名も決定された。各地区試験実施委員会はそれぞれの地区での試験の実施を計画すると共に地区毎の受験者の募集も行うこととなるが，これには「実地研究趣意書」および「国立大学共通第一次試験の実地研究についてお願い」をもって地区の高校および教育委員会との連絡によって進められた。この時期には本年の試験は11月23・24日の連休をあてることが最も好都合であると結論も得られて順次実施の準備が進められた。

受験者の募集は前述のように各地区で行われたが，受験予定者が確定した結果受験者の在学する高等学校を經由して所定の受験申込書を9月20日までに地区試験実施委員会に提出・地区世話大学において取りまとめ9月25日までに国立大学協会内コンピューター専門委員会に送付し取りまとめた。コンピューター専門委員会はこの申込書を処理し，11月上旬資料に示す受験票，受験者の心得，試験場案内図を受験者に送付した。

一方試験問題とマークシートは各科目別研究専門委員会においてコンピューター専門委員会の協力の下に作成され8月31日の委員会において取りまとめた。ついでこの取りまとめられた原稿はコンピューター専門委員会の下で校正，印刷された。この部分については更に詳細に次頁「IV科目別研究専門委員会における調査研究の概要」に述べてある。

## 2. 試験の実施

一方各地区の試験実施委員会においては地区毎の受験者数にもとづいて試験場の決定を行い，コンピューター専門委員会に報告を行って受験者の席順などの準備を進めた。それと並行してコンピューター専門委員会では10月末に印刷の完了した問題冊子とマークシートを試験場毎に分封し11月15日までに地区実施本部に送達した。またほぼ同時期には地区毎に試験監督者の決定も行われた。また各地区の試験本部には受験者用として「受験者の手引」「解答用紙記入上の注意」，地区実施委員会へは「地区実施委員会への連絡」監督者用として「監督者要領」を印刷の上送付した。また今回は解答用紙のマークシートにはあらかじめ受験者の氏名と受験番号を記入した形で配布するようになっていたので試験場において相違のあった場合は未記入の予備解答用紙を使用するよう計画した。このため予備の解答用紙の使用調査表および欠席調査表も予め印刷の上送付されていた。

以上の前準備の上で7地区において試験が実施されたがその時間割は次表のようである。

昭和49年度試験問題実地研究の試験時間割

11月23日(土)	9:00 }	9:15 }	9:30 }	11:30 }	12:30 }	14:30 }	15:00 }
	9:15	9:30	11:30	12:30	14:30	15:00	17:00
	試験場 入場	受験の 説明	国語 (120分)	(昼食)	数学 (120分)	(休憩)	社会 (120分)
11月24日(日)	9:00 }	9:15 }	11:15 }	11:45 }			
	9:15	11:15	11:45	13:25			
	試験場 入場	理科 (120分)	(休憩)	英語 (100分)			

備考：試験問題・解答用紙の配布は試験時間外に行うものとする。

また各地区毎各時間毎の受験者数と出席率は次表の通りである。

実地研究受験状況調

地 区	受験者数	国 語		数 学		社 会		理 科		英 語	
		出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席	出席	欠席
北 海 道	483	331	152	321	162	319	164	305	178	305	178
東 北	496	390	106	389	107	387	109	370	126	371	125
関東・甲信越	516	449	67	448	68	447	69	432	84	433	83
中 部	494	430	64	428	66	427	67	420	74	421	73
近 畿	147	101	46	101	46	97	50	92	55	93	54
中国・四国	524	311	213	300	224	287	237	273	251	276	248
九 州	388	299	89	299	89	294	94	275	113	278	110
総 計	3,048	2,311	737	2,286	762	2,258	790	2,167	881	2,177	871
		(75.8%)		(75.3%)		(74.0%)		(71.3)		(71.4%)	

この時間割については、試験時間のなが過ぎるとの意見、休憩時間の問題点などいくつかの検討すべき点が出ている。また受験率などはこのような初めてのころみとしては良好なものと考えられよう。次いで集められた解答マークシートは各地区より11月25日発送され国立大学協会に送達され、コンピューター専門委員会の手に入った。また今回の試験において新しいころみとして英語の聴解力テストに関しては種々準備など問題点があったが、きわめて少数の教室における発声の少時間のおくのみで無事終了した点幸いであったと言えよう。

### 3. 採点および集計について

採点はマークシートを決定する時点で出されていた採点基準にしたがって、マークシートリーダーを用いて採点し集計を行った。各科目毎の受験者数、最高点、最低点、平均点、偏差は付した科目別平均点一覧に示してある。また計画の途中に出された意見の一つとして地区実施委員会よりの要望として、高校側への各受験者の成績の要求が出された。これに関しては慎重な審議を行った結果世話大学に高校別にした各受験者の科目別得点数を知らせ、これを世話大学より高校に通知することにより何らかの意味における高校側への謝意をも示すこととした。

科目別平均点一覧

科 目	偏 差	平 均	最 高	最 低	受 験 者 数
国 語	22.20	126.42	191	38	2,311
数 学	41.37	112.73	200	0	2,286
英 語	33.60	130.01	198	16	2,177
日 本 史	14.19	51.60	93	0	1,484
世 界 史	14.71	56.54	95	10	1,254
地 理	13.57	71.32	97	0	570
政治・経済	11.72	54.46	89	0	751
倫理・社会	13.88	63.75	98	0	447
物 理	23.14	52.47	100	0	1,395
化 学	15.28	35.67	93	0	1,812
生 物	17.21	40.76	93	0	682
地 学	10.49	33.11	80	11	445
7科目合計	137.50	547.05	898	85	2,323

### 4. 受験者に対するアンケート調査

当初よりの計画には入れられていなかった項目であるが、この実地試験を実施中に出された意見として、その受験者間における反響も知る必要がありこれを今後の計画に対する資料とすべきであると提案がなされた。この提案により資料に示す往復葉書によりアンケート調査を行うこととした。その項目は

- I 各科目について、問題の難易、問題の文章の理解の難易、問題の長さ、図と表の理解の困難なもの有無、解答時間の長短
- II マークシート形式の解答について、その形式の良否、記入法の難易、記入時間の長短、記入欄

の見易さ

Ⅲ 英語の聴解力テストについて、その聞え方の良否、試験時間の長短、この方法の受けとめ方

Ⅳ 試験場についての静かさ、明るさ、室温の適否であるが更に感想記入欄をもうけ全般的な感想も知るよう取りはからった。

ただしアンケートを送付した時期が1月中旬となった点はおそきにすぎ決して良好ではなかったが、それはこの計画が中途より出てきたものであり、かつ受験者へ出す葉書の宛名をコンピューターによって打ち出す必要があるためこの試験の採点集計などすべて終了した後に行わざるを得ない理由によるものでまことにやむを得ないことであった。

このアンケートの結果は次の表に示されるように7地区の合計においてその回収率が43.4%であってあまり高くない点はその時期が不適當であったものと考えられる。ただしⅠの項目についてはすべての項において「普」の部の数がそれぞれの項において最も高い値となった。またⅡ、Ⅲ、Ⅳの項目についての結果は今回行った方法に対する注意すべき点を示すものとして大いに参考となるものである。また感想記入の欄については色々の意見が述べられていたが、a. この試験を高校の授業に対し合致するものと受け取るもの、b. 一部では易しすぎるとの感じをもつもの、c. 社会、理科それぞれ二科目の負担の重すぎると取るもの、d. マークシート形式の記入の負担を示すものなど問題、解答に関する感想が多く見られた。また成績、順位などにつき個人への連絡を望むものも一部に見られた。またアンケート調査の時期の遅いことに対する強い不満などもみられた。

全体として相当大きな作業となったが、この調査も色々の意味で多くの参考となったものと考えられる。

# 附 受験生に対するアンケート調査集計

(7地区合計)

アンケート送付枚数 2,323枚  
" 回収枚数 1,009枚  
回収率 43.4%

## I 各科目について

項目 科目	問題の難易			問題の文章の理解			問題の長さ		図の難解	表の難解	解答時間		
	難	普	易	難	普	易	長すぎる	普			長	普	短
国 語 (受験者数 2,311名)	回答数 991			回答数 952			回答数 956		Ⅲ-2名	Ⅱ-1名	回答数 973		
	48	559	384	32	582	338	88	871			217	555	201
	4.8%	56.4%	38.8%	3.4%	61.1%	35.5%	9.2%	90.8%			22.3%	57.0%	20.7%
倫 社 (447)	回答数 171			回答数 161			回答数 164				回答数 172		
	19	104	48	13	104	44	18	146			46	116	10
	11.1%	60.8%	28.1%	8.1%	64.6%	27.3%	11.0%	89.0%			26.7%	67.4%	5.9%
政 経 (751)	回答数 317			回答数 308			回答数 310		1-8名	2-2名	回答数 312		
	64	217	36	30	230	48	28	282	2-9名	4-3名	89	203	20
	20.2%	68.4%	11.4%	9.7%	74.7%	15.6%	9.0%	91.0%	V-3名	Ⅲ-1名	28.5%	65.1%	6.4%
日 本 史 (1,484)	回答数 632			回答数 600			回答数 615			1-1名 2-1名 I-1名 Ⅳ-8名 V-1名	回答数 631		
	188	397	47	44	446	110	38	577			129	461	41
	29.7%	62.8%	7.5%	7.3%	74.3%	18.4%	6.2%	93.8%			20.4%	73.1%	6.5%
世 界 史 (1,254)	回答数 523			回答数 517			回答数 508		I-1名	I-4名	回答数 539		
	222	273	28	55	374	88	52	456	V-1名	Ⅲ-2名	101	391	47
	42.4%	52.2%	5.4%	10.6%	72.3%	17.1%	10.2%	89.8%	2-1名		18.7%	72.5%	8.8%
地 理 (570)	回答数 241			回答数 235			回答数 241		Ⅵ-5名	Ⅸ-1名	回答数 249		
	30	150	61	15	167	53	25	216	4-2名		59	159	31
	12.5%	62.2%	25.3%	6.4%	71.0%	22.6%	10.4%	89.6%			23.7%	63.9%	12.4%
数 学 (2,286)	回答数 965			回答数 911			回答数 917		Ⅲ-26名 Ⅵ-2名 1-4名 2-4名 3-1名	Ⅱ-1名 Ⅲ-5名 Ⅵ-1名 2-2名 5-1名	回答数 943		
	194	547	224	204	538	169	83	834			97	604	242
	20.1%	56.7%	23.3%	22.4%	59.0%	18.6%	9.1%	90.9%			10.3%	64.1%	25.6%
物 理 (1,395)	回答数 615			回答数 567			回答数 586		Ⅲ-1名 1-8名 1-3名 2-4名	Ⅲ-3名 1-4名 2-1名 3-4名	回答数 599		
	121	369	125	50	405	112	31	555			49	431	119
	19.7%	60.0%	20.3%	8.8%	71.4%	19.8%	5.3%	94.7%			8.2%	72.0%	19.8%
化 学 (1,812)	回答数 812			回答数 760			回答数 770		I-2名 Ⅳ-2名 V-3名 Ⅳ-1名 9-1名	V-7名 Ⅳ-2名 6-1名 1-1名	回答数 795		
	394	389	29	101	558	101	128	642			48	483	264
	48.5%	47.9%	3.6%	13.3%	73.4%	13.3%	16.6%	83.4%			6.0%	60.8%	33.2%
生 物 (682)	回答数 285			回答数 266			回答数 271		I B-7名 Ⅱ-5名 Ⅲ-6名 Ⅳ-3名 I-4名 D-1名	I-2名 Ⅱ-4名 Ⅳ-1名 I D-1名 B-2名 A-1名	回答数 274		
	109	163	13	58	181	27	28	243			33	196	45
	38.2%	57.2%	4.6%	21.8%	68.0%	10.2%	10.3%	89.7%			12.0%	71.5%	16.5%
地 学 (445)	回答数 189			回答数 180			回答数 185				回答数 184		
	49	123	17	24	125	31	20	165			25	142	17
	25.9%	65.1%	9.0%	13.3%	69.4%	17.3%	10.8%	89.2%			13.6%	77.2%	9.2%
英 語 (2,177)	回答数 958			回答数 829			回答数 859			I-1名 Ⅱ-1名	回答数 941		
	192	586	180	83	539	207	268	591			104	481	356
	19.0%	61.2%	18.0%	10.0%	65.0%	25.0%	31.2%	68.8%			11.1%	51.1%	37.8%

## II マークシート形式の解答について

形 式			記 入 法 として			記 入 時 間			記 入 欄	
良	悪	不 安	難	普	易	長	普	短	見 難 い	見 易 い
回 答 数 989			回 答 数 992			回 答 数 984			回 答 数 978	
468	175	346	185	516	291	143	681	160	480	498
47.3%	17.7%	35.0%	18.6%	52.0%	29.4%	14.5%	69.2%	16.3%	49.1%	50.9%

## III 英語の聴解力テストについて

聞 き と り			試 験 時 間			と ま ど う	不 な れ	両 方
難	普	良	長	普	短			
回 答 数 919			回 答 数 973			回 答 数 549		
134	455	330	59	772	142	68	378	103
14.6%	49.5%	35.9%	6.1%	79.3%	14.6%	12.4%	68.9%	18.7%

## IV 試験場について

静 か さ			明 る さ			室 温		
良	普	悪	良	普	悪	暑	良	寒
回 答 数 996			回 答 数 990			回 答 数 989		
596	344	56	347	499	144	35	442	512
59.8%	34.5%	5.6%	35.1%	50.4%	14.5%	3.5%	44.7%	51.8%

# 資 料

# 昭和49年度試験問題実地研究実施要項

昭和49・5・23

入試改善調査委員会

昭和49年度における入試改善調査研究に関する試験問題実地研究は、本要項の定めるところによりこれを実施する。

## 1. (実施担当委員会)

入試問題実地研究(以下「実地研究」という。)の実施は、実施方法等調査専門委員会が主体となり、各科目別研究専門委員会およびコンピューター専門委員会と協同のもとに行なう。

## 2. (実地研究の教科・科目)

実地研究は、昭和49年度の現高校3年生を対象とし、5教科12科目につき行ない、各科目別研究専門委員会の作成した試験問題を用いる。

試験は、1教科2時間以内とする。

## 3. (実地研究の試験期日)

実地研究の試験実施の期日は、昭和49年11月23日および24日の2日間において行なう。

## 4. (実地研究の実施地区と受験者数)

実地研究の試験は、全国を7地区(北海道・東北・関東甲信越・中部・近畿・中国四国・九州)に分ち、原則として1地区当り500名、総員3,500名の高校生について行なう。

## 5. (実地研究各地区の世話大学と実施主体)

実地研究の各地区の試験業務は、次に掲げる各大学(以下世話大学という)の斡旋のもとに当該地区の試験実施委員会が主体となつて行なう。

北海道地区 北海道大学

東北地区 東北大学



関東甲信越地区	東京大学
中部地区	名古屋大学
近畿地区	京都大学
中国四国地区	広島大学
九州地区	九州大学

## 6. (世話大学の依頼と協議)

入試改善調査委員会は、6月10日に世話大学の学長・事務局長および入学主幹の会議を開き、世話大学の依頼および試験実施委員会の設置その他実地研究の試験業務について打合わせを行なうものとする。

## 7. (地区試験実施委員会)

各地区に、その地区において行なう試験の企画・実施等の主務を担当する試験実施委員会を置く。試験実施委員会の構成は、委員5名(うち1名は試験実施委員長)および事務担当責任者1名とし、地区世話大学において選考し、6月30日付をもって実施方法等調査専門委員会の委員長がこれを委嘱する。

## 8. (試験実施委員長会議)

実施方法等調査専門委員会は、コンピューター専門委員会と共催のもとに、7月中旬に第1回の各地区の試験実施委員長会議を開催し、試験業務の実施その他について協議打合わせを行なう。

## 9. (受験者の募集)

実地研究の試験を受験する高校生は、各地区の試験実施委員会が当該地区の教育委員会および高等学校の協力を得て9月20日までに募集する。

## 10. (受験申込書の提出)

各地区の試験実施委員会は、受験予定者が確定したときは、受験者の在学する高等学校を經由し所定の受験申込書を9月20日までに提出させ、これを在学高等学校別に取りまとめ、9月25日までに国立大学協会内コンピューター専門委員会に送付するものとする。

#### 11. (受験者に受験票の送付)

コンピューター専門委員会は、コンピューター専門業者に依頼し、提出された受験申込書を処理して受験票等を11月上旬に各受験者に送付するものとする。

#### 12. (教育委員会又は高等学校に依頼)

各地区試験実施委員会は、前項9および10について、教育委員会又は高等学校に依頼する場合は「実地研究趣意書」を添えて7月末日以降速やかにそれぞれ依頼するものとする。

前項の「実地研究趣意書」は、6月20日までに原稿を作成し、7月10日までに印刷を完了するものとする。

#### 13. (試験問題およびマークシートの原稿作成と送達)

各科目別研究専門委員会は、実地研究の試験問題およびマークシートの原稿を作成し、8月31日までに委員(1名)が出張し国立大学協会内コンピューター専門委員会にこれを送達するものとする。

#### 14. (試験問題およびマークシートの校正・印刷)

コンピューター専門委員会は、前項により送達を受けた試験問題およびマークシートの校正と印刷とを各科目別研究専門委員会の協力を得て行なうものとする。この場合試験問題等は秘扱いとし、それぞれ確実な業者に印刷を依頼し10月末日までに印刷を完了するものとする。

#### 15. (試験問題の採点基準の作成・報告)

各科目別研究専門委員会は、試験問題の採点基準を作成し、11月10日までにマークシートに記入して国立大学協会内コンピューター専門委員会に報告するものとする。

#### 16. (受験者の手引・試験実施解説書の作成・送達)

実施方法等調査専門委員会は、コンピューター専門委員会と協議し、受験者の手引きおよび試験実施解説書を9月末日までに作成し、所要部数を10月末日までに印刷の上、地区試験実施委員会に送達するものとする。

#### 17. (試験問題・マークシートの分封・送達)

コンピューター専門委員会および実施方法等調査専門委員会は、印刷した試験問題およびマークシートをそれぞれ一定の数に分封し、各地区の試験実施委員長宛に運送便をもって11月15日までに送達するものとする。

前項の分封委員は、コンピューター専門委員会および実施方法等調査専門委員会の委員がこれにあたる。

#### 18. (試験場)

実地研究の試験場は、各地区世話大学にその斡旋を依頼し、9月末日までに決定するものとする。

#### 19. (試験監督者)

試験監督者は、原則として受験者50名当り2名とし、11月中旬までに地区試験実施委員会がこれを委嘱する。

#### 20. (解答マークシートの送達)

各地区の試験実施委員長は、実地研究の試験を完了したときは、直ちに解答マークシートを厳封し、これを国立大学協会内のコンピューター専門委員会宛に運送便をもって11月25日に発送するものとする。

#### 21. (解答マークシートのコンピューター処理)

コンピューター専門委員会は、前項により送達された解答マークシートについてコンピューター専門業者に依頼しコンピューター処理を行ない、12月20日までに受験者別・科目別等に採点を整理し、更に必要事項毎に結果を整理するものとする。

#### 22. (最終報告書)

実施方法等調査専門委員会は、コンピューター専門委員会・各科目別研究専門委員会および地区試験実施委員会の報告にもとづき「試験問題実地研究報告書」を取りまとめ、12月末日までに入試

改善調査委員会にこれを報告するものとする。

### 試験問題実地研究の日程

(昭和49. 5. 11)

- |                          |            |
|--------------------------|------------|
| 1. 地区世話大学の依頼             | 6月10日      |
| 2. 地区試験実施委員の委嘱の時期        | 6月30日      |
| 3. 「実地研究趣意書」原稿締切         | 6月20日      |
| 4. 同 上 印刷完了              | 7月10日      |
| 5. 地区試験実施委員長会議第1回開催      | 7月中旬       |
| 6. 教育委員会・高校に受験者募集依頼の時期   | 7月末日以降     |
| 7. 試験問題・マークシートの原稿作成送達の時期 | 8月31日      |
| 8. 受験者募集の時期              | 9月20日まで    |
| 9. 受験申込書を地区試験実施委員会に提出の期限 | 9月20日      |
| 10. 受験申込書を国大協に送付する期限     | 9月25日      |
| 11. 受験者に受験票送付の時期         | 11月上旬      |
| 12. 試験場決定の期限             | 9月末日まで     |
| 13. 採点基準(科目別委作成)送達の時期    | 11月10日     |
| 14. 受験者の手引・試験実施解説書作成の時期  | 9月末日       |
| 15. 同 上 印刷完了の時期          | 10月末日      |
| 16. 試験問題・マークシートの印刷完了の時期  | 10月末日      |
| 17. 試験問題・マークシートの分封送達期限   | 11月15日     |
| 18. 試験監督者委嘱の時期           | 11月中旬まで    |
| 19. 試験期日                 | 11月23日・24日 |
| 20. 解答マークシートの返送時期        | 11月25日(発送) |
| 21. 解答のコンピューター処理の期限      | 12月20日     |
| 22. 報告書作成期限              | 12月末日      |

昭和 年 月 日

殿

国立大学協会  
入試改善調査委員会  
委員長 岡本道雄

### 国立大学共通第一次試験の实地研究についてのお願い

国立大学協会入試改善調査委員会では予めから大学入試改善の一環として国立大学共通第一次試験に関する調査研究を行っていますが、これを実際に行うとすれば30万人をくだらない受験者が予想され、その実施方法等については何分にも慎重かつ十分な研究調査の結果を俟たなければなりません。そのため、本年度は全国七地区において实地研究を計画しております。

つきましては別紙趣意書をご高覧の上これの実施に対して格段のご協力を得たくお願いいたします。

# 国立大学共通第一次試験の試験問題実地研究 に関する趣意書

国立大学協会  
入試改善調査委員会

## I 趣 旨

大学入試制度の根本的な改革は本質的には教育制度そのものの改革と相俟ってはじめて解決されるものでありましようが、教育制度や大学そのものの改革は一朝一夕にその成果を期待できるものではありません。一方入試の改善は今日現実の問題として社会からも強く要望されているところがあります。また最近、高等学校では自らの持つ教育の本旨を生かす目的で、そのカリキュラムに大幅な選択制を取入れておられますが大学入試が従来のままではせっかくの改善の趣旨も生かされないと考えます。

国立大学協会では昭和46年以来入試調査特別委員会を設け、かねてよりの懸案であった入試制度の問題点の検討を行ってきましたが、共通第一次試験を行うことが多少とも高校教育の正常化、受験生に対する客観的判定、出題の適正化および一発勝負の防止などに役立つであろうという期待を持つに至りました。

これに基づき昭和48年に入試改善調査委員会を発足させ、技術的問題を含め具体的な調査研究を行っています。

共通第一次試験は受験生の高校における学習の達成度を評価することを主眼とする基礎的な学力試験とし、この他に各大学で行うそれぞれの大学・学部・学科等への適性をみる第二次試験と組合せられる性質のものであります。共通第一次試験においては毎年国立大学が衆知を集めて出題できるため、従来ややもすると指摘されることのあった受験生を苦しめるだけの「無理な問題」がなくなることを期待され、従ってより適正な問題が作成できるものと思われまます。

また受験生の立場からしますと従来のような一発勝負ではなく共通第一次試験による基礎的な学力試験と各大学独自に行われる選抜との二本建てになり、従来よりもより明確に大学における自己の教育適性が評価されることとなると考えられます。

しかし、全国の国立大学を受験する者の総数は30万人をくだらないと考えられますので共通第一

次試験の業務を行うためには必然的にコンピューターを導入しなければなりません。このためにも実施に当っては試験問題作成はもちろん、実施業務等についても周到な準備と慎重な検討が必要です。そのために本年度下記の要項によって約3,500人を対象に試験を試行し共通第一次試験実施の可能性について更に研究と検討を重ねていきたいと考えておりますので是非ご協力を得たくお願いいたします。

## II 実施要項

国立大学共通第一次試験の実地研究のための試験は全国七地区において共通の問題を用いて一斉に行います。この試験は北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、広島大学および九州大学が世話大学となって行います。一つの地区について高等学校三年に在学する高校生約500名を対象として実施する計画です。

受験申込：高等学校を通じて各地区試験実施委員会（世話大学内）宛に9月20日までに申込んで下さい。

試験期日：昭和49年11月23日（土）（9.00～16.50）、11月24日（日）（9.00～13.15）2日間

受験票および受験案内等は昭和49年11月上旬までに直接受験者に送付します。

出題：5教科12科目

解答：5教科7科目（文科・理科共通）

国語：現代国語・古典乙I

社会：倫理・社会  
政治・経済  
日本史  
世界史B  
地理B  
} 試験場で2科目選択

数学：数学I

理科：物理B  
化学B  
生物  
地学  
} 試験場で2科目選択

外国語・英語B

なお、各科目とも出題の範囲は高校三年の10月末の段階を考慮いたしますが、高校によって進度

のちがいがあり得ますので、履修範囲内で解答されて結構です。

全科目ともコンピューターによって採点等の処理を行うため答案用紙はマークシートを使用いたします。その方法等の詳細に関しては第1日目の試験開始前に時間をとって説明いたします。



# 申込票

※受付番号

カタカナ 漢字	姓名 (姓と名の間は1字分あけて下さい)	生年月日 昭和	性別	受験外国語
		年 月 日	男 1 女 2	英 ①

郵便番号

--	--	--	--	--	--

現住所 (上段にはカタカナで区市郡以降郵便が配達されるのに必要な事項を正確に記入し、  
なお下段には漢字で都道府県以降を記入して下さい。)

カタカナ	
漢字	

現住所のつづき

カタカナ	
漢字	

※高校コード	※志望大学コード	
	I	II

都道府県 立 高等学校

志望	I	
大学名	II	

## 記入上の注意

1. 太線内はすべて記入すること。
2. 濁点は1字分とること。
3. 現住所のカタカナを記入する場合には、区市郡、町村、区町名等の間は1字分あけること。  
なお裏面記入例を参照。
4. 性別は該当する数字に○をつける。

高校整理番号

# 記入例

姓 名 (姓と名の間は1字分あけて下さい)										生 年 月 日		性 別		受 験 外 国 語				
カ タ カナ	ナ	カ	ム	ラ	タ	ロ	ウ											
	3	1	0	8	0	8				男	女	英	◎					
漢 字	中 村 太 郎																	

郵便番号		
1	8	0

現住所 (上段にはカタカナで区市郡以降郵便が配達されるのに必要な事項を正確に記入し、) なお下段には漢字で都道府県以降を記入して下さい。																																
カ タ カナ	ム	サ	シ	ノ	シ	キ	チ	ン	ヨ	ウ	シ	ミ	ナ	ミ	チ	ヨ	ウ	3	-	3	-	1	4	サ	ク	ラ	タ	ン	チ	A	-	6
	漢 字	東京都武蔵野市吉祥寺南町3-3-14 さくら団地 A-6																														

現住所のつづき																																				
カ タ カナ	ヤ	マ	カ	ワ	ハ	ナ	コ	サ	マ	カ	タ																									
	漢 字	山 川 花 子 様 方																																		

東京	道 府 県	私 立	○	○	○	○	高 等 学 校
----	-------------	-----	---	---	---	---	---------

# 受験票

受験番号

--	--

様

試験場	
出身高校	

## 注意事項

1. 当日はこの受験票を必ず持参すること。
2. 当日はHB鉛筆と消しゴムを持参すること。

郵便往復はがき

□□□□ - □□

七二二一  
東京都文京区本郷  
国立大学協会  
入試改善調査委員会  
行

感想記入欄 (適当に書き込んで下さい)

□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□

お 願 い

日前に大学入学試験をひかえ、元氣でご勉強のことでしょう。

さて、去る11月23・24両日はいろいろと予定のある中より時間をさいて国立大学協会の「試験問題実地研究」にご参加いただき有難うございました。皆様のご協力によってこの試験も無事おわり、目下集計中です。

つきましては、このたびの試験を受けた後の感想をこのはがきに記入して折返しご返送下さるようお願いします。受験前の多忙の折お手数をかけますが、今後の参考資料といたしますので重ねてご協力をお願いします。

終りに各位のご健康をお祈りいたします。

国立大学協会

入試改善調査委員会

※アンケート記入例

該当の欄に○印を入れて下さい。

(例)

項目	問題の難易
科目	難 易
国語	○

なお、Iの解答欄のうち\*印を付した図と表に関する事項については図または表の番号を2つまで記入して下さい。

I 各科目について

科目	問題の難易		問題の文解		問題の長さ		図の		表の		解答時間	
	難	易	難	易	長	短	難	易	難	易	長	短
国語												
倫・社												
政・経												
日本史												
世界史												
地理												
数学												
物理												
化学												
生物												
地学												
英語												

II マークシート形式の解答について

形	式	記入法として	記入時間	記入欄				
良	悪	不安	難	易	短	長	見易い	見難い

III 英語の聴

解答テスト について	聞き取り		試験時間		とまどう		不なれ	
	難	易	長	短	難	易	難	易

IV 試験場について

静かさ	明るさ	寒風			
良	悪	良	悪	寒	風

受験者へのアンケート調査票

## 受 験 者 の 心 得

### 1. 期日・教科

11月23日（土曜日）、11月24日（日曜日）

国語・社会・数学・理科・外国語の5教科について解答してください。

2. 試験場………試験場の詳細・交通などについては、同封別紙「試験場案内図」を参照してください。

地 区	試 験 場	所 在 地
北海道地区	北海道大学	〒060 札幌市北区北8条西5丁目
東北地区	県立仙台第二高等学校	〒980 仙台市川内澁橋通1
関東・甲信越地区	東京大学	〒113 東京都文京区本郷7丁目3番1号
中部地区	名古屋大学	〒464 名古屋市千種区不老町
近畿地区	京都大学	〒606 京都市左京区北白川追分町
中国・四国地区	広島大学	〒730 広島市東千田町1丁目1番89号
九州地区	九州大学	〒812 福岡市東区箱崎

### 3. 試験時間割

11月23日(土)	9:00 }	9:15 }	9:30 }	11:30 }	12:30 }	14:30 }	15:00 }
	9:15	9:30	11:30	12:30	14:30	15:00	17:00
	試験室 入室	受験の 説明	国 語 (120分)	(昼食)	数 学 (120分)	(休憩)	社 会 (120分)
11月24日(日)	9:00 }	9:15 }	11:15 }	11:45 }			
	9:15	11:15	11:45	13:25			
	試験室 入室	理 科 (120分)	(休憩)	英 語 (100分)			

4. 受験者は9時までに試験場に到着して、監督者の指示を受けるようにしてください。試験開始後30分までは、入室を認めます。
5. 受験票は試験当日必ず携帯してください。万一受験票を携帯しない場合は、監督者に申し出てその指示をうけてください。また受験に必要なもの以外は持参してはいけません。
6. 試験室においては、必ず自分の受験番号の席についてください。
7. 試験室にはいつてからは、試験の開始前にも、参考書類を見てはいけません。
8. 受験中は受験票を常に机の上に置いてください。
9. HBの黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）・消しゴムおよび鉛筆削り用具を持参すること。下敷、筆箱などは机の上に置いてはいけません。
10. 解答には必ずHBの黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用してください。色鉛筆・ペン・ボールペンなどは使用できません。
11. 時間中の退室は、監督者の指示をうけてください。
12. 問題冊子は、監督者から試験開始の指示があるまで、絶対に開いてはいけません。
13. 社会・理科はいずれも2科目を試験室において選択し解答してください。
14. 問題冊子の注意事項をよく読むこと。監督者の「やめ」の合図と同時に鉛筆をおき監督者の指示にしたがってください。また監督者の指示があるまで、絶対に退室してはいけません。
15. 配布された解答用紙は絶対に室外に持ち出してはいけません。ただし配布した問題冊子は持ちかえってよい。
16. 試験室においては、すべて監督者の指示にしたがってください。

- 注意
1. 問合せは高等学校を通じ各地区の試験実施委員会に申し出てください。
  2. 昼食は各自で用意してください。

## 地区実施委員会への連絡

### 1. 地区実施委員会へ送付する配付物

(i) 地区別試験室割当表（約15部）

各地区について試験室の一連番号，そこに割当てられた受験生の数，先頭の受験番号，末尾の受験番号を列挙した表。

(ii) 地区別受験者名簿（1部）

各試験室についての受験番号，氏名，高校名，地区番号を列挙した表。

(iii) 解答用紙記入上の注意

(iv) 問題冊子

(v) 解答用紙

(vi) 予備解答用紙

(vii) 欠席調査表，予備解答用紙調査表

(viii) 監督者の心得

(ix) 受験者の心得

(x) 受験票の予備

ただし送付の時期は必ずしも一致いたしません。

### 2. 試験室の座席票について

試験室割当表〔1(i)〕にしたがって適宜に座席票を作成し，試験室の机に貼って下さい。

### 3. 送付した印刷物などについての説明

(1) 「解答用紙記入上の注意」について

(i) 「解答用紙記入上の注意」は1枚に印刷されています。（各問題冊子の表紙裏に印刷されているものと同一です。）

(ii) 試験室別に分封したものを送ります。

部数には余裕をもたせてあります。

- (iii) 地区実施委員会用の分は別封で送ります。
- (iv) 第1日の第1時限の監督者に渡して下さい。

(2) 問題冊子について

- (i) 問題は各教科ごとに分冊されています。
- (ii) 教科別・試験室別に分封したものを送ります。  
部数には余裕をもたせてあります。
- (iii) 地区実施委員会用の分は別封で送ります。
- (iv) 使用した問題冊子は受験者がもちかえっても差支えありません。  
(同様のことは「受験者の心得」にも明示してあります。)

(3) 解答用紙について

- (i) 解答用紙は各科目につき1枚ずつのマークシートです。(科目毎に印刷の色を変えています。)
- (ii) 解答用紙には受験番号の誤記を予防するため、あらかじめ受験番号と氏名を印刷してあります。これを科目別・試験室別に分封したものを送ります。
- (iii) 受験番号と氏名を印刷していないものが予備解答用紙です。適当部数を同様に分封したものを送ります。
- (iv) 地区実施委員会用に予備の解答用紙を別封で送ります。
- (v) 社会は倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理の5科目あり、理科は物理、化学、生物、地学の4科目あります。

(4) 欠席調査表・予備解答用紙使用調査表について

- (i) 欠席調査表と予備解答用紙使用調査表は合わせて1枚に印刷されています。
- (ii) 全教科・全試験室分を一括して送ります。  
部数には余裕をもたせてあります。
- (iii) 各教科・各試験室について監督者に渡して下さい。

(5) 解答用紙等の試験終了後の始末について

- (i) 欠席調査表・予備解答用紙使用調査表、答案、使用しなかった解答用紙(欠席者の分を含む)(2頁3(3)(iv)の地区実施委員会用の分をのぞく)の3つを回収し返送して下さい。
- (ii) 欠席調査表・予備解答用紙使用調査表は各教科ごとに全試験室分を綴じて下さい。
- (iii) 答案の枚数を調べ、袋の表面に監督者が記入したものを確認して下さい。



- (iv) 返送中に答案が折りまげられたりしないよう特に配慮して下さい。
- (v) 使用しなかった解答用紙はまとめて袋に入れ、袋の表面にそのむね記入して下さい。

## 監督者要領

昭和49年11月23, 24日

### 監督者へのお願い

1. 各時間とも所定の時刻に、所定の場所で問題冊子の入った封筒、解答用紙の入った封筒および欠席調査表・予備解答用紙使用調査表（合わせて1枚に印刷されています）を受け取って試験室へ向いて下さい。
2. 試験実施にあたっては次に示す実施細目にしたがって進行させて下さい。
3. 試験終了後は答案を後に示すように取りまとめ袋に入れて、また使用しなかった問題冊子、解答用紙は夫々取りまとめ欠席調査表・予備解答用紙使用調査表と共に地区実施本部におとどけ下さい。
4. 臨時の事項については、直ちに地区実施本部に連絡して下さい。
5. 配付物などについての説明とそれらについての処置。

#### (1) 問題冊子

- (i) 問題は各教科ごとに分冊されています。
- (ii) 各問題冊子の表紙には夫々の教科につき注意事項が印刷されています。試験場で各教科の試験開始前にこれを読み上げて下さい。
- (iii) 各問題冊子の表紙裏に「解答用紙記入上の注意」が印刷されていますので、解答はこれにしたがって行うよう各時間ごとに注意して下さい。数学については更に追加の注意がありますので特に注意するようつけて下さい。

ただし第1日目の国語の試験開始前には第1回目であるので別に用意した「解答用紙記入上の注意」を配布して、これによって説明して下さい。

- (iv) 使用した問題冊子は受験者がもちかえっても差支えありません。

（同様のことは「受験者の心得」にも明示してあります。）

#### (2) 解答用紙

- (i) 解答用紙は各科目につき1枚ずつのマークシートです。

（科目別に印刷の色を変えてあります。）

(ii) 解答用紙にはあらかじめ受験番号と氏名を印刷してあります。これを受験番号に合わせて配布して下さい。

(iii) 解答は問題冊子の表紙裏にある「解答用紙記入上の注意」によって解答させて下さい。

(iv) 解答用紙に不都合があった場合には、受験番号と氏名を印刷していない予備解答用紙と交換し、受験生に受験番号と氏名（カタカナ）のみを記入させて下さい。なお監督者は予備解答用紙使用調査表にこれを記入して下さい。

(v) 各教科の試験終了後、答案と使用しなかった解答用紙の2つに整理し、答案の袋の表面に枚数を記入して下さい。

〔以下は社会と理科の場合だけ〕

(vi) 社会は倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理の5科目あり、理科は物理、化学、生物、地学の4科目あります。このうちからそれぞれ2科目を試験室で選択させることになっていますので、全科目の解答用紙を配布して下さい。

(vii) 試験開始から60分後に選択しない科目の解答用紙を回収して下さい。

(viii) 答案は科目別に整理し、袋の表面に枚数をそれぞれ記入して下さい。

### (3) 欠席調査表

試験開始から30分後に、欠席者の解答用紙を回収し、欠席調査表に記入して下さい。

なお欠席調査表は予備解答用紙使用調査表と合わせて1枚に印刷されています。

## 6. 遅刻と時間内退出

遅刻者の入室は試験開始後30分まで認めることとします。また試験終了前の退室は試験開始後60分以後を認めることとします。

ただし社会、理科では選択しない科目の解答用紙回収後〔5.(2)(vii)参照〕とします。なお試験時間内の退出の場合は退出者の答案は自分の席に裏かえしにして置くよう指示して下さい。監督者は退出後直ちにこれを集めて下さい。

## 7. 英語の聴解力テストについて

2日目の英語の時間は、13時より聴解力テストを行いますので別紙を参照して行って下さい。なおこの試験では特別の場合をのぞきくりかえしての放送はしないこととしています。

## 試験の実施

### 1. 試験日時・試験教科

11月23日(土)	9:00 }	9:15 }	9:30 }	11:30 }	12:30 }	14:30 }	15:00 }
	9:15	9:30	11:30	12:30	14:30	15:00	17:00
	試験室 入室	受験の 説明	国語 (120分)	(昼食)	数学 (120分)	(休憩)	社会 (120分)
11月24日(日)	9:00 }	9:15 }	11:15 }	11:45 }			
	9:15	11:15	11:45	13:25			
	試験室 入室	理科 (120分)	(休憩)	英語 (100分)			

2. 実施細目

事 項	日 時 ・ 時 刻				
	11 月 23 日			11 月 24 日	
	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
監督者集合と問題冊子、解答用紙などの受領  注意：「国語」 「英語」  試験室入室					
問題冊子、解答用紙の配付 注意：「国語」 「社会」 「理科」 「英語」	9 : 15	12 : 25	14 : 50	9 : 05	11 : 40

細

目

1. 地区実施本部の所定の場所に集合して下さい。
2. 問題冊子の入った封筒，解答用紙の入った封筒および欠席調査表，予備解答用紙調査表を受領して下さい。  
 注意：国語の時間—これらの他に「解答用紙記入上の注意」の入った封筒を受け取って下さい。  
 英語の時間—これらの他に聴解力テスト用のカセット（および使用機械など）を受け取って下さい。
3. 監督者は分担する試験室に入室し，直ちに受験票を確めて受験者に入室させて下さい。監督責任者はその際〔受験票に示してある番号の席につきなさい〕と注意して下さい。  
 注意：受験票を持たない受験者が申し出た場合は地区実施本部へ行かせるよう処置して下さい。
4. 受験者が着席したとき，〔コートは着たままでよろしい〕また参考書などを見ている者があった場合は，〔すぐしまいなさい〕とつけて下さい。さらに〔机上に受験票を置きなさい〕〔解答には必ずHBの黒色鉛筆または黒色シャープペンシルを使用すること。色鉛筆，ペン，ボールペンなどは使用しないこと〕と注意して下さい。
5. 問題冊子を配付後表紙の注意事項を読み上げて下さい。ついで，解答用紙を，あらかじめ印刷してある受験番号と氏名に合せて受験者に配付して下さい。その後，試験開始と同時に表紙裏に印刷されている「解答用紙記入上の注意」を読んで解答するよう注意して下さい。なおその場合にこの注意は教科により相違のあることも注意して下さい。  
 注意：解答用紙に不都合があった場合は前述の5(2)㉒に従って処置して下さい。  
 国語の時間—解答用紙の配付と共に別封の「解答用紙記入上の注意」の印刷を配付して読み上げて下さい。  
 社会の時間—社会は倫理・社会，政治・経済，日本史，世界史，地理の5科目につき出題されていますので解答用紙は各人に5枚あて配付して下さい。  
 その場合，受験者には〔社会は5科目出題されているが，その中より任意に2科目を選び解答すること。  
 選択しない3科目の解答用紙は試験開始1時間後（16時）に回収します〕と注意して下さい。

事 項	日 時 ・ 時 刻				
	11 月 23 日			11 月 24 日	
	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
試 験 開 始	9 : 30	12 : 30	15 : 00	9 : 15	11 : 45
遅刻限度・欠席調査	10 : 00	13 : 00	15 : 30	9 : 45	12 : 15
(社会, 理科の選択し ない科目の解答用紙) の回収			(16 : 00)	(10 : 15)	
時間内退出の許可	10 : 30	13 : 30	16 : 00	10 : 15	12 : 45
英語の聴解力テスト					13 : 00
残り時間の通告	11 : 20	14 : 20	16 : 50	11 : 05	13 : 15
試 験 終 了	11 : 30	14 : 30	17 : 00	11 : 15	13 : 25
答案, 未使用解答用紙, 未使用問題冊子, 欠席調 査表, 予備解答用紙使用 調査表などの返還					

理科の時間—理科は物理、化学、生物、地学の4科目につき出題されていますので  
 解答用紙は各人に4枚あて配付して下さい。その場合には受験者には  
 [理科は4科目出題されているが、その中より任意に2科目を選び解  
 答すること。選択しない2科目の解答用紙は試験開始1時間後(10時  
 15分)に回収します]と注意して下さい。

英語の時間—[英語は13時より15分間聴解力テストを行うのであらかじめ予定をし  
 て下さい]と注意して下さい。

6. 試験開始の時刻に[はじめ]と告げて下さい。地区実施本部よりの指示がない限り、問題については、受験者にはいっさい説明しないで下さい。
7. 試験開始後30分のこの時刻を過ぎた場合は原則として受験者の入室を許しませんが、その場合は地区実施本部へ連絡をとって下さい。  
 欠席を調査して欠席調査表に所定の事項を記入して下さい。  
 これはこの試験終了後に地区実施本部におとどけ下さい。
8. 社会と理科の時間では、この時刻に選択しない科目の解答用紙を回収します。[これより選択しない科目の解答用紙を回収します。各自3枚(社会の時間)2枚(理科の時間)の選択しない科目の解答用紙を重ねて提出して下さい。集めてまわります。]とついで静かに集め枚数を確かめて所定の袋に入れ地区実施本部にかえして下さい。  
 この時刻以後は試験時間内の退出を認めます。ただしその受験者の答案は裏がえしにして重ね机の上に置き静かに退席するよう指示して下さい。答案は監督者が集めて下さい。
9. 英語の時間のみ:[これより聴解力テストをします]とついで前述7と別紙(聴解力に関する問題)に従ってテストを行って下さい。
10. この時刻に残りの時間はあと約10分であることを知らせて下さい。
11. 試験終了の時刻になったら[やめ]と告げ、[許可のあるまで席をはなれないように]と注意をし、答案を集めて下さい。  
 全答案回収の後に退場させて下さい。なおその時に[使用した問題冊子は持ちかえってよろしい。]とついで下さい。
12. 試験終了後、答案、未使用解答用紙、未使用問題冊子、欠席調査表、予備解答用紙使用調査表を所定の形式に取りまとめ整理の上地区実施本部に引き渡して下さい。



### 監督者要領の補足

- (1) 各教科の問題冊子に印刷されている「解答用紙記入上の注意」は問題冊子の表紙裏に印刷されているよう示してありますが、教科によっては表紙裏すなわち2頁より次の3頁にわたる場合、また3頁のみに印刷されている場合もありますのでお含みおき下さい。
- (2) 解答用紙の右上の欄についてはあらかじめ印刷したマークが入っていますが、これについては質問等があつても心配いらない旨お答えいただき、一切手を加えないで下さい。

## 解答用紙（予備）使用調査表

教　　科	
使用枚数	

地　　　　区	
試　　験　　室	
番から 番まで	
責　任　者　氏　名	

受　　験　　番　　号	氏　　　　名	事　　由	科　目 (社会理科の場合)

## 欠 席 調 査 表

教 科	
出 席 者 数	
欠 席 者 数	
合 計	

地 区	
試 験 室	
番から                      番まで	
責 任 者 氏 名	

欠 席 者 受 験 番 号	欠 席 者 受 験 番 号	欠 席 者 受 験 番 号

注 万一書き切れない場合は適当に貼り足して下さい

## Ⅳ 各科目別研究専門委員会における調査研究の概要

本年度、科目別研究専門委員会は、昨年度に研究を行った国立大学共通第一次試験の出題および採点法を基本として、昭和49年11月23、24日両日に行われた実地研究に使用された問題の作成を行った。委員会は前年度と同じく一科目あたり一委員会を組織して作業を進めたが、そのために12の委員会がそれぞれの活動を行った。個々の委員会は委員会を置く大学の専門教官が委員長となり、委員会ごとに委員長を含み約10名の委員をその大学の所在する地区の大学より、また一部では他地区の大学より選んで組織した。なお各委員会の事務は昨年度と同じく委員長の所属する大学の事務官により担当された。それぞれの委員会がどの大学に設置されたかはⅡ、6)共通第一次試験の出題および採点その他についての項に示されている通りであるが、昨年度に比べ社会の政治・経済のみは横浜国立大学より東京大学に変更となった。

各委員会の組織の点については、昨年度も二・三の意見が述べられ例えば国語、地学においては前者は現代国語と古典の二部門別々の出題となること、後者は科目中に多くの部門が含まれることなどにより委員数の増加の希望などがあったが、一応本年はほぼ前年度と同じ委員数が保たれた。また委員の人選に関しても、この共通第一次試験が実施される時点においてはその半数交代制なども考えられているが、今回は多くの委員が前年度に引き続き留任されその交代は一部に限られる結果となった。このことは今回の出題形式がコンピューター処理採点法に合わせるための新形式であって昨年度の研究結果を踏襲する必要性が高い点よりみて好都合の結果を与えるものである。

本年度の各委員会の発足は昨年度に比して早期であって、多くの委員会は4月中には委員の人選が行われたがその中には昨年度と同じく各委員会1名宛コンピューター担当の委員が選出され、この委員はまたコンピューター専門委員会委員も兼ねることとして委員会が構成された。ついで実施方法等調査専門委員会、コンピューター専門委員会、科目別研究専門委員会の合同会議を昭和49年5月1日に、更に科目別研究専門委員会事務打合せ会を同5月16日に開催してその組織を決め且つ本年度の実行計画を定めた。その後各委員会は本年度の実地試験に使用する問題の作成へ取りかかった。その進行の途中において7月24日には科目別研究専門委員会委員長連絡会議を行い、本年秋に行う実地研究の内容などを説明し、これに対する協議を行った。この機会に一部の教科においては併列する科目間において連絡会議を行う計画を立て適当に各科目間での内容の重複、難易度の検討などをはかる事が

試みられた。このようにして進行した本年度の作成問題は更にそれぞれの正解と採点規準と共に各委員会に所属するコンピューター委員により8月31日開催のコンピューター専門委員会の席上持ち寄られた。この持ち寄られた問題と解答によってまず解答用紙にあたるマークシートの形式の決定と印刷、次いで問題の印刷の手順が定められた。その結果解答用紙と、問題冊子の印刷はすべてコンピューター専門委員会の下で行われる運びとなった。両者の校正に関しても同じくコンピューター専門委員会の手で行われた。更に印刷終了後の問題冊子及びマークシートも同じくコンピューター専門委員会において各地区の地区試験実施委員会に対し、各試験場毎に分封して発送を行った。なおこの分封に当ってはそれぞれのマークシートに各受験者の科目、受験場所、受験番号、氏名がプレプリントされているため特に受験番号のチェックを行ってこれを完了した。

次いで本年度の出題範囲につき配慮した点を述べると、その試験が11月末に行われることが決定され且つ受験生が本年の高校3年の在學生であることも決定されていたが、本年度の計画では国立大学共通第一次試験を行うに当ってこれをどのようにすればよいかの実地試験である意義において受験者の高校における11月末までの授業内容とは切り離して、高校3年終了時における内容にわたって出題を行うことと決定した。そのため受験生を募集するにあたり高校における授業の進行状況によっては解答不能の問題の出題され得ることも明示してこれを行った。

11月23、24日両日の試験終了後、得られた採点結果は翌昭和50年1月中旬にコンピューター専門委員会より科目別研究専門委員会に送付され出題採点についての検討資料とされた。また各科目別研究専門委員会は前年度と同じく本年行った出題に対する説明、本年度の研究内容、更にこの共通第一次試験の意義、利用及びこれと関連の下に行われる各大学独自の第二次試験の考え方などにつき報告を行った。その全文は別冊資料に示すところであるが、なおそれと共に各委員会において作成されたそれぞれの報告書の要約も提出された。これらは広く配布される本報告書に収録するところであるがその個々の内容は次に示す各科目別研究専門委員会報告要約の通りである。

## 国語研究専門委員会報告（要約）

### 1. 審議経過

- 6月29日（土） 第1回委員会
- 7月13日（土） 古文分科会（第1回）
- 7月15日（月） 漢文分科会（第1回）
- 7月25日（木） 現代国語分科会（第1回）
- 7月25日（木） 漢文分科会（第2回）
- 8月2日（金） 現代国語分科会（第2回）
- 8月3日（土） 漢文分科会（第3回）
- 8月9日（金） 第2回委員会
- 8月23日（金） 漢文分科会（第4回）
- 8月24日（土） 第3回委員会
- 9月4日（水） 第4回委員会

### 2. 意見

#### 1) マークシート形式の出題

##### (1) 所謂○×形式出題との比較

○×形式と本質的な相違はないと思うが、受験生としては、単純な○×形式の場合よりも、解答の誤記を防ぐために、よけいに神経を使うことになるであろう。それだけ受験生にとって負担が大きくなると思われる。

##### (2) 出題形式の限界

このような形式の問題は、所謂記述式の問題と組合わせて出題するとき、はじめてその長所が発揮されると考える。昨年の報告書で指摘された問題点をどのようにして克服するか今後の課題であろう。ことに解答が選択肢であるため漢字の書写・表現能力を試験することが困難である。

(3) マークする部分をもっと大きくするほうがよい。きわめて見づらい。また、スペースにもっと余裕がほしいところである。将来解答欄を収容しきれないために出題が制約されるというような事態が生じないだろうか。

## 2) 本年度の問題の内容

### (1) 各問題の出題意図

#### ○ 問題Ⅰ、Ⅱについて

現代国語の学習の目標の大きなものに評論文の理解があり、これはまたあらゆる学科の学習にも基礎的な能力として求められるものである。そこで代表的な評論文として、三木清と桑原武夫のものを問題文として選んだ。

設問の主眼は文章の構成を理解し、主要な論点は何であるかを読み取ることができるか、論理の展開を文脈に即して細部まで正しく把握することができるか等を見ることに置いた。

#### ○ 問題Ⅲについて

小説の文章を選んだのは、文学作品の読解も現代国語の重要な学習領域だからである。ここに構成された場面、人物の心情を表現に即してどれだけ正確に把握しうるかの能力を見ようとした。ごく普通の家庭生活に取材して会話の妙味を追求する庄野潤三の作品を選んだことは、受験生の感受性、想像力、言語表現への理解能力を試すのに好適と考えられたからである。

設問の主眼も上記の線に即して、所謂○×式の常套を大きく越えるべくくふうした。

#### ○ 問題Ⅳ、Ⅴについて

古文については、中古・中世によりそれぞれ一題ずつ、有名な古典作品でジャンルを異にするものから選んだ。中古は、和歌を含んだ物語という観点から伊勢物語、中世からは思想的内容を持った随筆、つまり徒然草を選んだ。

問題文は、高校の教科書に載っていないもので、難易度は受験生の学力の6・7割程度の出來を狙って選んだ。

設問は基本的な古語の意味の理解、文脈の中で正確に内容を把握しているか、文法の知識が解釈に生かされているか、文章全体を理解しているか等を見ることを主眼とした。

#### ○ 問題Ⅵ、Ⅶについて

散文形式のものと韻文（詩）形式のものを問題本文として選んだ。問題Ⅵの問題本文には、『孟子』の経文と、それに対する朱子の注の文章をあげ、注の説明を通して経文を理解させる

という形式を採用した。出題の主眼は文意の論理的な把握ができていのかどうかをみることにある。問題Ⅶは律詩を材料として、特にそこにうたわれている詩情の理解を確かめることに重点を置いて出題した。

## (2) 今回の試み

一般社会において漢字の書取能力についての要望が極めて高いことを考慮して、書取に換わるものとして漢字の組合せにより正しい熟語を完成する問題を採用した。選択肢中、正解の数を限定せずに答えさせ、まぐれ当りの可能性を除くように考慮した設問を置いた。

また、正答二つを選ばせ二つとも正答でなければ〇点とする「組合せ方式」を設問によって採用したのもまぐれ当りの可能性を除去するための試みである。

## (4) 出題にあたっての意図と解答結果との比較

受験者の成績について、当初正答率を6～7割と予測して出題したが、結果は200点満点で平均126.42点であり、全体としてはほぼ順当な結果が出たものといえる。もっとも、各問題について、その解答の結果を見ていくと、注意すべき点がなかったわけではない。

まず、現代国語（Ⅰ問、Ⅱ問、Ⅲ問）については、ほぼ予測通りの結果が得られ、問題文の難易度の配分も適正であったことが知られる。これに対して、古文（Ⅳ問、Ⅴ問）ではやや予測と異なる結果が出ている。すなわち、Ⅳ問は平安時代の和文のうち、読解上きわめて容易な文章を問題文に選んだが、結果は30点満点のうち平均12.01点であり、これは意外な結果であった。もっとも、これは、ある意味で高校における古典教育の歪みを反映していると思われるので、それを補正するためにも、今後も同様な傾向の問題を出すべきであると考えられる。なおⅤ問は、当初よりやや難問として出したもので、ほぼ予測どおりの結果となっている。

漢文（Ⅵ問、Ⅶ問）では、特にⅦ問に注意すべき結果が見られる。特に、Ⅶ問の設問(4)は、漢文の各設問中で、成績が極端に悪かったが、この程度のむずかしさの設問も、全体の2、3割ぐらひは含まれていてよかろうと思われる。また、Ⅶ問の設問(2)(3)は、漢文の中では最も低い平均点を示したが、これは設問自体がむずかしかったというのではなく、組合せ方式の出題法がまぐれ当りの正解を防ぐ上で役立ったことを示すものと思われる。また、Ⅶ問の設問(2)の成績がよくなかったのは、漢文に関する基礎的な知識が十分に身につけていない結果でもあらうと考えられる。Ⅶ問の設問(2)(3)のような方式の出題は、今後も必要であらう、高校における教育の面でも補強されることが望ましいと考えられる事項であるからである。

## (5) 今後の出題についての注意点



問題の量と解答に要する時間との均衡を考慮して、今回のテストでは、選択肢を原則として、1設問4個に止めたが、選択肢の数は5～6個にするほうがよいと思われる。まぐれ当たりを少なくし、成績の評価がいっそう正確になると思われるからである。

### 3) 本年度の問題に対する当面の反響意見

出題の意図がどこまで生かされているか、また設問がそれに見合ったものなのかどうかとの疑念が出されている。こうした意見に対して形式面で、あるいは技術的にどれだけ対応しうるものか、今後の課題であろう。1)の(2)参照。

### 4) 出題委員の構成

国語は現代国語と古典との二科目によって構成されているが、出題委員会は一つしか構成されなかった。これは現代国語と古典とにおいて密接な関連があるからであるが、出題委員の負担からして現代国語担当の委員10名、古典担当の委員10名程度により、それぞれ分科会を構成するのが妥当である。

### 6) 共通第一次試験についての意見

この試験の実施については概して肯定的な意見が多いが、ただし、それが真に有効かつ改善へ実をあげうるためには、大学側の自覚的な取り組みを必須とすると考える。この施行によって大学側も受験生側もより合理的な入試は期待しえても、知的もしくは労力的軽減は期待しないほうがよい。これだけで入試地獄が解消できるような幻想は持つべきではない。

なお、この試験において、高校における学習の達成度を見るのか、入学適性・資格を見るのか、その目標とするところによって大きな違いがあろう。前者とするならば試験内容は高校学習指導要領にもとづく高校の国語教育の実態により即すると同時に高校側を誘導する役割を果すことになろう。後者とするならば現段階においては、大学側にその準備があるか否か疑問とせざるをえない。単なる恣意的推断以上に高校教育の内容や水準について大学側として責任をもった提案ができるかどうか。この線を進めれば大学による高校教育のリードが実質的に実現されることになろうが、それははたして大学の責務なのか、どうか、越権といえるかもしれない。

## 7) その他

国語は一教科二科目で試験が実施されるべきである。

現代国語と古典は高等学校でも明確に別の科目として扱われ教育されているが、従来の入試改善調査委員会及び模擬テスト（実地研究）では実質としては一科目として扱われてきた。これは明らかに誤りであり今後は必ず是正されるべきである。

## 倫理・社会研究専門委員会報告（要約）

### I 審議経過

本委員会は、前年度にひきつづき、「倫理・社会」についての「標準問題の作成等に関する調査研究」を継続審議することとして、委員10名をもって、49年度の委員会を5月から発足した。前年度の委員のうち2名の交替があって、新委員2名を迎えた。

49年度の計画は、すでに本部において決定された11月下旬予定の全国的な統一試験の仮実施を目標として、8月末までにその試験問題を作成するという前提のもとに作業を開始した。

委員会の経過は次のごとくである。

第1回 5月27日 お茶の水女子大学文教育学部第2会議室において開き、以後第2回、6月7日（場所は同じ）第3回、6月24日、第4回、7月15日、第5回、7月22日、第6回、8月1日、第7回、8月16日、第8回、8月26日、第9回、9月30日、第10回、12月16日、という都合10回の委員会を重ねた。そのうち、1回より9回までは入試問題の作成のためであり、最終回は統一試験実施についての反省と将来計画の見通しについてであった。本委員会からは統一試験の試験場の一つである東大に3名の委員を試験監督のために参加させており、その実態についても観察にもとづく分析がなされたのである。

### II 審議内容

前年度における出題の経験とモニターによる検討批評にかんがみ、これからの問題作成についてわれわれが重点的に審議した事柄は、次の点についてである。

#### A 問題作成の課題

選択肢による客観テストの限界（記述式の不可能）はあるが、できるだけ次の点を具体化するための工夫を要する。

1. 論理的思考力、総合的判断力をみることのできる出題の考案
2. 立体的・構造的な設問の形式
3. 2分野以上にまたがる総合問題

4. 出題形式をいくつか組合せること
5. 従前の「学習指導要領」の内容を土台として、「改訂学習指導要領」の趣旨を生かすこと

(例 人間性の理解  
現代社会と人間関係) → 現代と人間

6. さまざまな角度からの組合せにより構成された問題
7. 内容面で徹底して考えさせる問題(資料中心の出題のごとき)
8. 「現代国語」の出題をも参考として目を通しておく
9. 論説(新聞・雑誌などの)を応用・変形したもの

以上の点を考慮して、問題作成に当るべきことを論議した。

B問題作成の内容と分担 } 略  
C採点基準の決定 }

### III まとめ—今後の課題

○ 今度の統一試験に積極的に参加した高校生たちは、積極的で自信ある連中が多いので、今回の問題は「やさしすぎて、おそらく得点の差が少なく、足切り試験としては落差が少ないのではないか」との批判も出していたが、その後のコンピューターの結果をみると、必ずしもそうでなく得点の分布はかなり開きがみられ、従ってもし全国の国立大学の受験希望者30万人に対してこの試験を行なう時は、得点の分布はさらに幅広く開いて、足切りの効果は充分あげられるであろうと思われる。

○ 問題はむしろこの第一次統一試験よりも、第二次試験にして各国立大学が個々に行うであろうところの試験のあり方にある。第二次試験がかえって一層むずかしくなり、ひねった出題となるのではないかと心配する向きもある。もしそうなら、たとえ統一試験をやっても結果は同じことではないかと言うのである。

また第二次試験の形式をどうするか、ある程度明らかにしておかなければ、第一次試験そのものも不安定である。たとえば第二次試験に「小論文」や「面接」を課するとすればそれらの客観性をどう保つか。もし主観的なものに陥るとすれば、第一次試験がせっかく客観性を求めながら、むしろその反動に陥りはしないか、とする心配もなされている。

第二次試験についてのあり方についても、国大協が併行してこれの検討にかかるのでなければ、第一次試験のみでは効果は薄いとみる向きもある。

要するに完璧な試験の形式は今のところありえない。けれども従来より少しでもベターな方法を発見し工夫してゆくという意味で今回の統一試験の試みはその端緒を開いたばかりと言うべきであろう

## 政治・経済研究専門委員会報告（要約）

### 1. 問題作成の方針

問題作成に当っては、つぎの諸点につき、格別の配慮を加えた。(1) 受験者の総合的学力のテスト  
高校における政治・経済の領域は、伝統的に「政治・憲法」、「経済」、「労働・福祉」および「国際  
関係」という四つの分野に分けられてきた。今回の問題作成に際しては、意図的に、これらのうち二  
つ以上にまたがる問題を加えた（第三問および第五問）。(2) 問題形式の多様化 マークシート方  
式においては、ややもすると出題の形式が単調となるため、本委員会においては、形式の面でも出題  
の多様化をはかり、グラフ、図表、世界地図などを用いた。(3) 基本的思考力のテスト 今回の出  
題全般にわたって、末梢的な事実の暗記よりは、むしろ、基礎的な思考力や与えられた資料から重要  
な情報を読み取る能力をテストすることに意を注いだ。

### 2. 問題作成の経験から

(1) マークシート形式の問題点 マークシート形式は、○×式よりはフレクンブルであるが、や  
はり、マニュアルな採点による方式に比べると形式上の限界がある。将来、プログラミングの多様  
化によって、一層高度の出題・採点の方法も可能となるであろう。

(2) この種のテキストにおける問題作成の困難について 「本番」においては数十万人が受験す  
るものと予想されるので、問題作成の困難は想像を絶するものがある。この点に関連し、委員の委  
嘱、委員会の構成は、よほど早い時期に行う必要がある。

(3) 社会五科目相互間の調整について 問題作成の全過程を通じて、それぞれの科目別研究専門  
委員会との連絡・調整をはかることが不可欠である。この点については、今後、委員会組織上お  
よび予算上の配慮が必要であろう。

(4) 機密保持について 「本番」においては、受験者数が極度に多く、問題作成およびテスト実  
施のための関連機関や関係者も多方面にわたるので、あらゆる面での機密の厳密な保持が重大な問  
題となるであろう。

(5) 高校での履修進度と出題との関係 同じ「社会」の科目の中でも、「政・経」は、歴史など

と異って、編年体的な叙述・教授になじまないものであるために、問題作成に当っては、一応、高校での履修が全部完了したものと前提せざるをえない。これは、テストの実施時期との関連で問題を生じうる点である。

### 3. この種の統一テストの意義について

過去2ケ年の経験にもとづいて今後も周到な計画のもとに実施されれば、この種の統一テストは、国立大学入試制度の改善のために大きな意義をもちうるものと思われる。しかし、マークシート方式の採用に伴う各種の制約に鑑み、各大学の第二次試験において、論文形式をふくめて、創造性、思考力などをテストすることがやはり必要であると考えられる。そのばあい、統一テストを「足切り」に用いるか、それともその結果と第二次試験の結果とをあわせて総合的に合否を決定するほうがよいか、という問題が残る。これは、各大学においてそれぞれの事情に応じてきめるべきことであるが、国大協が今回の経験にもとづいて一応のガイドラインを定めることも不可能ではないであろう。

### 4. 採点結果について

採点結果については、今のところ、ごく基本的なデータのみしか発表されていないので、詳細な分析は後日にゆずらなければならないが、最高点および平均点（それぞれ、100点満点中、89点および54.46点）は大体予想のとおりで妥当なところであろう。ただ、得点の分散度については、出題意図から言うならば、分散の程度が全体としては予想よりもやや低かった、と言うべきであろう。

## 日本史研究専門委員会報告（要約）

### 1. マークシート形式の出題について

マークシート形式によっても、従来〇×式の欠点とされてきた二者択一的な偶然性に左右されるような出題は、これを避けることが出来る。また、これまで比較的良好とされてきたものを、マークシートにのせることも可能である。しかし、思考力・判断力・総合力をみるのに適切な記述式をとることができず、マークシートのスペースによって出題形式、問題量が制約されるという難点がある。

### 2. 本年度の問題と解答結果について

共通第一次試験が、高校における学習の達成度を評価することを主眼とする基礎的な学力試験であることにかんがみ、高校における日本史の学習内容を逸脱しないことを基本とし、内容形式ともに偏ったものにならないよう配慮するとともに、平均点がおよそ70点前後になるように考えて出題した。しかしながら、解答結果はあまり芳しくなく、平均点は51.60点にとどまった。これは、近代史に関する問題の不出来によるもので、この部分を除けば平均点は62.07点となり、受験生の学力、ないし学習の到達度を考えれば、まずまずの成績だったといえる。近代史関係の不成績は、問題の難しさによるものではなく、学習の進捗を考慮して出題範囲を明治時代に限ったが、受験生がまだ十分学習していない範囲からの出題だったためと考えられる。問われている事柄の多くが、中学校でも学習しているはずの内容であることを考えれば、歴史学習のあり方にも問題があるのではないかと思われる。一般に機械的な暗記学習にとどまり、歴史的な関連や歴史の発展についての理解が不足している傾向がみられる。正誤の判断や総合的な理解を求めるⅠのような種類の問題は、受験生の苦手とするところのようである。完成法の問題を否定するものではないが、Ⅱの前半、とりわけ(1)・(3)・(4)が好成績すぎたことにかんがみ、ごく基本的な事項を問う場合には、出題形式にいちだんの工夫を加える必要があると思われる。

### 3. 共通第一次試験の実施時期と出題範囲について

高校3年次の学習の進捗と実施時期の関係から、学習内容の一部、たとえば現代史の部分を除いて出題されるようなことは好ましくない。学習内容の全般にわたって出題できるよう、なるべく遅い時期に実施することが望ましい。このため第二次試験の時期が多少遅れてもやむを得まい。

なお、近現代史の学習は、義務教育段階でも行われているはずであるから、実施時期の如何にかかわらず、近現代史からの出題を排除するようなことがあってはならない。

### 4. 共通第一次試験の意義について

共通第一次試験は、出題の適正化をはかり、出題傾向の偏りや固定化を避けることができるし、第二次試験と合せて総合的に判定するのであれば、「一発勝負」を防ぎ受験生の能力・適性をより客観的に判定できる等、いくつかの利点をもってはいるが、果してこれが入試制度の改善にどれほどの積極的意義をもち得るか疑問をさしはさまざるを得ないし、受験生にとって二重の負担になるのではないかという危惧も残る。各国立大学および高校側の意見を広く聴取して慎重な検討を望みたい。

### 5. 第二次試験との関連について

共通第一次試験を実施するとすれば、各大学で行なわれる第二次試験との関連を明確にし、第二次試験は必ずこれを実施して、第一次の結果と総合判定する方途を確立すべきである。(共通第一次試験では、思考力・判断力・総合力をみるのに適切な記述式をとり得ないので、これを補う意味からも、第二次試験を廃すべきではない)。共通第一次試験の結果を、たんにいわゆる「足切り」に利用することは好ましくない。

共通第一次試験が、受験に重点をおいた高校教育の是正にいくらかでも役立ち得るかどうかは、第二次試験のあり方や出題の内容と深くかかわりあうことである。すでに高校生の一部では、共通第一次試験よりもむしろ第二次試験がどうなるかへの関心が高いと聞く。共通第一次試験との関連において第二次試験をどうするかについての検討を急ぐべきであり、共通第一次試験の実施にあたっては、第二次試験のあり方について、大まかなところ国大協においてある程度の合意に達しておく必要があるだろう。



## 6. その他

- (1) 問題・マークシートとも、身障者に対する配慮が必要と思われる。慎重な検討を望みたい。
- (2) 30万人のテストを処理するのに必要な組織・人員・時間・問題の保管・秘密の保持等について十全な保障がない限り、共通第一次試験の実施が技術的な面から不可能になるおそれがある。

## 世界史研究専門委員会報告（要約）

I 本専門委員会の構成）  
諸会議開催一覧）（省略）

II 諸会議議事概要——（省略）

III 本専門委員会の検討結果

（昭和50年1月付で製作した本委員会の「報告書—昭和49年度」ではⅢ、Ⅳとにわたり記述しましたが、本稿においては、まとめました。）

### (1) マークシート形式の出題

#### ① 「いわゆる〇×形式」出題との比較

「いわゆる〇×形式」というばあい、文字どおりの〇×形式と解すれば、マークシート形式は、より内容豊富な出題が可能と思う。しかし現在の実際の入試では、単純な〇×形式だけというのは、少なくとも国立大学ではもう行なわれていない。要するに空欄に語句を挿入させることが普通であり、その点、マークシート形式には限界がある。

#### ② 出題形式の限界

①と関連することだが、あくまでマークシート形式を用いる以上、予め挿入語句まで与えたとすれば、問題は単純化され、「考える力」を奪う結果になろう。

#### ③ マークシートのデザイン等についての意見

(イ) マークシート別に色分けされている、その色の問題。有利・不利はないか？

(ロ)  $\left[ \begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right]$ ,  $\left[ \begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right]$  など、とくに数字のとき、受験者の視力との関係は如何？

(ハ) 試験場の照明設備による条件差

### (2) 本年度の問題の内容

#### ① 各問題の出題意図

I 16～19世紀の近代について、ヨーロッパの国際関係を中心に問うた。問(ロ)は、マークシート形式の中で記述形式の代行を試みた。

II 7世紀という時点でのグローバルな地域的ひろがりや設問の中心にした。問(㉔)では、思考過程を複雑にして、まぐれ当りを避けようとした。

III 西洋古典古代の文化を中心に、社会・経済的な問題との関連の把握を問うた。採点方法でマークシート形式の利点を生かすことも試みた。

IV 選挙とか試験という現代的関心との関連で、歴史上の一制度「科擧」に関して、単に「制度」だけでない理解度を問うた。

② 出題形式についての今回の試み

上記①でふれたとおりだが、全体としては、コンピューターの利点を生かし、できるだけその限界に近づけることを試みた。

③ 出題についての昨年度と本年度との比較

上記①②で述べたとおり、昨年度よりはマークシート形式を積極的に生かそうという試みが、本年度はある程度達成できた。

(3) 本年度の問題に対する当面の反響意見

風聞するところ、とくに否定的な反響はないと思う。

(4) 出題にあたっての意図と解答結果との比較検討

(イ) 当初、平均点60点台を目標にしたが、結果は56.54でやや低いけれど、今回の受験生の11月学習段階を考えれば妥当だと思う。

(ロ) 大問I、II、III、IVの得点を比べると、54.3~58.2の間にあり、各問題のレベルに大差がなかったことも意図どおりだった。

(ハ) Iの(㉔)は概して得点が低かったことは予想どおり、Iの(9)の得点平均は予想をはるかに下まわった。

(ニ) 問題紙9.5ページ、解答箇所40、は2科目2時間内の出題としてほぼ妥当だったと思う。本委員会としては、解答箇所をこれ以上増すより、読ませる問題がもっと長文化しても良いと判断した。

(ホ) 社会科2科目平均点114.30は妥当。偏差24.34はもう少し高くなった方がよくはないか。

(5) 今後の出題についての注意点

(イ) 社会科5科目のうち、平均点で地理71.32、ついで倫・社63.75が、他の3科目より高い。いま

少し5科目間の調整が望ましいのではないか。

- (ロ) 各問ごとの選択肢(語・文)を最低4は妥当だった。無意味なもので数をふやす必要はない。
- (ハ) 偏差値、平均点ともに大差のない問題を4題そろえて出題することが良いか、大問ごとにばらつきが見られるように出題すべきかは、入学試験というものの現実面からいっても、もう一度検討する必要がある。
- (ニ) 理想的には、平均点で一定以上の得点があり、偏差がかなり高くなるような出題の工夫が今後の課題だろう。

#### (6) 仮称「入試センター」における出題委員会構成に関する意見

- (イ) あくまで国立大学教官が担当すべしとするかどうか——大前提である。
- (ロ) 国立大学教官が担当するとあれば、センターは現行の共同利用研究所的な性格のものとし、参加者は、共同研究員として経済的補償、本務との調整が保証されねばならぬ。
- (ハ) とくに人文科学系教官にとっては、コンピューターシステムを理解することからはじめねばならぬから、1年ごとの交替は非現実的である。

#### (7) 共通第一次試験の意義についての意見

本委員会としては発足当時から関心を持っていた第二次試験との関係は、最後まで問題として残ったままで、各委員それぞれの見解があってまとまっていない。大学・学部それぞれの意図があまりにも多様であるからである。また共通第一次試験そのものについては、受験生の負担増という疑念もあり、この点では高校側の現実的な意見、受けとり方を確かめるべきと思われる。

#### (8) その他

本委員会で検討を進める中で、次のような意見が出た。

- (イ) 入学試験の主体をあくまで大学側に置くべきか。統一試験なら、一種の資格試験として高校側に置くことも考えられよう。
- (ロ) 予定された「入試センター」に高校側を代表する人を加える可能性は？
- (ハ) 30万を対象とする統一試験の実際の運営に対する準備はどの程度進んでいるのか？

## 地理科目別研究専門委員会報告（要約）

### (1) 共通第一次試験の出題形式について

文章によって解答を書かせる記述式の問題は、知識の正確さや論理的思考能力をみる上ですぐれているので、近年、大学入試の地理の問題においても、出題の頻度が高まってきている。ところが、共通第一次試験では、解答処理をコンピューターに依存するため、いわゆる「選択法」の出題形式をとらざるを得ない。

「選択法」の場合、解答に偶然性を避け得ず、選択肢が5個であれば、任意に選んでも20%の確率で正解が得られる。このような偶然的正答の率をなるべく小さくするため、今回の実地研究試験の地理の問題では、選択肢をできる限り多くするようにつとめ、第Ⅲ問や第Ⅵ問では8個あるいは9個の選択肢を設けた。また、第Ⅳ問では、5個の選択肢から2個を選ばせたわけであるが、2つとも正しい場合のみを正答とする採点形式をとったので、偶然正答率は10%となった。

また、単なる「選択法」にとどまるべきではなく、それと「完成法」「正誤法」「結合法」などと組み合わせることを工夫すべきである。今回の実地研究試験においても、ある程度それを試みた。

### (2) 本年度の実地研究試験とその結果について

マークシートに解答させる形式の問題においては、解答のしかたを単純化せねばならないので、問題としてやさしくなりすぎるおそれがある。それを防止するためには、例えばあまりポピュラーでない地名を答えさせたり、まぎらわしい選択肢を与えたりする方法があり得るが、いずれも望ましくはない。そこで、昨年度の報告書において「問題はやさしく、高校における基礎的な学習によって容易にとける問題とし、その代わり問題の量を多くする」ことを提案した。本年度は、この方針に添って、問題の量をかなり多くした。それは、果たして多すぎるか否かを実地に検討してみたいという意図もあったからである。ところが、実地研究試験終了後の受験生の感想文においても、問題の量が多すぎたという意見は皆無であり、また地理の最高得点は97点、平均得点は71.32点であったので、今回程度の出題量が決して多すぎはしないことが明らかにされたと考える。

なお、今回の実地研究試験は、平均7～8割とれる程度の難易度をめざして出題したので、その意

図にかなった解答結果が得られたことになる。

### (3) 新教科課程による出題範囲について

地理の場合、昭和48年度から「地理A」「地理B」の二つに分かれ、従って51年度入試からは、この両方に分けて出題せねばならない。その際の具体的な方法としては、地理Aと地理Bとで全く別個の出題をするか、あるいは一部を共通問題とし、一部を別個の問題とするか、のいずれかの方法をとるのがよいであろう。地理Aないしは地理Bのいずれか一方のみを出題し、他方は全く出題しないという方法は、高校の地理教育に甚大な悪影響を与えることになるので、絶対にとるべきではない。

### (4) 第二次試験との関係について

共通第一次試験は、その出題形式に大きな制約があるので、各大学では、記述式に重点を置いた第二次試験を、多くの教科・科目について実施することが望ましいと考える。

また、第一次試験の結果を各大学がどのように利用するか（どのように第二次試験の結果と組み合わせるか）が、各大学の自由裁量にまかされ、しかも各大学の組み合わせ方法が公表されないことは、高等学校および受験生の側に、無用の疑念を抱かせるもととなるように思われるので、できるだけ大学相互間で、第一次試験の結果の利用方法を統一し、またそれについて、事前に公表すべきであると考えられる。

### (5) その他

問題冊子のなかに「解答用紙控」があるが（地理の場合、社会の冊子の69ページ）、これは同冊子28～29ページの間地図のように折り込みにして、「解答用紙控」の部分が冊子の外側に出るようにすれば、解答の下書きとしても利用できて便利であろう。

受験生のうち、マークシート形式の試験をはじめて経験する者にとっては、マークシートを塗りつぶすこと自体に、かなりの神経をうばわれるおそれがあるので、解答用紙をできるだけわかりやすくデザインするよう工夫すべきであろう。

## 数学研究専門委員会報告（要約）

全国共通第一次試験を実施するとすれば、多数の受験生を対象とするため、電子計算機による処理（解答用紙としてマークシートの使用）にかなう出題方法をとらざるを得ないとされている。科目別（数学）研究専門委員会は、これに伴う制約に対処して、本協会入試調査特別委員会の「全国共通第一次試験に関するまとめ」（以下「まとめ」という）の趣旨にそって‘良い’問題を作りうるかどうか、またこれにより数学としての入試の役割、目的をどの程度達成できるかについて、2年間にわたり調査研究した。

### 1. 調査研究の経緯

昭和48年度は主として、(1)過去の入試問題の調査研究と平行して(2)標準試験問題の作成を行い、これらの作業を通じて問題点のありかを探った。まず、過去に出題された問題をいくつか拾いあげ、計算機採点方式になじむよう改作が可能なものとしからざるものにとふるい分けをし、ついで、前者のなかで比較的良好と思われるものについては実際に改作の作業を行い、その結果と原問題との比較検討をした。

昭和48年度は新学習指導要領による数学Ⅰを対象とする検討を主として行い、標準試験問題もこの範囲で作成した。科目としての数学一般の検討は昭和49年度に行い、試験問題の試作をしたが、この科目の性格から、例えば上記標準試験問題とその出題の難易度を比較調整することの困難を感じた。

さて、昭和49年度の主たる作業は実地研究に対する試験問題の作成であって、旧指導要領による数学Ⅰの範囲から出題した。この実地研究は「試験研究」であるという性格を考慮して、[あえて「試験」的な設問も行ってみた。例えばグラフに関連する設問がそれである。しかし、これは採点プログラム上の難点（ノーマークを正解とする部分については採点できないとのコンピューター専門委員会の意見）から、一部変更を余儀なくされ、結果として好ましくない設問となり、この試みは失敗した。

### 2. マークシート方式に伴う制約

解答用紙としてマークシートを用いる方式を数学の試験に適用した場合、(1)出題、(2)解答（受

験生の作業)、(3)配点及び採点、の各面で、記述式試験に比して、どのような制約が存在し、また問題点が派生するかの検討を一般的な解析、思考実験のほかに、上述1の作業を通じて行った。

制約Ⅰ マークシートに記入できる情報量は数学の答案としては少なすぎる。

制約Ⅱ 解答のコード化を余儀なくされる。

制約Ⅲ この方式では受験生に発見(創造)させるよりも選択させる設問となる。

制約Ⅱ、Ⅲはいずれも制約Ⅰから派生するものであるが、これらの制約にかなうよう出題することが不可能か、著しく困難なタイプの問題はマークシート方式になじまない。このような問題のタイプとして、1) 式で答えさせるもの、特に複数文字を用いるもの、2) 解答を図示させるもの、グラフで答えさせるもの、3) 証明問題、4) パラメーターの分類をして答える必要のあるもの、があげられる。

以上の出題上の限界(制約Ⅰ～Ⅲ)、受験生の余分の負担(制約Ⅱ)のほか、試験の効用という立場からは採点上の制約、換言すれば、受験生の能力の評価に際しての問題点として次の制約が指摘される。

制約Ⅳ 誤答が本質的なものであるか、いわゆるケヤレス・ミスによるものかを判定できない。

制約Ⅴ 採点規準として、正解に至る過程を反映した構造をもたせることがかなり困難で、比較的簡単な採点規準しか設定できない。また答案からのフィード・バックによる規準の手直しが不可能である。

### 3. 共通第一次試験の性格

計算機採点方式では、上述の制約から、発見的創意力や論証力の判定に適した問題を出題することは非常に困難である。このことは共通第一次試験を「まとめ」のごとく想定した場合、数学の試験として大きな制約を意味する。したがって、数学の学力の真の判定には共通第一次試験だけでは不十分であり、

記述式の第二次試験を大学・学部の特徴に応じて課し、共通第一次試験と併せて判定すべきであると考えられる。

しかし、過去に出題された入試問題のなかに、比較的良問で、問題の性格、出題の意図をさほどまげることなく、計算機採点が可能となるよう改変できるものもあったことは事実である。したがって、本調査研究の結果をも勘案して考慮すると、

数学における入試の一部分—例えば、基本的事項を一通り理解しているかどうかの判定—を共通第



一次試験にゆずり、

この意味では、各大学がその特色に応じて独自に行う記述式の第二次試験は、従来の試験に比して、ある程度軽減できよう。

#### 4. 出題科目及び範囲について

新学習指導要領により、新たな科目として数学一般が設けられたが、仮りに共通第一次試験が実施されるとしても、1で述べた事情から、数学一般を選択受験させるよう数学の試験問題を出題することの困難を痛感しており、数学一般は出題しないのが望ましいと考える。高校教育の実体をふまえ、なお種々の事情からどうしても数学一般を出題する必要がある場合、その場合にも受験生の勝手な選択を許容しないのが適当である。

つぎに出題範囲について主要な問題点となるのは、多くの高校生が数学Ⅱ、数学Ⅲにつながるものとして学習してくる数学Ⅰについてである。出題を数学Ⅰの範囲に限定しては素材が不足であり、共通第一次試験を実施する場合、出題の類型化を防ぎ、徒に難解あるいは技巧的な出題を避けるためにも、範囲は少なくとも数学ⅡAと数学ⅡBとの共通部分までとするのが望ましい。しかし、数学Ⅰだけが必修となっている事実を考慮し、また大学によっては共通第一次試験として数学Ⅰのみでよいと判断するところもあろうから、数学Ⅰのみで受験することのできる道を開いておく必要はあろう。この場合にも、受験生の勝手な選択を意味しないとともに、総点及び試験時間等でウェイトを変えるのが妥当である。

## 物理研究専門委員会報告（要約）

### I 実地研究の試験問題の作成

下記の一般的な問題作成方針に従った。

- a) 対象を高校3年生の中の国立大学受験予定者と設定し、科目は物理Bとする。ただし実施日での修学状態を考慮して「原子、原子核」の領域を除く。
- b) 1時間の試験時間の下で、平均点が満点の60～70%を期待し得る程度の目標で、問題量、難易度を設定する。また全体として多方面の分野にわたり、難易度も多様になるような構成とする。
- c) 理科の選択科目間の問題作成時における調整は行なわない。

上記の方針の下に、一題20分間以内で解答し得る程度の問題をまず10題用意し、これらについて、それぞれの出題の意図、難易度、量、関連分野などについて検討、取捨選択、整理統合などを行ない、3問題を定めた。これについて検討を重ね、設問の形式、選択肢の内容、表現の改善を図った。検討の基礎としては、昨年度の調査研究の成果によったが、解答間の相関を考慮して採点することは、今回は見送った。

### II 出題にあたっての意図と、解答結果との比較検討

- a) 問題の難易度、量については、今回の解答結果は、出題にあたっての期待にほぼそったものと思われる。
- b) 物理を選択した受験生は全体の64%を超えており、予想した数より多かった。これは文系志望者にも理科2科目を選択させたことに一部起因するのではないかと思われる。またこのため白紙の解答があり、従って平均点が低く、また偏差が大きくなっていると推測され得る。
- c) 問題I、IIの解答の結果は大体予想通りであるが、問題IIIの結果、特に小問(2)の結果は予想より悪い。これらについては、各設問ごとの結果、および誤答の種類を調査して検討することが必要であろう。
- d) 満点の得点者がいたことは、出題の意図にそったものである。

### Ⅲ 今後の出題についての注意点

- a) 理科の科目間の平均点の差異は大きすぎるようであるが、これらの調整などについては検討が必要であろう。
- b) 今回用意した選択肢の適、不適については、解答における選択状況、相関などを調査して検討することが必要であろう。
- c) 問題印刷について、計算のスペースを多くとるなどの改良が考えられる。

### Ⅳ 共通第一次試験における科目の範囲などについて

- a) この試験の目的は、高校での学習の達成度の評価にあるから、科目の範囲は新学習指導要領を基準とし、理科の科目選択は、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰのうちから2科目、あるいは基礎理科1科目の選択とするのが妥当であると考えられる。また理科の試験時間は2時間が適当であろう。
- b) 理科の問題作成時において、その難易度、量などについて、あらかじめ科目間で調整することは、現時点では困難であり、またその成果も期し難いであろう。しかしながら例えば科目間においてそれぞれの平均点をそろえることを目標として出題するなどの努力は必要であろう。成績の取り扱いについては、各志望大学において独自に行なうことがあり得るが、そのためには十分な資料を志望大学に供給する必要があるであろう。

### Ⅴ 仮称「入試センター」における出題委員会構成について

- a) 作成委員および選定委員が合同して会議により問題を決定するならば、その人数は10人程度（内作成委員7～8人）が適当であろう。
- b) 数十人以上の国立大学教官から問題の原案を提出してもらい、これを材料として出題委員会において問題を作成するとの案も考えられる。
- c) 理科については4科目の出題委員会に加えて、理科出題委員会を設け、基礎理科の出題および理科における調整にあたるとの案も考えられる。
- d) しかし何れにしても問題作成はかなりの重作業であり、2年間その任につくのは困難であろう。
- e) 委員の選定には、相互連絡の便のためには、地区別に行なわれるのは好都合であろう。

## 化学研究専門委員会報告（要約）

共通第一次試験問題は単なるふり分け、あるいは第二次試験の足切りのための出題として考えられるべきではない。また入試出題内容が高校教育に与える影響は大きく、ややもすれば大学入試が高校教育をゆがめているとさえいわれる現状であることを考えれば、出題にあたって慎重にならざるを得ない。この観点から高校における化学教育が正常に推進されるような問題、あるいはまた受験することにより、かえってさらに化学への理解度を深めるような問題が出題されるよう意図すべきであろう。

化学問題作成に当っては、設問を20～25問程度とし、高校程度の化学の各部門から広い範囲にわたり、基礎的な問題に限って、難易を考慮しながら出題するという方針をとった。これは受験に際し、いわゆる『山をかけた勉強』を防ぎ、高校生が平常の（受験対策的でない）授業をまじめに受けておれば、負担にならない程度の勉強で問題の内容を十分理解することができ、特別な受験対策は必要でないと思われるからである。

1) いわゆる○×式出題とマークシート形式の出題とは、広義に解釈すれば両者は本質的に客観式テストとして大差はないと考えられる。従来の○×式において、まま現われた欠点（例えば二者択一の問題など）を改めるため選択肢の数を増やして偶然性が小さくなるよう、その欠点を少なくする方法を採った。しかし無意味な選択肢を増やすことは意味がないと考える。またマークシート方式では問題作成作業が、かなり複雑になるのは避けられない。化学式、化学反応式を記入させる問題、実験操作に関する問題などは、現在の方式では非常に困難なので採用しなかった。

### 2) 出題意図と解答結果の比較検討

1)の出題方針にもとづいて出題したつもりではあるが、全体的に平均点が低かった。その中でも複雑な計算を必要とする問題及び有機化学に関する問題の平均点が概して低かった。その理由は時間に比べて、出題数が多過ぎたのではないかと考えられる。なお、有機化学に関しては、本実地試験実施時期がやや早かったために、出題内容については未だ十分に授業が行なわれていなかったからとも思われる。

### 3) 本年度問題に対する反響意見

- イ 化学全般の出題で、内容も基礎的な知識を求めたものであり、好ましい出題内容といえる。
- ロ 一部に、生徒にとって非常に難問と思われるものがあるが、全体としては良く考え、練り上げられた問題である。ただし難問も化学Bの範囲を越えているというのではない。
- ハ 60分間としては問題の量が多すぎる。ただし差をつけることが主目的であるとすれば別である。
- ニ 高校における基礎的学力を身につけているかどうかを試す目的をもつとすれば、もう少し易しい問題の方がよい。
- ホ 問題の内容、出題の傾向ともに良くできていると思う。ただ従来の一校、二期校を含めての全国共通問題として、全般に少し程度が高いのではないと思われる。しかし問題の難易は一概にはいえぬと思う。それは全国総受験者の何%を、この共通テストによって合格させようとしているのか、その意向がわからぬし、全国受験者の平均をどこにおいてよいのか、わからぬからである。
- ヘ 化学Ⅰだけが出題されるとすれば、化学ⅠとⅡの分野を明確にすべきである。
- ト マークシート方式には生徒はとまどうと思うが、決定的な難点とは思わない。
- チ 筆答の場合の結果に相当接近していると考ええる。

### 4) 第二次試験への要望

入試改善の試みが将来成功するか否かは、今後全国各大学が共通第一次試験の意義を認めて、いかに取り扱うか、かつまた第二試験をいかに行うかにかかっていると思われる。

共通第一次試験において、化学の基礎については十分考慮して出題されていると考えられるので、文科系学部の第二次試験については化学の出題は必要でないと思われる。理工系学部中特に化学の出題を必要とする学部学科においては化学の範囲で出題することも考えられるがその場合マークシート方式の出題で限界と考えられた化学式・化学反応式、実験操作に関する問題も幅広く含める必要がある。

## 生物研究専門委員会報告（要約）

実地研究試験における生物問題の作成および出題の意図と解答結果との比較による問題の標準性ならびに第二次試験との関係や新教科課程に対する対応等を検討するため、7回の委員会を開いて研究審議を行うとともに、必要に応じて高校側および中学校側の協力をえて問題点を解決するための作業を並行させた。以下それを要約する。

### 1. 実地研究生物試験問題の作成について

#### (1) 基本方針

- (a) 高校における学習達成度の適切な評価ができ、かつ大学教育に耐えうる科学的思考能力を検出できるよう配慮するが、高校理科教育の目標事項の尊重、高校にいたる積み重ね学習方式の重視および高校教育を乱さないことを前提とする。
- (b) マークシート解答形式に由来する解答の偶然性が排除でき、かつ従来の入試問題に匹敵する出題ができるよう研究し、その結果を出題に反映させる。
- (c) 設問の内容・形式の多様化を試みる。とくに学部に対する能力や適性を評価するための資料となしうるか否か等、第二次試験の必要性について検討する。

#### (2) 試験問題の標準性の設定

- (a) 出題の範囲と素材：旧課程に準拠するが、新課程生物Ⅰの内容（旧課程に含まれ生物Ⅰに含まれない部分については中学校理科の教科内容を加味したもの）を範囲とし、素材は動物と植物を半数ずつとし、かつ教科書以外のものを多くする。
- (b) 設問の内容：主として高校理科の教科目標事項の学習達成度を多角的かつ総合的に評価するため、知識力（単なる記憶力より理解力の判定を工夫）、理解力、応用力、分析力、総合力、評価力、創造力をみる設問を作成する。
- (c) 設問の形式：解答用紙の紙面の都合で多肢（選択肢の数の増加と種類の多様化）択一式の設問が多くなるが、学術用語・化学式・数値の表示、グラフの作成、順序に配列、2段階解答等の設問を導入し、上記(b)の趣旨の実現をはかる。
- (d) 問題の難易度：すべての大学で合否の判定資料となしうるよう、得点率平均50～60%を想定

する。

- (e) その他：解答時間60分，100点満点として，1問5点のもの20小問を規準とし，小問の内容に応じて中間，さらに大問に統括する。

### (3) 試験問題の構成と内容

- (a) 構成：大問・中間・小問の数はそれぞれ5・10・20とし，大問は物質交代とエネルギー交代，恒常性と調節，生命の連続性，生態，混成問各1である。
- (b) 問題の内容と出題の意図：多肢択一形式で知識力の設問は2小問，理解力・応用力・分析力総合力を加味した知識力の設問は3小問（多肢択一・二者択一の複数問組合せ・学術用語の表示形式各1），理解力・応用力・分析力・総合力の設問は13小問（多肢択一形式9，グラフ作成・数値表示・分子式表示・多肢複数選択後に現象発生順に配列の形式各1），分析力・総合力・創造力の多肢択一形式の設問は2小問で，実験問題6小問，6図・2表を含み，科学的思考能力の評価を主眼とした。なお，基礎事項に関する設問には2項目組合せ選択肢を配し，二者択一の複数問組合せの設問に対しては減点法採点とした。

## 2. 実地研究試験問題の解答結果の分析調査について

### (1) 解答結果

全国682名の受験者の平均得点率は，小問8.6～74.0%，中間19.1～65.0%，大問27.9～56.0%，合計40.76%で，各小・中・大問ともに正答者があり，合計得点の最高は93点で最低は4点（白紙答案を除く）であった。得点の20階級における度数分布曲線は7地区・全国ともに非対象左傾フタコブラクダ型で，統計処理により母集団は生物を入試科目としている集団と生物を入試科目としていない集団に分けられ，正規分布を推定すると，合計点の平均得点率は級心で前者が47.5%，後者が27.5%となる。また，受験者682名の集団を上位得点者集団・母集団・下位得点者集団の3つに分けて各小問の平均得点率を比較すると，いずれも上位>母>下位となる。

### (2) 出題の意図と解答結果との比較検討

- (a) 得点からみた問題の難易度：生物を入試科目としている集団の合計点の得点率は47.5%と推定され，入試期までには多少の上昇が予想されるので，当初の想定と合致しよう。各小問の難易度を上記(1)の3集団の平均得点率から推測すると，3者ともに想定線より低いⅠ・(2)，Ⅱ・(4)，Ⅲ・(1)は難度が高く，3者ともに高いⅠ・(3)，Ⅱ・(1)・(3)・(5)，Ⅳ・(1)は易度が高く，3者に適度の隔差があって母集団が想定線上にあるⅠ・(1)，Ⅱ・(2)や母集団が想定線以下でも上

位集団が高いⅠ・(3)・(4), Ⅱ・(6)・(7), Ⅲ・(2)~(5), Ⅳ・(2), Ⅴは妥当な設問といえよう。

(b) 設問の内容・形式：上記(a)および東北地区集団の選択肢の選択率等から考察すると、基礎事項について主として知識力を評価した設問は一般に易度が高く、科学的思考能力を評価した設問は一部は難度が高いが、概して妥当な設問であった。

(c) その他：設問数、配点と採点基準、解答用紙の形式（ダブルマーク・マークもれの調査結果）等は妥当であったといえる。

(d) 一部設問についての中学3年生に対するテスト結果：中学上位得点者集団と前記2・(1)とを比較検討した結果、Ⅲ・(5)を除き、Ⅱ・(1)・(2)・(5), Ⅲ・(3), Ⅳ・(1)・(2)は高校レベルとしては易度が高いことがわかった。

### (3) 出題についての今後の注意点

(a) 設問の内容・形式：基礎事項の知識力評価の設問については、選択肢の設定を工夫するか、評価力評価の設問の導入、選択肢なしの設問の開発、創造力評価の設問の増加、新しい素材の導入等をはかるべきである。

(b) 問題構成：設問形式・設問数にとらわれずに設問内容を主として大問ごとに学習達成度や科学的思考能力を評価できる系統立った問題構成とすべきである。

(c) 問題の難易度と出題範囲：とくに理科4科目間の調整が必要である。

## 3. 生物における共通第一次試験の意義と今後の研究課題について

### (1) 第二次試験との関係

作題の基本方針の一つとして、第二次試験の必要性の検討をあげたが、今回の実地研究の結果ならびに今回の試験問題に対する大学側・高校側の反響意見を総合すると、設問の内容・形式の多様化により、第一次試験のみで第二次試験における学部の学習能力と適性が十分に評価できるものと結論されよう。

### (2) 新学習指導要領の教科内容による出題に対する対応

昨年度委員会発足以来、新教科内容に基づいて研究審議を重ねてきた。

(a) 出題範囲：全き生物学的自然観の育成には生物Ⅰの内容に生物Ⅱの生態と系統進化の項を含めるべきであるが、中学理科の教科内容を加味して出題すれば、これら分野については相当程度の評価が可能であり、この点から生物Ⅰ（3単位選択必修で社会の6科目2～3単位とほぼ同じ）に限定すべきものと考えられる。



(b) 基礎理科と総合生物：前者は6単位，後者は6～9単位で，とくに前者の履修者については，試験科目として理科は基礎理科1科目が妥当であろうと考えられる。

## 地学研究専門委員会報告（要約）

### 昭和49年度実地研究問題作成について

統一入学試験の目的にてらし、実地研究問題は地学の特定の分野に偏重せぬよう、全分野から出題し、問題は基礎的内容のものを配慮し、また国立大学志望者の学力では80%の正解を期待した。地学が広範な教科内容を含むことから、5専門分科会に分け、それぞれは委員2名で構成された。

配点は総点100点を現在高校教科書（2単位）にて取扱われている比重（頁数も考慮）に応じ、天文25、地質25、岩石・鉱物20、気象・海洋等15、地震・重力等15と配分した。

それぞれの問題についての出題意図は、次のようである。

- I 地殻およびマントルを構成する物質、および火成岩について基礎的知識を問うた。
- II 鉱物について条件を与え、正確な理解が得られているかを問うた。
- III 地層・火成岩の相互の関係について、初歩的かつ基本的な理解が十分に得られているかを問うた。
- IV 気象・海洋・陸水について初歩的知識があるかを問うた。
- V 地球の動的現象を人間のもたらした公害と関連させて問題とした。
- VI 恒星および惑星の、とくに運動について基礎的事項につき問うた。

これらの問題につき高等学校地学教育担当者からは、今回の問題は全般的にみて統一入試の意図に適し大部分良問であるが、選択肢の質・数などから問題間に難易のアンバランスがあること、必ずしも確定しない数値の記憶を要求したものがあること、事実からの帰納的推論をはかる問題が不足していること、解答時間上受験者に過重であるかもしれないことなどの批判があった。

### 実地研究結果の概要について

地学選択者445名についての採点結果を次に示す。

	偏差	平均	最高	最低
I 問1	0.99	1.11	2	0
問2	1.90	1.38	4	0

	問 3	0.84	0.46	2	0
	問 4	0.92	0.62	2	0
	問 5	0.95	0.70	2	0
	★★	2.97	4.29	12	0
II	問 1	1.32	2.19	3	0
	問 2	1.25	2.31	3	0
	問 3	0.97	0.79	2	0
	★★	2.22	5.30	8	0
III	問 1	1.79	0.76	5	0
	問 2	1.23	0.32	5	0
	問 3	1.19	0.30	5	0
	問 4	1.08	0.24	5	0
	問 5	0.90	0.16	5	0
	★★	3.69	1.80	25	0
IV	問 1	0.90	1.77	3	0
	問 2	0.86	2.25	3	0
	問 3	0.60	2.69	3	0
	問 4	1.09	1.94	3	0
	問 5	0.40	2.90	3	0
	★★	2.07	11.57	15	6
V	問 1	1.48	1.27	3	0
	問 2	1.16	0.55	3	0
	問 3	1.29	0.74	3	0
	問 4	1.32	0.80	3	0
	問 5	1.08	0.46	3	0
	★★	3.10	3.84	12	0
VI	問 1	1.94	1.51	4	0
	問 2	1.68	0.92	4	0
	問 3	1.76	1.06	4	0
	問 4	1.55	0.73	4	0
	問 5	1.72	0.97	4	0
	問 6	2.04	1.06	5	0
	★★	4.73	6.28	21	0

問題別、設問別の得点分布については未検討であるが、平均点は33.1点で予想外に低水準であった。

なかでも問題Ⅲの1.8点(25点中)は大半の者の得点は0点で、少数の高得点者が予想される。これは問題の内容よりむしろ完全正解のみを採点した結果と考えられる。問題Ⅳは上記と異なり問題が易しすぎ、大半の者が完全正解した例である。問題Ⅵでは最高得点・平均点・標準偏差から判断し、本問をよく理解できた者とできなかつた者とが可成りひろい範囲に分布している事が示された。

### 今後の問題

問題ごとに難易をつけた設問を出すべきか、各問題間に難易をつけて得点にばらつきをつくるかは、もっぱら統一入試の目的に規制される。統一入試が足切りを目的とするならば、得点のばらつきは或る程度必要であろう。学習の達成の程度を評価するためならば、標準偏差を必要以上に大きくしない方が、受験者および統一入試を利用する大学にとって、高校間、大学間の格差を意識させないためにも好ましい。

一方、出題委員が横の連絡を密にとることができる場合は、各問題間に難易をつける事が可能であろう。そうでない場合は問題ごとに設問のなかで、難易のある出題をすべきであろう。

今回、時間上および構成員の地域分散のため横の連絡は充分とは言えず、難易の極端さを調整することができなかつた。広い教科内容を持つ地学の場合、出題委員の構成および委員間の調整については検討されるべき点がある。

## 英語研究専門委員会報告（要約）

1. 専門委員会の構成……中・四国の国立大学より推薦された委員。委員長には、広島大学榊井迪夫文学部長が依頼された。
2. 専門委員会経過……昭和49年6月5日の第1回専門委員会より、同年12月16日の報告書作成のための小委員会開催まで、数次の会合をもった。
3. 科目別、検討および意見
  - 1) マークシート形式の出題……(1)所謂○×形式出題との比較では、客観テストに共通の限界があり、総合的学力を見るのが困難であること、(2)出題形式の限界としては、文字を用いて解答できず、大問と小問の2つの単位であったこと、同一解答欄で複数の解答を求めることが困難であったこと、(3)マークシートのデザインについては、出題者側の意図が十分に生かされ、受験者にとっても解答しやすいデザインにすべきこと、(4)その他、受験者の感想を試験直後に得るべきであったこと、などである。
  - 2) 本年度の出題意図と解答結果・反響……基本的には、昭和48年度にサンプルとして作成した問題の形式・内容をほぼ踏襲し、①高校における英語教育を乱さないために、難解な語を避け、4技能が見られる問題であること、②平易で広範囲にわたる内容の問題を数多く出題すること、③偶然性をできるだけ排除すること、④易から難へと配列し、70～80%の通過率を想定すること、⑤所要時間を100分、配点を200点とすること、を確認の上、次の6問を作成した。その結果および反響の一部は下記の通りである。

〔Ⅰ〕 基礎的な用法に関する問題（40問、計80点）：できる限り広い範囲にわたって、基礎的と思われる用法に関する理解度を見ようとした。——平均48.81で、難易相半ばした問題と言える。レベルが相当に高い、という反響があった。

〔Ⅱ〕〔Ⅲ〕 表現力に関する問題

〔Ⅱ〕（10問、計20点）：与えられた文とほぼ同じ意味に並べかえるもの。——平均14.65で、総じて出来がよかった。内容的には密度が高まっているが、選択肢をふやしてはどうか、という意見があった。

〔Ⅲ〕(10問, 計20点) : 対話の形式による整序問題である。——平均13.09で, 〔Ⅱ〕よりも難しかった。対話を採用したことは評価される, という意見があったが, また〔Ⅱ〕と形式を変えてもよかったのではないかと, という反響もあった。

#### 〔Ⅳ〕〔Ⅴ〕 読解力に関する問題

〔Ⅳ〕(7問, 計28点) : 英文のパラグラフを読み, 英語の問いに答えるもの。——平均13.99で, 総じて出来がよくなかった。

〔Ⅴ〕(8問, 計32点) : 英文のパラグラフを読み, 日本語による問いに答えるもの。——平均24.26で, 設問自体がヒントを与える結果になったためか, 総じて出来がよかった。日本文の選択肢は, ヒントを与えすぎていて, やさしい, という意見もあり, 全体として読解力としては少し物足りない, という批評があった。

〔Ⅵ〕 聴解力に関する問題(5問, 計20点) : 音声による聞きとり問題で, 聞いたパラグラフの内容と一致する短文を選ばせるもの。——平均15.18で, この問題は特によく, 形式, レベル, スピード等, 極めて適切である, という意見が多かった。

全般的考察(6問, 計200点)としては, 平均130.01であり, 通過率はほぼ65%であった。総じて, 妥当な問題である, という意見とともに, 欲を言えば, 読解力, 思考力を求める問題が少し足りない, という感想もあった。

聴解力に関する問題は, 従来のペーパーテストに加えて, 是非とも実施したいというのが専門委員会の意向である。それだけに, 問題作成ならびに実施にあたって, ①録音テープの作成, ②実施方法に関連する施設の問題, ③実施にあたっての配慮等, 必要と思われるあらゆる検討はつくしたつもりである。今回は, 会場ごとにカセット・テープレコーダーを中心とする聞きとりテストを行なったが, 「やや聞こえにくかった」者15.6%, 「聞こえにくかった」とした者が, 3.4%あった。この実態を究明することも今後の課題である, と考える。「聞きとりテスト」は, 何らかの方法により, 今後も是非実施されたいこと, できれば, 公共放送等の協力を得て実施すべきであると思う。

第一次試験(英語)で評価しようとした点は, 上述の通りである。この第一次試験が高校生の英語学力をどの程度正当に評価しているかについては, 今後, 更に, 追跡調査・研究をする必要があると思われる。もし, 今回のテストが意図した面をかなり正しく評価していると仮定すれば, 個々の大学が必要とする評価の項目を, それぞれの第二次試験に含めることが適当であろうと思われる。また, 新教科課程による出題範囲に関しては, 大学入学者にいかなる英語の学力を期待するかという問題にかかわっていると見てよい。したがって, これらの問題は, 大学側のコンセンサスを得た上で



## V コンピューターに関する調査研究の概要

昭和49年度において本専門委員会が行った事項は、主として本専門委員会が昭和48年に開発したコンピュータ処理システムによる実地研究に関するものである。実地研究実施にあたっては、主たる任務は実施方法等調査専門委員会小委員会が担当したが、コンピュータ処理に関するものが多いため、本専門委員会においても、実地研究の細部にわたって検討し、志願票の設計を行い、一方各科目別研究専門委員会と協力して問題のとりまとめと印刷、解答用紙の設計と印刷、正解の入力、採点等を行ったほか、問題用紙、解答用紙の分封作業をも担当した。

コンピュータ処理システムの概要は、国立大学入試改善調査報告書—中間報告・昭和48年度（昭和49年3月）（以下「中間報告」という）に示されているものとほとんど同じであるので、フローチャート等は紙数の関係もあるのでここで改めて示すことは省略するが、実地研究であるため、多少の変更をしたり、簡略化したところもあるので、処理方式を以下簡単にのべるが、詳細に関しては、「中間報告」を参照していただきたい。

本年度実地研究の処理方式は次の通りである。

### i) 申込票に関する作業

各地区からまとめて送付された受験生の申込票にある情報（郵便番号、現住所、氏名等）をパンチャーがカードに穿孔し、コンピュータに読み込ませる。

### ii) 試験室に関する作業

上記申込票に記入された郵便番号により受験生を各試験場（各地区）へ割当てする。なお、各試験場の収容可能数をカードに穿孔し、コンピュータに入れる。

### iii) 受験票等に関する作業

受験票にコンピュータ出力として受験番号、住所、姓名等を印刷し、各人に郵送する。受験番号は、試験場毎に最初の3桁を定め、下の7～2桁は姓名をソートして一連番号を与える。最後の1桁はチェック用で英字である。この作業と同時に、各試験場別に、各試験室への受験者の割当表と受験生名簿を作成する。

### iv) 解答用紙に関する作業

印刷したマークシート解答用紙に、受験生の受験番号（数字およびマーク）と氏名（カナ）を印字し、試験室ごとに分封する



v) 採点

正解・配点を各科目毎に解答用マークシートに記入しマーク読取機コンピューターに入力しておく。受験生がマークシートに記入した答案用紙をマーク読取機に読ませて採点する。なお各試験場から送付された欠席調査表をカードに穿孔してコンピューターに入力し、答案用紙の氏名と照合する。

vi) 成績報告

採点結果を集計し、各人別に小問毎の成績を印刷した成績表と、科目別の平均・偏差・最高・最低、受験者数等の統計表を作成する。

なお、今回は実地研究の場合に限り各高等学校別に、各人の科目別成績を作成することを依頼されている。

以上の作業は実際に行う共通第一次試験の処理作業において考えられているもののいくつかを省略しているが、その主要なものを列挙すると次の通りである。

a) 共通第一次試験受験票と同時にⅠ期校第Ⅱ期校へ提出する登録票の送付

b) 追試験に関する事項

c) 各大学でまとめた登録票にもとづいて、志望大学別に成績をファイルし、また成績表を作成する作業ただし、出身高等学校別に、各人の科目別の成績一覧を作成する作業が今回の実地研究に限って行われたが、これはc)の作業の大学別の一部を出身高校別にかえて行うことになった。

その他、実際の共通第一次試験の実施の際に比べて多くの点で簡略化または変更したが主なものを列挙する。

イ) 申込票の高校コードの記入は、本専門委員会が行った。実際に行う場合には、各高校にコード番号の入ったゴム印を用意する。

ロ) 今回の試験場は1地区に1試験場しかなかったため、郵便番号による試験場割当は非常に簡単であった。コンピューターを用いて作業としては行ったが実際に行うときには、試験場が多いためこの作業はかなり複雑になるものになると予想される。

今回の受験申込者の数は、3,048人であり、実地研究全体としては円滑に行われた。試験の実施が11月23日、24日の両日で、12月の下旬までに成績を処理することは、実地研究のスタッフと体制では時間的にかなり無理があり、そのために多少のミスはあったが、実際に実施される場合にはこの種のことはまずおこり得ないと考えてよい。

実地研究の結果、いくつか実施にあたって問題になることが見出されたが、今回の申込み者が約3,000人で、共通第一次試験の実際の対象となるものの人数が約30万人と見込まれているので、ここ

で現れた技術データは、将来これを実施するにあたって十分検討すべきものであろう。

申込票は現住所・姓名をカナでパンチしている。穿孔・検孔の後、原票との読み合わせを行った結果約2.7%の誤りを発見しこれを修正したが、30万人の受験者がある場合には、これはカード1万6千枚に相当する（1人当カード2枚）。

試験場の割当は郵便番号で行っているが、申込票に郵便番号の誤記があると、誤った試験場に割当てられ、その修正について問題がおこる。またカナガキの宛名に都道府県名が省略されているため、郵便番号誤記の場合に配達されないこともおこる。今回も申込票提出から受験票発送までの間に住所の変更があり、結果としては28通（約0.9%）の受験票が返送された。しかし今回は、試験場が少なかったため、試験場の割当に関しては問題はおこらなかった。

採点については、正解の入力が複雑なため（「中間報告」72～73ページ参照）、誤りなく正解を入力するには非常な努力が必要である。今回も模範解答のマークシートを採点し、満点になるかどうかのチェックは行って確認した。

また、本処理システムでは、各解答用紙に受験番号・姓名をコンピューター出力として印刷している。今回の実地研究においても、最終的には、欠席調査票と答案用紙との照合が一枚の疑問なく行われた。このようなことは、あらかじめマークシートに印刷した受験番号の誤読がなかったためで、受験生各自に受験番号の記入をした場合には、誤記はさけられないため、このような照合を混乱なく行うためには、解答用紙にあらかじめ印刷しておくことは不可欠である。

ここで最も大きな問題は、マークシートの読取りであるが、今回も昭和48年度と同じ DIGITEK 100を用いた。このマーク読取機は、2,400枚/時を読むことになっているが、実際には答案15,614枚を2回読むのに約30時間を要した。2回読んで照合する必要がある答案があり、この訂正に約40人時を要した。2回の読取りの照合の結果は訂正の必要ある答案用紙が約10%あったが、これは、主としてダブルマークによるものである。以上の諸点から、将来どのようなマークリーダーを用いるべきかということは非常に重要な問題である。

また問題用紙の量は1人あたり厚さ1cmに相当し、将来30万人分を用意するとすれば、3,000mの厚さで、量にして約200m<sup>3</sup>になる。これを収容する倉庫としては、量だけを考えるとあまり大きくはないが、これを分類して保管することはもちろん、分封する作業はかなりのものになる。今回3,000人に対し、これを分封するのに約500人時を要したので、単純な比例計算で推定すると、30万人受験者に対しては、50,000人時を要することになる。

答案用紙の分封は、各答案用紙に受験番号が印刷してあることもあって、3,000人に対し約60人

であったので、30万人の受験者に対しても6,000人時で実施可能とみられる。

最後に、成績処理であるが、30万人の受験者1人1人に小問毎の成績を出力するとすると、中間報告にのべた通り（48ページを参照）30万乃至60万ページを出力しなければならない。30万ページとしても、その厚さは数十m、印刷所要時間は、ラインプリンター1台で500時間程度になる。このようなものを入学試験の選考過程において実際に利用できるかどうか再検討することが望ましい。

これに対する対策としては、一つは、結果をラインプリンター出力とせず、大学別に磁気テープに出力し、これを各大学で用いることであるが、このことは、計算機の設備のない大学では不可能であり、また計算機の設備があっても、磁気テープの読取りがかならずしも可能でないので、一般に利用可能であるとはいえない。

他の方法としては、受験者の科目別の成績で間に合わせる方法であるが、この場合には、たとえ10,000人の受験者があったとしても、必要なデータは、150ページあまりに印刷することが可能である。

コンピューター専門委員会としては、今後の問題として特に重要な将来のマーク読取機の選定、入試センターを設置したときに備えるべきコンピューターシステムについて種々の検討を行った。

## Ⅵ 結 語

この報告書においては、国立大学協会の入試調査特別委員会が全国共通第一次試験について研究を行ってきた経緯をうけて、入試改善調査委員会が行ってきた調査研究の結果について述べた。

この調査研究の目的は国立大学の入学者選抜試験制度を全国共通第一次試験と各国立大学が独自に行う第二次試験とを組み合わせる方式が従来の入学試験において指摘されてきた弊害の改善に貢献することになるであろうかということ、更に共通第一次試験を大規模に実施することが可能であるかどうかを追及することにあった。

すなわち、全国共通第一次試験として、高等学校における学習の達成の程度を評価することに力点をおいた学力試験を行い、第二次試験として、各大学・学部乃至は学科に対する適性評価に力点をおいた試験を行うという方式が適切な入学者選抜たり得るであろうかという立場から、共通第一次試験実施の可能性について検討をすすめてきた。

国立大学入学志望者が入学定員を上廻る現状からみると、入学者は何等かの選抜試験によって判定することは避けることはできないであろう。

このような前提にたつならば、兩年度にわたって調査研究した結果から判断すると、全国共通第一次試験を各大学独自の第二次試験と組合わせて行う方式は大学入学試験の諸問題を改善する上でかなり貢献することができるであろうと思われる。

すなわち、(1)、多少とも高等学校教育の正常化に寄与するであろうし、(2)、入試問題の適切化ならびに「一発勝負」による判定を是正することに役立つことができ、また(3)より客観的に入学者を適正に判定することができるであろうと考えられるので、入試改善について一歩前進しうるのではないかと思われる。

しかし、なおかなりの重要問題が残されているのを否むことはできない。

すなわち、(1)、高校教育における学習の達成程度を評価するための出題は一応可能であると認められたが、客観テストを採用するため、出題内容と出題方式に或る限界が生じてくるということがその一つであって、これについては今後も研究を進めていく必要がある。また(2)、客観テストによっておこる問題点を補うことを含めて、共通第一次試験と第二次試験との有機的な組合せについて検討しなければならない。更に(3)、事故処理についても一層の調査研究を必要とするし、また(4)、多数の受験生を居住地域において受験させるため、試験場設定とその割振りを具体的に調査する問題も残さ

れている上に、(5)、膨大な入試業務を処理するための実施機構についても具体的な調査研究が必要であるなど、解決すべき問題が残されている。

なお各国立大学にとっては、共通第一次試験の実施は従来の入試業務に新たな業務を加えることになるのは明らかで、これにどう対処するか問題となってくるであろう。

国立大学がこの共通第一次試験の実施を推進すべきかどうかについては上述したような諸事項を検討しつつ判断することになろうと思われる。

各国立大学はもちろん、高等学校その他関係各方面がこの共通第一次試験問題について真剣な討議を重ねられ、この調査研究に対し十分な検討がなされることを期待したい。

[参考資料]

国立大学共通第一次試験  
実地研究試験問題

国	語
社	会
	倫理・社会
	政治・経済
	日本史
	世界史
	地理
数	学
理	科
	物 理
	化 学
	生 物 学
	地 学
英	語

# 国立大学共通第一次試験

## 実地研究試験問題

### 国語

#### 注意事項

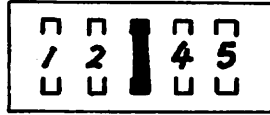
昭和49年11月23日

1. 合図があるまでこの冊子を開いてはいけません。
2. 本冊子は二五ページあります。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所を見いだした場合はすみやかに申し出て下さい。
3. 解答用紙に汚れがあったときは申し出て下さい。
4. 解答用紙にはあらかじめ氏名および受験番号を印刷してあります。これを受験票と照合し、違いがある場合には申し出て下さい。
5. 本冊子の余白は草稿用に使用してさしつかえありません。末尾に解答用紙控が入っているので適宜利用して下さい。
6. 解答用紙は鉛筆でマークした部分を機械で直接読みとりますから、次の2・3ページの注意を正しく守って下さい。
7. 本冊子は持ち帰ってさしつかえありません。

解答用紙記入上の注意

- (i) 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆でマークして下さい。
- (ii) 各解答欄にいくつかの記入位置がありますが、その中の「つだけ」にマークを記入して下さい。
- (iii) マークの記入方法は、次に示す「(イ)良い例」のように記入し、「(ロ)悪い例」のように記入してはいけません。

(イ) 良い例  
たとえば3と解答したいならば、



上図の解答欄のように記入位置「3」の「」の中をなるべく正確にぬりつぶして下さい。

(ロ) 悪い例



のように数字または文字だけに線を引いたり、



のように○でかこんだり、





のように「」の外まではみだしてぬりつぶしたり、



のように「」の中をぬりのこしたり、



のように線を引いてはいけません。

- (㉓) 訂正は消しゴムでよく消してください。
- (㉔) 解答は指定された解答欄に記入し、解答用紙のその他の部分には何も書いてはいけません。
- (㉕) 解答用紙は絶対汚さないようにして下さい。また折りまげたり、破ったりしないで下さい。

# 国語

I 次の文章を読み、後の問に答えよ。

人間と環境とは、人間は環境から働きかけられ逆に人間が環境に働きかけるという関係に立っている。我々是我々の住む土地、そこに分布された動植物、太陽、水、空気などから絶えず影響される。人間は環境から作られるのである。他方我々はその土地を耕し、その植物をサイバイし、動物をシイクし、あるいは河にテイボウを築き、山にトンネルを通ずる。人間が環境を作るのである。すなわち人間と環境とは、人間は環境から作られ逆に人間が環境を作るという関係に立っている。 a

人間は環境を形成することによって b を形成してゆく。これが我々の生活の c 的な形式である。我々の行為はすべて形成作用の意味をもっている。形成するとは物を作ることであり、物を作るとは物に形を与えること、その形を変えて新しい形のものにすることである。人間のあらゆる行為が形成的であるというのみでない。人間は環境から作られるという場合、自然の作用も、社会の作用も、形成的であるといわねばならぬ。もとより我々は単に環境から作用されるのではない。逆に我々は環境に作用するのである。環境が我々に働きかけるのは我が環境に働きかけるのによるということもできる。自己はどこまでも自己から自己を形成してゆくのであって、そうでなければ自己はない。しかし自己は環境において形成されるのである。生命とは d 一方どこまでも環境から限定されながら同時に他方どこまでも自己が自己を限定するというすなわち e 的であるということに生命はある。「生あるものは外的影響のきわめて多様な条件に自己を適應させ、しかも一定の獲得された決定的な独立性を失わない」というテンプを有する」とゲーテも書いている。我々は環境から作用され逆に環境に作用する。環境に働きかけることは同時に自己に働きかけることであり、環境を形成してゆくことによって自己は形成される。環境の形成を離れて自己の形成を考えることはできぬ。

(1) 傍線部(i)・(ii)・(iii)・(iv)を漢字になおすには、それぞれどのような字を当てたらよいか。次のA群・B群から適当な字を一字ずつ選んで組合せよ。

	A 群				B 群			
(イ)	1 採	2 裁	3 裁	4 載	1 倍	2 培	3 陪	4 賠
(ロ)	1 試	2 資	3 施	4 飼	1 行	2 育	3 幾	4 易
(ハ)	1 堤	2 堤	3 抵	4 低	1 防	2 坊	3 妨	4 傍
(ニ)	1 天	2 伝	3 転	4 添	1 付	2 府	3 符	4 賦

(2) 空欄 a に入れる文章としては、次の 1~4 のうち、どれが最も適当か。一つを選べ。

- 1 関係に立つということは働くということである。現実的なものはすぐれた意味において「ある」といわれるのであるが、「ある」とは、ロツエがいったように、「関係に立つ」ということであり、関係に立つとは相互に働きかけるということである。
- 2 環境というと普通にまず自然が考えられるが、自然のみでなく社会もまた我々の環境である。むしろ我々がそこにある世界は何よりも世の中あるいは世間である。世界という言葉はもと自然的対象界でなく人間の世界を意味した。
- 3 人間と環境の関係は普通に主観と客観の関係と呼ばれている。「私」が主観であって、環境は客観である。主観とは作用するもの、客観とはこれに対してあるものすなわち対象を意味する。主観と客観は、主観なくして客観なく、客観なくして主観なく、相互に予想しあひ、相関的であるといわれている。
- 4 この関係は、人間と自然との間にばかりでなく、人間と社会との間にも同様に存在している。社会は我々に働きかけて我々を変化するとともに我々は社会に働きかけて社会を変化する。人間は社会から作られ逆に人間が社会を作るのである。

(3) 空欄 b には、どのような語を入れたらよいか。 b に入れる語を A 群 (1~4) から、 c に入れる語を B 群 (1~4)

から、最も適当なものをそれぞれ一つ選べ。

- |     |      |      |      |      |
|-----|------|------|------|------|
| A 群 | 1 社会 | 2 人間 | 3 自己 | 4 物  |
| B 群 | 1 相对 | 2 根本 | 3 心理 | 4 実用 |

(4) 空欄d                     に入れる文としては、次の1～4のうち、どれが最も適當か。一つを選べ。

- 1 自己の周囲との關係を育てあげる力である。
- 2 物の形を変えて新しい形のものにする力である。
- 3 自己から自己を形成してゆく力である。
- 4 肉体と精神を維持する力である。

(5) 空欄e                     には、どのような語を入れたらよいか。次の1～4のうち、最も適當なものを一つ選べ。

- 1 実践
- 2 必然
- 3 創造
- 4 自律

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Ⅱ 次の文章を読み、後の問に答えよ。(設問のつごうで各文のはじめに(a)~(k)の符号がつけてある。)

(a)慣習はいわば無意識的に伝わってきて、われわれがとくに反省を加えずにそれに従っているようなものであるが、トラディション(伝統)の方は、それをよしとして、続けたいという気持をどこかに含むものであって、「漠然とした価値判断をあらわすところの一つの観念」だといふことができる。(b)社会の一つの制度にしても、それが昔から存続しているというだけではトラディションとはいえないので、その社会がこれを続けたいという意志をもつときはじめてトラディションといえるのだ。(c)フランス人がクラルテ(明晰性)はフランスのトラディションだ、というときは、北方民族の表現におけるあいまいさをどこかで意識しつつ、自分の方はそうではない、明晰はいいものだ、という価値判断をとらなっているわけである。(d)慣習は無意識的であり、日常生活のものであるから、何らかの理由によって一たん現実生活においてなくなることもあると、そのまま亡びてしまう率が多い。(e) トラディションは価値判断をとらなうところの観念であるから、その観念を支えるべきものが現実には消失していても成立しうる、いなむしろ現実には古く伝わってきたところのものがなくなり、あるいは弱まってしまったとき、追憶によって、その観念ないし理念がよきものにされ、よりどころとされるといふ場合が多いのである。(f)現代においてカトリック的中世的統一世界を理想としたりするのがその一例である。(g)そのさい、過去に想定されるモデルなるものが、客観的な歴史学の立場から十分な実在性が疑われるものであってもさしつかえはない。(h)ローマ法王の支配した統一あるヨーロッパが、どのように残忍な、あるいは野蛮な面をもっていたかを歴史的に立証しても、それだけでは中世主義は亡びないであろう。(i)同じくヨーロッパ中世の騎士道精神にしても、そういう精神の支配したのがく限られた地域の、限られた階級の人だけが、理想化されて一般的にそれが存在したかのように思われてしまうのである。(j)日本の武士道にしても、そういう言葉は武士がいなくなつてから盛んになり、武士道の道徳が武士全部に行きわたる、実践されていたかのように思われてしまう。(k)トラディションとはそういうものである。

(1) 空欄  には、どのような語を入れたらよいか。次の1~6のうち、最も適当なものを一つ選べ。

- 1 ところが 2 したがって 3 すなわち 4 ともあれ 5 もっとも 6 しかも

(2) 傍線を附した「それ」は何をさしているか。次の1~5のうち、最も適当なものを一つ選べ。

- 1 トラディション
  - 2 価値判断
  - 3 古くから伝わってきたところのもの
  - 4 現実にはなくなったり、弱まってしまったりしたという事実
- 5 追憶

(3) 次の『 』内の文は、右の文章中のどの文の次に入れるのが適当か。次の1～5のうち、最も適当なものを一つ選べ。

『日本の明治以前の男のマゲ、女のオハグロのように。』

- 1 (b)の文の次
- 2 (c)の文の次
- 3 (d)の文の次
- 4 (e)の文の次
- 5 (h)の文の次

(4) 右の文章は(a)～(k)の十一の文から成っているが、そのうちで、論旨の展開の上ではよくことのできない文が三つある。それはどれか。三つの欄に順次に一つずつマークせよ。

(5) 右の文章の論旨に最も近いものを、次の1～5のうちから一つ選べ。

1 トラディションというのは過去のものが新しい形でよみがえり、民族独自のものを形成するのに大きな働きをしたときにいえることである。

2 トラディションというのは過去のものをできるだけそのままの形で継承して民族独自のものを創造し発展させたときにいえることである。

3 トラディションというのは過去のものうちで形が失われてもよしとされるものがあり、それが民族を支える力となったときにいえることである。

4 トラディションというのは長い歴史のなかでつちかわれ、受けつがれてきた民族独自のよき慣習制度などを漠然とさしていうことばである。

5 トラディションというのは過去のもののなかから、そのよい面だけを取り出し、それによって民族の誇りを満足させようとする人間の感傷から出たことばである。

Ⅲ 次の文章を読み、後の問に答えよ。

晴子はいまでも「面白い話」が好きだ。ある晩、夕食の時にこんな話をした。

「今日、社会の授業中にね」

と彼女はいった。

「火事だ！ と a んだ子がいるの」

大浦も細君も b いて晴子の顔を見た。

「丁度、黒板に先生が字を書いているところだったの。それをノートに写していたら、すぐ耳もとでいきなり大きな声でそういったの。椅子 c び上りそうになるくらい、びっくりした」

「どこに火事があったの」

と細君が心配そうに d ねた。

「最初どこか近くの農家が火事で、教室の窓から煙でも見えたのかと思ったの。みんな真先に窓の外を見たけど、どこにも煙なんか見えないし、教室の中でも何も燃えていないの」

A  
と大浦はいった。

「ほかの場所で火が出たのなら、先に e ぎ声が聞えて来る筈<sup>はず</sup>だけど、そんな声は聞えないし、もしそうだったら、教室にいて火事だとわかる訳がないでしょう」

B  
と細君がいった。

「先生は教壇の上でチョーク持ったまま、きよんとした顔しているの。あたしたちも、ぼかんとしてあたりを見まわしていた」

C  
と安雄がいった。



「赤い顔して、うつむいているの」

「居眠りしていて、火事になった夢でも見たのかな」

と大浦はいった。

「D」

と正次郎が口を出した。

「授業がすんでも、まだ目をさまさない女の子がいるよ」

「女の子で？」

と安雄がいった。

「すごいなあ」

「E」

最後まで聞いてしまわないと気にかかるというように細君がいった。

「先生がその男の子と隣の席の子を前に出して、訳を聞いたの。隣の子も赤い顔してうつむいていたから。そうしたら、二人が腕のところをつねりっこして、最初はゆるく、だんだん強くして行って、どのくらいで痛く感じるか、ためしていたっていうの。ところが、隣の子が急に強くつねったので、思わず大声を出してしまったんだって。『感じたー』っていったのが、あたしたちにも先生にも、『火事だー』と聞えたの」

(1) 空欄[A]～[E]に入れるのに最も適当な漢字はどれか。次の1～10のうちから、それぞれ一つを選べ。

1 飛 2 呼 3 叫 4 仰 5 警 6 驚 7 騒 8 泣 9 尋 10 問

(2) 空欄[A]～[E]に入れる会話文として、次の1～5のうち、どれが最も適当か。それぞれ一つを選べ。(同じ文を二度以上用いてはいけない。)

1 それでどうなったの？ それから

2 どなった生徒は？

3 そうね

4 おかしいな

5 ぼくの組でも

(3) 傍線を附した「すごいなあ」には、安雄のどのような心持ちがこめられているか。次の1～5のうち、最も適當なものを一つ選べ。

1 警戒 2 賞賛 3 憂鬱 4 驚嘆 5 軽蔑

(4) 晴子の話のおもしろさはどこにあるか。次の1～6のうちから適當なものを二つ選び、二つの欄に順次に一つずつマークせよ。

1 いかめしい先生がとまどっている姿のおもしろさ。

2 「男の子」たちのおどけたふるまいのおもしろさ。

3 ことばの聞きちがいから起きた事件のおもしろさ。

4 事件をたんとんと語りすすめる語り口のおもしろさ。

5 真相をふせて聞き手になぞをかけながら話をはこぶ語り口のおもしろさ。

6 事件の重要なポイントだけにしぼって複雑な話を端的に告げる語り口のおもしろさ。

(5) 右の文章についての批評として、次の1～4のうち、最も適當なものはどれか。一つを選べ。

1 「細君」に何か悲しい出来事があつたらしいが、それをさりげなくほめかして文章に陰翳えいをもたせている。

2 余計な説明や粉飾は一切省略した押さえた筆つきから、複雑な人間関係が浮かび上ってくる。

3 自然と深く結びついた生活の美しさがしっかりとらえられている。

4 あるひとときの家族の交歓の姿が美しい余韻を残す。



IV 次の文章を読み、後の問に答えよ。

昔、あてなる男ありけり。その男のもとなりける人を、内記ないきにありける藤原の敏行といふ人よばひけり。されど若ければ、文もさをさしからず、ことばもいひ知らず、いはんや歌はよまさりければ、かのあるじなる人、案を書きて、書かせてやりけり。めでまどひにけり。さて、男のよめる、

つれづれのながめにまさる涙川袖のみひちて逢ふよしもなし  
返し、例の、男、女にかはりて、

あさみこそ袖はひつらめ涙川身さへながると聞かば頼まむ  
といへりければ、男おとこといいたうめでて、いままいまで巻まきて文箱ふみばこに入れてありとなむいふなる。

男、文おこせたり。得て後うしろのことなりけり。「雨の降りぬべきになむ見わづらひ侍る。身さいはひあらば、この雨は降らじ」といへりければ、例の、男、女にかはりてよみてやらす。

かずかずに思ひ思はず問ひがたみ身を知る雨は降りぞまされる  
とよみてやりければ、簗ひらも笠かさも取りあへで、しとどしとどにぬれてまどひ来にけり。(伊勢物語)

〔注〕 ○内記—詔勅や宣命の起草など、宮中の記録のことをつかさどる官。○よばふ—男が女に言い寄ること。○案—下書き。○つれづれの……の歌—所在なく物思いにふけていると、いよいよ涙の川の水かさが増して袖がぬれるばかりで、あなたに逢うすべもないのは悲しいことです。○あさみこそ……の歌—あなたの涙の川は浅いからこそ袖だけがぬれるのでしょう。もっと深く身まで流れるとでも承るのでしたら、あなたを頼りにしましょうものを。○かずかずに……の歌—あなたがしきりに思つて下さるのか下さらぬのかおたずねすることができないので、わが身が本当に思われているかどうか知ることのできる雨はいよいよ降りまさつております(真に思つて下さるなら雨でも来て下さるだろう)。

(1) 傍線部(イ)の「あてなる」とはどういう意味か。次の1~4のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 浮気な 2 才気のある 3 高貴な 4 頼りがいのある

(2) 傍線部(ロ)の「若ければ」はだれについて述べているのか。次の1・2・3のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 あてなる男 2 その男のもとなりける人 3 藤原の敏行

(3) 傍線部(ハ)の「めでまどひにけり」はだれの動作か。次の1・2・3のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 あてなる男 2 その男のもとなりける人 3 藤原の敏行

(4) 傍線部(ニ)に用いられている「めでまどふ」とはどういう意味か。次の1・2・3のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 あわてふためく 2 ひどく感嘆する 3 ほめるのに苦労する 4 迷惑に思う

(5) 傍線部(ニ)に「男いといたうめで」とあるが、何を「めで」たのか。次の1・2・3のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 歌が上手であること 2 歌に情愛がこもっていること 3 歌が愛する女から寄せられたこと 4 歌が期待に反して寄せられたこと

(6) 傍線部(ホ)の「となむいふなる」の解釈として、次の1・2・3のうち、どれが最も適当か。一つを選べ。

1 ……といううわさである。 2 ……という話だが信じがたい。 3 ……という次第である。 4 ……という評判でもちきりである。

(7) 傍線部(ヘ)に「得て後のことなりけり」とあるが、何を得たのか。次の1・2・3のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 「あさみこそ……」の歌 2 男のもとなりける人 3 おくりもの 4 文

(8) 傍線部(ト)に「しとどにぬれてまどひ来にけり」とあるが、なぜ「しとどにぬれてまどひ来」たのか。次の1・2・3のうち、最も適当なものを一つ選べ。

- 1 「この雨は降らじ」と言ったのに雨が降ったので困惑して。
- 2 相手を恨むみことな歌を詠んでよこしたので。
- 3 歌からでは相手の気持がはつきりつかめないのです。
- 4 相手から心変りを疑われたので身のあかしを立てようとして。



V 次の文章を読み、後の問に答えよ。

あすは遠き国へおもむくべしと聞かむ人に、心閑かになすべからむわざをば、人、言ひかけてむや。にはかの大事をも(K)営み、切に嘆く事も  
ある人は、他の事を聞き入れず。人の憂へ・喜びをも問はず。問はずとて、などやと恨むる人もなし。されば、年もやうやうたけ、病にもま  
つはれ、いはむや世をも(R)のがれたらむ人、またこれ(Y)に同じかるべし。

人間の儀式、いづれの事か去り難からぬ。世俗の黙し難きにしたがひて、これを必ずとせば、願ひも多く、身も苦しく、心の暇もなく、一  
生は雑事の小節にさへられて、むなしく暮れなむ。日暮れ、道遠し。我が生す(L)でに蹉跎(D)たり。諸縁を放(H)下すべき時なり。信をも守らじ。礼儀  
をも思はじ。この心を得(C)ざらむ人は、物狂ひとも言へ。うつつなし、情なしとも思へ。そしるとも苦しまじ。誓(M)むとも聞き入れじ。(徒然草  
百十二段)

〔注〕 ○人間の儀式―冠婚葬祭などの世間的なつきあい。 ○黙す―だまってそのままにしておく。 ○さへられて―さまたげられて。  
○蹉跎(D)たり―つまづき進めないさま。 ○放(H)下す―捨ておく。それから脱却する。

(1) 傍線(I)の「営み」は、意味の上でどの語にかかるか。次の1～5のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 嘆く 2 事 3 ある 4 人 5 聞き入れず

(2) 傍線(II)「世をものがれたらむ人」の「人」と、論旨の上で同様の立場にある「人」はどれか。次のイ～ホについて、それぞれ、同様の  
立場にあるものについては「○」の方に、同様の立場にないものについては「×」の方にマークせよ。

イ 聞かむ人    ロ 人、言ひかけてむや    ハ 切に嘆く事もある人    ニ 人の憂へ・喜び    ホ 恨むる人

(3) 傍線部(イ)の「これ」の内容として、次の1～5のうち、どれが最も適当か。一つを選べ。

1 仏道修行をことあらためて周囲からすすめるまでもないさま。

2 一切の義理人情を捨てるべきであり、周囲の人々もそれを理解すべきだということ。



3 程なく遠い国へ旅立つはずの人の心境。

4 世間的な名譽・利益あるいは欲望などを問題にせず、まして在俗中の怨恨などは忘れ去るべきだということ。

5 他人の感情を無視してしまいが、それはそれで別段の怨恨の種となることもないさま。

(4) 傍線部(二)の「この心」の内容として、次の1~4のうち、どれが最も適當か。一つを選べ。

1 人間の儀式、いづれの事が去り難からぬ。

2 一生は雑事の小節にさへられて、むなしく暮れなむ。

3 日暮れ、道遠し。我が生すでに蹉跎たり。

4 諸縁を放下すべき時なり。信をも守らじ。礼儀をも思はじ。

(5) 次の1~5の文章のうち、右の文章全体の趣旨に最も近いものはどれか。一つを選べ。(いずれも徒然草の一節である。)

1 名利に使はれて、閑かなる暇なく、一生を苦しむるこそ愚かなれ。(三十八段)

2 人みな生を楽しまざるは、死を恐れざる故なり。死を恐れざるにはあらず、死の近きことを忘るるなり。もしまた、生死の相にあづからずといはば、実の理を得たりといふべし。(九十三段)

3 ものに争はず、己をまげて人に従ひ、我が身を後にして、人を先にするにはしかず。(百三十段)

4 世を捨てたる人の、よろづにするすみなるが、なべてほだし多かる人の、よろづにへつらひ、望み深きを見て、無下に思ひくたすは僻事なり。その人の心になりて思へば、まことにかなしからむ親のため、妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり。(百四十二段)

5 一事を必ず成さむと思はば、他の事の破るるをもいたむべからず。人の嘲りをも恥づべからず。万事にかへずしては、一つの大事成るべからず。(百八十八段)

VI 次の〔A〕は『孟子』離婁上篇の一章、〔B〕はそれを解説した南宋の朱熹（朱子）の『孟子集注』の文章である。この両文を読んで、後の問に答えよ。（〔B〕の文中、設問のついでに「送りがない」を省いた部分がある。）

〔A〕 孟子曰、有<sub>二</sub>不<sub>レ</sub>虞<sub>一</sub>之譽、有<sub>二</sub>求<sub>レ</sub>全<sub>一</sub>之毀。

〔B〕 虞<sub>レ</sub>度也。呂氏曰、「行<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>足<sub>二</sub>以<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>譽<sub>一</sub>而<sub>レ</sub>偶<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>譽。是謂<sub>二</sub>不<sub>レ</sub>虞<sub>一</sub>之譽。求<sub>レ</sub>免<sub>二</sub>於<sub>レ</sub>毀<sub>一</sub>而

反<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>毀。是謂<sub>二</sub>求<sub>レ</sub>全<sub>一</sub>之毀。」言<sub>レ</sub>毀譽之言、未<sub>レ</sub>必<sub>二</sub>皆<sub>レ</sub>實<sub>一</sub>。修<sub>レ</sub>己<sub>一</sub>者、不<sub>レ</sub>可<sub>三</sub>以<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>遽<sub>レ</sub>爲<sub>二</sub>

憂喜。觀<sub>レ</sub>人<sub>一</sub>者、不<sub>レ</sub>可<sub>三</sub>以<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>輕<sub>レ</sub>爲<sub>二</sub>進<sub>レ</sub>退<sub>一</sub>。

〔注〕 ○譽—譽。 ○虞度也—「虞」の字の意味は「度」（音「たく」、訓「はかる」）である。

○呂氏—呂大臨。字は与叔。北宋の学

者。 ○言（言フコロハ……トナリ）……ということと言ったものである。

○實—実。

○爲—為。

○觀—観。

○輕—軽。

(1) 〔B〕によれば、「不虞之譽」とは、どういうことを意味するか。次の1~4のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 りっぱなことをしたにしては、それほど十分ではない名聲。

2 なすべきことを十分しなかったのに、ときどき得られる名聲。

3 りっぱなことをしたわけではないのに、思いがけず得た名聲。

4 ほめられないような行為をしながら、それでもなお与えられた名聲。

(2) 〔B〕によれば、「求全之毀」の「求全」とは、どういうことをさすか。次の1~4のうち、最も適当なものを一つ選べ。

1 努力して自己の人格を完成しようとする。

2 自分の弱点を完全にかくしきるようにつとめる。

- 3 したいと思うことを何でも自由におこなおうとする。
- 4 非難される余地のない完全な行為をしようとする。

(3) [B]の文中の「未<sub>二</sub>必皆實<sub>一</sub>」はどう読むか。次の1～4のうち、書き下し文として最も適當なものを一つ選べ。

- 1 必ず皆実なるを未だせず。
- 2 未だ必ずしも皆は実ならず。
- 3 未だ必ずしも皆は実ならずらんや。
- 4 未だ必ずしも皆は実ならずんばあらず。

(4) [B]の文中「以<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>遽爲<sub>二</sub>憂喜<sub>一</sub>」の「是」は、上文のどの語をさしているか。次の1～6のうち、最も適當なものを一つ選べ。

- 1 呂氏
- 2 不虞之譽
- 3 求全之毀
- 4 毀譽之言
- 5 未<sub>二</sub>必皆實<sub>一</sub>
- 6 修己

(5) [B]の文中の「爲<sub>二</sub>進退<sub>一</sub>」とは、この場合どういう意味か。次の1～4のうち、最も適當なものを一つ選べ。

- 1 仕官したり引退したりする。
- 2 地位を上げたり下げたりする。
- 3 意見を採用したり拒否したりする。
- 4 相手に近づいたり遠ざかったりする。

(6) [B]によれば、[A]の全文の趣旨はどういうことになるか。次の1～4のうち、最も適當なものを一つ選べ。

- 1 世人の毀譽はあてにならないところがあるので、それにとらわれてはならない。
- 2 世間の毀譽に一喜一憂し人の顔色をうかがうようでは、りっぱな人になれない。
- 3 世間に「不虞の誉」や「求全の毀」があるのは、望ましいことではないがやむを得ない。
- 4 「不虞の誉」や「求全の毀」は確實なものではないが、為政者の参考に役立つ意味がある。

VII 次の詩は、初唐の詩人宋之問（山西省汾州の人）が、左遷されて瀧州（広東省）に行く途中で作った「大庾嶺の北駅に題す」という五言律詩である。大庾嶺とは、江西省と広東省との省境をなす山脈で、昔から駅路が開かれ、梅の名所として知られる。この詩を読んで、後の間に答えよ。（設問のついで「送りがない」を省いた部分がある。）

陽月南飛雁 傳聞至此廻

我行殊未已 何日復歸來

江靜潮初落 林昏瘴不開

明朝望鄉處 應見隴頭梅

〔注〕 ○陽月―十月（陰曆）。 ○傳―伝。 ○歸―帰。 ○瘴―中国南部の有害な湿気。 ○處―処。 ○應―応。 ○隴―おか。 ここでは大庾嶺のこと。

(1) 第一聯（第一・第二句）・第二聯（第三・第四句）の大意として、次の1〜4のうち、どれが最も適当か。一つを選べ。

- 1 雁もここから南へは行かずに引返すというのに、わたしの旅はさらに続くので、いつ故郷に帰れるかわからない。
- 2 南から来た雁はここから引返すという。わたしもさらに南へ旅を続けねばならず、いつ故郷に帰れるかわからない。
- 3 わたしは雁とともに南に向かった。雁はここから引返したそうだが、わたしは故郷までまだ遠い旅を続けねばならない。
- 4 北に帰る雁よ、わたしはここから引返すと家族に伝えてほしい。果てしない旅を続けるわたしは、いつかまたここをおとずれる日もあ  
るだろう。

(2) 次の1～8の熟語のうち、「行」の字が第三句「我行殊未已」の「行」と同じ意味に用いられているのはどれか。二つを選び、二つの欄に一つずつマークせよ。

- 1 行燈    2 行書    3 行列    4 行為    5 行程    6 修行    7 品行    8 歩行

(3) 第三聯(第五・第六句)はどう読むか。第五句の書き下し文として最も適當なものを次の1～4のうちから、第六句の書き下し文として最も適當なものを次の5～8のうちから、それぞれ一つ選べ。

- 1 江静かにして潮初めて落ち    5 林の昏き瘴は開かず  
2 江の静かなる潮は初めて落ち    6 林は昏き瘴を開かず  
3 江は静かなる潮を初めて落とし    7 林昏くして瘴開かず  
4 江は静かなる潮にして初めて落ち    8 林は昏き瘴にして開かず

(4) 次の1～4の詩句のうち、右の詩にうたわれている作者の心情に最も近いものはどれか。一つを選べ。

- 1 孤帆の遠影碧空に尽き 惟だ見る長江の天際に流るるを (李白)  
2 更に玉鞭を把つて雲外に指せば 断腸の春色江南に在り (韋莊)  
3 愁ふる莫かれ前路知己無きを 天下誰人か君を識らざらん (高適)  
4 匹馬西のかた天外従り帰り 鞭を揚げて只だ鳥と共に飛ぶを争ふ (岑参)

實用辭

此種辭法，在文學上，固屬重要，而在實用上，亦極重要。蓋文學之辭，多屬修飾，而實用之辭，則多屬指實。指實之辭，其用之於社會，其影響之廣，實非筆墨所能形容。故凡欲從事於社會事業者，不可不先求其實用之辭。此種實用之辭，其用之於社會，其影響之廣，實非筆墨所能形容。故凡欲從事於社會事業者，不可不先求其實用之辭。

一、實用之辭，其用之於社會，其影響之廣，實非筆墨所能形容。故凡欲從事於社會事業者，不可不先求其實用之辭。此種實用之辭，其用之於社會，其影響之廣，實非筆墨所能形容。故凡欲從事於社會事業者，不可不先求其實用之辭。

二、實用之辭，其用之於社會，其影響之廣，實非筆墨所能形容。故凡欲從事於社會事業者，不可不先求其實用之辭。此種實用之辭，其用之於社會，其影響之廣，實非筆墨所能形容。故凡欲從事於社會事業者，不可不先求其實用之辭。

国 語 解答用紙控

I	(1)	㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(2)	a	㍿ ㍿ ㍿ ㍿	
	(3)	b	㍿ ㍿ ㍿ ㍿	
		c	㍿ ㍿ ㍿ ㍿	
	(4)	d	㍿ ㍿ ㍿ ㍿	
	(5)	e	㍿ ㍿ ㍿ ㍿	

III	(1)	a	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		b	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		c	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		d	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		e	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(2)	A	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		B	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		C	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		D	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		E	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(3)		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(4)		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
			㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(5)		㍿ ㍿ ㍿ ㍿

V	(1)	㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(2)	一	㍿ ㍿ ㍿
		口	㍿ ㍿ ㍿
		八	㍿ ㍿ ㍿
		二	㍿ ㍿ ㍿
		水	㍿ ㍿ ㍿
	(3)		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(4)		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(5)		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿

II	(1)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(2)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(3)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(4)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(5)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿

IV	(1)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(2)	㍿ ㍿ ㍿
	(3)	㍿ ㍿ ㍿
	(4)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(5)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(6)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(7)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(8)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿

VI	(1)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(2)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(3)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(4)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(5)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(6)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿

VII	(1)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(2)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
		㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
	(3)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿
(4)	㍿ ㍿ ㍿ ㍿ ㍿	

# 国立大学共通第一次試験

## 実地研究試験問題

### 社 会

(倫理・社会，政治・経済，日本史，世界史，地理の中から二科目を選択)

昭和49年11月23日

#### 注 意 事 項

1. 合図があるまでこの冊子を開いてはいけません。
2. 本冊子は69ページあります〔倫理・社会4～17ページ，政治・経済18～29ページ，日本史30～39ページ，世界史40～53ページ，地理54～69ページ〕。なお28ページと29ページとの間に，地図が一枚あります。落丁，乱丁，印刷不鮮明の箇所を見いだした場合はすみやかに申し出て下さい。
3. 解答用紙に汚れがあったときは申し出て下さい。
4. 解答用紙にはあらかじめ氏名および受験番号を印刷してあります。これを受験票と照合し，違いがある場合には申し出て下さい。
5. 本冊子の余白は草稿用に使用してさしつかえありません。各科目の末尾に解答用紙控が入っているので適宜利用して下さい。
6. 解答用紙は鉛筆でマークした部分を機械で直接読みとりますから，3ページの注意を正しく守って下さい。
7. 本冊子は持ち帰ってさしつかえありません。
8. 選択しない科目の解答用紙は時間の途中で回収します。

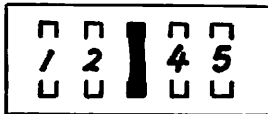


## 解答用紙記入上の注意

- (i) 解答用紙にはすべてHBの黒鉛筆でマークして下さい。
- (ii) 各解答欄にいくつかの記入位置がありますが、その中の1つだけにマークを記入して下さい。
- (iii) マークの記入方法は、つぎに示す「(i)良い例」のように記入し、「(iv)悪い例」のように記入してはいけません。

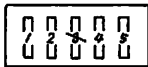
(i) 良い例

たとえば3と解答したいならば



左図の解答欄のように記入位置「3」の「」の中をなるべく正確にぬりつぶして下さい。

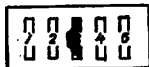
(iv) 悪い例



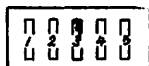
のように数字または文字だけに線を引いたり、



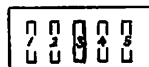
のように○でかこんだり、



のように「」の外まではみだしてぬりつぶしたり、



のように「」の中をぬりのこしたり、



のように線を引いてはいけません。

- (v) 訂正は消しゴムでよく消して下さい。
- (vi) 解答は指定された解答欄に記入し、解答用紙のその他の部分には何も書いてはいけません。
- (vii) 解答用紙は絶対汚さないようにして下さい。また折りまげたり、破ったりしないで下さい。

# 倫理・社会

I 次の文章(A～D)を読み、下記の設問に答えよ。

A 人間は家族の中に生まれ、家族の中で成育し、この中でわれわれ人間のパーソナリティ<sup>①</sup>の中核的部分はつくられる。家族は、血縁あるいは結婚によって生じた社会関係で結びついたもので **a** 社会集団といわれる。

B 家族の形態や機能は、時代、地域あるいは階層によっても異なる。第二次世界大戦前は、わが国では、父系の長子相続をたてまえとする家族制度によって長男が結婚しても家にとどまり、親・子・孫と何代にもわたって生活をともにするのがふつうであった。戦後の現代においては「家」制度<sup>②</sup>の廃止にともない、いわゆる **b** がしだいにふえつつある。

C 現代社会の特質の一つとして組織の巨大化があげられる。このような巨大な組織は今日では官公庁・会社・工場・商店あるいは政党・組合など、あらゆる方面にみられるようになった。これらはその組織を合理的・能率的に運営しようとして、合理的で非人格的な、いわゆる **c** 機構をそなえたものが非常に多い。このような状況のもとで、管理・専門・事務および販売などの仕事に従事する人びとの数はますます増加する傾向にある。<sup>③</sup>

D 現代社会を特徴づけるものとして、技術革新とならんで **d** のいちじるしい発達をあげることができる。このことにより一定の意識内容が同時に大量の人びとに伝達されることが可能になり、人びとはその影響下におかれることになった。大多数の人びとは同時に進行した大量生産・大量消費とともにかねらが属する階層や集団の如何にかかわらず生活様式が外見的には均質化して、画一的にもの考えるようになった。

問(1) 上の文章の空欄(  ~  )に入れるのに最も適当な語を、それぞれに対応する語群の(ア~エ)の中から一つずつ選べ。

(語群)

- a ア 機能的    イ 機械的    ウ 基礎的    エ 地域的
- b ア 複合家族    イ 直系家族    ウ 傍系家族    エ 核家族
- c ア 官僚制    イ 民主制    ウ 合議制    エ 代議制
- d ア 交通    イ マス・コミュニケーション    ウ 管理機構    エ 教育

問(2) 上の文章の下線部分(①~③)およびDの文章について、以下の問いに答えよ。

e 下線部分①の説明として最も適当な文章は(ア~エ)のどれか一つ選べ。

- ア 能力・気質・性格を統合的にとらえたものをさしている。
- イ 人柄や人品がすぐれた人格者の人格をさしている。
- ウ 自我意識をさしている。
- エ 法律上認められた一人の人間としての資格をさしている。

f 下線部分②の特徴を示す最も適当な語句を次の(ア~エ)の中から一つ選べ。

- ア 世帯主    イ 地主    ウ 保護者    エ 戸主

g 下線部分③を示す最も適当な語句を次の(ア~エ)の中から一つ選べ。

- ア 管理者層    イ 新中間層    ウ 旧中間層    エ 文化人

h 上の文章Dの意味する現代社会を何と呼ぶか、最も適当な語句を次の(ア~エ)の中から一つ選べ。

- ア 身分社会    イ 階級社会    ウ 市民社会    エ 大衆社会

Ⅱ 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

現代が直面しているさまざまな問題は、ある意味でヨーロッパ近代がもたらしたものだといえる。したがって、それは考える我として対象世界を支配しようとする近代精神のみによって解決することはできないであろう。現代の思想家たちは何らかのしかたで、このような近代精神への批判から出発して、より具体的な人間観をたてる。たとえば実存主義は、人間を具体的な状況の中で **a** の存在にかかわる自由な主体としてとらえようとし、社会主義は労働を通じて社会生活に参加する存在と考える。プラグマティズムはなお豊かに発展する可能性をのこす新世界を背景に、それぞれの社会環境の中で試行錯誤を重ねていく行動的な人間を考える。現在人間がおちいつているといわれる自己疎外からどのようにして脱出するか。実存主義は人間がひとりひとり自己の **b** に打ちかえることをすすめるが、社会主義はその原因を **c** そのものの矛盾にもとめてその変革を企て、プラグマティズムは、あらゆる問題に柔軟に対応できる人間性の育成をこころみる。しかしこれらの試みは、はたして人類に新たな明日を約束するであろうか。世界はなお、新しい可能性を求めている。

問(1) 上の文章の空欄( **a** ~ **c** )に入れるのに最も適当な語を、それぞれに対応する語群(ア～エ)の中から一つずつ選べ

(語群)

- |   |        |        |       |        |
|---|--------|--------|-------|--------|
| a | ア 神    | イ 自己自身 | ウ 人類  | エ 社会   |
| b | ア 客観性  | イ 社会性  | ウ 主体性 | エ 創造性  |
| c | ア 自由主義 | イ 現代文化 | ウ 人間性 | エ 社会機構 |

(2) 上の文章の下線の部分の内容としてふさわしくないものを一つ選べ。

- ア 資本主義の発展は人間の労働力をも商品化するにいたった。
- イ 機械技術の進歩は生産を機械化するとともに、人間を機械の部品にかえてしまった。
- ウ 強国間の帝国主義的競争が世界の各地につくり出した植民地は多くは解放されたが、いまなお発展途上国としての問題をかかえている。
- エ 家父長制的な社会機構の成立によって人権が圧迫されるにいたった。
- オ 技術の自然支配は人間の生活環境を破壊して、さまざまな公害を生み出した。

Ⅲ 次のA、Bの文章を読み、下の各問（1～5）に答えよ。

A 「なんじ自身を知れ」ということばは、ソクラテスの思想の出発点として有名であるが、実はブッダも同じようなことをいっている。ただし、ここで注意すべきことは、「自身（自我）」や「知」の内容が両者では違うということである。

ソクラテスは、人間の本質はロゴス（理性）としての自我であるといい、その本質を発揮する「よさ」をアレテー（人間の卓越性）と考えて、aと主張した。かれはこのアレテーを青年たちに教えるために、街頭に立ってかれらとさかんに議論している。ソクラテスは、Aのである。

一方ブッダは、人間の本質はアートマンであるというバラモン教の考え方を否定して、「アートマンなし」といいきった。人間ばかりでなく、他の存在にも本質などはないというのである。これがbの意味の根本である。しかもブッダは、人間の知が真理を把握することはできないといい、対話よりも、むしろ沈黙こそ「法」（ダルマ）に近づく道だと教えた。たとえば坐禅などをみても、沈黙の重みがよくわかるのである。

こうした「ことば」への拒否は、ブッダばかりでなく老子にもみられる。「大弁は訥なるが如し」と老子は語っている。<sup>①</sup> 仏教と同様に、ここにも「人為への拒否」をみてとることができるのである。

B 「天」や「天命」の教えは、儒学思想の根本であるが、「人間」もまたその思想の中心におかれている。たとえばcにおいては、有名な「<sup>うま</sup>厩火事」の話がそのことをよくいあらわしている。厩が火事になったのを見たかれが、人の安否をたずねて、馬のことは問わなかったというのである。ここには、人を愛する精神がよく表現されている。また、荀子は「弁」（ことば）が人間と他とを分けるきめ手であり、人間の卓越性だと考えている。ここから、儒学においては、人間を中心にみる立場が見うけられるのである。

さらに『旧約聖書』によると、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ」と神が人間に命じたといわれている。ここからは、Bという考え方が見てとれるのである。<sup>②</sup>

このように見てくると、東西の「思想の源流」の多様性がよく理解されるであろう。

問(1) 上の文章の中の空欄( a ~ c )に入れるのに最も適切なことばを、次のそれぞれに対応する語群の(ア~エ)の中から一つずつ選べ。

- (a) ア 徳は過多と過少との中庸にあり  
イ 徳は知なり  
ウ 知恵いでて大偽あり  
エ 徳は孤ならず、必らず隣あり
- (b) ア 梵我一如    イ 中道    ウ 無為自然    エ 諸法無我
- (c) ア 仁の教えを説いた孔子    イ 真人を教えた荘子  
ウ 王道政治を理想とした孟子    エ 知行合一説を展開した王陽明

(2) 上の文章の中の〔A〕の中に入れるのに最も適切であると思われる文を、次の(ア~エ)の中から一つ選べ。

- ア 人間こそ万物の尺度であると考えて、客観的な真理の存在を否定する相対主義的な考え方を展開した。
- イ はじめに「ことば」があり、「ことば」は神と共にあり、「ことば」は神であったと説いた。
- ウ 負け目の議論を勝ち目の議論にかえることを教えて、青年たちを反ボリス的にしようとして努力した。
- エ 「ことば」をかわし対話することによって、普遍的真理に近づくことができると考えた

(3) 上の文章の中の〔B〕の中に入れるのに最も適切であると思われる文を、次の(ア~エ)の中から一つ選べ。

- ア 人間は自然の中の一部でしかない
- イ 人間が自然の中心にある
- ウ 人間は自然の前ではあまりにも無力である
- エ 人間と自然は一体である

(4) 下線部分④の中の引用文にみられる逆説的な論旨の展開のしかたに最もよく類似しているものを、次の(ア~エ)の中から一つ選べ。

- ア 目には目を、歯には歯を
- イ 夫子の道は忠恕のみ
- ウ 生者必滅、会者定離

エ 大道すたれて仁義あり

(5) 『旧約聖書』の信仰によって、下線部分②にみられる「神」がおこなったわざとは考えられていないものを、次の(ア～エ)の中から一つ選べ。

ア はじめに天と地を創造し、「光あれ」と語った

イ 「紅海の奇跡」を起こして、みずからの民をエジプトから救出した

ウ 「心の貧しい人たちは、さいわいである」と山上で群衆にさとした

エ 「わたしのほかに何物をも神としてはならない」と命じて、人間に律法を授けた

Ⅳ 次の文章を読み、下の各問（1～6）に答えよ。

近代における人間の自覚のはじまりは、ルネサンスと宗教改革とにおいて展開された。ルネサンスは、古代文化にふれ、中世のさまざまな束縛から解放された人間が、[ a ] ことを特色とするものであった。すなわち、人間を中心として考え、自分の能力を信じ、この能力を多面的、調和的に発揮しようとするのが、ルネサンスの理想的人間像であり、それは [ b ] と呼ばれるのにふさわしいものであった。

また、宗教改革は、ローマ教会の絶対的権威から、神への信仰を個人の内面的自覚によってとりもどそうとするものであった。すなわち、神の前における人間の平等を確立し、個人の信仰の自由を徹底させることによって、人間の自覚が人格の確立として示された。<sup>①</sup>

以上のように、近代思想の誕生にみられる人間の自覚は、それまでの中世的なものの考え方に変わって、自然や社会を新たに考えなおしてみようとする動きとして展開されるようになった。その新しい考え方の中心をなすものは、合理的精神であるが、それはまず、自然を対象とする自然科学においてあらわれた。すなわち、近代科学は、人間自らの観察と実験によって積極的に自然にはたらきかけて、自然現象のうちに存在する法則や真理をとらえようとするものであった。このような自然科学の合理的で実証的な方法を生かして、学問研究のしかたとして理論的な基礎づけをしたり、近代的な自我のあり方を確立したりしたものが、近代哲学といわれるものである。すなわち、それには人間の感覚や観察をよりどころにして確実な知識を求めていこうとする経験主義（経験論）と、人間自らの理性による思考を重視して真理を探究していこうとする理性主義（合理論）との二つの方向がみられた。前者を代表するものとしては [ c ] <sup>②</sup>、後者を代表するものとして [ d ] <sup>③</sup> をあげることができる。

さらに、近代の合理的精神が、社会における個人の生き方を問題とすると、近代の民主的社会的実現を目指す社会・政治思想として展開された。それは理論としては社会契約説と<sup>④</sup>して現われ、市民革命を実現する大きなはたらきをもった。こうして、合理的精神を発揮した近代の人間は、個人の自由と平等をたてまえとする民主的社会的な社会を成立させ、産業の発展に応じて、合理的な生活をうちたてていくことになった。しかし、人間の自覚をさらに深めて、人間や社会のあり方の原理を追求するとき、善と幸福についての新しい倫理思想の確立を課題として要請せざるをえなくなった。そこに個人の自由と平等を、道徳の原理あるいは立法の原理として基礎づける市民社会的な倫理が提示されることになった。その代表的なものとして、 [ e ] の人格主義と [ f ] の功利主義をあげることができる。



問(1) 上の文章の中の [ a ] の中に最もよくあてはまる文を、次の(ア～エ)の中から一つだけ選べ。

- ア よく生きるためには、この世の現象にとらわれることなく、それをこえた完全なもの、永遠なものを絶えず愛慕する。
- イ 目の前に現存している現実の社会の姿をよく把握するとともに、歴史発展の理性的な法則を洞察する。
- ウ 日常生活における経験や行動を重視し、それらと結びついた役に立つ知識を絶えず獲得していく。
- エ 現実の生活を積極的に肯定し、人間の無限の可能性や独自の個性を尊重する。

(2) 上の文章の中の b の中に最もよくあてはまる語句を、次の(ア～エ)の中から一つだけ選べ。

- ア 職業人    イ 万能人(普遍人)    ウ 善美の人    エ 超人

(3) 上の文章の中の c ～ f に最もよくあてはまる人名を次の(ア～コ)の中から一つずつ選べ。

- ア ルソー    イ デカルト    ウ スミス    エ ダーウィン    オ ルター
- カ カント    キ マキアベリ    ク ベーコン    ケ ヘーゲル    コ ベンサム

(4) 上の文章中の下線部分①に関して、最もよくあてはまるものを、次の[ア～エ]の中から一つだけ選べ。

- ア あらゆる職業は神から与えられた天職であるゆえに、各人の職業に努め励むことが神の意志にそうことになるという職業倫理。
- イ 道徳法則を尊敬することから実現しようとする良心だけが、真の善とよばれるにふさわしいとする考え方。
- ウ 各人が自分の利益を追求して経済活動をすれば、そこに「見えざる手」がはたらい、全体としての社会の調和がとれるとする予定調和説。
- エ 信仰の真理も理性の真理も、ともに真理である以上、真理の源泉であり万物の創造主である神に由来するから究極に一致し調和するとの考え方。

(5) 上の文章の中の下線部分②と③に最もよくあてはまるものを、次の甲群・乙群の[ア～カ]の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- 甲群 ア われ思う、ゆえにわれあり      イ 神は死んだ  
       ウ 人間は考える葦である            エ 知は力なり  
       オ 最大多数の最大幸福            カ 有用なものが真理
- 乙群 ア 弁証法      イ 帰納法      ウ 唯物史観  
       エ 演繹法      オ 進化論      カ 自然法

(6) 上の文章中の下線部分④について、それに最もよくあてはまるものを、次の(ア～エ)の中から一つだけ選べ。

- ア 政治の世界では、教会や宗教に基づく道徳よりも、「キツネの知恵とシシの勇気」という権謀術数が必要である。
- イ 人間の自然権を守るためには、神や国王の権威から離れた主権のあり方や国家の成立を考えることが必要である。
- ウ 正義が支配する理想国家を実現するには、国家を構成する統治者(哲人)・武人・庶民の3階級が、知恵・勇気・節制のそれぞれの徳を発揮する必要がある。
- エ 個人の自由と社会における他人の自由とを両立できるような国家こそ、現実における最高の共同体であるといえる。

V

問 1 次の文章を読み、下の各問に答えよ。

善人なおもて往生おうじようをとぐ、いはんや悪人をや。しかるを世のひとつねにいはく、悪人なお往生す、いかにいはんや善人をや。この条一旦いつたんそのいはれあるににたれども本願他力の意趣いしゆにそむけり。そのゆへは、自力作善じりきさぜんのひとは、ひとへに他力をたのむところがけたるあひだ、弥陀の本願にあらず。しかれども、自力のころをひるがへして、他力をたのみたてまつれば、真実報土の往生をとぐるなり。煩惱具足のわれらは、いずれの行にても生死しやうじをはなれることあるべからざるを、あはれみたまひて、願がんをおこしたまふ本意ほんい、悪人成仏じようぶつのためなれば、他力をたのみたてまつる悪人、もとも往生の正しょういん因いんなり。よて善人だにこそ往生すれ、まして悪人はと、おほせさふらひき。

(A) 下線部①の意味として、次の各文(ア～ウ)のうち、どれが最も適切か。一つだけ選べ。

- ア 自信に満ちた心にたちかえって
- イ 世のため人のためを考えて
- ウ 自分の無力さに気づいて

(B) 下線部②の意味として、次の各文(ア～ウ)のうち、どれが最も適切か。一つだけ選べ。

- ア 生あるものは死をさけることができないと知る
- イ 生をとり死を捨てようとする執着心をはなれる
- ウ 生も死もない状態で永遠に生きる

(C) 下線部③について、その理由と考えられるのは、次の各文(ア～ウ)のうち、どれが最も適切か。一つだけ選べ。

- ア 人はもともと罪深い無力な存在であることに気づかないで、自分の力で善をつみ浄土に往生できている人よりも、かえって、自ら善をなしえない人間の罪深さに悩んでいる悪人の方が、弥陀の力をたのむ心が強くなるから。
- イ 仏教の学問や修行をつんで自ら努力している善人は、自分の力で浄土に往生できるのだから、弥陀の救いは必要とされない。しかし、世の中には、自分の力ではどうしても善行をつむことのできない悪人がいて、弥陀の救いは、むしろ、これらの悪人にむけられているから。
- ウ 弥陀の本来の願いは、悪人を救済することにあるのだから、なまじ善行に努力するよりも、悪をかさねて悪人となることの方が、弥陀の救済にあずかる資格がまずと考えられるから。

(D) 問題文は、次の人物（ア～ウ）のうち、どの人物の思想を述べたものか。一つだけ選べ。

- ア 曹洞宗の開祖である道元の思想
- イ 浄土真宗の開祖である親鸞の思想
- ウ 日蓮宗の開祖である日蓮の思想

問 2 次の文章を読み、下の各問に答えよ。

徳川時代には儒学のうち、特に朱子学が栄えたが、朱子学者たちは、とくに **a** を重んじた。**a** は「うやまう」ではなく、「つつしむ」であり、自己の内面に私利私欲がすこしでもあることをいましめ、つねに道とひとつであることを求めるきびしい心のあり方である。人格を高貴に保とうとするこのようなきびしさは、**b** たちに深い共感をもって受け入れられた。しかし、これに対しては、人と人の融和合一を求める精神に欠けるところがあるという批判をもたらし、朱子学に満足できない儒者のあいだに、**c** を重くみる傾向が生まれた。**c** を重くみる儒学の成立は、心情の純粋さを尊ぶ日本の伝統のうえに形成された日本独自のものである。

一方、江戸時代中ごろ、仏教や儒学の思想によって神話を理解することをやめ、『古事記』などの古典を直接に研究し、日本人固有の考え方を求め、ここに人間の真実の生き方があると説く国学が生まれた。その代表的人物は **d** (1730～1801) である。彼は、日本の古代に教えがなかったのは、道徳が実現されていたからであると考え、**e** つまり、「よくも悪しくも生まれつきたるままの心」を尊重した。そして、儒学は人間のありのままの性情をおさえるものであり、完全無欠な人間であることを求めるさかしらな教えであると批判した。

(E) 上の文章の空欄 (**a** ～ **e**) に入れるのに最も適当な語を、それぞれに対応する語群 (ア～エ) のうちから一つずつ選べ。

(語群)

- |   |                         |                       |              |                        |
|---|-------------------------|-----------------------|--------------|------------------------|
| a | ア 孝                     | イ 忠                   | ウ 敬          | エ 和                    |
| b | ア 武士                    | イ 農民                  | ウ 職人         | エ 商人                   |
| c | ア 礼                     | イ 義                   | ウ 智          | エ 誠                    |
| d | ア 契沖                    | イ 本居宜長                | ウ 賀茂真淵       | エ 平田篤胤 <sup>あつたね</sup> |
| e | ア 大和心 <sup>やまとごころ</sup> | イ 漢心 <sup>からごころ</sup> | ウ もののあわれを知る心 | エ 真心 <sup>まごころ</sup>   |

(F) 上の文章の下線部の文意にそうものとして、次の語（ア～エ）のうち、どれが最も  
適当か。一つだけ選べ。

ア 清く明き心    イ 恥を知る心    ウ 名を惜しむ心    エ 剛勇の心

（說明：此稿係由（一）稿修改而成，其內容與（一）稿無異，特此說明。）

（說明：此稿係由（一）稿修改而成，其內容與（一）稿無異，特此說明。）

（說明：此稿係由（一）稿修改而成，其內容與（一）稿無異，特此說明。）

# 社会 倫理·社会 解答用紙控

I

(1)

a	○	○	○	○
b	○	○	○	○
c	○	○	○	○
d	○	○	○	○

(2)

e	○	○	○	○
f	○	○	○	○
g	○	○	○	○
h	○	○	○	○

II

(1)

a	○	○	○	○
b	○	○	○	○
c	○	○	○	○

(2)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

III

(1)

a	○	○	○	○
b	○	○	○	○
c	○	○	○	○

(2)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

(3)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

(4)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

(5)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

IV

(1)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

(2)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

(3)

c	○	○	○	○
d	○	○	○	○
e	○	○	○	○
f	○	○	○	○

(4)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

(5)

	甲 群	乙 群
2	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
3	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○

(6)

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

V

A	○	○	○
B	○	○	○
C	○	○	○
D	○	○	○

E

a	○	○	○	○
b	○	○	○	○
c	○	○	○	○
d	○	○	○	○
e	○	○	○	○

F

○	○	○	○	○
---	---	---	---	---

# 政治・経済

I 次の文中の各 { } のなかにはそれぞれ4つの語句がある。そのうち最も適当なものを一つ選べ。

民主制とは「自由でありたい」という人間の願望を制度化したものといえよう。他人に服従したくない、いかなる拘束も受けたくないという衝動は人間の原始的本能ともいいうるのではあるまいか。(1) { ア 自由主義者    イ 平和主義者 } は万人が無拘束の自由を享受しうる状態を人類の自然状態であるとし、人為の所産である国家や権力を排撃した。しかし、「人間は政治的動物である」と(2) { ア ソクラテス    イ プラトン } がいったように、支配も拘束もない自然状態というものは現実にはありえない。人間は人々が相互に拘束しあう社会の中で生れ育つのである。この社会の中でなおどうすれば自由への願望が生かされるか。それへの答が民主制なのである。

民主制は人間社会に権力の存在が不可避だと考えるが、その権力の意志を可能な限り被治者の意志と合致させることによって、この支配を他者の支配ではなく、自己の支配にしようとする。この意味で民主制は(3) { ア 精神的自由    イ 道徳的自律 } の体制といえる。このために考えられたのが(4) { ア 全会一致制    イ 多数決制 } である。これによって自己の意志と異なった意志に支配される可能性が最小化されるという意味で、最大限の自由が実現される。しかし、そのもとでは、自己の意志が政治に実現されない(5) { ア 非有権者 }  
ウ 部外者

イ 棄権者 } の存在が不可避である。自由を基本理念とする民主制は、彼等にも可能な限りの自由を与えようとする。そのために近代憲法は、権力の発動に限界を画する(6) { ア リコ }  
ウ 人権  
ール制    イ 直接選挙制度 } や、権力の発動を抑制する(7) { ア 直接民主制    イ 権力  
宣言    エ 社会保障制度 } ウ 大統領制    エ 民主  
分立制 } などを定めている。民主制における自由は政府に反対する自由を含んでいる。したが

って、そのための政治集団、すなわち(8) { ア ジャーナリズム    イ 労働組合 } の存在  
ウ 野党    エ 革命団体 } は民主制の基本的な一要素をなしている。それがないと国民は(9) { ア 自由か死か }  
ウ 独裁か無秩序か

イ 保守か革新か } という二者択一を迫られることになる。いつでも政府を牽制するものが  
エ 理想か現実か }



政治体制の内部にいるということは、確かに非能率で弱体で不安定であるようにみえるが、

(10) { ア 相互批判   イ 賢者の支配 }  
      { ウ 政府の努力   エ 革命への恐怖 }

制の (11) { ア 世襲の君主を元首とする立憲君主制   イ 権力の誤りを抑制する者のい  
          { ウ 財力をもつ者が権力を独占する金権政治   エ 行政権の首長が大きな権限を

ない独裁制 } に対する相対的な長所である。そして (12) { ア 勝手な言論を放置しておく  
                  { ウ 不景気で失業者がふえると

と   イ 選挙による政権交代の道が開かれていないと } 反対者を革命に追いやる恐れがある。  
      エ いつまでも多数がとれないと

Ⅱ 次の文章の空欄(1)~(8)に最もよく当てはまる語句を、語句群 1~24のなかから一つ選べ。

弾劾裁判という公務員罷免の方法は、日本国憲法では (1) についてだけ設けられており、国会議員のなかから選ばれた者で構成され、独立して職権を行う特別の裁判所が裁判に当たるとる。

アメリカで大統領を解任するのにこの方法しかないのは、そこでの行政府と立法府との関係が、わが国の内閣と国会の関係とは大きく異なるからである。内閣総理大臣が (2) のなかから国会によって指名され、彼のひきいる内閣全体の存立が (3) の信任につねに依存するわが国では、特殊な裁判手続きで内閣総理大臣を憲法違反や法律違反として有責ときめつけることなしに、いつでも政権交代をもたらすことができる。行政府を民主的にコントロールするための制度としては、このような (4) の方がすぐれていると言えよう。

ニクソン氏が不本意な辞任にまで追いつめられたのは、必ずしも、18世紀末につくられ (5) の権力分立論をもっとも忠実に実行したといわれるアメリカ憲法の政治制度が効果的なためではない。議員の選挙でも、多数の選挙人が一人だけの代表者を選ぶ (6) は人物本位の選択に傾くともいわれるが、一人の代表者が全国民によって選ばれる場合にはなおさらそうであり、この点で、ニクソン氏はアメリカ国民が大統領についてもつイメージを裏切ったのであった。

アメリカ国民は、憲法の用意している手続きを1世紀ぶりに発動し、自由な報道と世論の力によって、ひとたび選んだ国政の最高指導者を権力の座からひきおろしたわけであるが、このことは、(7) というものが、最高権力者を神格化し、国民の手のとどかない存在とするところの (8) とは基本的に異なるということ、あらためて世界に示したといえる。

語句群	1 モンテーニュ	2 参議院	3 地方公共団体の長	4 小選挙区制
	5 天皇制	6 最高裁判所裁判官	7 衆議院	8 民主制
	9 大統領制	10 文民	11 衆議院議員	12 国民
	13 国会議員	14 裁判官	15 利権政治	16 比例代表制
	17 モンテスキュー	18 少数代表制	19 ロック	20 国会
	21 議院内閣制	22 専主制	23 二大政党制	24 政党政治



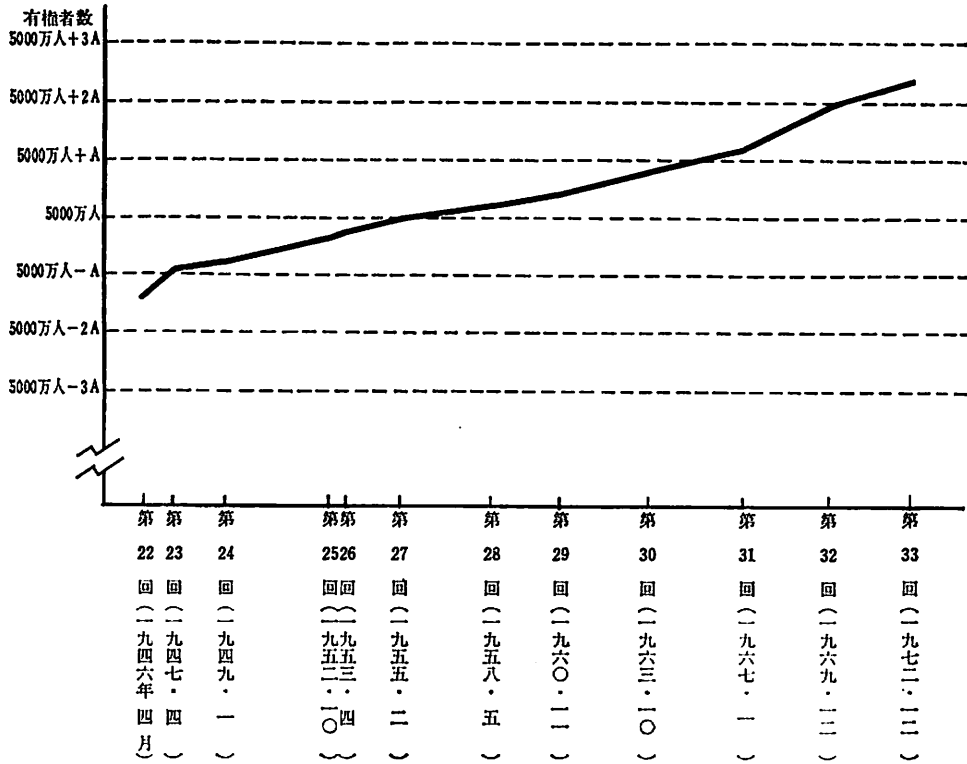
Ⅲ 次の文中の各 { } のなかにはそれぞれ3つの語句がある。そのうち最も適当なものを一つ選べ。

選挙権は国民の政治参加のための最も基本的な権利の一つであるといえる。わが国の選挙権拡張の歴史をみると、1889年の衆議院議員選挙法では、有権者を25歳以上の男子で直接国税15円以上を納めるものと定めていた。この時の有権者は約45万人といわれ、それは当時の人口のほぼ(1) { ア 1%, イ 2%, ウ 3% } 強であった。その後、財産による選挙権の制限は次第に緩和され、(2) {ア 1919年, イ 1925年, ウ 1928年} の選挙法改正で25歳以上の男子には、財産の多少にかかわらず、選挙権が与えられることとなった。

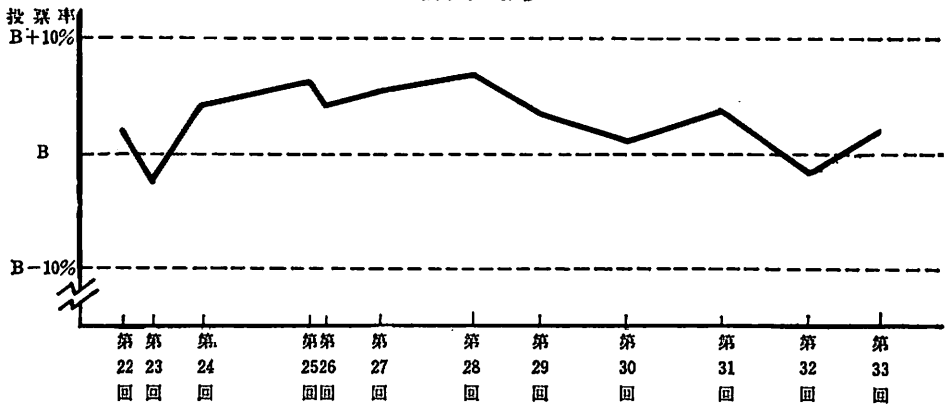
しかし、婦人が選挙権を獲得したのは第2次大戦後であり、この時の選挙法改正で選挙権年齢も20歳に引下げられ、有権者の数は一挙に増大した。次ページの第1図は、戦後の有権者数の増大を示すものである。縦軸に付したAは、(3) {ア 500万人, イ 1,000万人, ウ 1,500万人} を意味している。現在は、20歳以上の男女が選挙権をもっているが、有権者の年齢をさらに引き下げよという議論もある。いまかりに有権者資格を2歳引き下げて18歳以上の男女を有権者とすれば、有権者総数は現在に比して約(4) {ア 100万人, イ 200万人, ウ 400万人} ほど増大することとなる。

有権者資格の拡大は、多くの国民に対して政治参加の途を開くものであるが、他方でそのことが有権者1人1人のもつ1票の力を弱めてくるともいえる。帝国議会が発足した当時、衆議院議員の定数は300人であり、当時の有権者数を45万人とすれば、議員1人あたりの有権者数は1,500人であった。同じような計算を第33回(1972年)の総選挙についておこなえば、衆議院議員1人あたりの有権者数は約(5) {ア 10万人, イ 15万人, ウ 20万人} となっている。また、多くの人が選挙権を得たが、そのすべての人が投票しているわけではない。第2図は、戦後の総選挙における投票率の推移を示している。投票率を表わす縦軸の目盛りBは、(6) {ア 50%, イ 60%, ウ 70%} を示している。

第1図 戦後総選挙における有権者数の推移



第2図 戦後総選挙における投票率の推移



Ⅳ 次の4つの統計表は、いずれもわが国の昭和35、40および45年の三時点における経済指標の幾つかについて、それを構成比で見たものである。次の(1)～(4)の間に答えよ。

(1) 下表のA、B、Cの3欄には、それぞれ、ア 第1次産業、イ 第2次産業、ウ 第3次産業 のいずれかの語句が入る。このうちA欄は、ア、イ、ウのどれにあたるか。

産業別にみた国内純生産構成比

	A	B	C	計
昭和35	13.0 %	46.5 %	40.5 %	100.0 %
40	9.8	50.5	39.7	100.0
45	6.4	49.8	43.8	100.0

(2) 下表のA、B、Cの3欄には、それぞれ、ア 個人消費支出、イ 政府の財貨・サービス経常購入、ウ 国内総資本形成 のいずれかの語句が入る。このうちA欄は、ア、イ、ウのどれにあたるか。

国民総支出の項目別構成比

	A	B	C	計
昭和35	35.2 %	8.8 %	55.9 %	100.0 %
40	32.7	9.3	56.8	100.0
45	39.2	8.2	51.3	100.0

注 この表に関するかぎり、A、B、Cの合計は正確には100.0%に達しない。経常海外余剰が考えられるからである。

(3) 下表のA、B、Cの3欄には、それぞれ、ア 自営業主、イ 家族従業者、ウ 雇  
用者 のいずれかの語句が入る。このうちA欄は、ア、イ、ウのどれにあたるか。

地位別にみた全産業就業者の構成比

	A	B	C	計
昭和35	22.7 %	23.9 %	53.4 %	100.0 %
40	19.9	19.3	60.8	100.0
45	19.2	15.9	64.9	100.0

(4) 下表のA, B, C, D, Eの5欄には, それぞれ, ア 食料費, イ 住居費, ウ 光熱費, エ 被服費, オ 雑費 のいずれかの語句が入る。このうちA欄は, ア, イ, ウ, エ, オのどれにあたるか。

都市全世帯の費目別家計支出構成比

	A	B	C	D	E	計
昭和35	32.4 %	12.0 %	41.6 %	8.9 %	5.1 %	100.0 %
40	36.0	11.4	38.1	9.9	4.6	100.0
45	40.4	10.9	34.2	10.7	3.8	100.0

V 次に挙げる(A)～(H)の8個の文章は、それぞれ特定の国に関し、第2次大戦後、ことに1970年ごろまでの十余年間における政治・経済状況の一面を述べたものである。各文章でアンダーラインを付した「その国」とは、どこをさすか。該当する国を折込みの世界地図中の番号で答えよ。

(A) その国の国際収支は、1950年代～60年代を通じ、一貫して赤字を続けてきたが、68年の金投機以降急速に悪化し、ついに71年に至って、その国の通貨と金との交換停止がおこなわれた。

(B) 第2次大戦後に独立したその国は、OECDの一員である。わが国とは、貿易上で密接な関係にあり、その国にとって日本は、輸出相手国の第1位、おなじく輸入相手国では、日本は米国について第2位である。

(C) その国は、世界人口の約7分の1を占める。経済的には、1人当り年間国民所得は80ドル(1970年推計)に過ぎないにもかかわらず、政治的には、核爆発実験を誇示する。乳児死亡率の高いこと、慢性的なインフレーション、隣接国との国境紛争など、その国が内外にかかえる問題は多い。

(D) その国の経済外交は、つねにドルへの挑戦の姿勢をとってきた。1950年代の末、2回にわたって通貨の切下げをおこなったものの、68年の通貨危機にさいしては、自国通貨の切下げを拒否し、それがひとつの原因にもなって、10年以上もつづいた首脳交代がおこなわれることとなった。交代のあとに、ようやく通貨は切下げられたのである。

(E) 人口も多く、自然資源も豊かなその国は、第2次大戦後いちはやく植民地から独立国となった。1955年の第1回アジア・アフリカ会議の主催国となるなど、非同盟会議の指導国のひとつでもあったが、65年の軍事クーデターにより、国内の政治状況が大きく変化した。現在、その国の経済が日本に依存している度合は高く、対日輸出入額は、その国の総輸出入額のそれぞれ30%前後に達している(1969年の値)。

(F) その国の対米輸出額は、その国の輸出総額の30%強に当り、その国の対米輸入額は、その国の輸入総額の30%弱を占めている。これを逆に米国側からみると、前者は米国の輸入総額の14%前後に当り、後者は米国の輸出総額の約10%ないし13%に相当している(1970年ごろまでの値)。その国は主として米国へ工業製品を売り、米国からは多額の農産物を買っている。



(G) 19世紀のはじめいらい平和政策を堅持し、両大戦を通じて中立を保ちえたその国は、きわめて高水準の工業国家であり、しかも1972年の第1回国連人間環境会議が開かれたことでも分るように、自然環境の保護にはきわめて熱心な伝統がある。中立政策を保つための防衛軍備にも大きな力を注いでいるが、社会保障制度の完備している点でも世界有数で、国家予算の3分の1がそのために投入されている。

(H) その国は、下のリスト6カ国のうちの一国であって、国連の指定する重点援助を要するLLDC（低位発展途上国）に属している。LLDCとは、(a)一人当たり国民総生産が100ドル以下、(b)国内総生産に占める鉱工業生産分が10%以下、かつ(c)国民の識字率が20%以下、とされている国のことである。

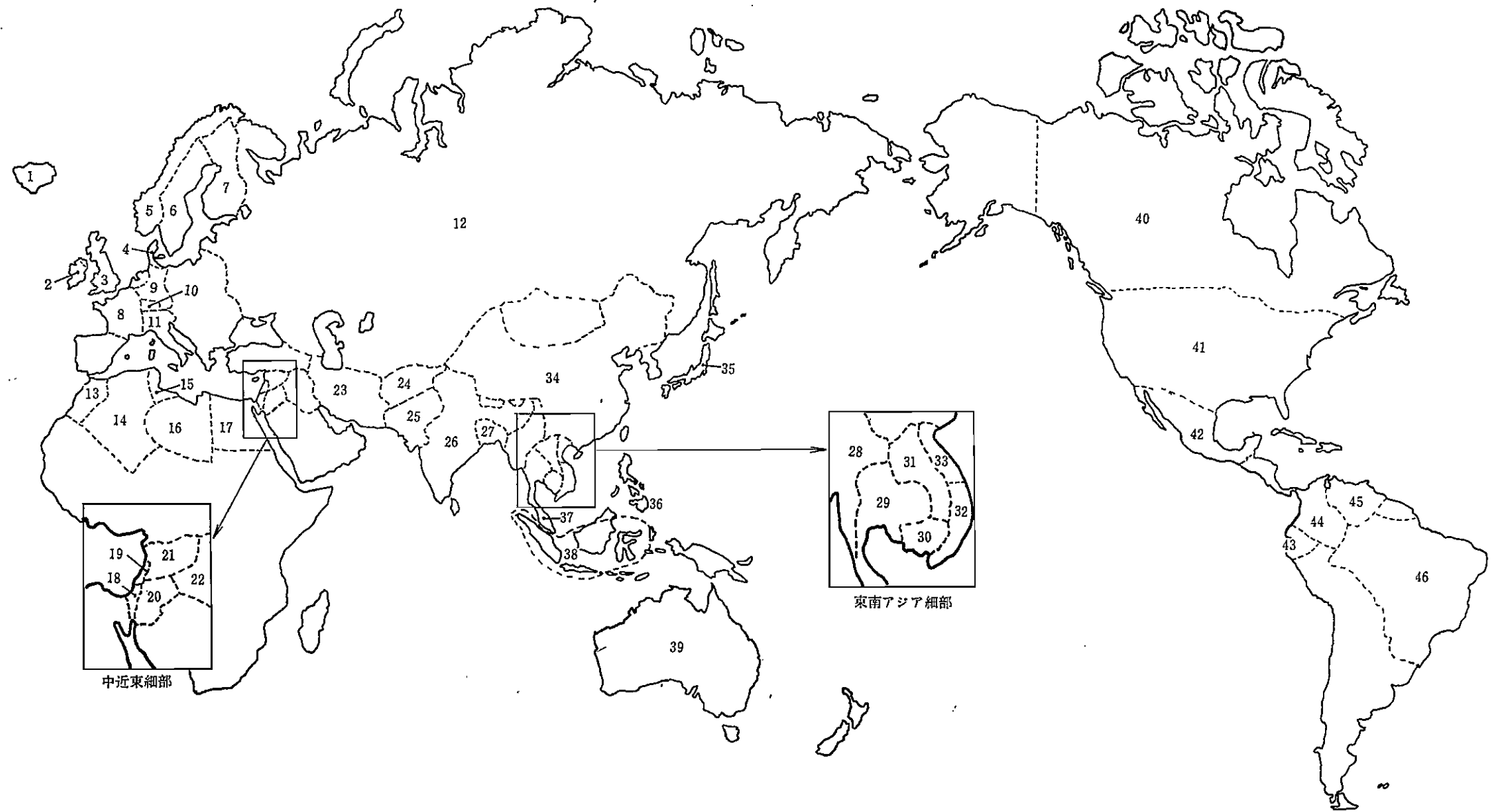
アイルランド	イラク	イラン
ベネズエラ	ラオス	リビア

草稿用紙

此紙係供各級政府機關及學校機關之草稿用紙。其紙面之格式，係根據中華民國二十九年一月二十二日內政部頒布之「政府機關公文格式」及同年一月二十二日教育部頒布之「學校機關公文格式」之規定而設計之。其紙面之格式，係根據中華民國二十九年一月二十二日內政部頒布之「政府機關公文格式」及同年一月二十二日教育部頒布之「學校機關公文格式」之規定而設計之。

此紙之格式，係根據中華民國二十九年一月二十二日內政部頒布之「政府機關公文格式」及同年一月二十二日教育部頒布之「學校機關公文格式」之規定而設計之。其紙面之格式，係根據中華民國二十九年一月二十二日內政部頒布之「政府機關公文格式」及同年一月二十二日教育部頒布之「學校機關公文格式」之規定而設計之。

中華民國二十九年一月二十二日  
內政部頒布  
教育部頒布





# 日 本 史

I 次の(1)~(5)の各文が、歴史的にみて正しい文章となるように、(A)・(B)・(C)の3群の各三つの文節ア・イ・ウのうちから、もっとも正しいもの一つずつ選べ。

- (1) {  
ア 5世紀に、  
(A) {  
イ 3世紀の前半に、  
ウ 6世紀の中ごろ、  
ア 中国に派遣された小野妹子のたずさえた国書が煬帝を怒らせたが、  
(B) {  
イ 邪馬台国の卑弥呼は後漢の都に使を送ったが、  
ウ 倭の五王はつぎつぎに中国の南朝に使を派遣したが、  
ア これは唐との対等な国交を目ざす聖徳太子の意志にでたものであるといわれる。  
(C) {  
イ これは中国の王朝の権威を背景として王権を強化しようとしたものである。  
ウ その際与えられた金印が、のちに志賀島から発見されている。
- (2) {  
ア 平清盛は、  
(A) {  
イ 安倍氏は、  
ウ 平将門は、  
ア 一族の争いからやがて朝廷に反抗し、京都に攻め上っていちじ新皇と称したが、  
(B) {  
イ 蝦夷の出で陸奥に勢力を張っていたが、朝廷にそむいて乱をおこし、  
ウ 後白河天皇と崇徳上皇との対立に発した保元の乱に際して天皇側に味方し、  
ア 出羽の藤原秀衡のたすけを得た頼義・義家父子に滅ぼされた。  
(C) {  
イ 下野の押領使藤原秀郷らに討たれた。  
ウ 源義朝とともに奮戦して上皇方を破った。
- (3) {  
ア 徳川家康は、  
(A) {  
イ 豊臣秀吉は、  
ウ 織田信長は、  
ア 長崎が教会領に寄進されていることなどを知り、  
(B) {  
イ 仏教教団の勢力をおさえる意図もあって、  
ウ キリスト教徒の団結をおそれ、糸割符仲間を保護する目的もあって、  
ア キリスト教を保護し、安土や京都・大坂・山口などに教会堂の建立を許可した。  
(C) {  
イ キリスト教禁止の方針をとり、宣教師の国外追放を命じた。  
ウ キリスト教禁止令をだし、鎖国体制を完成した。

- (4) {
- ア 江戸幕府は、外国貿易によって深刻な影響を受けた国内市場を安定させるため、
  - (A) {
    - イ 江戸幕府は、アロー号事件いらいイギリス船が近海に出没して沿岸漁民に脅威を与えたので、
    - ウ 江戸幕府は、アヘン戦争の情報を知って驚き、
  - {
    - ア 薪水給与令をだして、
    - (B) {
      - イ 五品江戸廻し令をだして、
      - ウ 異国船打払令をだして、
    - {
      - ア 来航する外国船は二念なく打払うよう命じた。
      - イ 打払令を緩和し、外国船が漂着した場合これに薪水食料を与えることにした。
      - (C) {
        - ウ 雑穀・生糸などの輸入品は国内各地に直送せず、いったん江戸の間屋へ送るよう命じた。
- (5) {
- ア 平民社は、
  - (A) {
    - イ 民友社は、
    - ウ 政教社は、
  - {
    - ア 欧化主義に反対する三宅雪嶺・志賀重昂らが、
    - (B) {
      - イ 平民主義を唱えた内村鑑三らが、
      - ウ 社会主義思想の紹介・普及につとめていた幸徳秋水・堺利彦らが、
    - {
      - ア 日清戦争が近づくにつれて組織したもので、非戦論を唱えた。
      - イ 主宰した出版社で、「国民之友」・「国民新聞」を発刊して全国に大きな影響を与えた。
      - (C) {
        - ウ 結成した文化団体で、雑誌「日本人」などを発刊して国粹主義を鼓吹した。

Ⅱ 次の(A)および(B)の文中には、空欄 (1) ~ (15) が含まれている。それぞれの文章の下の事項群の中から、これにもっとも適当するものを選べ。

(A) ほんらい中国の (1) で完成された法治体制である律令体制が、わが国において整備確立したのは、7世紀後半から8世紀初頭のことである。これを象徴するのが (2) を総裁として編集のすすめられた (3) の完成であり、政治都市としての (4) の成立である。それらはいずれも中国の影響を強く受けながらも、わが国独自の部分も少なくない。たとえば、中国での支配機構とは異なって、わが国では、 (5) が一般行政官庁から独立した機関として設けられたことがあげられる。このようなちがいの根本には、両国の歴史的諸条件のちがいがあったものと考えられる。

さらに、律令の規定と実態とのずれもみられる。たとえば、班田制の実施にあたって、口分田の班給の台帳でもある (6) には個人の名前が記載され、班給額も個人単位で計算されたが、実際には (7) 単位にまとめて班給されたようである。また、個人単位の課せられた調・庸も、実際には数人の共同提出であるなど、共同体的な関係がその背景に強く残っていたことがうかがわれる。それは、官僚のあり方のなかにも示されている。すなわち、中国では官僚の任用にあたって試験制度をきびしく実施したが、わが国では従来の氏族・門閥による規制が根強く残っていた。こうしたわが国の律令体制の頂点にたって君臨していたのが (8) であった。

ア 舎人親王	イ 飛鳥浄御原律令	ウ 長岡京	エ 計帳
オ 太政官	カ 太政大臣	キ 大宝律令	ク 神祇官
ケ 郷村	コ 刑部親王	サ 北魏	シ 郷戸
ス 天皇	セ 隋・唐	ソ 戸籍	タ 平城京

(B) 奈良時代には、三論・ (9) ・法相・俱舎・華嚴・律のいわゆる南都六宗があったが、平安時代には、天台・真言の両宗がおこり、加持祈禱などによって現世の幸福が得られるとする (10) がさかんになった。また、神仏習合がすすんで、 (11) 説が唱えられた。他方、 (12) 思想がひろまって、来世の極楽往生を願う人びとが多くなった。鎌倉時代には、新仏教がつぎつぎに発展したが、旧仏教の内部にも刷新の気運がたかまって、法相宗の (13) や華嚴宗の (14) は、戒律の尊重を説いた。また、律宗の叡尊とその弟子の (15) は、貧民の救済にあたりたり、河川に橋をかけたりするなど、社会事業にもつとめた。

チ	神国	ツ	密教	テ	道教	ト	神道	ナ	復古	ニ	末法
ヌ	王法	ネ	法華	ノ	成実	ハ	悪人正機	ヒ	本地垂迹		
フ	無学祖元	ヘ	高弁	ホ	貞慶	マ	慈円	ミ	忍性		



Ⅲ 次の(A)~(C)の史料を読み、それぞれの問いに答えよ。

(A) 諸国守護人の非法の条々

- 一、大犯三箇条 付けたり、<sup>かりたうりぞよ</sup> 苜田狼藉・<sup>しやつじかんずよう</sup> 使節遵行 の外、<sup>みかいり</sup> 所務以下に相綺い（干渉すること）、<sup>わづらい</sup> 地頭 御家人の煩を成す事
- 一、請所と号し、<sup>みようじ</sup> 名字を他人に仮り、<sup>か</sup> 本所寺社領を知行せしむる事
- 一、新闢を構え、津料と号し、山手河手を取り、旅人の煩を成す事
- 以前の条々、<sup>みまね</sup> 非法張行の由、近年普く風聞す。一事たりと雖も、<sup>いたど</sup> 違犯の儀有らば、<sup>たちよ</sup> 忽ち守護職を改易すべし。

問(1) この法令は、守護の非法（違法行為）を禁止したものである。これが発せられたのは、いつごろのことと考えられるか。次の中から選べ。

- ア 鎌倉時代前期    イ 鎌倉時代後期    ウ 南北朝時代  
エ 戦国時代

問(2) 「大犯三箇条」に含まれない事項を、次の中から一つ選べ。

- ア 大番役の催促    イ 謀反人の取りしまり  
ウ 悪党の取りしまり    エ 殺害人の取りしまり

問(3) 「地頭」および「御家人」に関する次の文章のうち、説明の正しいものはどれか。

(a)群および(b)群から、それぞれ一つずつ選べ。

- (a) {  
ア 鎌倉時代の御家人は、すべて地頭に任命された。  
イ 建武の新政に際し、地頭の制度が廃止された。  
ウ 地頭は、荘園や公領の年貢徴収や警察業務にあたることを職務とした。  
エ 鎌倉時代の武士は、すべて御家人であった。
- (b) {  
ア 地頭が荘園領主に納める年貢などを請負うことを、地下請といった。  
イ 将軍と御家人とは、御恩と奉公との関係で結ばれていた。  
ウ 江戸幕府のもとでは、将軍直属の家臣は旗本と呼ばれ、御家人の称はなくなった。  
エ 地頭が設置された結果、荘園には荘官がいなくなった。

(B) 天下の土民蜂起す。徳政と号し、酒屋・土倉・寺院等を<sup>はきやく</sup> 破却せしめ、<sup>ほしいまこれ</sup> 雑物等恣に之を取り、<sup>ことごと</sup> 借錢等悉く之を破る。管領之を成敗す。<sup>およ</sup> 凡そ亡国の基、これに過ぐべからず。<sup>かい</sup> 日本開<sup>びやく</sup> 白以来、土民の蜂起是れ初めなり。

問(4) これは何年の事件について記したものか。次の中から正しい年代を選べ。

- ア 1428年    イ 1441年    ウ 1467年    エ 1485年

問(5) 「管領」に任命されるのは、3氏に限られていた。次のうち管領にならなかった氏を一つ選べ。

ア 畠山氏    イ 細川氏    ウ 赤松氏    エ 斯波氏

問(6) 次の文章は、この史料を読んで書かれたものである。もっとも適切と思うものを一つ選べ。

ア わが国最初の土一揆について記録したもので、土民の力や土一揆の行動を高く評価している。

イ 最初の土一揆に結集した土民の力におそれをいただきながら記録したもので、そのことが逆に土一揆の力をよく表現する結果になっている。

ウ 土一揆を成敗した管領の力、つまり幕府の統制力の強かったことが、高く評価されている。

エ 実力をもって徳政の要求に立ちあがった土民の生活や闘争に、深く同情しながら記録している。

(C) 学派維持の儀に付申達

林 大学頭へ

朱学の儀は、慶長以来、御代々御信用の御事にて、已にその方家代々右学風維持の事仰せ付けおかれ候えば、油断なく正学相励み、門人共取立て申すべき筈はずに候。然るところ、近來世上種々新規の説をなし、異学流行、風俗を破り候類これ有り、全く正学衰微おろしの故に候哉。甚だ相濟まざる事にて候。その方門人共の内にも、右体學術純正ならざるもの、折節はこれ有る様にも相聞え、如何いかにに候。この度、聖堂御取締り嚴重に仰せ付けられ、柴野彦助(栗山)・岡田清助儀も、右御用仰せ付けられ候事に候えば、よくよくこの旨申談じ、きつと門人共異学相禁じ、なお又、自門他門に限らず申し合わせ、正学講窮致し、人材取立て候様、相心掛け申すべく候事。

問(7) この「申達」がだされた目的はどのように考えられるか。次の中から正しいものを一つ選べ。

ア 林家の門人の中で、異学に走るものが多くなったので、徳川吉宗が林家に命じて、門人取りしまりの強化と人材の登用をはからせようとした。

イ 洋学や国学がさかんになって封建制に対する批判が大きくなったので、これらの学問を禁止して封建支配のたてなおしをはからせようとした。

ウ 幕府創設以来、正学として朱子学を担当してきた林家が不振となったので、幕政改革の一環として、異学を禁じ正学の振興をはからせようとした。

エ 幕藩体制の動揺の中で、朱子学を正学としてはじめて正式に採用し、思想的にも封建支配を強化しようとした。

問(8) 次の「朱子学」についての説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

ア 朱子学は、宋の時代に朱熹（朱子）がおこした儒学一派である。

イ 室町時代には、五山の禅僧のあいだで研究された。

ウ 藤原惺窩とその門人の林羅山は、近世初期の代表的な朱子学者である。

エ 伊藤仁斎は、京都に私塾を開いて町人のあいだに朱子学をひろめた。

問(9) 次の学者のうち、朱子学者でないものを1名選べ。

ア 山崎闇斎    イ 中江藤樹    ウ 室鳩巢    エ 新井白石

Ⅳ 次の(1)~(10)の各文は、それぞれ日本の近代史に関する歴史的事実を述べたものである。(1)~(10)の各文を下の年表に入れるとすれば、それぞれア~コのどこに入ればよいか。ただし、1箇所の一つとは限らない。

- (1) 労働運動が活発になり、社会主義運動と結びつく傾向もあらわれ、政府はこれをおさえるため治安警察法を制定した。
- (2) 全国の主要な私設鉄道の国有化を定めた鉄道国有法が制定された。
- (3) 軍人勅諭を發布し、軍人は天皇に忠誠を尽くすべきことをさとし、政治にかかわることをいましめた。
- (4) 陸奥宗光外相のとき、イギリスとの間に新しい改正条約の調印に成功した。
- (5) 枢密院が設けられ、伊藤博文が初代の議長になった。
- (6) 教育勅語を發布して、国民教育のよりどころにした。
- (7) 金本位制を本格的に採用した。
- (8) 朝鮮との間に修好条規を結んだ。
- (9) さきに琉球藩をおいたが、この年、これを沖縄県とあらためた。
- (10) 資本主義を育成するため、その中枢官庁として工部省を設置した。

<年 表>

一九一一年	一九〇五年	一九〇二年	一八九四年	一八八九年	一八八五年	一八八一年	一八七七年	一八七一年	一八六九年	一八六七年
中国に辛亥革命がおこる	日露戦争がおわる コ	日英同盟を結ぶ ケ	日清戦争がはじまる ク	大日本帝国憲法が發布される キ	内閣制度ができる カ	国会開設の詔書が発せられる オ	西南戦争がおこる エ	廃藩置県が実施される ウ	版籍奉還を行なう イ	大政奉還が行なわれる ア



社会 日本史 解答用紙控

I	(1)	(A)	ア	イ	ウ	(B)	エ	オ	カ	キ	ク	(C)	ケ	コ	カ	キ	ク
	(2)	(A)	ア	イ	ウ	(B)	エ	オ	カ	キ	ク	(C)	ケ	コ	カ	キ	ク
	(3)	(A)	ア	イ	ウ	(B)	エ	オ	カ	キ	ク	(C)	ケ	コ	カ	キ	ク
	(4)	(A)	ア	イ	ウ	(B)	エ	オ	カ	キ	ク	(C)	ケ	コ	カ	キ	ク
	(5)	(A)	ア	イ	ウ	(B)	エ	オ	カ	キ	ク	(C)	ケ	コ	カ	キ	ク

II	(A)	(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(2)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(3)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(4)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(5)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(6)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(7)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(8)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(B)	(9)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(10)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(11)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(12)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(13)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(14)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
		(15)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ

III	(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												
	(2)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												
	(3)	(a)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	(b)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(4)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												
	(5)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												
	(6)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												
	(7)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												
	(8)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												
	(9)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ												

IV	(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(2)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(3)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(4)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(5)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(6)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(7)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(8)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(9)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ
	(10)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	カ	キ	ク	ケ	コ

# 世界史

I 近代ヨーロッパの国際関係を中心とした下記の問いに答えよ。

問(1) 16世紀のヨーロッパ諸国は王朝国家的性格が強く、当時の国際関係の主軸となっていたスペインとフランスの対立も、ハプスブルク家とバロア家の抗争であった。チャールズ(カルロス)1世が神聖ローマ皇帝チャールズ(カール)5世になったころのハプスブルク家とバロア家の主な所領地を示すものを、下記の組合せ1~4のなかから一つ選べ。

	ハプスブルク家 ←—————→ バロア家
1	オーストリア, スペイン, ギリシア ←————→ フランス, アイルランド
2	オーストリア, スペイン, ナポリ ←————→ フランス ネーデルランド
3	オーストリア, ネーデルランド ←————→ フランス, ナポリ, 教皇領 ポーランド
4	オーストリア, スペイン, スイス ←————→ フランス, スコットランド

問(2) 16世紀後半のフランスは宗教争乱に悩まされ、スペインに対して劣勢となったが、ブルボン家のヘンリー(アンリ)4世が即位し、ナントの勅令を発して紛争に決着がつけられた。ナントの勅令に関する下記の記述1~5のなかから、正しいと思うものを一つ選べ。

- 1 支配者にカトリックとプロテスタントの選択権を与え、住民はそれに従うことにしたので、支配権が強化された。
- 2 フランスをカトリック区とプロテスタント区に分けたので、両者の対立が強まった。
- 3 ユグノー派の信仰を強制したので、他のプロテスタント諸派やカトリックからの反抗がみられるようになった。
- 4 一般市民だけにユグノー派の信仰を許したので、ユグノー派貴族に不満を残した。
- 5 ユグノー派の信仰の自由を認めたので、商工業の振興に寄与する結果を招いた。

問(3) 宗教争乱によって、フランスの国際的地位が低下していた時期に、スペインはフィリップ(フェリペ)2世の下で強盛を誇っていた。下記の組合せ1~4のなかからかれの治世下でおこった事項の組合せを一つ選べ。

- |   |           |         |            |           |
|---|-----------|---------|------------|-----------|
| 1 | ネーデルランド反乱 | レパントの海戦 | アルマダの敗北    | ポルトガル併合   |
| 2 | アルビジョア十字軍 | レパントの海戦 | アルマダの敗北    | 議会の新設     |
| 3 | ウォルムスの国会  | 農民戦争    | シュマルカルデン戦争 | 対トルコ戦争    |
| 4 | マゼランの世界周航 | ポルトガル併合 | 教皇子午線の設定   | ネーデルランド反乱 |

問(4) 16世紀後半にはヨーロッパ人の海外進出がいちじるしく、かれらによって、ヨーロッパ・新大陸・東洋の間に一種の世界貿易の形がつくられた。下記の文章1~4のうち、この関係をもっともよく表すとされているものを一つ選べ。

- 1 ヨーロッパ産の綿織物を新大陸へ輸出して多量の銀をそこから獲得し、この銀を東洋へ運んで、ひきかえに中国産の絹織物をヨーロッパへ輸入した。
- 2 ヨーロッパ産の綿織物を新大陸へ輸出して金を獲得し、この金を東洋へ運んで、ひきかえに陶磁器をヨーロッパへ輸入した。
- 3 ヨーロッパ産の毛織物を新大陸へ輸出してそこから多量のアヘンを買いつけ、それを中国に送って、中国から茶を輸入した。
- 4 ヨーロッパ産の毛織物を新大陸へ輸出して銀をそこから獲得し、この銀を東洋へ運んで、ひきかえに香料などをヨーロッパへ輸入した。

問(5) 17世紀半ばからは、フランスがヨーロッパの中心的な強国となった。ことにルイ14世の時代はフランス絶対主義の極盛期で、文化の花も開いた。下記1~5のなかから、古典喜劇の完成者として有名な人物を一人選べ。

- |   |      |   |      |   |       |   |       |   |        |
|---|------|---|------|---|-------|---|-------|---|--------|
| 1 | ラシーヌ | 2 | パスカル | 3 | モリエール | 4 | コルネイユ | 5 | モンテーニュ |
|---|------|---|------|---|-------|---|-------|---|--------|



問(6) しかし、ルイ14世も植民地を擁する世界帝国の建設では、イギリスとの競争に敗れ、ジブラルタルの領有やハドソン湾地方、ニューファウンドランドなどの割譲をイギリスに対して認めなければならなかった。下記に掲げた条約1～5のうち、どれがこのような内容を規定しているか。一つ選べ。

- 1 ウェストファリア条約
- 2 アーヘン(エクス＝ラ＝シャペル)の和約
- 3 ベルサイユ条約
- 4 フベルトウスブルク条約
- 5 ユトレヒト条約

問(7) フランスの覇権に対抗して、18世紀にはロシアとプロシアの台頭、オーストリアの再編成がみられる。なかでもロシアでは、ピーター(ピョートル)大帝が北欧の強国を破ってバルト海に進出した。ピーター大帝が戦った相手国は次のどれか。1～5のうちより一つ選べ。

- 1 デンマーク
- 2 ノルウェー
- 3 スウェーデン
- 4 ポーランド
- 5 フィンランド

問(8) ロシアはさらにユーラシア大陸にまたがる世界強国となるが、その際、中国としばしば国境紛争をひきおこした。18世紀前半に、ロシアと中国の間で、モンゴルにおける境界を定めた条約は次の1～5のうちのどれか。

- 1 アイグン条約
- 2 キャフタ条約
- 3 イリ条約
- 4 ネルチンスク条約
- 5 北京条約

問(9) 上記の条約を結んだ時の中国の皇帝は誰か。1～4のうちから選べ。

- 1 康熙帝
- 2 雍正帝
- 3 乾隆帝
- 4 光緒帝

問(10) プロシアは七年戦争に耐えぬいたことで強国の地位を確立したといえる。下記の1～4のなかから、七年戦争にもっとも関係の深い事項の組合せを一つ選べ。

- 1 オーストリアとフランスの同盟    プロシアのシレジア領有確認    植民地戦争でのイギリスの勝利    イギリス重商主義政策の強化
- 2 マリア＝テレサの即位    オーストリアとイギリスの同盟    アーヘンの和約    プロシアのシレジア領有
- 3 プラグマティック＝サンクション(国事詔書)の発布    イギリスとロシアの提携    外交上の革命    コシューシコの活躍
- 4 イギリスの航海条令廃止    プロシアとイギリスの同盟    インドにおけるフランスの優位確立    プロシアのシレジア占領

問(11) ナポレオンの時代にはフランスのヨーロッパ覇権がふたたび実現した。ナポレオンはしばしば、征服地に自分の一族の者を君主として配置した。下記1～4のうちより、かれの一族が君主とならなかった国家を一つ選べ。

- 1 オランダ王国      2 ナポリ王国      3 ワルシャワ大公国
- 4 スペイン王国

問(12) ナポレオン時代をイギリスとフランスの対抗の歴史や国際関係史の上からみた場合、どのように評価しうるか。下記1～4の文章のうち、もっとも適切と思われるものを一つ選べ。

- 1 イギリスに対して、フランスは植民地競争や貿易・海上覇権で劣勢であったが、ナポレオンによる軍事的優越や大陸封鎖で勢力を挽回し、以後はほぼ対等の地位を確保することができた。
- 2 従来イギリスは大陸の問題に深くは関与せず、「名誉ある孤立」を誇っていたが、対仏同盟にひき入れられたために、これからのちは大陸問題に拘束されて政策決定の自由を失うことになった。
- 3 当時すでに産業革命が進展していたイギリスは、ナポレオンの全ヨーロッパをあげての反抗にもかかわらず、第2次百年戦争を有利に終わらせ、19世紀に世界帝国として圧倒的優位を保持する基礎を固めた。
- 4 アメリカ合衆国がナポレオンと同盟して米英戦争をおこしたため、対仏同盟の中心になっていたイギリスの世界帝国体制が動揺した。そのためカナダに自治権を認めて、ようやくこれをつなぎとめるありさまであった。

問(13) 1814年から1815年にかけてのウィーン会議では、正統主義の原則が採用され、その原則の上に神聖同盟が成立した。次の1～6のなかから、神聖同盟に加盟しなかった君主を一人選べ。

- 1 フランス国王      2 スペイン国王      3 スウェーデン国王
- 4 デンマーク国王      5 イギリス国王      6 サルジニア国王

問(14) トルコの衰退とロシアの進出により、1830年代に「東方問題」が激化した。この時イギリスがとった政策は下記のどれか。1～6のうちから一つ選べ。

- 1 トルコ分割政策      2 トルコ・アラブ分離政策      3 トルコ人キリスト教徒の保護政策
- 4 トルコ保全政策      5 四国同盟によるトルコ管理政策

6 イギリスによるトルコ併合政策

問(15) ウィーン体制は二月革命によって全面的に崩壊したといわれるが、この革命の影響をうけてヨーロッパ各国にどのような事件が発生したか。下記1～8のなかから一つ選べ。

- 1 ドイツ関税同盟結成    2 ベルギーの独立    3 イギリス穀物法の廃止  
4 カルボナリ党の反乱    5 ホームステッド法の制定    6 ロシア農奴解放令  
の公布    7 フランクフルト国民議会の開催    8 イギリス労働組合法の制定



Ⅱ 世界史上において、7世紀前後はいろいろ注目すべき時代といつてよい。ヨーロッパでは(A)世紀後半からはじまった民族大移動も6世紀中には終わりを告げ、新しい時代の幕があげられた。一方、中国では後漢滅亡後およそ(B)世紀半にわたる分裂ののち、隋つづいて唐が大帝国を建設し、東アジアに君臨した。インドでは、6世紀半ばにパルダナ朝が生まれ、ハルシャ王のとき、インド史上最後の古代帝国として栄えた。そしてアラビアでは7世紀はじめ、マホメットによってイスラム教がはじめられ、それは東西にひろがってイスラム世界を形成し、世界史上注目すべき役割を演じたのである。

問(1) (A)・(B)については、該当する数字を示せ。

問(2) 上記の文中の下線を施した部分(ア)～(エ)に関する以下の問いに答えよ。

(ア) ヨーロッパ史上の民族大移動の主役はゲルマン民族であるが、その移動のきっかけとなったのは、東方の民族の動きである。その民族については、中国史上にあらわれるものと同族かどうか多く論議されている。それは下記の(a)に示した1～5のうちどれか。また原始ゲルマン社会に関して、(b)1～4に示した説明文のうちからもっとも適切なものを一つ選べ。

(a) 1 鮮卑 2 柔然 3 匈奴 4 突厥 5 回紇

(b) 1 王も貴族もないまったく平等な社会で、全員が参加する民会が最高の決議をした。

2 王とわずかな貴族を除けば、すべてが奴隷で、重要事項は王と貴族によって決定された。

3 王もしくは首長がおり、貴族もいたが、重要な決定には自由民全体が参加した。

4 土地はすべて王が所有し、その他は王の土地を耕す小作人で、王だけが政権を行使した。

(イ) 唐の太宗は父を助けて唐朝創設に貢献し、東アジア史上でも代表的な帝王といわれる。そのときはじめられた征服異民族に対する統治機関を下記の(a)1～5に示したもののなかから一つ選べ。またその説明として適当と思うものを、下記(b)に示した短文1～4のなかから一つ選べ。

(a) 1 藩鎮 2 行中書省 3 都護府 4 御史台 5 理藩院

- (b) 1 中央から直接、役人を最高官として派遣し、異民族の首長を州県の長官に任命して統治させる。
- 2 占領地の自主性を認めない直接の州県統治である。
- 3 その地方の軍事・民政・財政の3権を一人で掌握して統治する。
- 4 中央から監察官だけを派遣して監視する。
- (ウ) ハルシャ王の事績として知られていることを、下記の(a)に示した1～6のうちから一つ選べ。またかれの治世中にその国を訪問した有名な外国人を(b)の1～5にあげた人名のなかから一人選べ。
- (a) 1 平和の愛好者で、仏教を保護し、学問・芸術にも深い理解を示した。
- 2 西北インドから西トルキスタンまで領土をひろげた。
- 3 イスラム教を採用し、その後のインドのイスラム化の道を開いた。
- 4 マヌ法典をつくり、後世に大きな影響を与えた。
- 5 第4回仏典結集を行った。
- 6 ヒンドゥー教を奨励し、仏教を圧迫した。
- (b) 1 マルコ＝ポーロ    2 法頭    3 玄奘    4 イブン＝バトゥータ
- 5 プラノ＝カルピニ
- (エ) マホメットを新しい宗教運動に目ざめさせるのに、とくに影響のあった宗教が二つある。その組合せを下記の(a)にあげた1～6のなかから選べ。またイスラム教の教義に該当すると思うものを(b)の1～6の組合せのなかから一つ選べ。
- (a) 1 キリスト教・ゾロアスター教    2 仏教・マニ教    3 キリスト教・ユダヤ教    4 ゾロアスター教・マニ教    5 キリスト教・仏教
- 6 ユダヤ教・ゾロアスター教
- (b) 1 多神教 偶像崇拜 自然崇拜
- 2 一神教 偶像崇拜 カーバ崇拜
- 3 一神教 偶像禁止 カーバ崇拜
- 4 多神教 偶像禁止 自然崇拜
- 5 多神教 偶像崇拜 カーバ崇拜
- 6 一神教 偶像禁止 自然崇拜

Ⅲ 次に五つの前文につづいて、冒頭に 1, 2, 4, 8 の数字を付した文がある。1, 2, 4, 8 を付した文のなかには誤ったものもある。誤った文の冒頭の数字をすべて加えた数を示せ。すべての文が正しければ 0 とせよ。

- (1) 前 8 世紀ごろから、ギリシア人は地中海沿岸に植民市を建設した。
- 1 その結果、植民市建設を指導した貴族の勢力が高まり、貴族政治が安定した。
  - 2 その結果、商工業が盛んになり、それに従事する人びとの発言力が強まってきた。
  - 4 土地開発で利益を得た商工業者は、武具の普及もあって、戦時には長槍をもった軽装歩兵の密集部隊を編成した。
  - 8 その結果、植民市から安価な穀物が輸入され、中・小農民を没落させ、社会混乱が生じて僭主出現の原因となった。
- (2) ギリシアの哲学は自然哲学として、まずおこってきたが、
- 1 この自然哲学はそれ以前の神話的世界観を脱し、合理的に考えようとしたものである。
  - 2 この派の哲学者の一人に数えられるユークリッド（エウクレイデス）は数の整合をもって万物の根元と考えた。
  - 4 この派の哲学者たちは、合理的な思考方法によって、貴族の横暴を批判する政治理論をもうみ出した。
  - 8 この自然哲学は、当時の先進地域であったイオニアなどからおこってきた。
- (3) 前 5 世紀から前 4 世紀にかけて、アテネ民主政治の発展にともない、一方ではソフィストが出現し、他方ではソクラテス・プラトンなどのような哲学者も出た。
- 1 ソフィストたちはソクラテスを死なせたように、他人の言辞のあげ足とりに終始し、学問的には不毛に終わった。
  - 2 ソフィストの一人であるプロタゴラスは、「人間はすべてポリス的存在である」といってポリスをたたえ、また絶対的善や客観的真理を探求した。
  - 4 ソフィストたちは人間と社会を考察の対象にし、相対主義の立場から普遍的真理の存在を否定した。
  - 8 ソフィストたちは学問の現実生活への応用を強調したので、この派からペリクレスのような哲人政治家が出た。

- (4) アレクサンダー大王により、ポリスの割拠主義が破られて、世界的帝国が建設され、ヘレニズム時代がはじまった。
- 1 アレクサンダー大王は各地にアレクサンドリア市を建設し、政治・経済・文化の中心にしようとした。
  - 2 ヘレニズム文化はギリシア文化の普遍化されたものを基調に、東西文化が融合されたものである。
  - 4 ヘレニズム文化が東の方へ伝えられる過程でインド北西部に入り、ガンダーラの仏教美術に影響した。
  - 8 ヘレニズム時代の神殿建築は、時代を反映し、規模が雄大で重厚、壮麗な列柱を特色とするコリント式が流行した。
- (5) ローマ文化はギリシアやヘレニズムの文化を基礎にして成立した。
- 1 これは各地を征服したにもかかわらず、帝政期になるまでのローマが、経済の実権や技術を含めた文化面では、ほとんどギリシア人に頼っていたためである。
  - 2 これは東方文化がローマに入るのを防ぐため、より親近感をもつギリシア文化をあらかじめとりいれたからである。
  - 4 例えば、ローマ文化を代表すると考えられているローマ法にしても、起源的には、アテネのドラコン法から出ている。
  - 8 オリンポス12神がラテン名化されて伝承されたり、ヘレニズム時代に発生したストア哲学がローマに入って全盛を極めたことなどがその例である。



Ⅳ 次の文章を読んで、下の問いに答えよ。

現代の日本では、選挙といえば投票によって人を選ぶことのように考えられがちであるが、昔の中国で選挙というときには、官僚となるべき人材を選抜して推挙するという意味であった。その選挙の方式は、長い歴史の間に現われたいくとおりかのものが知られているが、大別すると推薦方式と志願方式の2種となる。この方式の違いは時代の推移と対応しており、志願方式がとられたのは(A)朝からで、それまでは推薦方式が行われていた。

(A)朝以来採用された志願方式では、秀才・明経・進士の諸科(コース)があったことから、科挙という名称が出てきたとされている。科挙は(B)朝末に廃止されるまで、1000年以上もの長い間実施されたが、とくに(C)朝のはじめには、制度上の重要な改変が行われた。この改変は(C)朝以降の政治体制と密接な関係があると考えられている。

問(1) 上の文中で(A)・(B)・(C)に該当する王朝名を、下記1~9のなかから選べ。

- 1 漢    2 魏    3 元    4 秦    5 清    6 隋    7 宋  
8 唐    9 明

問(2) (a) 科挙の実施前まで行われていた選挙方式は何というか。下記1~5のなかから一つ選べ。

- 1 郷挙里選    2 買官制    3 自由任用制    4 世襲制  
5 九品官人法(九品中正制)

(b) 上記問(2)の(a)の方式が廃止されて科挙に代わったのはなぜか。

下記1~4のなかからもっとも適当と思うものを一つ選べ。

- 1 地方長官と豪族との結託による地方分権的傾向の発生。  
2 推薦担当官の独断的な推薦による制度の崩壊。  
3 豪族出身者ばかりが上位に推薦され、制度本来の趣旨を喪失。  
4 異民族の支配による制度の無意味化。

問(3) (a) 上の文中で(C)朝のはじめに行われた科挙制度の重要な改変とは何か。

下記1~4のなかからもっとも適当と思うものを一つ選べ。

- 1 秀才科の廃止    2 殿試の実施    3 地方試験の実施  
4 八股文の廃止

(b) この改変の重要な意味はどこにあったのか。下記1～4のなかから最も適当と思うものを一つ選べ。

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 新知識をもった人材の選抜 | 2 試験の成績判定の簡略化 |
| 3 皇帝権力の伸張      | 4 文才偏重の解消     |

(c) この改変が(C)朝以降の政治体制と密接な関係があるというが、その体制は以前にくらべてどういう特色をもつか。下記1～4のなかから該当するものを一つ選べ。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 地方分権制の成立 | 2 官僚貴族制の強化 |
| 3 党派政治の出現  | 4 中央集権制の強化 |

問(4) (a) (B)朝における科挙制度の廃止は、どういう情勢のなかで行われたか。下記1～4のなかから一つ選べ。

- 1 ヨーロッパの科学技術を摂取して、富国強兵策を進めるなかで。
- 2 日清戦争後、列強による領土分割に対抗して、政治改革を進めようとするなかで。
- 3 革命運動の発展に対抗して、政治体制を近代化しようとする動きのなかで。
- 4 太平天国による打撃から政権を再編成するなかで。

(b) 科挙の廃止にともなう新しい官僚の育成または選任について、主としてどういう方法をとろうとしたか。下記1～4のなかから一つ選べ。

- |               |                     |                  |               |
|---------------|---------------------|------------------|---------------|
| 1 近代的な学校による育成 | 2 実務関係を中心とする新しい試験制度 | 3 書院(私塾)の活用による育成 | 4 各級官僚による推薦制度 |
|---------------|---------------------|------------------|---------------|

草稿用紙

第一種 第一號 第一號 第一號 第一號 (d)  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號

第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號

第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號

第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號  
第一種 第一號 第一號 第一號 第一號

# 社 会 世界史 解答用紙控

I

(1)
(4)
(7)
(10)
(13)

(2)
(5)
(8)
(11)
(14)

(3)
(6)
(9)
(12)
(15)

II

(1)
(A)
(B)

(2)
(P)
(Q)
(R)
(S)
(a)
(b)

III

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

IV

(1)
(A)
(B)
(C)
(2)
(a)
(3)
(a)
(4)
(a)
(b)
(b)
(c)

# 地 理

I 次の各問は、北半球の高緯度地域について、主としてその自然環境をたずねたものである。それぞれの問いに答えよ。

(1) 世界の植物と土壌の分布は、気候の分布と密接な関係があり、この地域では最暖月平均気温 $10^{\circ}\text{C}$ の線は、植物分布上の重要な境界線にほぼ一致するといわれる。

㉔ この線の南に接してひろがる植物帯は、何とよばれるか。下記のなかから一つ選べ。

(ア) サバナ (イ) プレーリー (ウ) ツンドラ

(エ) タイガ (オ) ステップ

㉕ この植物帯の特徴を、下記のなかから一つ選べ。

(カ) 夏の間だけは、<sup>ちい</sup>地衣類・<sup>せんたい</sup>蘚苔類がみられる。

(キ) <sup>くまたけ</sup>草丈の高い草原が広がる。

(ク) <sup>くまたけ</sup>草丈の低い草原が広がる。

(ケ) 樹種の少ない針葉樹林が広がる。

(コ) 樹種の多い針葉樹林が広がる。

㉖ また、この植物帯にほぼ一致して分布している土壌帯は、やせた土壌の多いのが特色である。この土壌の名を、下記のなかから一つ選べ。

(サ) 永久凍土 (シ) テラロッサ (赤色土)

(ス) チェルノーゼム (黒色土) (セ) レグール土 (黒色土)

(ソ) ポドゾル (灰白色土)

(2) この地域では、冬季、海が氷に閉ざされるところが多い。しかし、水陸の分布などによって結氷の状況に差異がみられる。

㉗ スカンジナビア半島の西側の海域では、流水限界がいちじるしく北上している。その理由を、下記のなかから一つ選べ。

(タ) 多くの河川が流れこむため。

(チ) 半島が北極海に突出しているため。

(ツ) 北極海のもっとも広い出口であるため。

(テ) メキシコ湾流 (北大西洋海流) が流れるため。

(ト) ラブラドル海流が流れるため。

⑤ 次の諸港のうち、鉄鉱石の積出港として知られる不凍港を、一つ選べ。

- (ナ) ムルマンスク      (ニ) ヘルシンキ      (ヌ) ハンメルフェスト  
(ネ) ナルビク      (ノ) ルレオ

(3) ノルウェー海岸の複雑にいりくんだ海岸線の成因は、下記のうちのどれか。もっとも適切なものを一つ選べ。

- (ハ) 北極海はとくに海が荒れるため、海の浸食力が強く、湾がしだいに奥深くなった。  
(ヒ) 洪積世の氷河によってつくられた谷に、海水が入りこんだため、奥深い湾となった。  
(フ) 海岸が沈降したため、低地部分は湾に、高い山地は岬となった。  
(ヘ) 海岸が沈降したため、広い河口の部分が三角形の湾となった。  
(ホ) 北極海では、年中、流氷による海岸浸食がはげしいため、岩石のやわらかいところが、奥深い湾となった。

(4) 北欧やカナダにみられる特色ある湖沼群の成因は、下記のうちのどれか。もっとも適切なものを一つ選べ。

- (マ) 氷河によって削られたくぼ地や、モレーンによってせきとめられたところが湖となった。  
(ミ) この地域が石灰岩からできているため、各所にドリーネなどのくぼ地ができて湖となった。  
(ム) この地方は寒冷で積雪が多く、大量の融氷水が一時に流れ出るため、洪水をおこして湖となった。  
(メ) この地方は寒冷気候であるが、世界でもっとも雨の多い地帯であるため、多くの湖が生じた。  
(モ) この地方を開発するため、灌漑や発電用のダムによって川をせきとめた結果、多くの湖が生じた。

Ⅱ 次の(1)～(5)におけるA群の5語から、一つの語を除外すると、のこりの4語は、B群の語のなかの一つと密接な関係のある語群となる。除くべきA群の語一つと、該当するB群の語一つを選べ。

- |     |    |                  |                   |          |
|-----|----|------------------|-------------------|----------|
| (1) | A群 | ㉗ セルバ            | ① パオ              | ㉘ 人口希薄   |
|     |    | ㉙ 乾燥地域           | ㉚ ツンドラ            |          |
|     | B群 | ① 焼畑             | ② 遊牧              | ③ 混合農業   |
|     |    | ④ プランテーション       |                   |          |
| (2) | A群 | ㉗ メルカトル          | ① マゼラン            | ㉘ コロンブス  |
|     |    | ㉙ プトレマイオス(トレミー)  |                   | ㉚ ヘカタイオス |
|     | B群 | ① 大地平盤説          | ② 環境決定論           | ③ 地球球体説  |
|     |    | ④ 地動説            |                   |          |
| (3) | A群 | ㉗ ニュータウン         | ① コルホーズ           | ㉘ 衛星都市   |
|     |    | ㉙ 近郊農業           | ㉚ 昼夜間人口           |          |
|     | B群 | ① 大都市圏           | ② 小売商圏            | ③ 新産業都市  |
|     |    | ④ 農業構造改善         |                   |          |
| (4) | A群 | ㉗ ベルギー           | ① 西ドイツ            | ㉘ フランス   |
|     |    | ㉙ デンマーク          | ㉚ オーストリア          |          |
|     | B群 | ① プロテスタント        | ② ラテン民族           | ③ 連邦国家   |
|     |    | ④ 拡大ヨーロッパ共同体(EC) |                   |          |
| (5) | A群 | ㉗ カイロ            | ① ヨハネスバーグ         | ㉘ アジスアベバ |
|     |    | ㉙ アクラ            | ㉚ キンシャサ(旧レオポルドビル) |          |
|     | B群 | ① 宗教都市           | ② 首都              | ③ 鉱業都市   |
|     |    | ④ 貿易港            |                   |          |





Ⅲ 次の文を読み、あとの問いに答えよ。

北緯 **ア** 0 度の線を、ユーラシア大陸について西から東へたどると、イベリア半島中央部を横断して地中海に入り、イタリア半島南部を通過する。このあたりは、(イ) 気候区に属し、この気候区を代表する作物は(ウ) であるが、スペインのバレンシア周辺地方はヨーロッパにおける(エ) の栽培の一中心地であり、その生産量は多くはないが、単位面積あたり収量は世界最高水準にある。この緯線は、小アジアからカスピ海を横切ってソ連のトルクメン共和国に入る。このトルクメン地方は降水量はきわめて少ないが、(オ) の大生産地である。さらにこの緯線は世界の屋根といわれる(カ) 高原の北側から中国に入り、(キ) 砂漠のある(ク) 盆地、内モンゴル自治区の砂漠地帯、黄河中流域を通過し、華北の平野にいたる。黄河中流域の山地から華北の平野に入ると、気候区は(ケ) から(コ) へかわる。また、この緯線に沿う地方のうち、ソ連のバクーやフェルガナ地方、中国のウイメン(玉門) には(サ) を産し、華北のタートン(大同) やカイロワン(開灤) などでは(シ) を多く産する。そして、この緯線は、朝鮮半島北部を横断して日本海に入り、そのほぼ中央で東経 1 **ス** 5 度の線と交差する。

(1) **ア** ・ **ス** については、該当する数字を 1～9 の数字で示せ。

(2) (サ) ・ (シ) に該当する地下資源を下のなかから選べ。

- ① 鉄鉱 ② 銅鉱 ③ ポーキサイト ④ 石炭 ⑤ 石油

(3) (イ) ・ (ケ) ・ (コ) に該当する気候区の名称を下のなかから選べ。

- ① ステップ(BS) ② 砂漠(BW) ③ 温帯夏雨(Cw)  
④ 温帯冬雨(Cs) ⑤ 温帯湿潤(Cf) ⑥ 冷帯夏雨(Dw)  
⑦ 冷帯湿潤(Df) ⑧ ツンドラ(ET) ⑨ 氷雪(EF)

(4) (ウ) ・ (エ) ・ (オ) に該当する栽培作物を下のなかから選べ。

- ① オリーブ ② こうりゃん ③ 小麦 ④ 米  
⑤ さとうきび ⑥ ジュート ⑦ たばこ ⑧ なつめやし  
⑨ 綿花

(5) (カ)・(キ)・(ク)に該当する地名を下のなかから選べ。

- ① カフカス            ② デカン            ③ タリム            ④ タクラマカン
- ⑤ タール            ⑥ チベット            ⑦ パミール            ⑧ ヒンズークシ
- ⑨ スーチョワン(四川)

(6) 下記の首都のうち、この緯線からもっともはなれているものを選べ。

- ① マドリード            ② アンカラ            ③ ブダペスト
- ④ ペキン(北京)

Ⅳ 次の(1)～(6)の地理的事実に対して、それぞれの要因などを説明したa～eの五つの文のうち、適切と考えられるものを二つ選べ。そして、下表の要領によって、1～10の番号で答えよ。

選ぶべき文の 組み合わせ	a b	a c	a d	a e	b c	b d	b e	c d	c e	d e
答えの番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

(1) ナイル川下流のデルタ地帯は、人口密度が高く、1 km<sup>2</sup>あたり400人以上に及んでいる。

- a) 温暖多雨な、住みやすい気候に恵まれている。
- b) 氾濫はんらんのくりかえしによって、肥沃ひよくな土壌が厚く堆積している。
- c) 灌漑かんがい施設がよくととのい、集約的な農業が営まれている。
- d) 工業化が進み、工業人口が全就業人口の約半分を占めている。
- e) 住民の結婚年齢が低く、出生率が高い。

(2) ライ麦の生産高(1972年)をみると、ソ連が第1位で世界の34%を占め、第2位はポーランド(29%)、第3位は西ドイツ(10%)、第4位は東ドイツ(7%)である。

- a) これらの諸国では、気候や土壌の関係上、小麦の生育しにくい地域が広く存在し、そこにライ麦が栽培される。
- b) ライ麦は、新大陸原産の作物であるが、新大陸へ渡ったヨーロッパ人が、ライ麦の種子をこれらの諸国にもたらした。
- c) ライ麦は、家畜の飼料として重要であり、これらの諸国では牧畜がさかんで、その飼料として栽培されている。
- d) ライ麦は、黒パンの原料となり、伝統的に主穀として重要視されてきた。
- e) ソ連では、かつてはほとんど栽培されなかったが、革命後、ライ麦栽培が普及して、それまでの大産地バルカン諸国を追い越した。

(3) 熱帯の森林は、近年開発が進みつつあるが、温帯や冷帯の森林にくらべると、開発がおくれている。

- a) 多くの種類の樹木が、いりまじって生育している。
- b) 焼畑農業のため、樹木が無駄に切り倒され、森林の蓄積量が乏しい。

- c) 高温多湿のため、切り倒した木がくさりやすい。
  - d) 材質のやわらかい樹木が多く、建築用材としてあまり役立たない。
  - e) 交通が未発達のため、伐採・搬出に不便である。
- (4) 世界の茶の生産高の約7割は、インド・スリランカ（旧セイロン）・中国・日本の4か国に集中している。
- a) 茶の消費は仏教徒に多く、これら諸国ではすべて、主として仏教が信奉されている。
  - b) これら諸国のモンスーン気候が、茶樹の生育に適している。
  - c) 茶の需要がこれらの諸国に集中し、欧米諸国では茶は用いられない。
  - d) ヨーロッパ諸国でも、かつては茶を作ったが、コーヒーの普及により、茶栽培がおとろえた。
  - e) 茶の生産には、多くの労働力が必要であり、これら諸国では全般に労働力に恵まれていたことが茶業を発達させた。
- (5) 日本の漁業のうち、沿岸漁業の占める地位はしだいに低下し、いっぽう、遠洋漁業の重要性はおおいに高まってきている。
- a) 沿岸漁業は全般に経営規模が小さく、漁民1人あたりの漁獲高が少ないので、他産業に転じたり、他産業を兼業したりする漁民が少なくない。
  - b) 日本人の食習慣が変化し、沿岸でとれる魚類に対する需要が減少してきた。
  - c) 日本とアメリカ合衆国・カナダ・ソ連などの諸国との間で、漁業を制限する条約が結ばれ、沿岸漁業は操業しにくくなった。
  - d) 近年、日本の漁船は、太平洋だけでなく、インド洋や大西洋にも出漁するようになり、遠洋漁業の活躍舞台が拡大してきた。
  - e) ペルーの漁業が発展し、そこでとれる魚が冷凍されて大量に輸入されるので、日本の沿岸でとれる魚類の価格が下落した。
- (6) アメリカ合衆国でもっとも重要な工業地域は、北東部の大西洋沿岸から五大湖周辺部にかけて形成されている。
- a) 工業発達の初期には、アパラチア山脈東麓の急流が、のちには、ナイアガラの滝が、この地域の主要動力源となった。
  - b) アパラチア炭田・中央炭田・ロッキー炭田が、ほぼこの地域内にある。

- c) ニューヨーク・シカゴをはじめ、多くの大都市がこの地域に発達し、工業製品の  
大市場を形成してきた。
- d) カリフォルニア油田・中央内陸油田・メキシコ湾岸油田の石油が、パイプライン  
によって、主としてこの地域にもたらされる。
- e) 大西洋沿岸には良港があり、また、五大湖や可航河川があって、原料などの輸送  
に便利である。



V 貿易に関する次の(1)・(2)の問いに答えよ。

(1) 次の文は、わが国の貿易について述べたものである。あとの問いに答えよ。

今日、わが国は、社会主義諸国をも含めて、ほとんど世界中の国ぐにと貿易を行なっている。貿易相手国のうちで、もっとも貿易額の多い国は(ア)である。貿易相手国を大陸別にみると、第2次世界大戦前には(イ)の諸国との貿易額がきわめて高い比率を占めていたが、戦後その比率はやや低下している。わが国は、原料を輸入し、工業製品を輸出する加工貿易国といえるが、近年、輸入原料のなかで最大の金額を占めているのは(ウ)である。また、輸出製品としては、第2次世界大戦前の1935年ごろには(エ)がもっとも多かったが、近年は(オ)が最大の輸出額を示している。

[問] (ア)に該当する国を、下のなかから一つ選べ。

- ① アメリカ合衆国    ② 中華人民共和国    ③ ソ連    ④ イラン  
⑤ オーストラリア

(イ)に該当する大陸を、下のなかから一つ選べ。

- ① 北アメリカ    ② アジア    ③ ヨーロッパ    ④ アフリカ  
⑤ 南アメリカ

(ウ)に該当する品目を、下のなかから一つ選べ。

- ① 綿花    ② 羊毛    ③ 木材    ④ 鉄鉱石    ⑤ 原油

(エ)・(オ)に該当する品目を、下のなかからそれぞれ一つ選べ。

- ① 綿織物    ② 絹織物    ③ 毛織物    ④ 機械類    ⑤ 化学製品

(2) 次の表は、南アメリカの4か国について、主要輸出品を示したものである。数字はそれぞれの国の総輸出額に対するパーセントを示し、年次は1970年である。あとの問いに答えよ。

ブラジル	コーヒー豆34.3, 鉄鉱石7.7, (x) 5.6, 砂糖4.6, 肉類3.7
A	肉類24.9, とうもろこし14.9, (y) 7.1, 羊毛4.6, 植物性油脂4.2
B	原油61.9, 石油製品28.3, 鉄鉱石5.5
C	銅76.9, 鉄鉱石5.8

【問】 上の表のA・B・Cは、それぞれ下のどの国にあたるか。

- ㉞ コロンビア   ㉟ ベネズエラ   ㊱ ペルー   ㊲ チリ  
㊳ アルゼンチン

上の表の(x)，(y)に記入すべき品目は、下のどれか。

- ㉞ 綿花   ㉟ 自動車   ㊱ 米   ㊲ 小麦   ㊳ ニッケル鉱



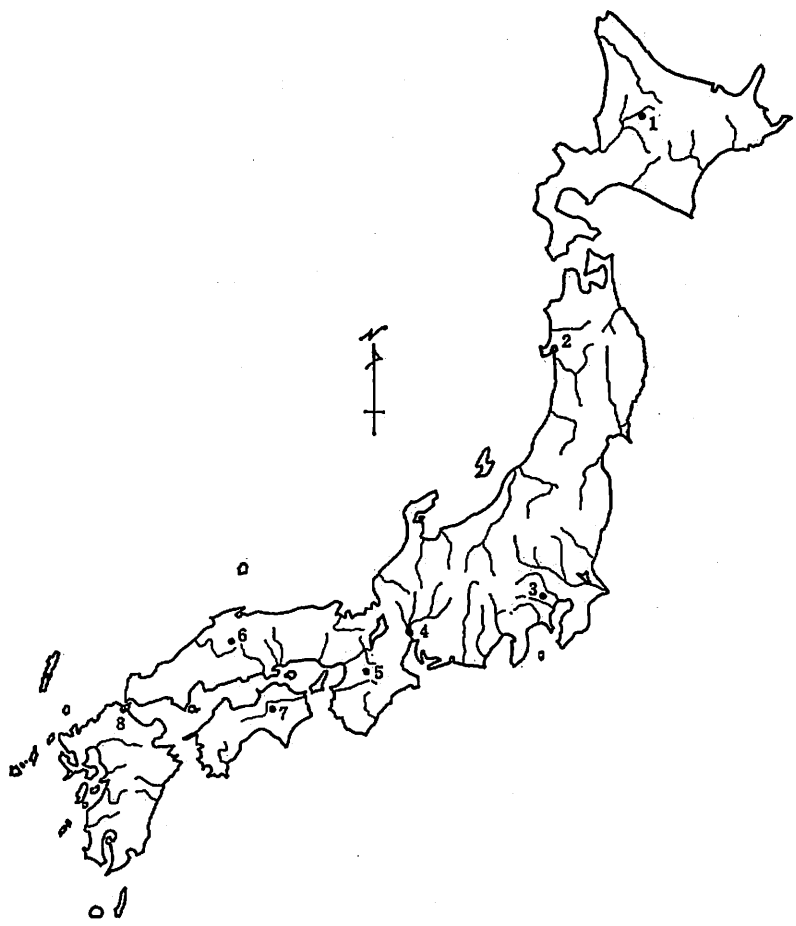
Ⅵ 日本の集落とその代表的な事例地域について、次の各問に答えよ。

(1) 次の㉗～㉜の短文によって説明されている集落は、下記の①～⑥のどれに該当するか。

- ㉗ 明治時代に広大な未開拓地を開拓するとともに、警備を行う目的で設けられた集落。
- ㉘ 屋敷と耕地を水害から守るために、それら全体を堤防で囲んでいる集落。
- ㉙ 防御・排水・灌漑かんがいなどの機能をもっていたほりに囲まれた集落。
- ㉚ 戦いに敗れた落武者の一族郎党が、人目につかない山間僻地へきちに耕地を開いて定住したと伝えられている集落。
- ㉛ 江戸時代に洪積台地こうせき上の原野の開拓によって形成された集落。

- ① 環濠集落かんごう
- ② 隠田集落おんでん (隠田百姓村)
- ③ 新田集落
- ④ 輪中集落
- ⑤ 屯田兵村とんでんへい

(2) 上記㉗～㉜の集落の代表的な分布地を、次ページの略図の1～8から、それぞれ一つずつ選べ。



(3) 次のA群・B群の短文のうちから、(2)で選んだ場所における㉗～㉛の集落に該当するものを、それぞれ一つずつ選べ。

- 【A群】
- ① 集落は起伏のゆるやかな高原に立地している。
  - ② 集落は広大な火山の裾野の湧水帯に沿って立地している。
  - ③ 集落は壮年期の山地の深いV字谷に臨む山腹斜面に立地している。
  - ④ 集落は古くから水害や干害に見舞われがちであった盆地に立地している。
  - ⑤ 集落は海岸砂丘の背後に形成された湖の沿岸に立地している。
  - ⑥ 集落は火山灰におおわれた水の乏しい台地に立地している。
  - ⑦ 集落は大河川が合流する低湿な沖積平野の微高地上や堤防の内側に沿って立地している。
  - ⑧ 集落は気温の年較差のいちじるしいことで知られる内陸盆地の沖積平野に立地している。
- 【B群】
- ① 開拓当時の整然とした大きな水田区画がみられる。
  - ② 集落はうっそうとした針葉樹林に囲まれ、製材業がさかんである。
  - ③ 広大な緩斜面が放牧地に利用され、肉牛の飼育がさかんである。
  - ④ 耕地は傾斜地にあり、階段状に細分されて、生産性が低い。
  - ⑤ 耕地には排水溝が縦横に走り、盛り土をした屋敷内には、一段高いところに水屋が作られている。
  - ⑥ 付近には多くの溜池がみられ、耕地の区画は条里制の影響を強く受けている。
  - ⑦ 各農家の所有する耕地は、屋敷の背後に細長く短冊型にのびているが、現在では宅地化がさかんである。
  - ⑧ 集落のまわりには大きな温室がいく棟も並び、住民の大部分は大都市向けの野菜類の促成栽培に従事している。



# 国立大学共通第一次試験

## 実地研究試験問題

### 数 学

昭和49年11月23日

#### 注 意 事 項

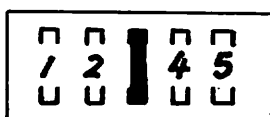
1. 合図があるまでこの冊子を開いてはいけません。
2. 本冊子は15ページあります。落丁，乱丁，印刷不鮮明の箇所を見いだした場合はすみやかに申し出て下さい。
3. 解答用紙に汚れがあったときは申し出て下さい。
4. 解答用紙にはあらかじめ氏名および受験番号を印刷してあります。これを受験票と照合し，違いがある場合には申し出て下さい。
5. 本冊子の余白は草稿用に使用してさしつかえありません。末尾に解答用紙控が入っているので適宜利用して下さい。
6. 解答用紙は鉛筆でマークした部分を機械で直接読みとりますから，次ページの注意を正しく守って下さい。
7. 本冊子は持ち帰ってさしつかえありません。

### 解答用紙記入上の注意

- (i) 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆でマークして下さい。
- (ii) 各解答欄にいくつかの記入位置がありますが、その中の1つだけにマークを記入して下さい。  
ただし、座標平面上の点を解答する場合に対しては、3頁およびその問題の注意に従ってください。
- (iii) マークの記入方法は、つぎに示す「(i)良い例」のように記入し、「(ii)悪い例」のように記入してはいけません。

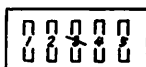
(i) 良い例

たとえば3と解答したいならば



左図の解答欄のように記入位置□の中をなるべく正確にぬりつぶして下さい。

(ii) 悪い例



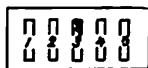
のように数字または文字だけに線を引いたり、



のように○でかこんだり、



のように□の外まではみだしてぬりつぶしたり、



のように□の中をぬりのこしたり、



のように線を引いてはいけません。

- (iv) 訂正は消しゴムでよく消して下さい。
- (v) 解答は指定された解答欄に記入し、解答用紙の他の部分には何も書いてはいけません。
- (vi) 解答用紙は絶対汚さないようにして下さい。また折りまげたり、破ったりしないで下さい。
- (vii) 上記のほか3ページの注意を参照して下さい。

# 数 学

## 〔注意〕

解答はすべて解答用紙の該当する位置にマークで記入する。記入の仕方については、一般的注意を参照せよ。

10以上の数や負の数についても、それぞれの位置にマークする。たとえば、 $-10$ ～ $10$ のマーク位置がある場合に $-9$ を解答しようとするときには、左から2番目の位置1個所にマークする。

座標平面上の点を解答する場合には、横座標、縦座標を考慮して、その点に対応するマーク位置を他の場合と同様にぬりつぶす。

答が整数にならない場合には、特に断りのない限り、解答欄に与えられた整数値のうちでそれに最も近いものにマークする。ただし、ちょうど中間の場合には、絶対値を切り上げて同一の符号をつけた整数値で答えるものとする。

I 次の  にあてはまる数値を求めよ。

1)  $\frac{x+y}{-1} = \frac{y+z}{8} = \frac{z+x}{5} (\neq 0)$  のとき,  $\frac{x^2+y^2+z^2}{xy+yz+zx} =$   ア  である。

2)  $a+b=2, ab=$   イ  のとき,  $a^3+b^3=38$  である。

3)  $2^a=5^b=10$  のとき,  $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} =$   ウ  である。

4)  $(x, y, z)$  を空間座標とするととき, 方程式

$$x^2+y^2+z^2-4x+6y-12z=$$
  エ

は原点を通り, 点  オ  ,  カ  ,  キ  ) を中心とする半径  ク  の球を表わす。





Ⅱ 1) 次の三角関数の値を  $0^\circ$  から  $45^\circ$  までの間の角の三角関数で表わしたい。

$$\sin 80^\circ = \boxed{\text{ア}} \quad \boxed{\text{イ}}$$

$$\cos 140^\circ = \boxed{\text{ウ}} \quad \boxed{\text{エ}}$$

$$\sin (-155^\circ) = \boxed{\text{オ}} \quad \boxed{\text{カ}}$$

$$\cos 705^\circ = \boxed{\text{キ}} \quad \boxed{\text{ク}}$$

$\boxed{\text{ア}}$  ~  $\boxed{\text{ク}}$  にあてはまるものを次の (1)~(14) のうちから選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号のものをくり返し選んでもよい。

- |                 |                 |                 |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| (1) $\sin$      | (2) $-\sin$     | (3) $\cos$      | (4) $-\cos$     |
| (5) $0^\circ$   | (6) $5^\circ$   | (7) $10^\circ$  | (8) $15^\circ$  |
| (9) $20^\circ$  | (10) $25^\circ$ | (11) $30^\circ$ | (12) $35^\circ$ |
| (13) $40^\circ$ | (14) $45^\circ$ |                 |                 |

2) 不等式

$$x-3 \geq \frac{18}{x+4} - 4$$

の解は、 $\boxed{\text{ケ}}$  の形で書ける。次の (1)~(16) のうちから  $\boxed{\text{ケ}}$  にあてはまるものを選び、番号で答えよ。

- (1)  $a \leq x \leq b$
- (2)  $a < x \leq b$
- (3)  $a \leq x < b$
- (4)  $a < x < b$
- (5)  $x \leq a, b \leq x$
- (6)  $x < a, b \leq x$
- (7)  $x \leq a, b < x$
- (8)  $x < a, b < x$
- (9)  $x \leq a, b \leq x \leq c$
- (10)  $x < a, b \leq x \leq c$
- (11)  $x \leq a, b < x \leq c$
- (12)  $x \leq a, b \leq x < c$

(13)  $a \leq x \leq b, c \leq x$

(14)  $a < x \leq b, c \leq x$

(15)  $a \leq x < b, c \leq x$

(16)  $a \leq x \leq b, c < x$

そのとき,  $a =$  ,  $b =$  ,  $c =$   である。 ,

,  にあてはまる数値を求めよ。ただし,  で(1)~(8)のど

れかを選んだ場合には,  については×の位置にマークせよ。

Ⅲ 曲線  $x(y-3)=|12-2y|$  上の点で、 $x$  座標、 $y$  座標がともに整数であるものを考える。  
このような点のうち、

1) 範囲： $-7 \leq x \leq 6$ 、 $-3 \leq y \leq 10$ ……………①

にあるものをすべて求め、解答用紙上でそれらに対応するマーク位置をぬりつぶせ。ただし、 $-3$  から  $10$  までのおおの整数  $m$  に対して、上の条件をみたす点で、 $y$  座標が  $m$  であるものが範囲 ① のなかに 1 つもないときには、(※,  $m$ ) の位置にマークせよ。

また、

2) 上記①の範囲外にあるものは  個である。 にあてはまる数値を求めよ。ただし、そのような点がないときには 0 の位置に、10 個以上の有限個であるときには 10 の位置に、無限に多くあるときには  $\times$  の位置にマークせよ。



Ⅳ 次の  にあてはまる数値を求めよ。

2つの円

$$(x-1)^2+(y-3)^2=4\cdots\cdots\textcircled{1}$$

$$(x-3)^2+(y-1)^2=4\cdots\cdots\textcircled{2}$$

の交点を、原点に近い順にA, Bとする。

1) 2点 A, Bを通る円の中心の軌跡の方程式は

$$x + \boxed{\text{ア}} y + \boxed{\text{イ}} = 0$$

である。

2) A, Bを通るすべての円に接線をひくことのできる点の存在する範囲は、直線

$$x + \boxed{\text{ウ}} y + \boxed{\text{エ}} = 0 \cdots\cdots\textcircled{3}$$

から2つの円①, ②の内部にある点全体を除いた部分である。たとえば、

点P (5, )からはA, Bを通るすべての円に接線をひくことができる。

3) A, Bを通る任意の円に上記の定点Pから接線をひき、接点をTとする。このとき、つねに

$$\overline{PT}^2 = \overline{PA} \times \sqrt{\boxed{\text{カ}}}$$

が成立する。接点Tの軌跡は、円

$$(x - \boxed{\text{キ}})^2 + (y - \boxed{\text{ク}})^2 = \boxed{\text{ケ}}$$

である。ただし、直線③との交点は除く。

下列各式中，正确的是 **計 算 用 紙**  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

**計 算 用 紙**

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

下列各式中，正确的是  $A: a^2 + a^2 = 2a^2$   $B: a^2 + a^2 = a^4$   $C: a^2 + a^2 = a^2$   $D: a^2 + a^2 = a^2 + 2a^2$

V  $x$  の 2 次式  $P(x)=x^2+ax+b$  は、次の条件(\*)を満足するものとする。

方程式  $P(x)=0$  は異なる 2 実根をもち、 $P(x-2) \cdot P(x+2)$  は  $P(x)$  } .....(\*)  
で割り切れる。

このとき、以下の問 1), 2), 3), 4) に答えよ。

1) 方程式  $P(x)=0$  の 2 実根を  $\alpha, \beta$  (ただし、 $\alpha < \beta$ ) とするとき、 $\alpha$  と  $\beta$  の間にはつねに等式

$$\alpha = \boxed{\text{ア}}$$

が成り立つ。 $\boxed{\text{ア}}$  にあてはまる式を次の(1)~(10)のうちから選び、番号で答えよ。

- (1)  $\beta-1$                       (2)  $\beta+1$                       (3)  $\beta-2$   
(4)  $\beta+2$                       (5)  $\beta^2-1$                       (6)  $\beta^2-4$   
(7)  $(\alpha-2)(\beta-2)$                       (8)  $(\alpha-2)(\beta+2)$   
(9)  $(\alpha+2)(\beta-2)$                       (10)  $(\alpha+2)(\beta+2)$

2) 次の  $\square$  にあてはまる数値を求めよ。

$a=4$  のとき、 $b = \boxed{\text{イ}}$  である。

$b=-1$  のとき、 $a = \boxed{\text{ウ}}$  である。

3) 2 次関数  $P(x)$  の最小値を  $m$  とし、 $a, b$  を条件(\*)を満足するように動かして得られる  $m$  の値全体の集合を  $M$  とする。

$M$  について成り立つ命題は  $\boxed{\text{エ}}$  である。 $\boxed{\text{エ}}$  にあてはまるものを次の(1)~(5)のうちから選び、番号で答えよ。

- (1)  $M$  は実数全体と一致する。  
(2) ある定数  $c$  に対して、 $M$  は集合  $\{t \mid t \geq c\}$  と一致する。  
(3) ある定数  $c$  に対して、 $M$  は集合  $\{t \mid t \leq c\}$  と一致する。  
(4) ある定数  $c$  に対して、 $M$  は集合  $\{t \mid c-2 \leq t \leq c+2\}$  と一致する。  
(5)  $M$  はただ 1 つの数  $c$  からなる集合である。

4) 次の  $\square$  にあてはまる数値を求めよ。

問 3) で選んだ命題における  $c$  の値は  $\boxed{\text{オ}}$  である。ただし、問 3) において(1)を選んだ場合には  $\times$  の位置にマークせよ。



計 算 用 紙

計 算 用 紙



# 国立大学共通第一次試験

## 実地研究試験問題

### 理 科

(物理, 化学, 生物, 地学の中から二科目を選択)

昭和49年11月24日

#### 注 意 事 項

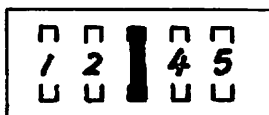
1. 合図があるまでこの冊子を開いてはいけません。
2. 本冊子は43ページあります〔物理4～11ページ, 化学12～21ページ, 生物22～33ページ, 地学34～43ページ〕。落丁, 乱丁, 印刷不鮮明の箇所を見いだした場合はすみやかに申し出て下さい。
3. 解答用紙に汚れがあったときは申し出て下さい。
4. 解答用紙にはあらかじめ氏名および受験番号を印刷してあります。これを受験票と照合し, 違いがある場合には申し出て下さい。
5. 本冊子の余白は草稿用としてさしつかえありません。各科目の末尾に解答用紙控が入っているので適宜利用して下さい。
6. 解答用紙は鉛筆でマークした部分を機械で直接読みとりますから, 3ページの注意を正しく守って下さい。
7. 本冊子は持ち帰ってさしつかえありません。
8. 選択しない科目の解答用紙は時間の途中で回収します。

### 解答用紙記入上の注意

- (i) 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆でマークして下さい。
- (ii) 各解答欄にいくつかの記入位置がありますが、その中の1つだけにマークを記入して下さい。
- (iii) マークの記入方法は、つぎに示す「(i)良い例」のように記入し、「(iv)悪い例」のように記入してはいけません。

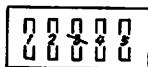
(i) 良い例

たとえば3と解答したいならば



左図の解答欄のように記入位置□の□の中をなるべく正確にぬりつぶして下さい。

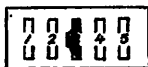
(iv) 悪い例



のように数字または文字だけに線を引いたり、



のように○でかこんだり、



のように□の外まではみだしてぬりつぶしたり、



のように□の中をぬりのこしたり、

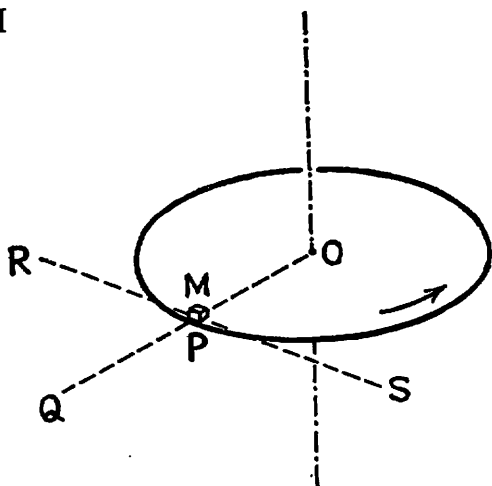


のように線を引いてはいけません。

- (iv) 訂正は消しゴムでよく消して下さい。
- (v) 解答は指定された解答欄に記入し、解答用紙のその他の部分には何も書いてはいけません。
- (vi) 解答用紙は絶対汚さないようにして下さい。また折りまげたり、破ったりしないで下さい。

# 物 理

I



水平な床から高さ 1.5m のところに、直径が約 1 m の水平な円板があり、その中心 O を通る鉛直軸のまわりに回転することができる。円板を回す向きはいつも、上から見て時計の針が回るのと逆である。

また、質量 0.30kg の小物体 M があり、円板上に転がらないようにのせることができ、これと円板との間の静止摩擦係数は 0.70 である。

重力の加速度の大きさを  $9.8\text{m/s}^2$  として、次の各問に最も適当と思われるものを解答群の中から選べ。

(A) 小物体 M を中心 O から 0.50m だけ離れた円板上の P 点にのせ、円板を 2.0s に 1 回の割合で一様に回転させたところ、小物体 M は円板に対して滑ることなく一緒に回った。図は、ある瞬間の様子を描いたもので、直線 OPQ と、水平な直線 RPS とは、P において直交している。このとき、

(a) 小物体 M の速度の方向は次のどれか。ただし例えば P から Q に向う方向を P→Q のように表わす。

- ア P→O      イ P→Q      ウ P→R      エ P→S  
オ P→S と P→O との間      カ P→Q と P→S との間      キ その他

(b) 小物体 M の速度の大きさ (単位は m/s) は次のどれか。

- ア 0.16      イ 0.47      ウ 0.79      エ 1.6      オ 3.1  
カ 4.9      キ 6.3      ク 13      ケ 20

(c) 小物体 M の加速度の方向は次のどれか。ただし方向の表わし方は問(a)と同じ。

- ア 加速度はないので考えられない      イ P→O      ウ P→Q      エ P→R  
オ P→S      カ 鉛直下向き      キ その他

(d) 小物体 M の加速度の大きさ (単位は  $\text{m/s}^2$ ) は次のどれか。

- ア 0      イ 0.16      ウ 0.47      エ 0.79      オ 1.6  
カ 4.9      キ 6.3      ク 9.8      ケ 20

(e) 円板から小物体Mに作用する摩擦力の方向は次のどれか。方向の表わし方は問(a)と同じ。

ア 摩擦力は作用しないので考えられない    イ P→O    ウ P→Q    エ P→R  
オ P→S    カ 鉛直上向き    キ 鉛直下向き    ク その他

(f) 円板から小物体Mに作用する摩擦力の大きさ(単位はN)は次のどれか。

ア 0    イ 0.24    ウ 0.47    エ 1.5    オ 1.9  
カ 2.1    キ 3.8    ク 5.9    ケ 6.9

(B) 円板の回転を、(A)の場合よりも少しずつ速くして行くと、やがて小物体Mは円板に対して滑ることになる。このとき、

(g) 小物体Mが円板に対して滑り始める瞬間の円板の角速度(単位はラジアン/s)は次のどれか。

ア 3.1    イ 3.4    ウ 3.7    エ 4.9    オ 5.2  
カ 6.3    キ 9.4    ク 14    ケ 27

(h) 滑り始めた小物体Mが、円板を離れてから床に達するまでの時間(単位はs)は次のどれか。

ア 0.28    イ 0.31    ウ 0.37    エ 0.55    オ 1.8  
カ 2.6    キ 2.7    ク 3.6    ケ 3.8    コ 5.4

II

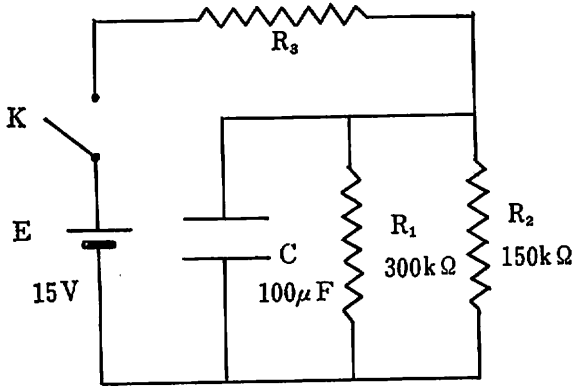


図 (1)

図(1)の回路で、 $R_1$  は 300 キロオームの抵抗、 $R_2$  は 150 キロオームの抵抗、 $R_3$  は抵抗値未知の抵抗、 $E$  は起電力 15 ボルトの電池（内部抵抗は無視できる）、 $C$  は容量 100 マイクロファラドのコンデンサー、 $K$  はスイッチである。

次の各問の文中の  に入れるのに適当な数値を 解答群 A から、また ( ) に入れるのに適当な指数を解答群 B から選べ。

(1) 図(1)のKが閉じて、 $R_1$  に  $1.0 \times 10^{-5}$  アンペアの定常な電流が流れているとき、

- (i)  $R_2$  を流れる電流は  U  $\times 10^{(u)}$  アンペアである。
- (ii)  $R_3$  の抵抗は  V  $\times 10^{(v)}$  オームである。
- (iii)  $R_3$  で消費される電力は  W  $\times 10^{(w)}$  ワットである。
- (iv) C にたくわえられている電気量は  X  $\times 10^{(x)}$  クーロンである。

(2) 次に図(1)のKを開くと、 $R_1$  を流  $1.0 \times 10^{-5}$  れる電流は、図(2)に示すように減少していく。縦軸は  $R_1$  を流れる電流、横軸はKを開いてからの時間である。

- (i) Kを開いて5秒後のCの両極間の電位差は  Y  $\times 10^{(y)}$  ボルトで  $0.5 \times 10^{-5}$  ある。
- (ii) Kを開いてから5秒間に、 $R_1$  を流れる電気量はおよそ  Z  $\times 10^{(z)}$  クーロンである。  
(0秒から5秒まで、電流は直線的に減少するとしてよい。)

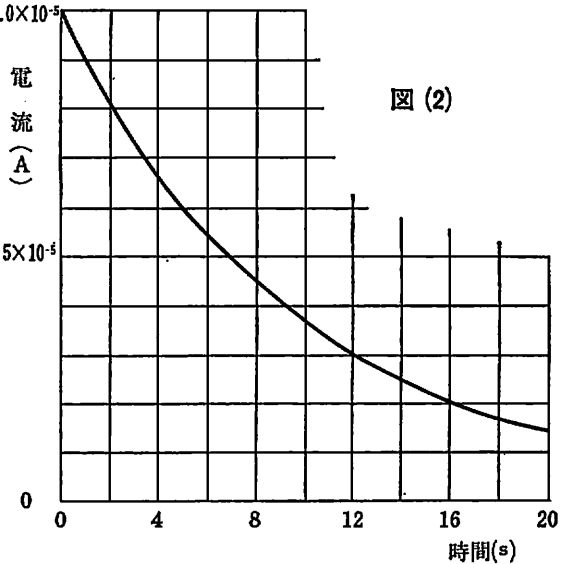


図 (2)



解答群A

ア 1.0	イ 1.2	ウ 1.5	エ 1.8	オ 2.0
カ 3.0	キ 3.6	ク 4.0	ケ 4.5	コ 5.0

解答群B

ア -7	イ -6	ウ -5	エ -4	オ -3
カ 0	キ 1	ク 3	ケ 4	コ 5

III 次の問題(1)~(4)の文中の  に入れるのに最も適当と思われるものを、それぞれの解答群の中から選べ。

(1) 高さ 50m の所から一定流量  $20\text{m}^3/\text{s}$  の水が落下しているという。このとき、水の失う位置エネルギーは毎秒  a  J である。これは太陽光線に垂直な  b   $\text{m}^2$  の平面が毎秒受ける太陽の放射エネルギーに等しい。また、これは石油を毎秒  c  リットル燃やして得られる熱量に等しい。

ただし、太陽光線に垂直な  $1\text{m}^2$  の面が毎秒受ける放射エネルギーを  $3.2 \times 10^2 \text{cal}$  とし、石油 1 リットルの発熱量を  $8.0 \times 10^6 \text{cal}$  とする。また、熱の仕事当量を  $4.2 \text{J/cal}$ 、重力の加速度の大きさを  $9.8\text{m/s}^2$  とする。

	解 答 群					
a	ア $4.9 \times 10^4$	イ $9.8 \times 10^4$	ウ $1.96 \times 10^5$	エ $4.9 \times 10^5$	オ $9.8 \times 10^5$	
	カ $1.0 \times 10^6$	キ $2.0 \times 10^6$	ク $4.9 \times 10^6$	ケ $9.8 \times 10^6$	コ $2.0 \times 10^7$	
b	ア $1.8 \times 10^3$	イ $3.5 \times 10^3$	ウ $7.3 \times 10^3$	エ $1.5 \times 10^4$	オ $1.8 \times 10^4$	
	カ $3.5 \times 10^4$	キ $7.3 \times 10^4$	ク $1.5 \times 10^5$	ケ $1.8 \times 10^5$	コ $7.3 \times 10^5$	
c	ア 0.26	イ 0.29	ウ 0.32	エ 0.35	オ 0.51	
	カ 2.6	キ 2.9	ク 3.2	ケ 3.5	コ 5.1	

(2) 振動がつぎつぎと伝わってゆく現象を波という。特に単振動が伝わる場合を  d  という。また、振動の方向が波の伝わる方向と垂直である場合を  e  という。

	解 答 群 (d, e に共通)			
d	ア 平面波	イ 球面波	ウ 正弦波	エ 定常波
e	オ たて波	カ 横波	キ 音波	ク 電磁波

(3) 振動数(周波数) $\nu$ 、波長 $\lambda$ の波が伝わる速さは  $\boxed{f}$  であり、この波が $x$ 軸の正の向きに進んでいるとき、座標が $x$ の点での振動は原点での振動に比べて位相が  $\boxed{g}$  だけおけている。

解 答 群 (f, gに共通)	
f	ア $\nu\lambda$ イ $\frac{\nu}{\lambda}$ ウ $\frac{\lambda}{\nu}$ エ $2\pi\sqrt{\frac{\nu}{\lambda}}$
	オ $2\pi\nu\lambda$ カ $x\nu\lambda$ キ $x\nu$ ク $\frac{x}{\lambda}$
g	ケ $\frac{2\pi x}{\lambda}$ コ $\frac{2\pi x}{\nu}$ サ $2\pi\sqrt{\frac{x}{\lambda}}$ シ $\frac{x\nu}{2\pi}$

(4) ある光に対する水とガラスの屈折率(絶対屈折率)をそれぞれ $n_1, n_2$ とする。また、この光の水とガラスの中での波長をそれぞれ $\lambda_1, \lambda_2$ とすると、 $\frac{\lambda_1}{\lambda_2}$ を屈折率であらわすと  $\boxed{h}$  である。

解 答 群	
h	ア $n_1 n_2$ イ $\frac{n_1}{n_2}$ ウ $\frac{n_2}{n_1}$ エ $\frac{n_1}{n_2} - 1$
	オ $\frac{n_2}{n_1} - 1$ カ $\frac{n_1 - 1}{n_2 - 1}$ キ $\frac{n_2 - 1}{n_1 - 1}$ ク $\frac{n_1^2}{n_2^2}$
	ケ $\frac{n_2^2}{n_1^2}$ コ $\sqrt{\frac{n_1}{n_2}}$ サ $\sqrt{\frac{n_2}{n_1}}$

1. 计算用紙

2. 计算用紙

计算用紙			
$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$
$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$
$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$

3. 计算用紙

计算用紙			
$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$
$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$
$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$	$\frac{1}{x} = \frac{1}{x}$

理科物理 解答用紙控

I	A	a	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		b	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		c	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		d	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		e	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		f	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
	B	g	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		h	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3

II	(1)	(i) U	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	u	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		(ii) V	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	v	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		(iii) W	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	w	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		(iv) X	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	x	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
	(2)	(i) Y	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	y	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		(ii) Z	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	z	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3

III	(1)	a	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	b	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		c	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3		
	(2)	d	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	e	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
		(3) f	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	g	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3
(4) h	2 2 3 3 3 3 3 3 3 3				

# 化 学

〔注意〕 必要な場合には次の数値を用いよ。原子量：H=1, C=12, O=16

I 解答は最も適当なものを一つ選べ。ただし問14と15の元素記号の左肩の数字は質量数を示す。

問1 次の物質のうち、その結晶が分子結晶であるのはどれか。

- (A) アルミニウム      (B) 食塩      (C) ダイヤモンド      (D) ナフタリン  
(E) 石墨      (F) タングステン      (G) ミョウバン      (H) ケイ素  
(I) 臭化銀      (J) 塩化アンモニウム

問2 次の操作で発生する気体のうち、反応前の状態からみて還元された状態の原子を含むものはどれか。

- (A) 炭酸カルシウムに塩酸を注ぐ。  
(B) 銅に濃硫酸を加えて加熱する。  
(C) 二酸化マンガンを塩酸を加えて加熱する。  
(D) 二酸化マンガンを過酸化水素水を滴下する。  
(E) 塩化アンモニウムと水酸化カルシウムを混ぜ合わせて加熱する。  
(F) 炭酸水素ナトリウムを加熱する。

問3 次の記述のうち、誤っているのはどれか。

- (A) 蒸留を一時中止し、冷えたものを再び蒸留する場合は、新たに沸騰石を加えなければならない。  
(B) デシケーターやビュレットなどのすり合わせ部分に塗ったワセリンが汚れた場合、石油ベンゼンをしみこませたガーゼでふくとよくとれる。  
(C) ナトリウムは銀白色の柔らかい金属で、ふつう石油の中に保存する。  
(D) エチルアルコール中に含まれる少量の水は無水硫酸銅を用いて検出することができる。  
(E) 暗い所でベンゼンに塩素を通じても、塩素は付加しないが、日光を当てると付加反応が起こる。  
(F) デンプンの水溶液にヨウ素ヨウ化カリウム水溶液を加えると青色を呈するが、熱すると色が消え、冷やすと青色にもどる。  
(G) エチルエーテルも四塩化炭素も蒸発しやすく、引火性が強いから取扱いに注意しなければならない。

問4 エチルアルコールを重クロム酸カリウムと硫酸の混液で酸化して、アセトアルデヒドをつくる時には、過剰の酸化剤を用いないように注意し、生じるアセトアルデヒドを蒸留して直に取り出す必要がある。その理由として考えられるのはどれか。

- (A) アセトアルデヒドとエチルアルコールが反応してエステルを生じる。
- (B) エチルアルコールはアセトアルデヒドより還元されやすい。
- (C) アセトアルデヒドはエチルアルコールより還元されやすい。
- (D) エチルアルコールはアセトアルデヒドより酸化されやすい。
- (E) アセトアルデヒドはエチルアルコールより酸化されやすい。
- (F) アセトアルデヒドがふえると逆反応が起こってエチルアルコールとなる。

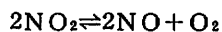
問5 次の記述のうち、正しいのはどれか。

- (A) ポリビニルアルコール  $-\{ \text{CH}_2-\text{CH}(\text{OH}) \}_n$  は、その単量体であるビニルアルコール  $\text{CH}_2=\text{CH}(\text{OH})$  が直接付加重合してできたものである。
- (B) デンプンとセルロースはどちらもブドウ糖が付加重合したものである。
- (C) フェノール樹脂はフェノールとホルムアルデヒドが縮重合してできたものである。
- (D) 羊毛はタンパク質の一種で、同一種類の $\alpha$ -アミノ酸が縮重合したものである。
- (E) 6,6-ナイロンはアジピン酸とヘキサメチレンジアミンが付加重合してできたものである。

問6 次の記述のうち、例外なく成立するのはどれか。

- (A) 固体の溶解度は温度が上がると大きくなる。
- (B) 加熱しても化学変化を起こさない物質の固体は、温度を上げていくと液体をへて気体になる。
- (C) 物質の融点は外圧が大きくなると、沸点の場合程著しくはないが上昇する。
- (D) 不揮発性物質の希薄水溶液の沸点上昇度は、そのモル濃度が等しければ、溶質の種類に関係なく等しい。
- (E) 化学平衡は温度または圧力が変われば移動する。
- (F) 可逆反応において正反応が発熱反応であれば、その逆反応は吸熱反応である。

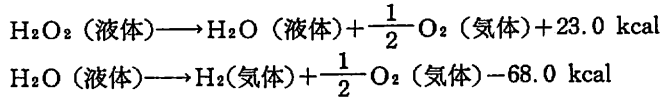
問7 二酸化窒素は高温で分解して次の平衡に達する。



二酸化窒素1*l* をある一定の温度、圧力のもとで分解したら、全体の体積が1.2*l* になって平衡に達した。二酸化窒素の何%が分解したか。ただし気体はすべて理想気体とする。

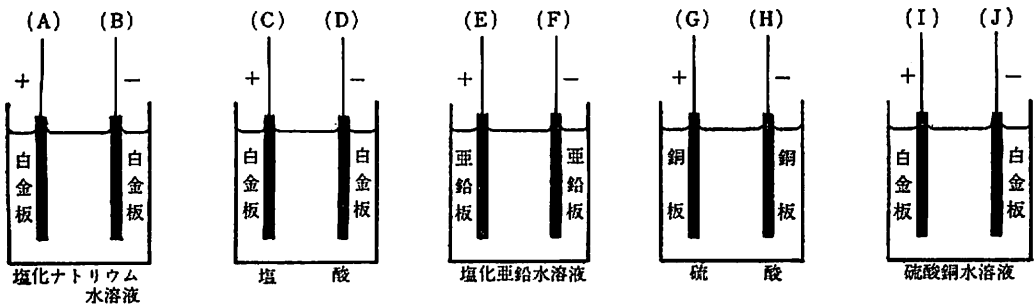
- (A) 10
- (B) 20
- (C) 30
- (D) 40
- (E) 50

問 8 過酸化水素  $\text{H}_2\text{O}_2$  (液体) 1 モルのもつエネルギー  $E_A$  と、水素  $\text{H}_2$  (気体) 1 モル、酸素  $\text{O}_2$  (気体) 1 モルの混合物のもつエネルギー  $E_B$  との差を正しく表わしているものはどれか。次の熱化学方程式を用いて求めよ。



- (A)  $E_A$  は  $E_B$  より 91.0 kcal だけ小さい。  
 (B)  $E_A$  は  $E_B$  より 91.0 kcal だけ大きい。  
 (C)  $E_A$  は  $E_B$  より 45.0 kcal だけ小さい。  
 (D)  $E_A$  は  $E_B$  より 45.0 kcal だけ大きい。  
 (E)  $E_A$  は  $E_B$  より 22.5 kcal だけ小さい。  
 (F)  $E_A$  は  $E_B$  より 22.5 kcal だけ大きい。

問 9 図に示すような電極と 0.5 モル/l の電解質溶液の組み合わせがある。これらに約 1 A の電流を流してそれぞれ電気分解したとき、酸素が盛んに発生する極はどれか。



問 10 ある金属の酸化物には a, b の 2 種類がある。a, b それぞれ 10.00 g を還元したところ、a からは 7.00 g, b からは 7.78 g の金属が得られた。この金属の原子量に最も近いのはどれか。

- (A) 18.7      (B) 28.0      (C) 37.4      (D) 56.0      (E) 84.0

問 11 グリセリンと  $\text{CH}_3(\text{CH}_2)_n\text{COOH}$  で表わされる単一の飽和脂肪酸からグリセリンエステル (グリセリンのすべての水酸基がエステル化されたもの) をつくるとき、エステルの分子量がもとの脂肪酸の 3.19 倍であるような脂肪酸は存在するか。存在するならば、その分子量はいくらか。

- (A) 100      (B) 200      (C) 280      (D) 480      (E) 760      (F) 存在しない



問12 五つの金属 a, b, c, d 及び e について、そのイオン化傾向の大小を知るために次の実験を行った。

(i) 2枚の金属板 b, c を塩化ナトリウム水溶液につけて電池をつくり、検流計で電流の方向を調べると、c から b の方へ流れていることがわかった。

(ii) これらの金属片を5本の試験管に別々に入れて希硫酸を加えると、b と c を入れた試験管からは気体が発生したが、a, d 及び e を入れた試験管では変化がみられなかった。

(iii) d の塩の水溶液に、e の針金をつるすと、針金に d の金属樹ができた。

(iv) ある電解質溶液に2枚の金属板 b と e を浸して電池をつくり、その起電力をはかるところ、同じようにして金属板 b と a でつくった電池の起電力よりも大きかった。

(i)~(iv) から次に示すこれらの金属のイオン化傾向の順序のうち、正しいものはどれか。

- (A)  $b > c > a > e > d$       (B)  $b > c > e > a > d$   
(C)  $a > e > d > b > c$       (D)  $c > b > a > e > d$   
(E)  $e > a > d > c > b$       (F)  $c > b > e > a > d$   
(G)  $b > c > a > d > e$

問13 希硫酸 80ml に 0.09規定の水酸化ナトリウム水溶液 120ml を加えて反応させ、pH を測定したら 2.0 であった。初めの希硫酸のモル濃度は次のどれに最も近いか。ただし、硫酸は完全に電離しているものとする。

- (A) 0.8      (B) 0.4      (C) 0.16      (D) 0.14      (E) 0.08      (F) 0.03

問14 次の元素の原子核で、陽子と中性子の数の比が 1 : 1 でないものはどれか。

- (A)  ${}^6\text{Li}$       (B)  ${}^9\text{Be}$       (C)  ${}^{10}\text{B}$       (D)  ${}^{12}\text{C}$       (E)  ${}^{14}\text{N}$       (F)  ${}^{16}\text{O}$

問15 電子23個をもつ2価の金属イオンの中性子数は30個であった。該当する原子はどれか。

- (A)  ${}^{51}\text{V}$       (B)  ${}^{52}\text{Cr}$       (C)  ${}^{55}\text{Mn}$       (D)  ${}^{56}\text{Fe}$       (E)  ${}^{59}\text{Co}$       (F)  ${}^{58}\text{Ni}$

Ⅱ 次の(1)~(4)の操作でそれぞれ反応が進む理由として、最も適当なものを(A)~(F)の中から一つずつ選べ。ただし同じ理由を重複して使ってもよい。

- (1) アルミニウム片を水酸化ナトリウム水溶液に溶かす。
- (2) 塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加える。
- (3) 水酸化カルシウム水溶液に炭酸ナトリウム水溶液を加える。
- (4) 食塩に濃硫酸を加えて加熱する。

- (A) 生成物の一つが強電解質である。
- (B) 水に溶けにくい塩が沈殿する。
- (C) 水はわずかしか電離しない。
- (D) 反応物の一つが強電解質である。
- (E) 気体が発生する。
- (F) 安定なイオンが生成する。

Ⅲ 次の(1)~(3)の事項に該当する物質を、(A)~(H)の化合物の中から一つずつ選べ。

- (1) 水に溶け、硫酸を加えると刺激臭の気体が発生する。この気体はヨウ素ヨウ化カリウム水溶液を脱色する。
- (2) 水に溶け、濃い水酸化ナトリウム水溶液を加えて加熱すると、においのある気体が発生する。この気体はリトマス試験紙を青変させる。
- (3) 水に溶けないが、希硫酸を加えると、においのある気体を発生して溶ける。この気体は酢酸鉛試験紙を黒変させる。

- (A)  $\text{CaCO}_3$       (B)  $\text{HgCl}_2$       (C)  $\text{FeS}$       (D)  $\text{CaC}_2$       (E)  $(\text{NH}_4)_2\text{SO}_4$   
(F)  $\text{MnO}_2$       (G)  $\text{Na}_2\text{SO}_3$       (H)  $\text{KCl}$

IV (i)欄の実験事実から a, b に該当する化合物を(II)欄から選べ。

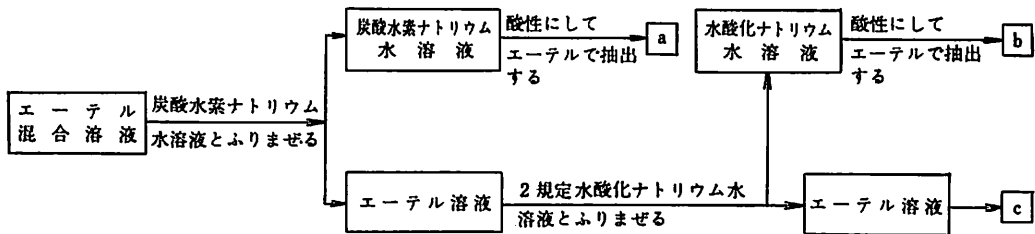
(i) a の元素組成は C : 64.90, H : 13.50, O : 21.60% で、重クロム酸カリウムと硫酸の混液を用いて酸化すると、中性物質 b を生じた。

b は常温、常圧では液体で、銀鏡反応を示さない。b 1 モルを完全に燃焼させると二酸化炭素 4 モルを生じた。

- (ii) (A)  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{CH}(\text{OH})\text{CH}_3$                       (B)  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{OH}$   
(C)  $\text{CH}_3\text{CH}(\text{OH})\text{CH}_3$                               (D)  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{OCH}_2\text{CH}_3$   
(E)  $\text{CH}_3\text{COCH}_3$                                       (F)  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CHO}$   
(G)  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{CH}=\text{CH}_2$                             (H)  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{COCH}_3$   
(I)  $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{CH}_2\text{COOH}$

V a, b, c の 3 種の化合物を、エーテルに溶かした混合溶液がある。これは次に示すような方法で分離することができる。また a は塩化第二鉄溶液で呈色し、b には  $\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ -\text{C}-\text{O}-\text{C}- \\ | \end{array}$  の部分構造があり、c は加水分解することができる。a ~ c に該当する化合物を(A)~(J)の中から選べ。

分 離 方 法

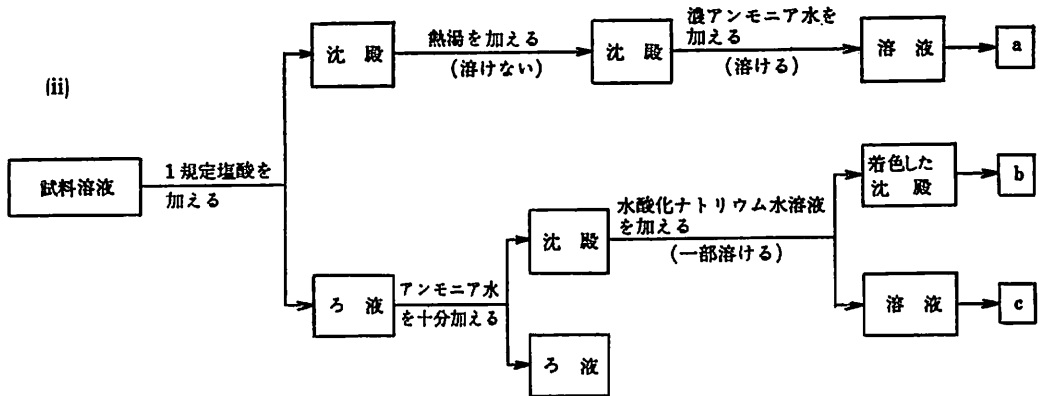


- |              |               |           |         |
|--------------|---------------|-----------|---------|
| (A) 酢酸       | (B) アニリン      | (C) 安息香酸  | (D) 石炭酸 |
| (E) クレゾール    | (F) 酢酸エチル     | (G) サリチル酸 | (H) ショ糖 |
| (I) サリチル酸メチル | (J) アセチルサリチル酸 |           |         |

VI 試薬ビンに(i)欄に示すような金属の硝酸塩が、それぞれ0.1モル/lになるように3種類混ぜて入れている。(ii)欄に示すような操作を行って、含まれている金属塩の種類を確かめた。  
a～cにイオンとして含まれる金属を(i)欄から選べ。

(i)

- |       |            |          |           |
|-------|------------|----------|-----------|
| (A) 鉛 | (B) アルミニウム | (C) カリウム | (D) カルシウム |
| (E) 鉄 | (F) 銅      | (G) バリウム | (H) 銀     |



理科 化学 解答用紙控

I	1	XXXXXXXXXX	2	XXXXXXXX	3	XXXXXXXXXX	4	XXXXXXXX
	5	XXXXXX	6	XXXXXXXXXX	7	XXXXXX	8	XXXXXXXXXX
	9	XXXXXXXXXX	10	XXXXXX	11	XXXXXXXXXX	12	XXXXXXXXXX
	13	XXXXXXXXXX	14	XXXXXXXXXX	15	XXXXXXXXXX		

II	1	XXXXXXXXXX	2	XXXXXXXXXX	3	XXXXXXXXXX	4	XXXXXXXXXX
----	---	------------	---	------------	---	------------	---	------------

III	1	XXXXXXXXXX	2	XXXXXXXXXX	3	XXXXXXXXXX
-----	---	------------	---	------------	---	------------

IV	a	XXXXXXXXXX
	b	XXXXXXXXXX

VI	a	XXXXXXXXXX
	b	XXXXXXXXXX
	c	XXXXXXXXXX

V	a	XXXXXXXXXX
	b	XXXXXXXXXX
	c	XXXXXXXXXX

# 生 物

I 物質交代に関して次のAとBの(1)から(5)までの各問いに答えよ。

A 物質交代の進行に直接に関与している酵素について、次の実験を行なった。

(1) すりつぶしたジャガイモの塊茎のしぼり汁(酵素液)に基質のはいた液を加え、 $37^{\circ}\text{C}$ で反応の進行をみた。この場合、対照実験として、酵素液に基質を含まない蒸留水を加えたものでも、いくらかは反応が進行した。後者の理由について、最も可能性の高いと考えられるものを、次のアからオまでの文の中から一つ選べ。

ア 酵素反応は、まったく基質がなくても、少しずつ進行したことによる。

イ 酵素が蒸留水によって溶かし出されたため、反応が進んだことによる。

ウ 酵素液中に、基質と同様の物質が含まれていたことによる。

エ 酵素液中に、類似の反応を触媒する他の酵素が混在していたことによる。

オ 蒸留水中に含まれている微量のイオンが、反応を進行させたことによる。

(2) 反応生成物の量で酵素反応の速さ(酵素作用の強さ)を知るためには、次のアからオまでの実験のうち、最も必要なものはどれか。一つを選べ。

ア 他の条件は最適とし、温度をかえて反応生成物の量をみた。

イ 他の条件は最適とし、反応時間をかえて反応生成物の量をみた。

ウ 他の条件は最適とし、反応時間をじゅうぶんにとり、基質を完全に分解させて反応生成物の量をみた。

エ 他の条件は最適とし、基質の濃度をかえて反応生成物の量をみた。

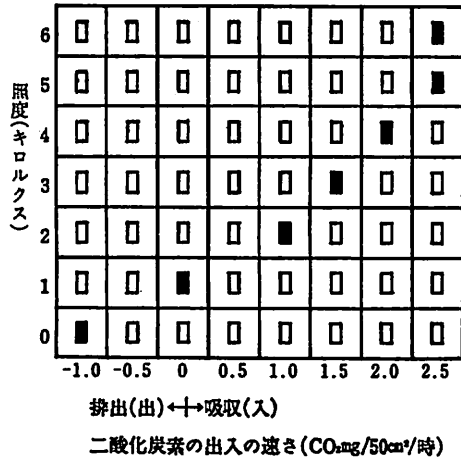
オ 他の条件は最適とし、酵素の濃度をかえて反応生成物の量をみた。



B 下の図は、一定の温度・二酸化炭素濃度のもとで、ある植物の葉にいろいろな強さ（照度）の光を照射して、二酸化炭素の出入の速さを調べた結果を■で示したものである。ただし、呼吸は光照射によって影響されないものとする。

(3) 図中の1キロルクスの照度は、この葉について何と呼ばれるか。その用語を、次のアからタまでの漢字の中から3字を順に選んで答えよ。

- ア 暗    イ 化    ウ 光  
 エ 衡    オ 最    カ 小  
 キ 償    ク 適    ケ 点  
 コ 同    サ 平    シ 補  
 ス 飽    セ 明    ソ 量  
 タ 和



(4) 図中の照度1～6キロルクスにおけるこの葉の呼吸の速さ(単位はCO<sub>2</sub>mg/50cm<sup>2</sup>/時)はいくらか。答えは、解答用紙の照度1～6キロルクスの欄ごとに、該当する□を一つずつぬりつぶせ。

(5) 図中の照度3キロルクスにおけるこの葉の光合成の速さ(単位はCO<sub>2</sub>mg/50cm<sup>2</sup>/時)はいくらか。答えは、数値のみを〔解答例〕にならしてせ。

〔解答例〕数値が例えば12.3の場合

には、右の図のように10位、1位、  
 小数第1位の欄の該当する数字の  
 □をぬりつぶすこと。なお、位に

10位	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1位	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
小数第1位	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

該当する数字のない場合には、その位の欄の数字が0の□を必ずぬりつぶすこと。

Ⅱ 生物体の調節に関して次のA～Dの(1)から(7)までの各問いに答えよ。

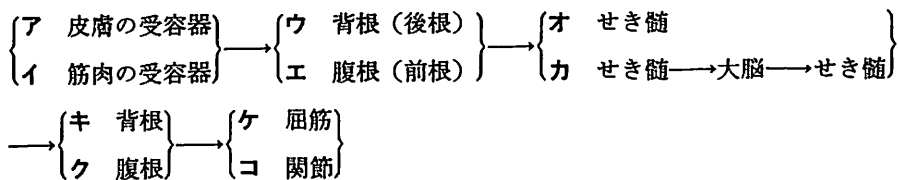
A 夜になって庭に出てきたヒキガエルに次の①から⑥までの動作が観察された。

- ① 頭に小石が当たったとき、両まぶたを閉じた。
- ② 後肢しにライターしの炎を近づけたら、後肢を急に縮めた。
- ③ 懐中電燈で照らしたら、瞳孔とらが縮小するのがみえた。
- ④ 照らした懐中電燈を消したら、瞳孔は拡大していった。
- ⑤ 前肢を小さな棒でふれたら、前肢を後ろにひいた。

(1) 上の①から⑥までの動作を説明するのに最も適した用語を、次のアからオまでの中から一つ選べ。

ア 走性    イ 無条件反射    ウ 条件反射    エ 学習    オ 知能

(2) 上の⑥の動作について、次の刺激の伝達の道すじ中の{ }内にあるアからコまでの文または用語から、{ }ごとに適切なもの一つずつを選び、反応経路を完成せよ。



B あなたがたは「ヒトや動物の筋肉は神経からの命令によって収縮する。」ということを読んでる。この知識をさらに具体的なものとするため、次の(a)および(b)の文を完成したい。

(a) 神経単位 (ニューロン) 内の信号の伝導は、 に基づく。

(b) 筋肉の収縮は、 によって起こる。

(3) 上の(a)の文中の  をうめるのに最も適したものを、次のアからキまでの中から一つ選べ。

- ア 細胞内を移動する特定の化学物質      イ 細胞内を伝わる連鎖的な化学反応
- ウ 細胞内を伝わる水圧変化                  エ 細胞を伝わる張力変化
- オ 細胞内に存在する一種の生理的勾配こうばい
- カ 細胞膜 (原形質膜) を伝わる一種の電気的変化
- キ 細胞膜を伝わる未知の作用

(4) 上の(b)の文中の  をうめるのに最も適したものを、次のアからキまでのの中から一つ選べ。

- ア 細胞内外の浸透圧差      イ 細胞内の水圧差      ウ 熱による細胞の体積変化  
 エ 細胞間結合力の変化      オ 細胞内の特定の分子間の働き合い  
 カ 細胞内の原形質流動      キ 細胞内で働く静電引力

C 次の文章は、生物が刺激に対して示す応答（反応）に関する記述である。

生物は、刺激によってそれぞれ特有の応答をする能力をもっている。応答は多種多様であるが、最も目立つものは運動で、コン虫類その他の下等動物ならびに単細胞の植物や精子などが刺激源に対して一定方向に運動することを  (a) という。大部分の高等植物には、 (b) と  (c) という応答がみられる。 (b) は器官が刺激の方向に関して一定の応答をするもので、この中には光に対して応答する  (d)、重力に対して応答する  (e) などがある。 (c) は刺激の方向に関係なく器官の構造で決まった一定形式の応答をするもので、この中には光や温度などが昼と夜で自然に変化するために、葉が上下したり花びらが開閉する応答を示す  (f) がある。

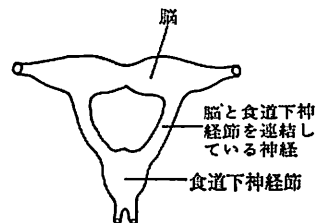
(5) 上の文章中の(a)から(f)までの  をうめるのに最も適した用語を、次のアからチまでのの中から一つずつ選べ。

- ア 筋肉運動      イ ベン毛・繊毛運動      ウ 成長運動      エ 膨圧運動  
 オ 光周性      カ 走性      キ 屈性      ク 傾性      ケ 走光性  
 コ 屈光性      サ 傾光性      シ 走地性      ス 屈地性      セ 傾熱性  
 ソ 就眠運動（昼夜運動）      タ 乾湿運動      チ 春化

D カイコガ（幼虫をかいこという）の成虫は、同じ種類なのに、温度条件により、休眠卵

（低温処理をしないと適温でも発生をはじめない卵）

をうんだり（これを休眠卵性という）、非休眠卵（適温ですぐに発生をはじめめる卵）をうんだりする（これを非休眠卵性という）。いま、休眠卵・非休眠卵という卵の性質の決定に対して、内部要因がどのように関与しているかをみるため、一定の温度条件のもとで、右の図に示した幼虫の脳と食道下神経節（以下神経節と略称する）の移植実験を行なった。次表は実験とその結果をまとめたものである。



実験番号	移 植 実 験		宿主が成虫となって うんだ卵の種類
	移植を受けたもの(宿主)	移植したもの(移植片)	
1	すべて非休眠卵性の 幼虫	休眠卵性の幼虫の神経節	休眠卵・非休眠卵の双方
2		非休眠卵性の幼虫の脳と神経節(切り離してともに移植)	休眠卵・非休眠卵の双方
3		休眠卵性の幼虫の脳	非休眠卵のみ
4		非休眠卵性の幼虫の脳	非休眠卵のみ
5		休眠卵性の幼虫の脳-神経節(連結したまま移植)	休眠卵のみ
6		非休眠卵性の幼虫の脳-神経節(連結したまま移植)	非休眠卵のみ
7 (対照 実験)	移植せずに、非休眠卵性の幼虫に移植切開の切り傷だけをつけた。		非休眠卵のみ

(6) 上の表をもとにして、宿主がうんだ卵の性質の決定に対する非休眠卵性の幼虫の神経節の働きを最もよく説明しているものを、次のアから力までの文の中から一つ選べ。

ア 不じゅうぶんではあるが、卵を休眠卵にする。

イ 不じゅうぶんではあるが、卵を非休眠卵にする。

ウ 脳の働きを促進する。                      エ 脳の働きを抑制する。

オ 何の働きももっていない。              カ この実験からは結論はだせない。

(7) 上の表をもとにして、宿主がうんだ卵の性質の決定に対する休眠卵性の幼虫の脳-神経節(連結したままのもの)の脳の働きを最もよく説明しているものを、次のアから力までの文の中から一つ選べ。

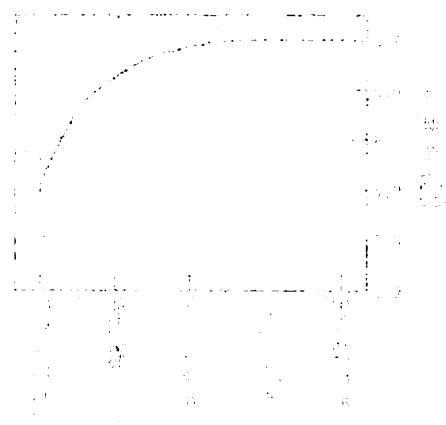
ア 不じゅうぶんではあるが、卵を休眠卵にする。

イ 不じゅうぶんではあるが、卵を非休眠卵にする。

ウ 神経節の働きを促進する。              エ 神経節の働きを抑制する。

オ 何の働きももっていない。              カ この実験からは結論はだせない。

此表式係根據下列之關係式而得之。其關係式如下：



此中  $t$  為時間， $s$  為距離， $v$  為速度， $a$  為加速度， $v_0$  為初速度， $a_0$  為初加速度， $v_m$  為最大速度， $a_m$  為最大加速度， $t_m$  為最大時間， $s_m$  為最大距離。

此表式之用途，在於計算各種運動之時間、距離、速度、加速度等。其用法如下：

1. 計算時間：將已知之距離、速度、加速度等代入公式，即可求得時間。

2. 計算距離：將已知之時間、速度、加速度等代入公式，即可求得距離。

3. 計算速度：將已知之時間、距離、加速度等代入公式，即可求得速度。

4. 計算加速度：將已知之時間、速度、距離等代入公式，即可求得加速度。

此表式之優點，在於其計算簡便，且能直接求得各項物理量之數值。

此表式之缺點，在於其僅適用於勻加速運動，且其計算結果僅為近似值。

此表式之應用，廣泛於物理學、工程學、醫學等領域。

此表式之發明，對於物理學之研究，具有重大之貢獻。

此表式之推廣，將使更多人能方便地使用。

Ⅲ 生命の連続性に関して次のA～Dの(1)から(5)までの各問いに答えよ。

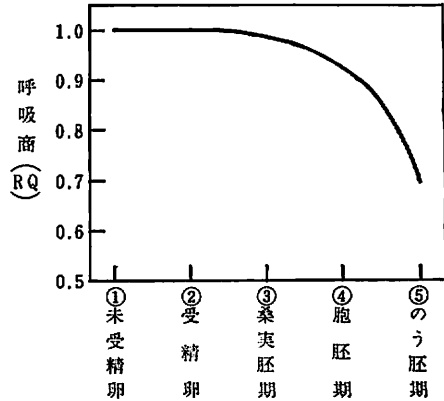
A 下の図は、ウニ卵の受精と発生の段階とそのときの呼吸商（呼吸率；RQ）の変化を示したものである。

(1) 図中の③から⑥までの中で、

- (a) 胚に胚葉の分化が起こる時期  
 (b) 受精膜が溶けて胚が海中に泳ぎ出る時期（ふ化期）

は、それぞれいつか。それらの正しい答えを(a)、(b)の順に配列したものを、次のアからケまでの中から一つ選べ。

- ア ③・③    イ ③・④    ウ ③・⑤  
 エ ④・③    オ ④・④    カ ④・⑤  
 キ ⑥・③    ク ⑤・④    ケ ⑥・⑤

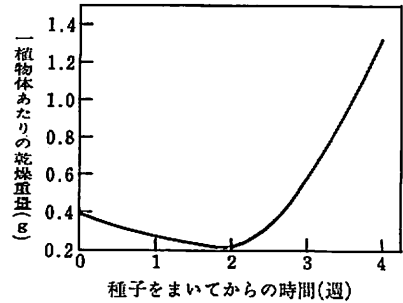


(2) 次のアからエまでの文の中から、図の曲線の変化を最もよく説明できると考えられるものを一つ選べ。

- ア 呼吸基質は、①から③まではおもにタンパク質であるが、④、⑤と進むにつれて脂質にかわる。  
 イ 呼吸基質は、①から③まではおもに脂質であるが、④、⑤と進むにつれて炭水化物にかわる。  
 ウ 呼吸基質は、①から③まではおもに炭水化物であるが、④、⑤と進むにつれて脂質にかわる。  
 エ ②から⑥まで発生が進むにつれて呼吸は次第に高まるが、これは細胞数の増加と相関がある。

B 下の図は、好適な条件のもとにおけるトウモロコシの種子の発芽と成長にともなう全植物体（種子の部分を含む）の乾燥重量の変化を示したものである。

(3) 吸水後、図のような乾燥重量の変化を起こすおもな原因となっている生物現象のうち、とくに同化あるいは異化に属するものを、次のアからケまでの用語または文の中から3つ選び、これらの生物現象が発芽・成長の過程で最も盛んに働く順序に従って、配列せよ。



- ア 解糖    イ 酸素呼吸    ウ 化学合成  
 エ 蒸散作用    オ 光合成    カ 花芽の形成    キ 窒素固定    ク 無気呼吸  
 ケ オーキシンの働き

C XY型の性決定をするある2倍体の動物で、3組の対立形質がどのように遺伝するかを調べるため、次の交雑実験を行なった。まず、3優性形質をもつ純系個体と3劣性形質をもつ純系個体の雑種第1代 ( $F_1$ ) をつくったら、優性形質をもつ個体のみがえられた。次に、この  $F_1$  を使い、2対立形質について2通りの交雑実験を行なってみた。下の表はその結果をまとめたものである。なお、表中のA, B, Cは個体が優性形質をもつことを示す記号であり、a, b, cは劣性形質をもつことを示す記号である。また、次代の形質の分離は雌雄ほぼ同一であった。

交雑実験		次代の表現型とその個体数							
実験Ⅰ	$F_1 \times ab$	AB	410	ab	405	Ab	95	aB	90
実験Ⅱ	$F_1 \times bc$	bc	260	bC	255	Bc	245	BC	240

(4) 上の表の実験Ⅰと実験Ⅱの遺伝様式を、下の〔遺伝様式〕の中から一つずつ選び、それらの正しい答えを実験Ⅰ、実験Ⅱの順に配列したものを、下のアからキまでの中から一つ選べ。

- 〔遺伝様式〕 ①独立遺伝 ② 遺伝子の連鎖が完全で組みかえのない遺伝  
 ③ 連鎖遺伝子の組みかえによる遺伝 ④ 伴性遺伝 ⑤ 遺伝子間の働き合いによる遺伝 ⑥ 細胞質遺伝 ⑦ Y染色体上の遺伝子による遺伝

- ア ②・①    イ ②・④    ウ ③・①    エ ③・②    オ ④・③  
 カ ⑤・⑦    キ ⑥・②

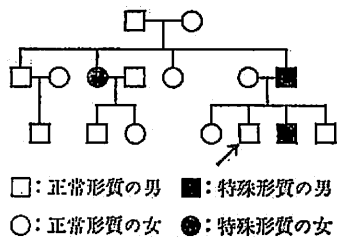
D 下の図は、1組の対立遺伝子によって遺伝されるある特殊形質の家系図である。

(5) 家系図中の矢印で示された男とこの特殊形質をもつ女の間に生まれた子が、この特殊形質をもつ確率は、理論上いくらか。次のアからキまでのの中から一つ選べ。

ア 1    イ  $1/2$     ウ  $1/3$

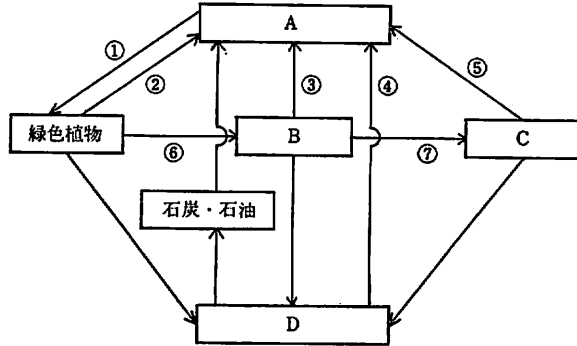
エ  $1/4$     オ  $1/16$     カ 0に近い

キ 0





Ⅳ 下の図は生物と生物との間および生物と環境との間における炭素循環の主要な経路を示したものである。この図について、次の(1)と(2)の各問いに答えよ。



(1) 図中のAは大気に含まれる化合物である。この化合物の分子式をしるせ。分子式は慣用に従い、【解答例】にならって答えよ。

【解答例】 分子式が例えば

$H_2S$  の場合には、 $H_2S_1$  と考えて、下の図のように最上欄から下方に元素、原子数、元素、原子数……の欄の順に、該当する□をぬりつぶしていき、以下余ったすべての欄は各欄のな□を必ずぬりつぶすこと。なお、原子数が13以上の場合は□をぬりつぶすこと。

元 素	C	C <sub>A</sub>	O	F	H	I	K	Mg	N	N <sub>A</sub>	O	P	S
原子数	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
元 素	C	C <sub>A</sub>	O	F	H	I	K	Mg	N	N <sub>A</sub>	O	P	S
原子数	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
元 素	C	C <sub>A</sub>	O	F	H	I	K	Mg	N	N <sub>A</sub>	O	P	S
原子数	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

(2) 図中の⑥→⑦の関係をあらわす用語を、下の【用語群】の中から一つ選び、さらに、低エネルギーから高エネルギーへと変化する過程を、図中の①から⑦までの中から一つ選び、それらの正しい答えの組合せを、下のアからコまでの中から一つ選べ。

【用語群】 ① 相互作用 ② 分解作用 ③ 排出 ④ 酸化還元反応  
⑤ 食物連鎖

ア ①・⑥    イ ①・⑦    ウ ②・①    エ ②・④    オ ③・②  
カ ③・⑤    キ ④・②    ク ④・④    ケ ⑤・①    コ ⑤・③

V 次のアからキまでの文のそれぞれについて、記述に誤りのないものは「正」を、記述に誤りのあるものは「誤」をぬりつぶせ。

ア 窒素は、核酸・タンパク質・ATPに共通な構成元素の一つである。

イ 植物細胞の膨圧は吸水力に比例する。

ウ 細胞膜（原形質膜）による物質の能動輸送（能動的透過）の現象は、細胞が死ぬと停止する。

エ 物質交代のうち、アンモニアと炭酸からの尿素の生成の過程はATPの生産と結びついている。

オ 酸素呼吸の過程で働くTCA回路（クエン酸回路；クレブス回路）の酵素群は、ミトコンドリアにある。

カ 裸子植物・被子植物では、配偶体は孢子体に寄生的な生活をしている。

キ 減数分裂のさいに、染色体上の遺伝子に組みかえが起こることがあるが、これはすべて突然変異の原因となる。

理科生物 解答用紙控

I	(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																															
	(2)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																															
	(3)	第1字	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																														
		第2字	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																														
		第3字	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																														
(4)	<table border="1"> <tr> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">                     -1.0   -0.5   0   0.5   1.0   1.5   2.0   2.5                      排出(出) ←                      → 吸収(入)                      二酸化炭素の出入の速さ (CO<sub>2</sub>mg/50cm<sup>2</sup>/時)                 </p>	6	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0																																															
5	0	0	0	0	0	0	0	0																																															
4	0	0	0	0	0	0	0	0																																															
3	0	0	0	0	0	0	0	0																																															
2	0	0	0	0	0	0	0	0																																															
1	0	0	0	0	0	0	0	0																																															
(5)	10位	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																															
	1位	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																															
	小数1位	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																															

II	(1)	ア	イ	ウ	エ	オ
	(2)	{ア}	{イ}	{ウ}	{エ}	{オ}
	(3)	ア	イ	ウ	エ	オ
	(4)	ア	イ	ウ	エ	オ
	(5)	(a)	ア	イ	ウ	エ
(b)		ア	イ	ウ	エ	オ
(c)		ア	イ	ウ	エ	オ

II	(5)	(d)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
		(e)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
		(f)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
	(6)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	
(7)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ		

III	(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	
	(2)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	
	(3)	第1順位	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
		第2順位	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
		第3順位	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
(4)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ		
(5)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ		

IV	(1)	元素	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
		原子数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
		元素	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
		原子数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
	(2)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	

V	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ

# 地 学

I 以下の問1～問5に対し、もっとも適当と考えられる答を選べ。

問 1 地球には約90種の元素が存在するが、地殻（岩石圏）の約99パーセントをつくる元素の組み合わせはなにか。

- 1 Si, Ti, Al, Fe, Mg, Ca, Mn, O
- 2 Si, Al, Fe, Mg, Na, Ca, H, O
- 3 Si, Al, Fe, Mg, Na, Ca, K, O
- 4 Si, Al, Fe, Mg, Ca, Na, K, Ti

問 2 地殻に多量に存在すると考えられる火成岩を2つ選び、A欄とB欄に1つずつマークせよ。

- 1 ヘンマ岩      2 セツカイ岩
- 3 カコウ岩      4 アンザン岩
- 5 ゲンブ岩

問 3 マントルに存在する主要な元素の組み合わせはなにか。

- 1 Si, Al, Mg, Fe      2 Fe, Ni, Mg, S
- 3 Si, Mg, Fe, Ni      4 Si, O, Fe, Mg

問 4 火成岩のなかで上部マントルの物質にもっとも組成が近似すると考えられる岩石はなにか。

- 1 キリョク岩      2 ハンレイ岩
- 3 ミグマタイト      4 カンラン岩
- 5 デイ岩

問 5 問2および問4で選びだした火成岩のなかで、比重のもっとも大きい岩石と、もっとも小さい岩石の造岩鉱物のうちで、一方にはかならず含まれるが他方には含まれない鉱物を、それぞれの岩石について1つずつ選びだし、A欄とB欄にマークせよ。

- 1 シャチョウ石      2 セキエイ
- 3 キンセイ石      4 カクセン石
- 5 コウチュウ石      6 カンラン石

Ⅱ リンケイ石とコース石は、いずれも化学組成が  $\text{SiO}_2$  の鉱物であるが、原子の配列のしかたは異なっている。以下の問 1～問 3 に対し、適当な答を各解答群から選べ。適当な答がないときは 0 の位置をマークせよ。

問 1 これら 2 つの鉱物は、どのような関係にあるか。

- 1 固溶体
- 2 同質異像（多形）
- 3 類質同像（同形）
- 4 双晶

問 2 これら 2 つの鉱物の結晶の形をくらべると、どのようなものであるか。

- 1 2 つの鉱物の結晶形は同じ。
- 2 2 つの鉱物の結晶形は異なる。
- 3 同じ場合もあり、異なる場合もある。

問 3 これら 2 つの鉱物は、いずれもケイ酸塩鉱物といえるが、原子の配列の基本は次のどの結晶構造と考えられるか。

- 1  $(\text{SiO}_4)^{4-}$  正 4 面体が配列した構造。
- 2 オウテッコウ ( $\text{FeS}_2$ ) と同じ結晶構造。
- 3 ガンエン ( $\text{NaCl}$ ) に類似する結晶構造。

Ⅲ AとBの2つの地層や岩体が互いに隣合って接して分布しているとき、A、B両者の関係は次のア～キの7通りのうちのいずれかである。ただし、両者は互いに漸移していないものとする。

- ア AがBを整合におおっている。
- イ BがAを整合におおっている。
- ウ AがBを不整合におおっている。
- エ BがAを不整合におおっている。
- オ AがBの中に貫入している。
- カ BがAの中に貫入している。
- キ AとBとは断層で接している。

いま上記のA、Bが次の1～5にあげるような岩石であるとする。これら1～5の各場合について、上記のア～キの各関係が起りうるかどうか答えよ。起り得るときは○の位置に、起りえないときは×の位置にマークせよ。

- 1 Aはセツカイ岩、Bがレキまじりのサ岩である場合。
- 2 1の場合で、Aのなかにフズリナ（ボウスイチュウ）の化石が含まれ、Bには被子植物やメタセコイアの化石が見い出された場合。
- 3 Aはカコウ岩、Bはサ岩である場合。
- 4 3の場合で、Aの絶対年代が放射性同位元素によって $3 \times 10^7$ 年前と測定され、Bの中にはエントモノチス（モノチス）の化石が含まれていた場合。
- 5 4の場合で、ひとつづきのアンザン岩の岩脈が、A、Bの両者を貫いている場合。

Ⅳ 次の文章の( )の中に表示された2つの語句のうち適当なものを選び該当する記号(0, 1)のいずれかをマークせよ。

問 1 空気が気圧の高い方から低い方へ動くと、地球の自転のため① $\begin{pmatrix} 0 & \text{転向力} \\ 1 & \text{遠心力} \end{pmatrix}$ がはたらき、そのため北半球では次第に② $\begin{pmatrix} 0 & \text{左} \\ 1 & \text{右} \end{pmatrix}$ にそれ、最終的には等圧線に平行な運動をするようになる。このような空気の運動を③ $\begin{pmatrix} 0 & \text{地衡風} \\ 1 & \text{傾度風} \end{pmatrix}$ という。

問 2 乾燥した空気が上昇するとき、その空気の温度は① $\begin{pmatrix} 0 & \text{断熱膨脹} \\ 1 & \text{断熱圧縮} \end{pmatrix}$ のため、100mにつき約 $1^{\circ}\text{C}$ 下がる。しかし水蒸気で飽和した空気が上昇するときは、その水蒸気は② $\begin{pmatrix} 0 & \text{凝結} \\ 1 & \text{蒸発} \end{pmatrix}$ して潜熱を出すので温度は100mにつき約 $0.6^{\circ}\text{C}$ ③ $\begin{pmatrix} 0 & \text{上がる} \\ 1 & \text{下がる} \end{pmatrix}$ 。

問 3 異なる気団が互に接するとき生ずる境界面を不連続面といい、それが地面と交わってつくる曲線を不連続線という。温暖な気団が寒冷な気団を押し進ませるときは、その前線を① $\begin{pmatrix} 0 & \text{寒冷前線} \\ 1 & \text{温暖前線} \end{pmatrix}$ といい、寒冷な気団が温暖な気団の下にもぐりこんで進むときは前線を② $\begin{pmatrix} 0 & \text{寒冷前線} \\ 1 & \text{温暖前線} \end{pmatrix}$ という。また、ときどき集中豪雨をもたらす梅雨前線は③ $\begin{pmatrix} 0 & \text{閉そく前線} \\ 1 & \text{停滞前線} \end{pmatrix}$ の1種である。

問 4 黒潮は潮岬沖では幅約100km、厚さ800m程で、隣接する海域の海水と比べて水温が高く、塩分が① $\begin{pmatrix} 0 & \text{多く} \\ 1 & \text{少なく} \end{pmatrix}$ 、酸素や栄養塩が② $\begin{pmatrix} 0 & \text{多い} \\ 1 & \text{少ない} \end{pmatrix}$ ため、プランクトンが③ $\begin{pmatrix} 0 & \text{多く} \\ 1 & \text{少なく} \end{pmatrix}$ 、きわめて透明度が大きい。

問 5 地表水がくぼ地にたまったり、せきとめられたりすると湖や沼ができる。たとえば、活動を停止した火山口に水がたまった火山湖、溶岩が水をせきとめた① $\begin{pmatrix} 0 & \text{カルデラ湖} \\ 1 & \text{せきとめ湖} \end{pmatrix}$ 、陥没した火山の山頂付近に水がたまった② $\begin{pmatrix} 0 & \text{三日月湖} \\ 1 & \text{カルデラ湖} \end{pmatrix}$ 、また老年期の河川が平野をだ行してできた③ $\begin{pmatrix} 0 & \text{三日月湖} \\ 1 & \text{せきとめ湖} \end{pmatrix}$ などもある。

V 次の文章の  ~  に相当する値は、下にあげた1~5の数値範囲のどれにもっとも近いかな適切なものを選び。

最近、大都市の地盤沈下が大きな社会問題となっている。例えば東京の地盤沈下のひどいところでは、その沈下量は一年当りに換算すると  位になる。これは地下水を多量に汲み上げたことによるもので、いわば人為的に引き起された大地の変動にあたる。

一方、自然に起る大地の変動は、規模において人為的なものよりはるかに大きく、また起り方も緩慢なものや急激なものなどさまざまな様式がある。いま見方をかえて、このような変動の量をその変動期間に一律にならし、「一年当りの変動量」に換算しなおして考えてみよう。

長期間著しい沈降にともなって厚い地層をたい積した地向斜では、その間一様にたい積が起っていたとみなすと、そのたい積の量は一年当り  位になる。

この地向斜が隆起に転じ、山脈の形成にともなって地向斜の底まで侵蝕されたとすると、その間の平均的な隆起量は一年当り  位になる。

ところで、現在われわれの住む大地も、精密に測定したりよく観察したりしてみると、緩慢ながらも変動の起っていることがわかる。たとえば日本における山脈を横断する水準測量によれば、山脈地域は絶えず隆起しており、その隆起量は一年当り  位になる。

また、数十年から数百年の間隔で繰り返し起るといわれている大地震が浅いところで起ると、その震央付近では大きな土地の変動が見られる。そしてこのような変動は、次の地震のときまでに約3/4はもとの状態にもどるが、約1/4は地震による変動量として、その後長く残るといわれている。このようにして残った変動量をならしてみると、それは一年当り  位になる。

このように人為的に引き起される大地の変動を、自然に起る大地の変動と対比させて考えることも地学の重要な課題である。

- |   |               |   |             |
|---|---------------|---|-------------|
| 1 | 0.01cm~0.03cm | 2 | 0.1cm~0.3cm |
| 3 | 1cm~3cm       | 4 | 10cm~30cm   |
| 5 | 100cm~300cm   |   |             |





VI 以下の問1～問5に対し、それぞれの問の次にしるされたいいくつかの値の中からもっとも近い値を選べ。

また問6に対しては、正しいと思われるものの番号を1つ選べ。

問1 みなみじゅうじ座 $\alpha$ 星の赤緯は、 $-62^{\circ}49'$ である。この星が南中するとき東京では地平線に見ることができないが、北緯何度の地点まで南へ行けば、はじめてその南中を地平線に見ることができるか。

- |   |              |   |              |   |              |
|---|--------------|---|--------------|---|--------------|
| 1 | $35^{\circ}$ | 2 | $30^{\circ}$ | 3 | $25^{\circ}$ |
| 4 | $20^{\circ}$ | 5 | $15^{\circ}$ | 6 | $10^{\circ}$ |

問2 ある地点で日本標準時が11時57分のとき、視太陽が南中した。その地点の経度（東経）を求めよ。ただし、その時の均時差は+15分であった。

- |   |               |   |               |
|---|---------------|---|---------------|
| 1 | $129^{\circ}$ | 2 | $132^{\circ}$ |
| 3 | $135^{\circ}$ | 4 | $138^{\circ}$ |
| 5 | $141^{\circ}$ | 6 | $144^{\circ}$ |

問3 小惑星のなかには、公転軌道が地球の軌道より内側にはいりこむものがある。このような小惑星では、軌道の離心率の値はある値より大きくなくてはならない。その値を求めよ。ただし、小惑星の軌道面は黄道面内にあるとし、またその太陽からの平均距離（軌道楕円の長半径）を2.8天文単位とする。

- |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 0.55 | 2 | 0.60 | 3 | 0.65 |
| 4 | 0.70 | 5 | 0.75 | 6 | 0.80 |

問4 地球で観測したシリウスの年周視差は、 $0.''37$ である。木星で観測したとすれば、シリウスの年周視差はいくらになるか。ただし木星の公転軌道は円であるとし、その半径を5.2天文単位とせよ。

- |   |          |   |         |   |         |
|---|----------|---|---------|---|---------|
| 1 | $0.''07$ | 2 | $0.''2$ | 3 | $0.''6$ |
| 4 | $1.''2$  | 5 | $1.''6$ | 6 | $2.''0$ |

問5 銀河系外星雲が約 $10^{11}$ 個の恒星でできているとして、その絶対等級を求めよ。ただし、恒星の平均の明るさは太陽と等しいとし、太陽の絶対等級を+4.7等とせよ。

- |   |      |   |      |
|---|------|---|------|
| 1 | -11等 | 2 | -14等 |
|---|------|---|------|

- |   |      |   |      |
|---|------|---|------|
| 3 | -17等 | 4 | -20等 |
| 5 | -23等 | 6 | -26等 |

問 6 A, B 2つの恒星について, AはBより青白く, 半径および質量が大きいことが知られている。みかけの等級はAが1等, Bは10等であり, 距離はそれぞれ約33光年(10パーセク), 約330光年(100パーセク)である。1~4のなかから選ぶとすれば, A, Bはどのような恒星であるか。

- 1 Aが主系列星, Bが主系列星
- 2 Aが主系列星, Bが巨星
- 3 Aが巨星, Bが巨星
- 4 Aが主系列星, Bが白色わい星



理科地学 解答用紙控

I	問 1	[ 2 3 4 ]				
	2	A	[ 2 3 4 5 ]	[ 3 4 5 6 ]	[ 4 5 6 7 ]	[ 5 6 7 8 ]
		B	[ 2 3 4 5 ]	[ 3 4 5 6 ]	[ 4 5 6 7 ]	[ 5 6 7 8 ]
	3	[ 2 3 4 5 ]				
	4	[ 2 3 4 5 6 ]				
	5	A	[ 2 3 4 5 6 ]	[ 3 4 5 6 7 ]	[ 4 5 6 7 8 ]	[ 5 6 7 8 9 ]
B		[ 2 3 4 5 6 ]	[ 3 4 5 6 7 ]	[ 4 5 6 7 8 ]	[ 5 6 7 8 9 ]	

II	問 1	[ 2 3 4 5 ]	[ 3 4 5 6 ]	[ 4 5 6 7 ]	[ 5 6 7 8 ]
	2	[ 2 3 4 5 ]	[ 3 4 5 6 ]	[ 4 5 6 7 ]	[ 5 6 7 8 ]
	3	[ 2 3 4 5 ]	[ 3 4 5 6 ]	[ 4 5 6 7 ]	[ 5 6 7 8 ]

III		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
	1	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]	[ 5 6 ]	[ 6 7 ]	[ 7 8 ]	[ 8 9 ]
	2	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]	[ 5 6 ]	[ 6 7 ]	[ 7 8 ]	[ 8 9 ]
	3	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]	[ 5 6 ]	[ 6 7 ]	[ 7 8 ]	[ 8 9 ]
	4	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]	[ 5 6 ]	[ 6 7 ]	[ 7 8 ]	[ 8 9 ]
	5	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]	[ 5 6 ]	[ 6 7 ]	[ 7 8 ]	[ 8 9 ]

IV		①	②	③
	問 1	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]
	2	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]
	3	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]
	4	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]
	5	[ 2 3 ]	[ 3 4 ]	[ 4 5 ]

V	1	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]
	2	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]
	3	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]
	4	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]
	5	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]

VI	問 1	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]	[ 6 7 8 ]
	2	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]	[ 6 7 8 ]
	3	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]	[ 6 7 8 ]
	4	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]	[ 6 7 8 ]
	5	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]	[ 6 7 8 ]
	6	[ 2 3 4 ]	[ 3 4 5 ]	[ 4 5 6 ]	[ 5 6 7 ]	[ 6 7 8 ]

# 国立大学共通第一次試験

## 実地研究試験問題

### 英 語

昭和49年11月24日

#### 注 意 事 項

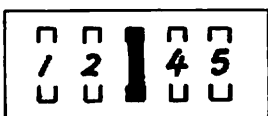
1. 合図があるまでこの冊子を開いてはいけません。
2. 本冊子は15ページあります。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所を見いだした場合はすみやかに申し出て下さい。
3. 解答用紙に汚れがあったときは申し出て下さい。
4. 解答用紙にはあらかじめ氏名および受験番号を印刷してあります。これを受験票と照合し、違いがある場合には申し出て下さい。
5. 本冊子の余白は草稿用に使用してさしつかえありません。末尾に解答用紙控が入っているので適宜利用して下さい。
6. 解答用紙は鉛筆でマークした部分を機械で直接読みとりますから、次ページの注意を正しく守って下さい。
7. 本冊子は持ち帰ってさしつかえありません。

## 解答用紙記入上の注意

- (i) 解答用紙にはすべてHBの黒鉛筆でマークして下さい。
- (ii) 各解答欄にいくつかの記入位置がありますが、その中の1つだけにマークを記入して下さい。
- (iii) マークの記入方法は、つぎに示す「(i)良い例」のように記入し、「(iv)悪い例」のように記入してはいけません。

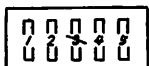
### (i) 良い例

たとえば3と解答したいならば

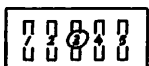


左図の解答欄のように記入位置「3」の中をなるべく正確にぬりつぶして下さい。

### (iv) 悪い例



のように数字または文字だけに線を引いたり、



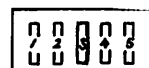
のように○でかこんだり、



のように「」の外まではみだしてぬりつぶしたり、



のように「」の中をぬりのこしたり、



のように線を引いてはいけません。

- (iv) 訂正は消しゴムでよく消して下さい。
- (v) 解答は指定された解答欄に記入し、解答用紙のその他の部分には何も書いてはいけません。
- (vi) 解答用紙は絶対汚さないようにして下さい。また折りまげたり、破ったりしないで下さい。

# 英 語

I 次の英文(1)~(40)のそれぞれの空白に入れるのもっとも適した語, または語群を, それぞれの文の下に示した1~4の中から1つずつ選びなさい。

- (1) He ran so fast that he had to stop and catch his \_\_\_\_\_.  
(1. breath 2. presence 3. step 4. voice)
- (2) They managed to pay off their \_\_\_\_\_.  
(1. cash 2. debts 3. savings 4. supply)
- (3) The change in plans threw everyone into \_\_\_\_\_.  
(1. confusion 2. consequence 3. failure 4. loss)
- (4) The Japanese tea ceremony has become a well-known \_\_\_\_\_.  
(1. harmony 2. tradition 3. wealth 4. worth)
- (5) We never realize the \_\_\_\_\_ of something until it is lost.  
(1. knowledge 2. observation 3. response 4. value)
- (6) A child has \_\_\_\_\_ trust in its mother.  
(1. abroad 2. absolute 3. fluent 4. private)
- (7) This airplane is \_\_\_\_\_ for Paris.  
(1. bound 2. continual 3. fit 4. passive)
- (8) You must learn to be \_\_\_\_\_ with what you have.  
(1. content 2. faint 3. parallel 4. weary)
- (9) The meat was so \_\_\_\_\_ that I could cut it with my fork.  
(1. keen 2. quiet 3. tender 4. tough)
- (10) The picture is \_\_\_\_\_ of all admiration.  
(1. conscious 2. envious 3. jealous 4. worthy)
- (11) Their actions were \_\_\_\_\_ to the music.  
(1. danced 2. moved 3. pointed 4. timed)
- (12) Why don't you relax and \_\_\_\_\_ your tie?  
(1. combine 2. loosen 3. lose 4. release)



- (13) He wanted to \_\_\_\_\_ enough to pay for the trip to Europe.  
(1. deceive 2. earn 3. respond 4. treat)
- (14) \_\_\_\_\_ what he says if you think it is important.  
(1. Attend 2. Engage 3. Glimpse 4. Note)
- (15) I don't think they can \_\_\_\_\_ themselves at the party.  
(1. behave 2. devote 3. divide 4. do)
- (16) He sold his old bicycle \_\_\_\_\_ five dollars.  
(1. by 2. for 3. in 4. with)
- (17) We don't have very much \_\_\_\_\_ what you want.  
(1. at 2. by 3. of 4. to)
- (18) Last week that song was \_\_\_\_\_ its height of popularity.  
(1. at 2. in 3. on 4. to)
- (19) We had to choose \_\_\_\_\_ among seven people.  
(1. from 2. of 3. out 4. inside)
- (20) Classes will begin \_\_\_\_\_ April 10th.  
(1. in 2. on 3. till 4. with)
- (21) The book you're looking for is \_\_\_\_\_ the dictionary.  
(1. backward 2. beneath 3. further 4. overhead)
- (22) I am looking \_\_\_\_\_ to hearing from you soon.  
(1. afraid 2. along 3. forward 4. up)
- (23) He did nothing \_\_\_\_\_ watch television all day.  
(1. but 2. else 3. even 4. ever)
- (24) I thought it was a good book, but Jim thought \_\_\_\_\_.  
(1. moreover 2. nevertheless 3. otherwise 4. unless)
- (25) He is \_\_\_\_\_ duty tonight.  
(1. off 2. out 3. rather 4. toward)
- (26) The president will appear \_\_\_\_\_ tomorrow evening.  
(1. for a man 2. in person 3. of oneself 4. to himself)
- (27) She was angry with her husband \_\_\_\_\_ her waiting.  
(1. for keeping 2. in having 3. to let 4. with making)
- (28) He attended the meeting \_\_\_\_\_ of the chairman.  
(1. at the control 2. at the request 3. on the watch 4. in the order)

- (29) I am doing this for your \_\_\_\_\_.  
(1. any good 2. better or worse 3. better yourself 4. own good)
- (30) Let's have lunch at a restaurant \_\_\_\_\_.  
(1. close to 2. far out 3. near by 4. nearly enough)
- (31) He talked a lot but they liked him \_\_\_\_\_ for it.  
(1. all the more 2. by far 3. for better 4. further more)
- (32) He could only afford one thousand yen \_\_\_\_\_.  
(1. at the most 2. best of all 3. in the least 4. uppermost)
- (33) You should \_\_\_\_\_ the children from time to time.  
(1. care of 2. keep an eye 3. look after 4. take care)
- (34) In \_\_\_\_\_, you think he is lying to you.  
(1. an other word 2. another word 3. another words  
4. other words)
- (35) You always insist that you are \_\_\_\_\_.  
(1. as a right 2. in the right 3. in justice 4. of justice)
- (36) If you want this job, you must \_\_\_\_\_ it by tomorrow.  
(1. answer to 2. apply for 3. realize for 4. report to)
- (37) I remember \_\_\_\_\_ you last summer.  
(1. meeting 2. of seeing 3. that we meet 4. to see)
- (38) I will not be at home when you \_\_\_\_\_ to see me.  
(1. came 2. come 3. have come 4. will come)
- (39) I have been \_\_\_\_\_ for my sister many times.  
(1. having mistaken 2. mistaken 3. mistaking 4. mistook)
- (40) She \_\_\_\_\_ be over thirty; she must still be in her twenties.  
(1. can't 2. may 3. must 4. oughtn't)

Ⅱ 次の(1)~(10)の上の文と大体同じ意味を表わすように、下の文中の1~5の語、または語群を並べかえるとすれば、3番目と5番目とはそれぞれ何番と何番をおけばよいか。なお、文頭におくべき語(句)も、小文字で示してある。

(例) Do you want me to help you do your homework?

=(1. I 2. help you 3. your homework 4. shall 5. with)?

(1) What about going for a walk after lunch?

=What (1. you 2. do 3. of 4. going 5. think) for a walk after lunch?

(2) Mind your own business.

=(1. to 2. affairs 3. your 4. own 5. look) and don't ask about mine.

(3) That movie isn't to my taste.

=(1. movie 2. the kind of 3. I like 4. it 5. isn't).

(4) The provisions have fallen short of what we need.

=(1. have 2. short of 3. we 4. provisions 5. run).

(5) Will you be good enough to help me?

=May I (1. you 2. of 3. a 4. favor 5. ask)?

(6) The place is not open to the public.

=(1. allowed 2. the public 3. is not 4. to enter 5. the place).

(7) To know and to put into practice are different things.

=(1. thing 2. is 3. know 4. to 5. one), to put into practice is another.

(8) You don't know about the matter. Neither do I.

=I don't know about the matter (1. than 2. any 3. you 4. more 5. do).

(9) Many buses run between the station and the zoo.

=(1. bus service 2. good 3. a 4. there 5. is) between the station and the zoo.

(10) If you go along this path, you'll find his house.

=(1. to 2. this path 3. his house 4. you 5. will lead).

Ⅲ 次の(1)~(10)のそれぞれの対話が、意味のとおりものとなるように、下の文中の1~5の語または語群を並べかえるとすれば3番目と5番目とはそれぞれ何番と何番をおけばよいか。なお、文頭におくべき語(句)も、小文字で示してある。

(例) "Can you play tennis with us now?"

"I'm sorry I can't, (1. haven't 2. because 3. finished  
4. my homework 5. I)."

(1) "The dictation test wasn't very difficult, was it?"

"No, (1. it 2. don't 3. think 4. I 5. was)."

(2) "Did you read this book?"

"Yes, it's a good book. I (1. to 2. it 3. read 4. want 5. you)."

(3) "Tom failed in the examination."

"That wouldn't (1. if 2. studied 3. hard 4. he'd 5. have  
happened)."

(4) "My! This is a very spacious room."

"Not really. It (1. it is 2. spacious 3. more 4. seems 5. than)."

(5) "We were talking about someone. Who was it?"

"The man (1. about 2. we 3. Mr. White 4. was 5. talked)."

(6) "I'd like to invite you to come to dinner next Sunday."

"I'd (1. to 2. I have 3. an appointment 4. love 5. but).  
I hope you'll invite me again sometime."

(7) "What time would be most convenient for you to have a conference?"

"Almost (1. will 2. that 3. time 4. suits you 5. any) do.  
How about three?"

(8) "Hello. This is Smith speaking. May I speak to Miss Jones?"

"(1. no one here 2. that 3. there's 4. name 5. by). I think  
you must have the wrong number."

(9) "I am very sorry to hear that your sister was in an accident the other  
day. How is she getting along?"

"Pretty well. (1. as seriously injured 2. we thought 3. she 4. as  
5. wasn't)."

(10) "I hear you had a fine time in the mountains last weekend."

"Yes. But (1. with 2. the hotel 3. a hard time 4. we had  
5. reservations). They didn't receive our telegram in time to reserve the  
rooms we wanted."

Ⅳ 次の英文を読み、下の(1)~(7)のそれぞれの書き出しを完成するために、本文の内容にもっともよく合っているものを、それぞれの1~4の中から1つ選びなさい。

In early America family prayers were the usual practice, and a prayer was said at meals by the head of the house. The father was the spiritual guide of his household, and the mother and father together brought the children up in the religious traditions of the family. These religious ceremonies tended to cement the family together and unite them in a common belief.

With the growth of the cities, the saying of a prayer at meals has declined, and the practice of having family prayers has all but disappeared. Some country families may still say a prayer at meals and have family prayers, but such religious ceremonies are now rare in most homes, in the city or in the country.

The disappearance of family religious ceremonies is not altogether, and perhaps not even primarily, a result of a declining interest in religion. The kind of life families lead today makes such ceremonies inconvenient or impossible. In cities, especially, meals are often taken outside the home by all or one or more family members. There is often no common hour of rising or retiring when family prayers can be had. The decline of religious ceremonies clearly reflects change in the daily life of family members.

Now the religious training for the child has been delegated to the Sunday school and summer church school. Parents seldom assume the responsibility of passing on the religious tradition to their children. They may not even require Sunday school attendance. One writer has observed more or less seriously that some parents seem to feel they have done their part if they allow the young people to drive the family car to church.

(1) In early America such religious ceremonies as family prayers and saying a prayer at meals served as

1. a family bond.
2. the spiritual guide of the household.
3. the family peace.
4. the social traditions of the family.

- ( 2 ) At that time the members of the family shared the same religious feelings because
1. the children liked to go to Sunday school.
  2. meal-time prayers were declining.
  3. they joined together in religious ceremonies.
  4. the child's religious training has been abandoned.
- ( 3 ) In recent years, however, these religious practices have
1. declined with the growth of the country population.
  2. declined with the growth of the cities.
  3. become more frequent in most homes.
  4. disappeared.
- ( 4 ) These spiritual practices are rarely observed because
1. there is still a great interest in religion.
  2. prayers are more common than before.
  3. religious ceremonies are unimportant in cities.
  4. the nature of modern family life makes them difficult.
- ( 5 ) City families often have
1. their meals outside the country.
  2. one or more family members out in the country.
  3. a common hour of rising and retiring.
  4. no time for family prayers.
- ( 6 ) Sunday school and summer church school
1. have taken the place of parents in the religious training of the child.
  2. do not assume the responsibility of training children in religion.
  3. require parents to take their children to church in their cars.
  4. urge parents not to pass on the religious tradition to their children.
- ( 7 ) Often parents think that their duty is done
1. because they do not insist that their children go to Sunday school.
  2. if they permit the son or daughter to drive the family car to church.
  3. when they fail to pass on the religious traditions to their children.
  4. by not having prayers for the whole family at home.

V 次の英文を読み、下の(1)~(8)の問いの答えとして、本文の内容にもっともよく合っているものを、それぞれの1~4の中から1つ選びなさい。

Each one in a class of ten-year-old girls was asked to write down the names of the five classmates she liked best. The next day the teacher chose the five girls who had been most frequently named, and the five who had been least frequently named. These ten girls were then placed in a line in front of the class, the teacher arranging that next to each well-liked child should stand one of those least liked. She did not inform the children of the result of the popularity rating, or of the aim of her experiment.

She gave the following instructions to the class. "I am going to give the children who are placed here a short exercise in gymnastics. You must give close attention to the children who are exercising."

"Attention, right arm high." Then after a pause of ten seconds, she commanded, "Arm down."

She then asked the class to write down the names of those who had made a mistake.

She had privately instructed the well-liked children to raise their left arms, contrary to the command given in front of the class. Therefore, only the least-liked children obeyed the command to raise the right arm.

The results of the test are of great interest. True testimony would have named only the well-liked children as in error, and only those not liked as correct. However, the results were far otherwise. To those children who were well liked, a higher percentage of correct performance was always attributed; to the children not liked, a higher percentage of error.

This experiment was repeated four times. Other experiments with a slightly different gymnastic exercise were also used. Each experiment showed that the observers had a strong prejudice in favor of those liked, and a strong prejudice against those not liked. This was a wholly unconscious prejudice. The observers thought they were giving the true facts.

Experts in psychology tell us that all people tend to show unconscious prejudice in giving testimony. Although we try to be honest and fair, our judgment is affected by our prejudices. This happens whenever we tell our experiences and observations, even in ordinary conversation. It happens when we try to remember what we have heard. Therefore let us be extremely cautious in reporting anything about a person we do not like, or whose opinions we do not share; for we may unconsciously twist the facts and do him injustice.

- (1) はじめにクラスの生徒たちが書いたのは、次のどれか。
1. 好きなクラスメート5人と、きれいなクラスメート5人の名まえ。
  2. もっとも好きなクラスメート5人の名まえ。
  3. 全部で15人のクラスメートの名まえ。
  4. 先生のお気に入りのクラスメート5人の名まえ。
- (2) 先生は、10人の生徒たちをどのように並ばせたか。
1. 各自思い思いに自由に並ばせた。
  2. 似た者どうしが隣り合わないよう気をつけて並ばせた。
  3. 皆をすわらせ、それから1人おきに起立して並ばせた。
  4. 人気のある生徒と、人気のない生徒を交互に並ばせた。
- (3) 先生がクラスの生徒に向かって言ったことは、次のどれか。
1. 立っている生徒が、身体を動かすのをよく注意して見るように。
  2. 立っている生徒が、クラスの生徒に近づくときを注意するように。
  3. 目を閉じて、運動をする生徒に注意するように。
  4. 合図をしたら、体操に参加するように。
- (4) 先生は、もっとも人気のある生徒たちに、こっそり何とっておいたか。
1. 号令したとおりに、身体を動かすように。
  2. 号令したことと反対の動作をするように。
  3. 号令したことには関係なく、勝手に動作をするように。
  4. 1回おきに、号令したとおりに動作をするように。
- (5) 右手を上げたのは、次のどれか。
1. 先生が前もって個人的に指示を与えた生徒たち。
  2. クラスの前に立ったすべての生徒たち。
  3. クラスでもっとも人気のある生徒たち。
  4. クラスでもっとも人気のない生徒たち。
- (6) 間違った動作をしたと書かれるべきであったのは、次のどれか。
1. もっとも人気のある生徒の名まえ。
  2. もっとも人気のない生徒の名まえ。
  3. 正直で公平な生徒の名まえ。
  4. 正直でも公平でもない生徒の名まえ。





- (7) こうした実験の結果わかったことは、次のどれか。
1. 人は、好きな者にもきらいな者にも、強い反感をもっていること。
  2. 人は、好きな者にもきらいな者にも、全然偏見をもっていないこと。
  3. 人は、好きな者に対する強いえこひいきと、きらいな者に対する強い偏見をもっていること。
  4. 人は、好きな者には偏見をもっており、きらいな者には偏見をもっていないこと。
- (8) この文で、結論として、言おうとしているのは、次のどれか。
1. 自分の好ききらいの感情のために、ほかの人についての判断や報告を誤ることがないように注意しなければならない。
  2. ある事実について、ほかの人が違った意見をもっているとしても、自分が正しいと判断することは、はっきりと述べなければならない。
  3. たとえ、好感のもてない友人であっても、その人の意見は十分尊重するように努力しなければならない。
  4. だれでも誤った判断や動作をすることはあるのだから、他人のあやまちをただちにその人の評価に結びつけてはならない。

## Ⅵ（聞きとりの問題）

（注意：テスト問題は5問ある。各問は、1つのパラグラフとそれについての5つの短文とからできている。その5つの短文のうちに、パラグラフの内容と一致するものが2つある。2つの答の中、1つはX欄に、他の1つはY欄において示すこと。どちらをどの欄に示してもよいが、必ず、X欄とY欄に分けて示すこと。）

英 語 解答用紙控

I	(1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(21)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(22)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(23)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(4)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(24)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(25)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(6)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(26)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(7)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(27)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(8)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(28)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(9)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(29)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(10)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(30)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(11)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(31)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(12)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(32)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(13)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(33)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(14)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(34)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(15)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(35)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(16)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(36)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(17)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(37)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(18)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(38)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(19)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(39)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(20)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	(40)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

II		3 番 目	5 番 目
	(例)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(4)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(6)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(7)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(8)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(9)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(10)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

III	(例)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(4)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(5)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(6)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(7)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(8)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(9)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(10)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

IV	(1)	<input type="checkbox"/>	(5)	<input type="checkbox"/>
	(2)	<input type="checkbox"/>	(6)	<input type="checkbox"/>
	(3)	<input type="checkbox"/>	(7)	<input type="checkbox"/>
	(4)	<input type="checkbox"/>		

V	(1)	<input type="checkbox"/>	(5)	<input type="checkbox"/>
	(2)	<input type="checkbox"/>	(6)	<input type="checkbox"/>
	(3)	<input type="checkbox"/>	(7)	<input type="checkbox"/>
	(4)	<input type="checkbox"/>	(8)	<input type="checkbox"/>

(聞きとりの問題)

VI		X 欄	Y 欄
	(例)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(A)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(B)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(C)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	(D)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(E)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

放送について、次の問いにマークで  
答えて下さい。

- よく聞えたときは……………1
- やや聞えにくかったときは…2
- 聞えにくかったときは…3

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

[附]

[VI] (聴解力に関する問題)「聞きとりのテスト」(スクリプト)

このプリントには、「聞きとりのテスト」問題として、テープに録音された音声をそのまま文字化したものと、大体の所要時間を示しています。従って、2度読まれている場合は、同じものを2度示し、また、問題や空白の時間も示しています。

ただ今から、聞きとりのテストをいたします。テスト問題は5問あり、それぞれの問題は、1つのパラグラフと、それについての5つの短文とでできています。その5つの短文のうち、パラグラフの内容と一致するものを2つ選びなさい。

どの問題も2度ずつ読まれますが、その間にメモをとってもかまいません。

2度読み終わると、15秒間の空白がつづきますが、その間に、パラグラフの内容と一致する2つの短文の番号を解答欄に示していただきます。そのとき、1つはX欄に、もう1つはY欄にわけて示して下さい。どちらをどの欄に示してもかまいませんが、必ず、X欄とY欄に分けてしるしをして下さい。

では、まず、問題例を聞いて下さい。

(1分9秒)

The tongue is an important organ of the body. It has many jobs to do. Without it we could neither taste nor speak. It helps with chewing and with swallowing.

1. We cannot taste anything with the tongue.
2. We cannot speak without the tongue.
3. The tongue is not an important organ of the body.
4. The tongue helps with chewing and with swallowing.
5. The tongue has no jobs to do.

Listen again. もう一度聞いて下さい。

The tongue is an important organ of the body. It has many jobs to do. Without it we could neither taste nor speak. It helps with chewing and with swallowing.

1. We cannot taste anything with the tongue.
2. We cannot speak without the tongue.
3. The tongue is not an important organ of the body.
4. The tongue helps with chewing and with swallowing.
5. The tongue has no jobs to do.

(1分38秒)

この問題例の正解は、解答欄に示してあるように2と4です。このように、X欄とY欄にわけて、数字をぬりつぶして答えなさい。

では、はじめます。

(A) Millions of years ago, all animals lived in the sea. They could breathe and see in the water. After many years, they started to live on land part of the time.

1. A long time ago, all animals lived in the sea.
2. Millions of years ago, animals lived on the land.
3. Long ago, animals couldn't breathe or see.
4. After many years, they started to live on land part of the time.
5. All animals now live in the sea.

Listen again.

Millions of years ago, all animals lived in the sea. They could breathe and see in the water. After many years, they started to live on land part of the time.

1. A long time ago, all animals lived in the sea.
2. Millions of years ago, animals lived on the land.
3. Long ago, animals couldn't breathe or see.
4. After many years, they started to live on land part of the time.
5. All animals now live in the sea.

(空白 15秒)

(2分4秒)

(B) Many insects are not very beautiful. An important exception, however, is the butterfly. Most butterflies have large, brightly coloured wings.

1. Insects are beautiful.
2. Many insects are not very beautiful.
3. The butterfly is beautiful.
4. The butterfly does not have brightly coloured wings.
5. Most insects have large brightly coloured wings.

Listen again.

Many insects are not very beautiful. An important exception, however, is the butterfly. Most butterflies have large, brightly coloured wings.

1. Insects are beautiful.
2. Many insects are not very beautiful.
3. The butterfly is beautiful.
4. The butterfly does not have brightly coloured wings.
5. Most insects have large brightly coloured wings.

(空白 15秒)

(2分0秒)

(C) Orange trees were originally found in India. They were grown in Western Asia in about the ninth century. Then they spread to Africa, parts of South America, and the United States.

1. Originally orange trees were found in India.

2. Orange trees were originally found in Western Asia.
3. Orange trees spread to Western Asia and India from the United States.
4. Orange trees spread to Africa from parts of South America.
5. In about the ninth century orange trees were grown in Western Asia.

Listen again.

Orange trees were originally found in India. They were grown in Western Asia in about the ninth century. Then they spread to Africa, parts of South America, and the United States.

1. Originally orange trees were found in India.
2. Orange trees were originally found in Western Asia.
3. Orange trees spread to Western Asia and India from the United States.
4. Orange trees spread to Africa from parts of South America.
5. In about the ninth century orange trees were grown in Western Asia.

(空白 15秒)

(2分26秒)

(D) Iron is one of the oldest known metals. It is found almost everywhere in nature. Iron is found in plants and animals as well as in rocks.

1. Iron is an unknown metal.
2. Iron is one of the oldest known plants.
3. Iron is one of the oldest known metals.
4. Iron is found not only in rocks, but also in plants and animals.
5. No metal is found in animals and plants.

Listen again.

Iron is one of the oldest known metals. It is found almost everywhere in nature. Iron is found in plants and animals as well as in rocks.

1. Iron is an unknown metal.
2. Iron is one of the oldest known plants.
3. Iron is one of the oldest known metals.
4. Iron is found not only in rocks, but also in plants and animals.
5. No metal is found in animals and plants.

(空白 15秒)

(2分12秒)

(E) Freezing has become an important way of preserving food. The method is not new. Even in ancient times men who lived in cold climates used ice to keep food from spoiling.

1. It is not important to preserve food.
2. Preserving ice is an ancient method.
3. Freezing food is not a new method.
4. All men lived in cold climates in ancient times.
5. Freezing will keep food from spoiling.

Listen again.

Freezing has become an important way of preserving food. The method is not new. Even in ancient times men who lived in cold climates used ice to keep food from spoiling.

1. It is not important to preserve food.
2. Preserving ice is an ancient method.
3. Freezing food is not a new method.
4. All men lived in cold climates in ancient times.
5. Freezing will keep food from spoiling.

(空白 15秒)

(2分13秒)

以上で、「聞きとりのテスト」をおわります。

(全所要時間：14分15秒)